第Ⅵ章　自然科学分析

第１節　川尻遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

１　測定対象試料

川尻遺跡は，鹿児島県大島郡喜界町手久津久地内に所在する。測定対象試料は，石蓋土坑墓1号出土骨（1：IAAA-112566）1点である（第38表）。

２　測定の意義

本町初見の石蓋土坑墓の時期を確認する。

３　化学処理工程

（１）骨試料はコラーゲン抽出（Collagen Extraction）を行う（第38表に「CEx」と記載する）。試料を超純水の入ったガラスシャーレに入れ，ブラシ等を使い，根・土等の付着物を取り除く。試料をビーカー内で超純水に浸し，超音波洗浄を行う。

（２）0.2Mの水酸化ナトリウム水溶液を試料の入ったビーカーに入れ，試料の着色がなくなるまで，1時間ごとに水酸化ナトリウム水溶液を交換する。その後，超純水で溶液を中性に戻す。試料を凍結乾燥させ，凍結粉砕用セルに入れ，粉砕する。リン酸塩除去のために試料を透析膜に入れて1Mの塩酸で酸処理を行い，超純水で中性にする。透析膜の内容物を遠心分離し，得られた沈殿物に超純水を加え，90℃に加熱した後，濾過する。濾液を凍結乾燥させ，コラーゲンを得る。

（３）抽出した試料を燃焼させ，二酸化炭素（CO2）を発生させる。

（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し，グラファイト（C）を生成させる。

（６）グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め，それをホイールにはめ込み，測定装置に装着する。

４　測定方法

加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し，14Cの計数，13C濃度（13C/12C），14C濃度（14C/12C）の測定を行う。測定では，米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

５　算出方法

（１）δ13C は，試料炭素の13C 濃度（13C/12C）を測定し，基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い，表中に「AMS」と注記する。

（２）14C年代（Libby Age：yrBP）は，過去の大気中14C濃度が一定であったと仮定して測定され，1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には，Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。14C年代はδ13Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に，補正していない値を参考値として表2に示した。14C年代と誤差は，下1桁を丸めて10年単位で表示される。また，14C年代の誤差（±1σ）は，試料の14C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。

（３）pMC (percent Modern Carbon)は，標準現代炭素に対する試料炭素の14C濃度の割合である。pMCが小さい（14Cが少ない）ほど古い年代を示し，pMCが100以上（14Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ13Cによって補正する必要があるため，補正した値を表1に，補正していない値を参考値として第39表に示した。

（４）暦年較正年代とは，年代が既知の試料の14C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ，過去の14C濃度変化などを補正し，実年代に近づけた値である。暦年較正年代は，14C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり，1標準偏差（1σ＝68.2％）あるいは2標準偏差（2σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が14C年代，横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は，δ13C補正を行い，下一桁を丸めない14C年代値である。なお，較正曲線および較正プログラムは，データの蓄積によって更新される。また，プログラムの種類によっても結果が異なるため，年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは，暦年較正年代の計算に，IntCal09データベース（Reimer et al. 2009）を用い，OxCalv4.1較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については，特定のデータベース，プログラムに依存する点を考慮し，プログラムに入力する値とともに参考値として第39表に示した。暦年較正年代は，14C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

６　測定結果

石蓋土坑墓1号出土骨1の14C年代は3000±20yrBP，暦年較正年代（1σ）は1305～1211cal BCの範囲で示され，縄文時代後期末葉から晩期初頭頃に相当する。

ただし，試料のδ13C値は-16.01±0.40‰で，海産物をある程度摂取した可能性が指摘される値であるため，海洋リザーバー効果の影響により年代値が古く見積もられている可能性を考慮する必要がある。

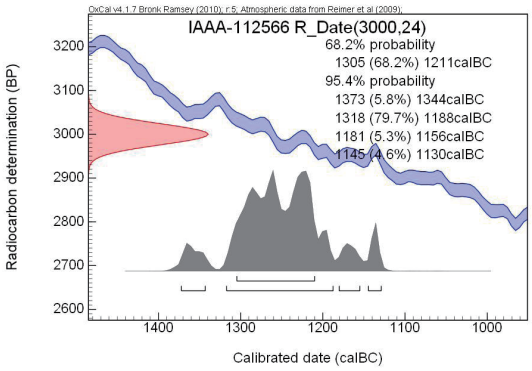
試料の炭素含有率は45%，コラーゲン回収率は6%とおおむね適正な値で，化学処理，測定上の問題は認められない。

文献

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150



[参考] 暦年較正年代グラフ

第38表　石蓋土坑墓測定値（1）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ^{13}C (‰) (AMS)	δ ^{13}C 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC (%)
IAAA-112566	1	石蓋土坑墓 1 号	骨	CEx	**-16.01 ± 0.40**	**3,000 ± 20**	**68.83 ± 0.21**

[#4882]

第39表　石蓋土坑墓測定値（2）

測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age（yrBP）	pMC（%）			
IAAA-112566	2,850 ± 20	70.10 ± 0.21	3,000 ± 24	1305calBC - 1211calBC (68.2%)	1373calBC - 1344calBC (5.8%) 1318calBC - 1188calBC (79.7%) 1181calBC - 1156calBC (5.3%) 1145calBC - 1130calBC (4.6%)

[参考値]

１　測定対象試料

川尻遺跡は，鹿児島県大島郡喜界町手久津久地内に所在する。測定対象試料は，d-107区SX1床着出土炭化物（炭化物5：IAAA-122089），C-101区SX34床着出土炭化物（炭化物7：IAAA-122090），C-101区SX43最下層出土炭化物（炭化物1：IAAA-122091）の合計3点である（第40表）。なお，同一試料の樹種同定が実施されている（第３節参照）。

２　測定の意義

遺構の年代を把握する。

３　化学処理工程

（１）メス・ピンセットを使い，根・土等の付着物を取り除く。

（２）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後，超純水で中性になるまで希釈し，乾燥させる。AAA処理における酸処理では，通常1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い，0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」，1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。

（３）試料を燃焼させ，二酸化炭素（CO2）を発生させる。

（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し，グラファイト（C）を生成させる。

（６）グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め，それをホイールにはめ込み，測定装置に装着する。

４　測定方法

加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し，14Cの計数，13C濃度（13C/12C），14C濃度（14C/12C）の測定を行う。測定では，米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

５　算出方法

（１）δ13C は，試料炭素の13C 濃度（13C/12C）を測定し，基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い，表中に「AMS」と注記する。

（２）14C年代（Libby Age：yrBP）は，過去の大気中14C濃度が一定であったと仮定して測定され，1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には，Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。14C年代はδ13Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第40表に，補正していない値を参考値として第41表に示した。14C年代と誤差は，下1桁を丸めて10年単位で表示される。また，14C年代の誤差（±1σ）は，試料の14C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。

（３）pMC (percent Modern Carbon)は，標準現代炭素に対する試料炭素の14C濃度の割合である。pMCが小さい（14Cが少ない）ほど古い年代を示し，pMCが100以上（14Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ13Cによって補正する必要があるため，補正した値を第40表に，補正していない値を参考値として第41表に示した。

（４）暦年較正年代とは，年代が既知の試料の14C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ，過去の14C濃度変化などを補正し，実年代に近づけた値である。暦年較正年代は，14C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり，1標準偏差（1σ＝68.2％）あるいは2標準偏差（2σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が14C年代，横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は，δ13C補正を行い，下一桁を丸めない14C年代値である。なお，較正曲線および較正プログラムは，データの蓄積によって更新される。また，プログラムの種類によっても結果が異なるため，年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは，暦年較正年代の計算に，IntCal09データベース（Reimer et al. 2009）を用い，OxCalv4.1較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については，特定のデータベース，プログラムに依存する点を考慮し，プログラムに入力する値とともに参考値として第41表に示した。暦年較正年代は，14C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

６　測定結果

試料の14C年代は，d-107区SX01床着出土炭化物5が3220±20yrBP，C-101区SX34床着出土炭化物7が3150±20yrBP，C-101区SX43最下層出土炭化物1が3290±30yrBPである。暦年較正年代（1σ）は，炭化物5が1507～1453cal BCの範囲，炭化物7が1447～1408cal BCの範囲，炭化物1が1608～1531cal BCの間に2つの範囲で示され，いずれも縄文時代後期後半頃に相当する（小林編2008）。

試料の炭素含有率はいずれも60％を超える十分な値で，化学処理，測定上の問題は認められない。

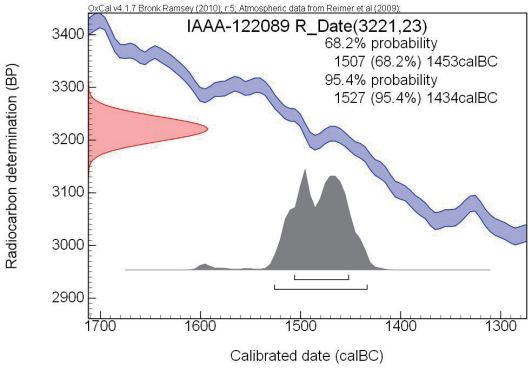
文献

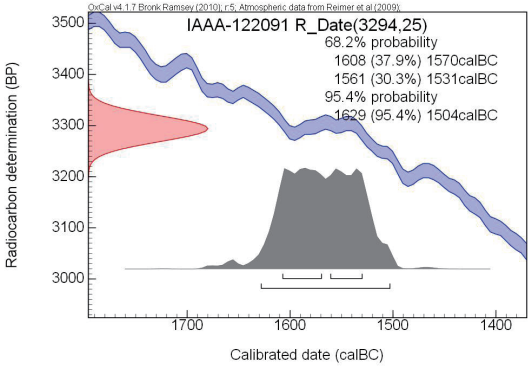
Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

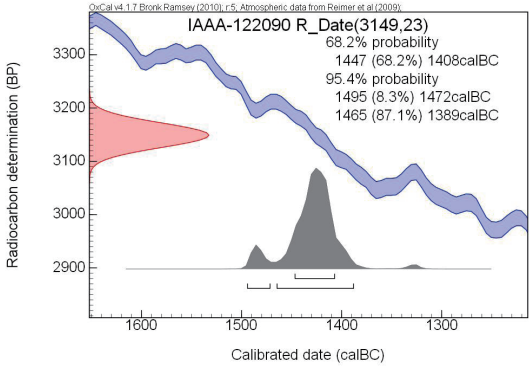
小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363







[参考] 暦年較正年代グラフ

第40表　SX出土炭化物測定値（1）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ 13C (‰) (AMS)	δ 13C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-122089	炭化物 5	d-107 区　SX01　床着	炭化物	AAA	-28.57 ± 0.37	3,220 ± 20	66.96 ± 0.20
IAAA-122090	炭化物 7	C-101 区　SX34　床着	炭化物	AAA	-28.32 ± 0.37	3,150 ± 20	67.57 ± 0.19
IAAA-122091	炭化物 1	C-101 区　SX43　最下層	炭化物	AaA	-31.10 ± 0.42	3,290 ± 30	66.35 ± 0.21

[#5427]

第41表　SX出土炭化物測定値（2）

測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
	Age　(yrBP)	pMC　(%)			
IAAA-122089	3,280 ± 20	66.47 ± 0.19	3,221 ± 23	1507calBC - 1453calBC (68.2%)	1527calBC - 1434calBC (95.4%)
IAAA-122090	3,200 ± 20	67.11 ± 0.18	3,149 ± 23	1447calBC - 1408calBC (68.2%)	1495calBC - 1472calBC (8.3%) 1465calBC - 1389calBC (87.1%)
IAAA-122091	3,400 ± 20	65.53 ± 0.20	3,294 ± 25	1608calBC - 1570calBC (37.9%) 1561calBC - 1531calBC (30.3%)	1629calBC - 1504calBC (95.4%)

[参考値]

第３節　川尻遺跡出土炭化材の樹種

（株）加速器分析研究所

はじめに

川尻遺跡は，鹿児島県大島郡喜界町手久津久地内に所在する。本報告では，SXから出土した炭化材を対象として，木材利用に関する資料を得るための樹種同定を実施する。

１　試料

試料は，SXから出土した炭化材3点(SX01：炭化物5，SX34：炭化物7，SX43：炭化物1)である。なお，同一試料の放射性炭素年代測定が実施されている（第２節参照）。

２　分析方法

試料を自然乾燥させた後，木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し，実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し，その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお，木材組織の名称や特徴は，島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また，日本産樹木の木材組織については，林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

３　結果

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は，広葉樹3分類群(ツバキ属・イスノキ・アカテツ属)に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

第42表　樹種同定結果

遺構	調査区	層位	試料名	種類
SX01	d-107	床着	炭化物５	アカテツ属
SX34	C-101	床着	炭化物７	ツバキ属
SX43	C-101	最下層	炭化物１	イスノキ

・ツバキ属（Camellia）　ツバキ科

散孔材で，管壁は薄く，横断面では多角形～角張った楕円形，単独および2-3個が複合して散在し，年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し，壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性，1-3細胞幅，1-20細胞高。

・イスノキ（Distylium racemosum Sieb. et Zucc.）　マンサク科イスノキ属

散孔材で，道管は横断面で多角形，ほとんど単独で散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性，1-3細胞幅，1-20細胞高。柔組織は，独立帯状または短接線状で，放射方向にほぼ等間隔に配列する。

・アカテツ属(Pouteria)　アカテツ科

散孔材～放射孔材で，道管は厚壁で，2-10個が放射方向に複合して配列する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は，異性，1-3細胞幅，1-20細胞高。軸方向柔細胞は短接線状～幅の狭い帯状となる。

４　考察

SXから出土した炭化材は，いずれも火を受けて炭化しており，燃料材等の可能性が考えられる。炭化材の樹種は，遺構によって異なり，3種類(ツバキ属・イスノキ・アカテツ属)が認められた。確認された種類は，いずれも暖温帯性常緑広葉樹林内に生育する常緑樹で，これらが遺跡周辺に生育していたことが推定される。ツバキ属やイスノキは，本州・九州から沖縄まで分布する種類である。一方，アカテツ属は，現在はトカラ列島の宝島を分布北限とする南方系の種類である。今回の結果は，これらの試料が属する時期の古植生を検討する上でも重要である。

確認された3種類は，いずれも木材が重硬で強度が高い材質を有する。

文献

林　昭三,1991,日本産木材　顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

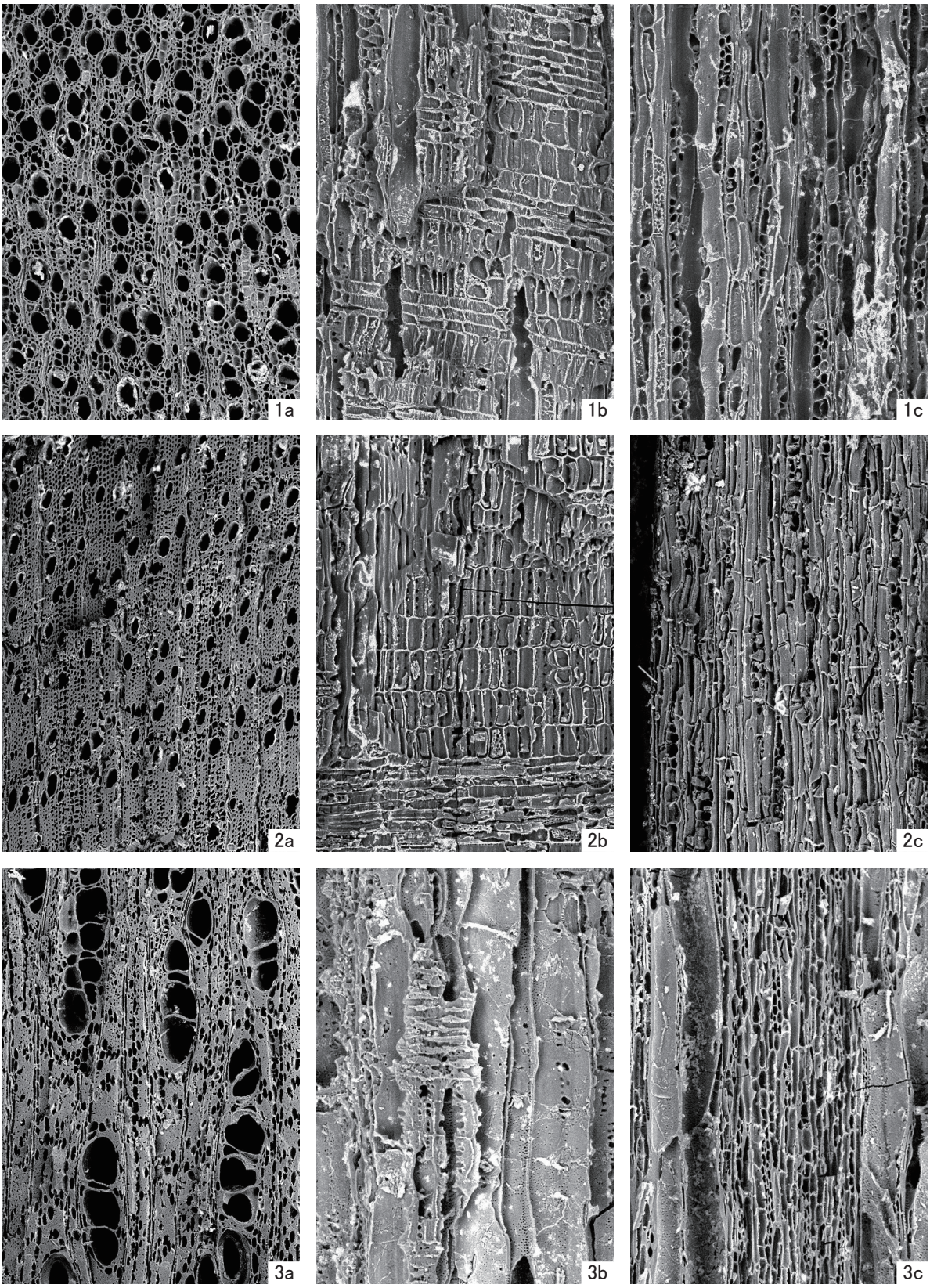
伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006,針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）,海青社,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

島地　謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998,広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）,海青社,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

※）本分析は，パリノ・サーヴェイ株式会社の協力を得て行った。



1.ツバキ属(集石34;炭化物7)
2.イスノキ(集石43;炭化物1)
3.アカテツ属(集石1;炭化物5)
a:木口,b:柾目,c:板目

200 μ m:a
200 μ m:b,c

第142図　炭化材

はじめに

川尻遺跡は，喜界島南部に位置し。これまでに，縄文時代，弥生時代，古墳時代等の遺構，遺物が発見されている。今回は遺構から発見された炭化材について，炭化材同定ならびに放射性炭素年代測定を実施する。

1.試料

分析試料は，貝だまり5から得られた炭化物(ID番号90,No.1)，貝だまり5から得られた炭化物(ID番号122,No.2)，貝だまり11から得られた炭化物(ID番号56,No.3)の3点である。いずれも大きさ2cm程度の炭化材である。

2.分析方法

(1)樹種同定

炭化物を観察し，木材については，木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の各割片を作成し，双眼実体顕微鏡や電子顕微鏡で観察する。なお，微小試料は，年代測定を優先し，表面観察のみにとどめる。

木材組織の種類や配列の特徴を，現生標本や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。なお，木材組織の名称や特徴は，島地・伊東(1982)，Wheeler他(1998)，Richter他(2006)を参考にする。また，日本産木材の組織配列は，林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

(2)放射性炭素年代測定

試料を観察後，表面を削り取り，50mg程度に調整して分析用試料とする(削り取った残滓で樹種同定を実施)。塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去，水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去，塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸，水酸化ナトリウム共に1mol/Lである。

試料の燃焼，二酸化炭素の精製，グラファイト化(鉄を触媒とし水素で還元する)はElementar社のvario ISOTOPE cube とIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。

処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし，測定試料とする。測定はタンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC社製)を用いて，14Cの計数，13C濃度(13C/12C)，14C濃度(14C/12C)を測定する。AMS測定時に，米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料(HOX-Ⅱ)，国際原子力機関から提供される標準試料(IAEA-C6等)，バックグラウンド試料(IAEA-C1)の測定も行う。δ13Cは試料炭素の13C濃度(13C/12C)を測定し，基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また，測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり，誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は，国際学会での勧告に従う(Stuiver & Polach 1977)。また，暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウエアは，Oxcal4.4(Bronk,2009)，較正曲線はIntCal20 (Reimer et al.,2020)である。

3.結果

(1)樹種同定

結果を第43表に示す。試料は3点ともツバキ属であった。No.2の試料は保存状態が良かったが，No.1とNo.2の試料は組織の保存状態が悪く，方向によっては特徴的な組織が明瞭に観察されない割片があったため，ツバキ属?とした。以下に検出された種類の形態的特徴を示す。

・ツバキ属（Camellia）　ツバキ科

散孔材で，管壁は薄く，単独および2～3個が複合して散在し，年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔，壁孔は対列～階段状。放射組織は異性，1～5細胞幅，1～40細胞高。

(2)放射性炭素年代測定

結果を第43表に示す。いずれも試料の保存状態が良く，定法での分析が可能であった。同位体補正を行った値は，No.1が1340±20BP，No.2が1185±2BP，No.3が1530±20BPである。

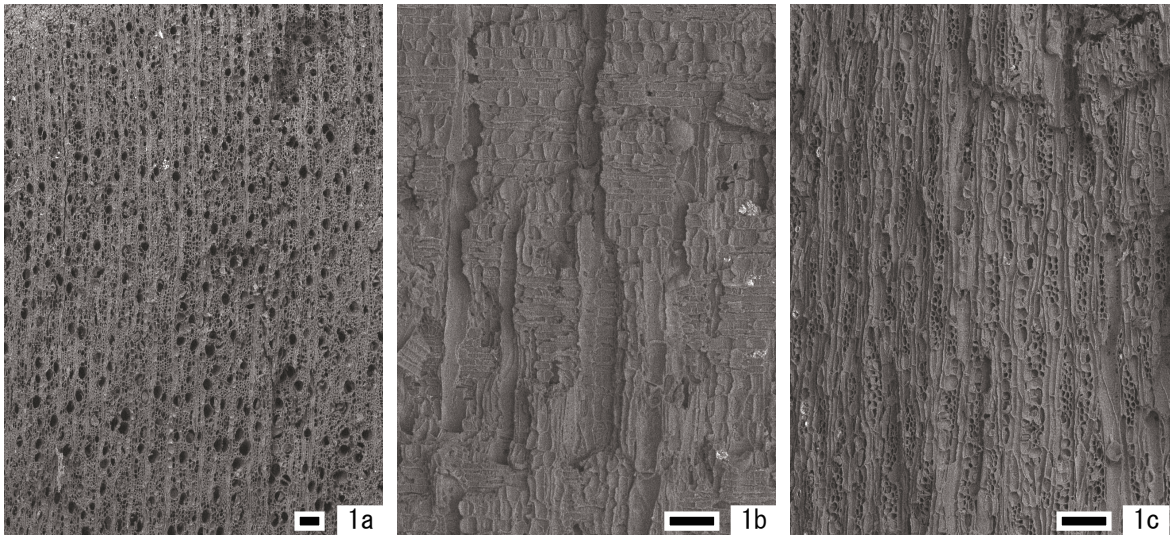
暦年較正は，大気中の14C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し，過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動，その後訂正された半減期（14Cの半減期5730±40年）を較正によって，暦年代に近づける手法である。較正用データーセットは，IntCal20 (Reimer et al.,2020)を用いる。2σの値は，No.1がcalAD650～774，No.2がcalAD742～893，No.3がcalAD440～600である。

4.考察

ツバキ属は，常緑広葉樹林を代表する樹種で，喜界島にも分布する。目が細かく，堅硬で重い木材である。このため，炭化しても残りやすいため，残存したと思われる。堅硬で，切削・加工が困難な木であるが，大きくならないため用途は限られる。磨くと美しいため，細工物(櫛，玩具など)に使われることが多い。年代測定結果をみるとばらつきがあるが，今後随伴遺物や遺構の時代観なども考慮して検討していく必要がある。

引用文献
Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon,51,337-360.
Bronk RC., Plicht,J.,& Weninger B., 2001, Wiggle matching' radiocarbon dates. Radiocarbon, 43,381-389.
林　昭三,1991,日本産木材顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.
伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
Reimer, P., Austin, W., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R., Friedrich, M., Grootes, P., Guilderson, T., Hajdas, I., Heaton, T., Hogg, A., Hughen, K., Kromer, B., Manning, S., Muscheler, R., Palmer, J., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R., Richards, D., Scott, E., Southon, J., Turney, C., Wacker, L., Adolphi, F., Buentgen, U., Capano, M., Fahrni, S., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Koehler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A., & Talamo, S.,2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP). Radiocarbon, 62,1-33..
Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006, 針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）,海青社,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.
島地　謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998,広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）,海青社,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

図版1 炭化材



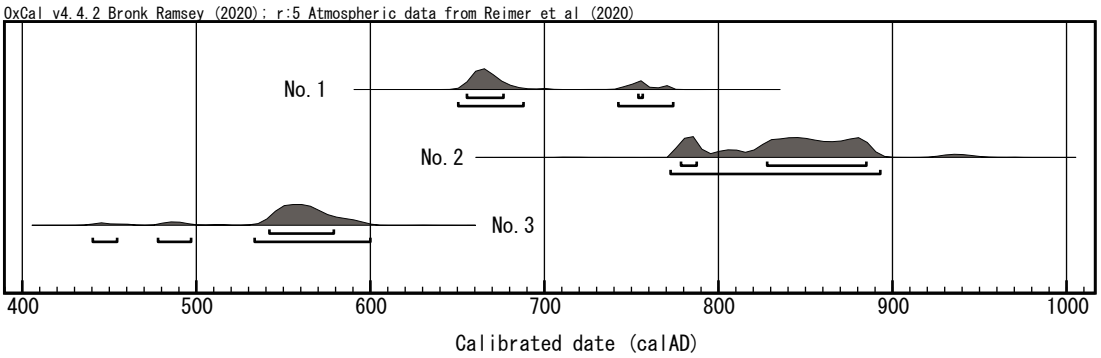
1. ツバキ属(試料番号2)

a:木口　b:柾目 c:板目
スケールは100μm

第43表　放射性炭素年代測定・樹種同定結果

No.	遺構	樹種	方法	補正年代 (暦年較正用) BP	δ 13C (‰)	暦年較正年代				Code No.	
							年代値		確率 %		
1	貝だまり 5	ツバキ属？	AAA (1M)	1340 ± 20 (1339 ± 20)	-28.64 ± 0.18	σ	cal AD 655 - cal AD 676	1295 - 1274 calBP	64.2	YU-11787	pal-12783
							cal AD 754 - cal AD 756	1197 - 1194 calBP	4.1		
						2 σ	cal AD 650 - cal AD 688	1300 - 1263 calBP	72.4		
							cal AD 742 - cal AD 774	1208 - 1177 calBP	23.1		
2	貝だまり 5	ツバキ属	AAA (1M)	1185 ± 20 (1185 ± 20)	-30.06 ± 0.18	σ	cal AD 778 - cal AD 787	1172 - 1163 calBP	9.8	YU-11788	pal-12784
							cal AD 828 - cal AD 885	1123 - 1066 calBP	58.5		
						2 σ	cal AD 772 - cal AD 893	1178 - 1058 calBP	95.4		
3	貝だまり 11	ツバキ属？	AAA (1M)	1530 ± 20 (1529 ± 20)	-30.97 ± 0.22	σ	cal AD 542 - cal AD 579	1409 - 1372 calBP	68.3	YU-11789	pal-12785
						2 σ	cal AD 440 - cal AD 454	1510 - 1496 calBP	2.8		
							cal AD 478 - cal AD 497	1473 - 1454 calBP	5.5		
							cal AD 533 - cal AD 600	1417 - 1351 calBP	87.2		

1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。
2)BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
3) 付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68.2% が入る範囲）を年代値に換算した値。
4)AAA は、酸・アルカリ・酸処理。
5) 暦年の計算には、Oxcal v4.4 を使用
6) 暦年の計算には 1 桁目まで示した年代値を使用。
7) 較正データーセットは、Intcal20 を使用。
8) 較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
9) 統計的に真の値が入る確率は、σが 68.2%、2 σが 95.4% である



第143図　暦年校正結果

はじめに

川尻遺跡は，喜界島南西部に位置する手久津久集落に隣接する。これまでの調査で，縄文時代後期～晩期，古代，中世，近世と想定される遺構，遺物が検出されている。

分析を実施する人骨4点は遺構内から出土したが共伴遺物の確認がされていないため，人骨の年代確認のための放射性炭素年代測定を実施する。

1.試料

試料は，SK29，SK30，SK23，SK27から出土した人骨4点(№1～4)である。

2.分析方法

骨試料はコラーゲン抽出(Collagen Extraction)を行う。試料を超純水の入ったガラスシャーレに入れ，ブラシ等を使い，根・土壌等の付着物を取り除く。試料をビーカー内で超純水に浸し，超音波洗浄を行う。

0.2Mの水酸化ナトリウム水溶液を試料の入ったビーカーに入れ，試料の着色がなくなるまで1時間ごとに水酸化ナトリウム水溶液を交換する。その後，超純水で溶液を中性に戻す。試料を凍結乾燥させ，凍結粉砕用セルに入れ，粉砕する。リン酸塩除去のため試料を透析膜に入れて1Mの塩酸で酸処理を行い，超純水で中性にする。透析膜の内容物を遠心分離し，得られた沈殿物に超純水を加え，90℃に加熱した後，濾過する。濾液を凍結乾燥させ，コラーゲンを得る。

抽出した試料を燃焼させ，二酸化炭素(CO2)を発生させ，液体窒素とエタノール＋ドライアイスの温度差を利用し，真空ラインでCO2を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO2と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し，グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして，タンデム加速器のイオン源に装着し，測定する。測定機器は，3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC　Pelletron　9SDH-2)を使用する。AMS測定時に，標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-Ⅱ)とバックグラウンド試料の測定も行う。また，測定中同時に13C/12Cの測定も行うため，この値を用いてδ13Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また，測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり，誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。なお，暦年較正は，RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0.1(Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer)を用い，誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。暦年較正とは，大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し，過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動，及び半減期の違い(14Cの半減期5,730±40年)を較正することである。暦年較正は，CALIB REV7.0のマニュアルにしたがい，1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値を用いて行う。また，北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い，測定誤差σ，2σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲，2σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。表中の相対比とは，σ，2σの範囲をそれぞれ1とした場合，その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。較正された暦年代は，将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算，再検討に対応するため，1年単位で表された値を記す。

3.結果と考察

放射性炭素年代測定結果および暦年較正結果を第44表，第144図に示す。同位体効果の補正を行った補正年代は，SK29出土人骨(№1)が 590±20BP，SK30出土人骨(№2)が600±20BP，SK23出土人骨(№3)が620±20BP，SK27出土人骨(№4)が600±20BPを示す。また，測定誤差をσで計算した暦年較正結果は，SK29出土人骨がcalAD 1,318-1,402，SK30出土人骨がcalAD1,307-1,396，SK23出土人骨がcalAD1,300-1,392，SK27出土人骨がcalAD1,312-1,398である。

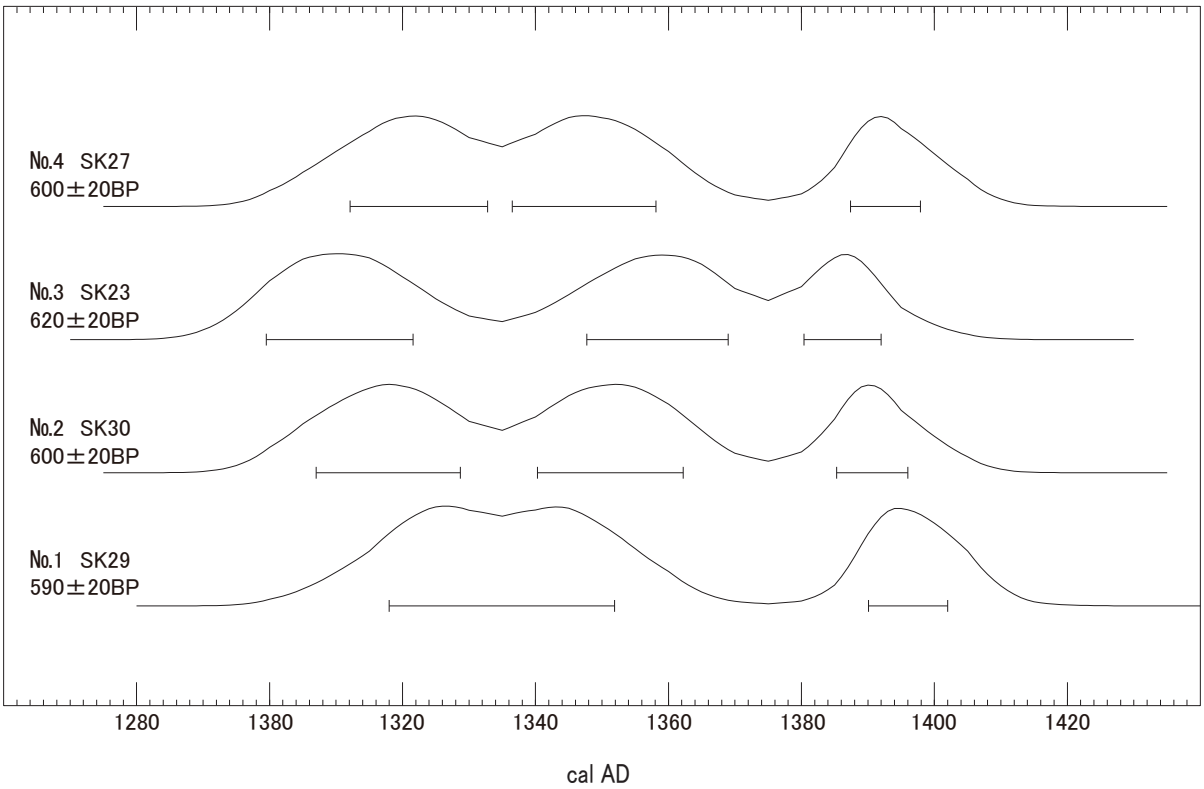
以上の測定結果および暦年校正結果から，SK29出土人骨が14世紀初頭から15世紀初頭，他の3点が14世紀初頭から14世紀末と考えられる。また，この結果から，4点ともほぼ同時期の人骨と考えられる。

4点の人骨は共伴する遺物が確認されていないことから，年代測定を実施した経緯がある。分析結果は調査中に確認された中世の時代観と調和する結果と言える。

第44表　放射性炭素年代測定結果

番号 遺構	種類	測定年代 BP	δ 13 C (‰)	補正年代 (暦年較正用) BP	暦年較正結果				Code №.
					誤差	cal BC/AD	cal BP	相対比	
№.1 SK29	人骨	460 ± 20	-17.25 ± 0.49	590 ± 20 (586 ± 21)	σ	cal AD 1,318 - cal AD 1,352	cal BP 632 - 598	0.757	IAAA- 140004
						cal AD 1,390 - cal AD 1,364	cal BP 560 - 586	0.243	
					2 σ	cal AD 1,306 - cal AD 1,364	cal BP 644 - 586	0.714	
						cal AD 1,385 - cal AD 1,410	cal BP 565 - 540	0.286	
№.2 SK30	人骨	470 ± 20	-16.62 ± 0.46	600 ± 20 (604 ± 21)	σ	cal AD 1,307 - cal AD 1,329	cal BP 643 - 621	0.404	IAAA- 140005
						cal AD 1,340 - cal AD 1,362	cal BP 610 - 588	0.411	
						cal AD 1,385 - cal AD 1,396	cal BP 565 - 554	0.185	
					2 σ	cal AD 1,299 - cal AD 1,370	cal BP 651 - 580	0.776	
						cal AD 1,379 - cal AD 1,404	cal BP 571 - 546	0.224	
№.3 SK23	人骨	470 ± 20	-16.08 ± 0.62	620 ± 20 (620 ± 23)	σ	cal AD 1,300 - cal AD 1,322	cal BP 650 - 628	0.400	IAAA- 140006
						cal AD 1,348 - cal AD 1,369	cal BP 602 - 581	0.390	
						cal AD 1,380 - cal AD 1,392	cal BP 570 - 558	0.210	
					2 σ	cal AD 1,293 - cal AD 1,332	cal BP 657 - 618	0.388	
						cal AD 1,337 - cal AD 1,398	cal BP 613 - 552	0.612	
№.4 SK27	人骨	450 ± 20	-15.89 ± 0.46	600 ± 20 (597 ± 21)	σ	cal AD 1,312 - cal AD 1,333	cal BP 638 - 617	0.385	IAAA- 140007
						cal AD 1,337 - cal AD 1,358	cal BP 613 - 592	0.423	
						cal AD 1,387 - cal AD 1,398	cal BP 563 - 552	0.192	
					2 σ	cal AD 1,301 - cal AD 1,367	cal BP 649 - 583	0.759	
						cal AD 1,382 - cal AD 1,406	cal BP 568 - 544	0.241	

1) 試料は、いずれもコラーゲン抽出を実施して測定試料を調整した。
2) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用した。
3)BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
4) 付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68％が入る範囲）を年代値に換算した値。
5) 暦年の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を使用した。
6) 暦年の計算には、補正年代に () で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。
7) 年代値は、1 桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、暦年較正用年代値は 1 桁目を丸めていない。
8) 統計的に真の値が入る確率はσは 68.3%、2 σは 95.4% である
9) 相対比は、σ、2 σのそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。



第144図　暦年校正結果

１．はじめに

琥珀と思われる樹脂様資料は写真１に示したように，表面はかなり劣化が進み細かい破片として崩れやすい状態であるが，内部は比較的透明感の残る状態の良いものであると観察された。まず，この遺物が琥珀かあるいは半化石樹脂（コパール樹脂）であるかどうかの確認をフーリエ変換赤外分光により行った。琥珀であることがわかれば琥珀の主な産出地から採取した地質学的標準資料（標準琥珀）の分析結果と比較することによって産地推定を行うことが可能となる。そこで今回，フーリエ変換赤外分光，熱分析によりこれらの資料の科学分析を行ったのでその結果を報告する。

２．分析試料

今回の分析に使用した試料はM-98区・Ⅳ層出土資料で，写真１の破片の中で健全であると見られる部分から選んだ（赤丸印で囲った破片）。同時に標準資料として，久慈市，いわき市，銚子市，瑞浪市から産出した資料を同様の方法・条件で分析し比較した。また，各種コパール樹脂についても同様にフーリエ変換赤外分光を行った。

３．分析方法および条件

分析装置は全反射フーリエ変換赤外分光（以下ＡＴＲ-FTIR）光度計 (SENSIR TECHNOLOGIES製 TravelIR)）と熱分析（以下DTA・TGA）装置（㈱島津製作所製 DTG-60）を使用した。

ATR-FTIRでは，試料に赤外線を照射することにより得られる分子の構造に応じた固有の周波数の吸収を解析し，化合物の種類を同定することができる。主に有機物の構造を解析する手段として用いられることが多く，琥珀を形成する樹脂の種類すなわち植物の種類によって分子構造が異なると考えられる。そのため，産地によってスペクトルに差が生じ，それを利用して産地推定に応用されてきた１）２）３)。

DTA・TGA は試料に熱を加え，得られる質量変化から気化温度，また熱分解などの化学変化を知ることができる熱重量測定（TGA）と，試料の融解などの状態の変化や化学反応の温度を知ることができる示差熱分析（DTA）があり，これらから試料の熱に対する挙動を調べることができる。

ＡＴR-FTIR測定は写真1に示した破片から極微量（約0.3mg）の試料を2片採取しそのまま測定部に設置し検出器にTGSを用い，分解能4cm-1で2回測定した。また，DTA・TGAは試料の砕片（約１mg）をアルミニウムセルに入れ，200ml/分の流量の窒素ガスを流しながら10℃/分で昇温させ，その時の重量変化と熱量変化を測定した。

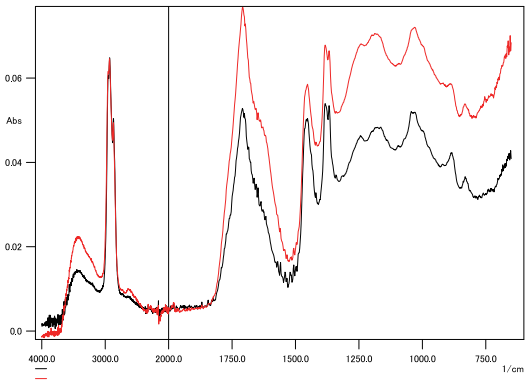
４．結果および考察

ATR-FTIR とDTA・TGAは有機化合物の分子構造を反映するため，劣化によりその構造が変化すると，本来のスペクトルや挙動とは異なる結果となる場合もある。特に劣化が激しいと，ATR-FTIR では全体的に吸収はブロードとなり特徴的な吸収が消失し，新たに異なった位置にピークが表れることがある。また，DTA・TGAは低温度から重量減少が始まり，分解温度も低温化する。そのため琥珀であるかどうかの判断および産地推定は，できるだけ健全な部分を選んで分析を行うことが必要であり，今回もできるだけ健全な部分から試料を採取して分析を実施した。

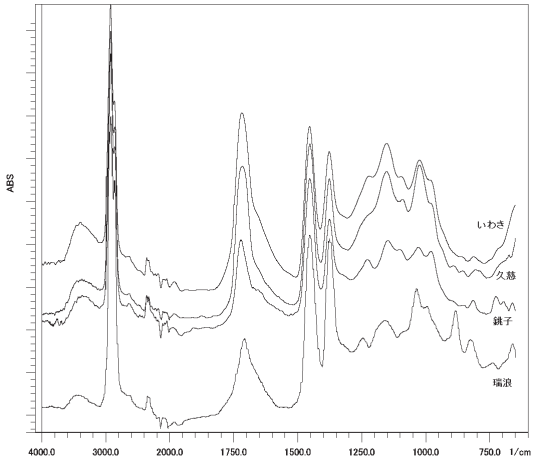
写真1.　分析資料

まず，ATR-FTIR では2回実施した分析結果はいずれもほぼ同様な位置に吸収ピークを示し，スペクトルの3500～2800 cm-1，1500～800 cm-1付近の吸収位置や強度より琥珀やコパール樹脂のような樹脂様の有機物であることが確認できた（第145図）。

次に指紋領域と呼ばれる有機化合物を同定する際の目安となる1300～750cm-1付近のスペクトルの吸収位置および強度と，産地の判明している標準琥珀から得られたスペクトルと比較し，産地推定を試みた（第145図，第146図，第147図）。国内の主産地である久慈市，いわき市，銚子市，瑞



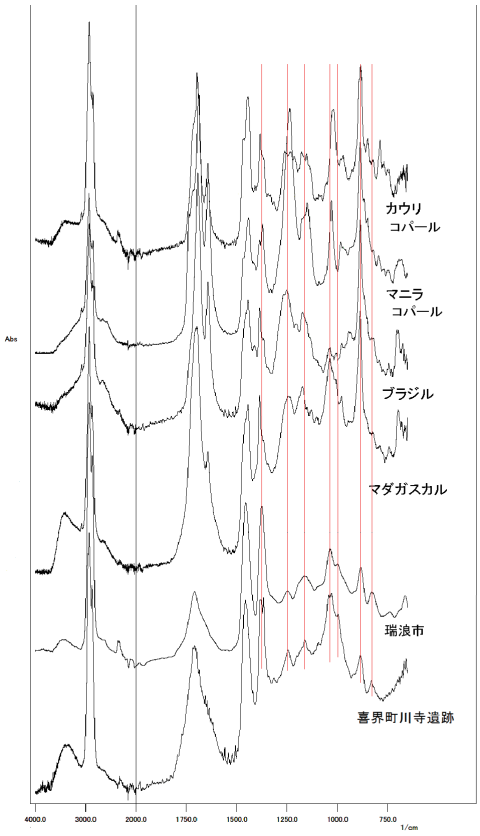
第145図　川尻遺跡出土資料の赤外吸収スペクトル



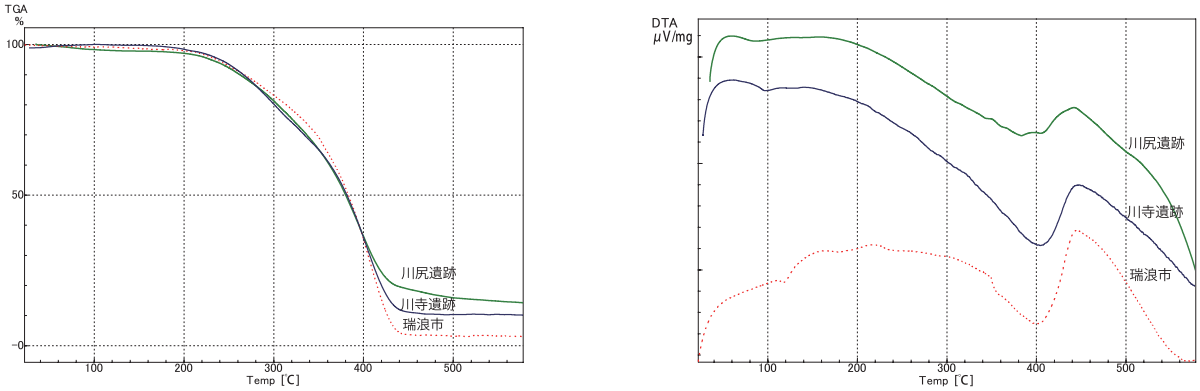
第146図　標準琥珀の赤外吸収スペクトル

浪市産のスペクトルと比較した結果，今回の試料は1250～850cm－1付近の吸収位置と強度が瑞浪市に非常に近いスペクトルであることがわかった。ただ，3500 cm-1および1710 cm-1付近の吸収が瑞浪市のものと比較してその強度が増加していることより，劣化がやや進んだ状態であることが確認できた。

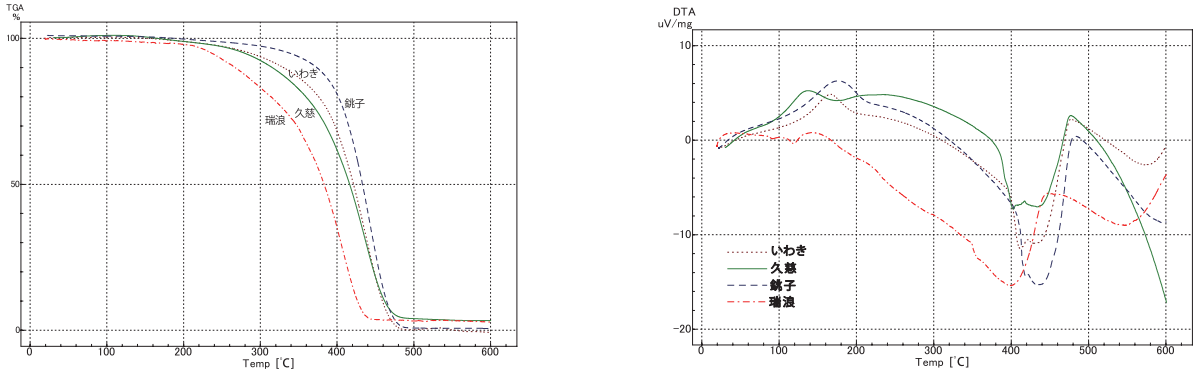
さらに昨年度分析を行った近隣に位置する川寺遺跡と比較した結果，ほぼ同じ位置・強度のスペクトルが得られ，同一の分子構造を持つものであることがわかった。次にコパール樹脂と考えられる資料と比較したが現在手元に有る標準資料ではいずれとも一致しなかった（第147図）。以上の結果と，これまで発表された文献を参考に外国産，および国内産



第147図　コパール樹脂等の赤外吸収スペクトル



第148図　川尻遺跡、川寺遺跡出土資料および瑞浪市産琥珀のTGA・DTA曲線　（左：TGA　右：DTA）



第149図　標準琥珀のTGA・DTA曲線　（左：TGA　右：DTA）

の分析結果もあわせて検討したが（室賀1976）瑞浪市産以外のスペクトルと一致する結果は確認できなかった。まだ，分析が実施されていない産地および現在では消滅し確認できない産地の可能性は否定できないが，現時点では瑞浪産の可能性が高い結果となった。

さらに，DTA・TGAにより標準琥珀と比較した結果，琥珀より低い温度で分解し半化石樹脂（コパール樹脂）の分解温度や挙動に類似していることがわかった。この結果はATR-FTIR と同様に瑞浪市産琥珀とに非常に良く似たものであった（第148図，第149図）。

瑞浪市産琥珀は新生代第四期の地層から産出するもので，年代的にはかなり新しいため，高分子化が進んでいないコパール樹脂とよく似た性質を持つと考えられる。また，瑞浪市産琥珀は有機溶媒（アセトン，エタノールなど）にほぼ溶解し，性質から分類するとコパールに近いと考えられるが，国内では琥珀と認識されており，出土品では古墳時代の琥珀製品が瑞浪産であるとの分析結果も報告されている（植田2012）。さらに，川尻遺跡の近くに位置する川寺遺跡から出土した遺物と比較した結果，DTA・TGAでも非常に良く似た結果を示した。以上の結果よりこれら2遺跡出土遺物の原産地は同じである可能性が高いと考えられた。

以上より，今回分析した出土琥珀の産地はATR-FTIR ，DTA・TGAでいずれも瑞浪市産であることを示唆したことより，現時点では瑞浪市産と推定した。

５．さいごに

出土琥珀は劣化状態が様々でそれによってATR-FTIR やDTA・TGAの結果が変わることが多い。しかし，今回の分析試料については劣化が幾分進行していたが分析結果に影響されるような状況ではなかったため，いずれの分析でも瑞浪産であることが確認でき，かなり信頼性の高い結果を導くことができた。なお，高分子化の度合いが低い琥珀については劣化の進行は早いと考えるのが妥当であるが，本資料の分子構造が比較的変化（劣化）しにくい分子構造を持っている可能性も考えられ興味深い。

琥珀の産地は国内でも，少量の産出地も含めると10ヶ所以上もある。また国外でも各地で産出する。その中で，主産地の標準琥珀については様々な分析方法による多くの基礎データが揃っており，比較検討できる環境は整っている。一方，少量産地は科学分析がほとんど行なわれていないことも多く，今回の資料もそういった地域やまだ発見されていない琥珀産地，あるいはすでに消滅した産地である可能性は否定できない。今後，分析が実施されていない産地の琥珀についても今回のように分析を行い，基礎データを収集することでより精度の高い産地推定を行っていきたい。

参考文献

１）室賀照子，赤外吸収スペクトルによる琥珀の産地分析，考古学と自然科学，第９号，59，(1976)
２）植田直見，銚子産琥珀の赤外分光分析，こはく，第4号，15（2002）
３）植田直見，いわき地方産琥珀の科学分析，こはく，第5号，13（2004）
４）植田直見，瑞浪産琥珀について，日本琥珀研究会第11回大会口頭発表　2012年　東京

はじめに

川尻遺跡は，喜界島南西部に位置する手久津久集落に隣接する。これまでの調査で，縄文時代後期～晩期，古代，中世，近世と想定される遺構，遺物が検出されている。このうち，今回は出土した黒曜石製品の石材産地に関する情報を得ることを目的として，蛍光X線分析装置による測定を行った。

1.試料

分析に供された試料は，黒曜石製のSD10 J-97(No.1)と包含層 Ⅳ I-98(No.2)の2点である。

2.分析方法

(1)エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（EDX）による測定

本分析の特徴は，試料の非破壊による測定が可能であり，かつ多元素を同時に分析できることが利点として挙げられる。一方，非破壊分析である以上，測定は試料表面のみが対象となることから，表面が汚れた試料や風化してしまっている試料については試料の洗浄あるいは測定面の選択が必要となる。本分析では試料が貴重な遺物であることから，汚れが少なく，風化が進んでいない面を選択して測定を行っている。ただし，表面の風化，汚れが目立つ場合は，メラミンスポンジを用いて洗浄したあと分析を実施している。

本分析で使用した装置は，セイコーインスツルメンツ製エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（SEA2120L）であり，Ｘ線管球はロジウム（Rh），検出器はSi（Li）半導体検出器である。測定条件は，励起電圧50kV，管電流自動設定（μA），測定時間600秒，コリメータ（照射径）φ10.0mm，フィルターなし，測定室雰囲気は真空である。測定元素は，Al（アルミニウム），Si（ケイ素），K（カリウム），Ca（カルシウム），Ti（チタン），Mn（マンガン），Fe（鉄），Rb（ルビジウム），Sr（ストロンチウム），Y（イットリウム），Zr（ジルコニウム）の11元素であり，測定試料全てにおいてマイラー膜（PE,2.5μm；ケンプレックス製CatNo107）を介して元素Ｘ線強度（cps）を測定した。

(2) 産地推定方法

産地推定は，望月（2004など）による方法に従い，測定結果（元素Ｘ線強度（cps））から，5つの判別指標値を求める。5つの判別指標値は，Rb分率{Rb×100/（Rb＋Sr＋Y＋Zr）}，Sr分率{Sr×100/（Rb＋Sr＋Y＋Zr）}，Zr分率{Zr×100/（Rb＋Sr＋Y＋Zr）}，Mn×100/Fe，Log（Fe/K）である。

一方，産地推定に必要な原産地の資料に関しては，望月（2004）で用いられている原産地試料の分析データーを使い，原産地判定用資料を作成する。今回産地推定に用いた黒曜石原産地を第150図に示す。

原産地試料のデーターを，Rb分率とMn×100/Fe，Sr分率とLog（Fe/K）についてグラフ化する。また，グラフを元に作成した二次元正規密度分布，ならびに判別指標値から作成した多次元密度分布の結果から，原産地を元にした判別群を設定する。その名称ならびに判別群と原産地との関係を第45表に示す。

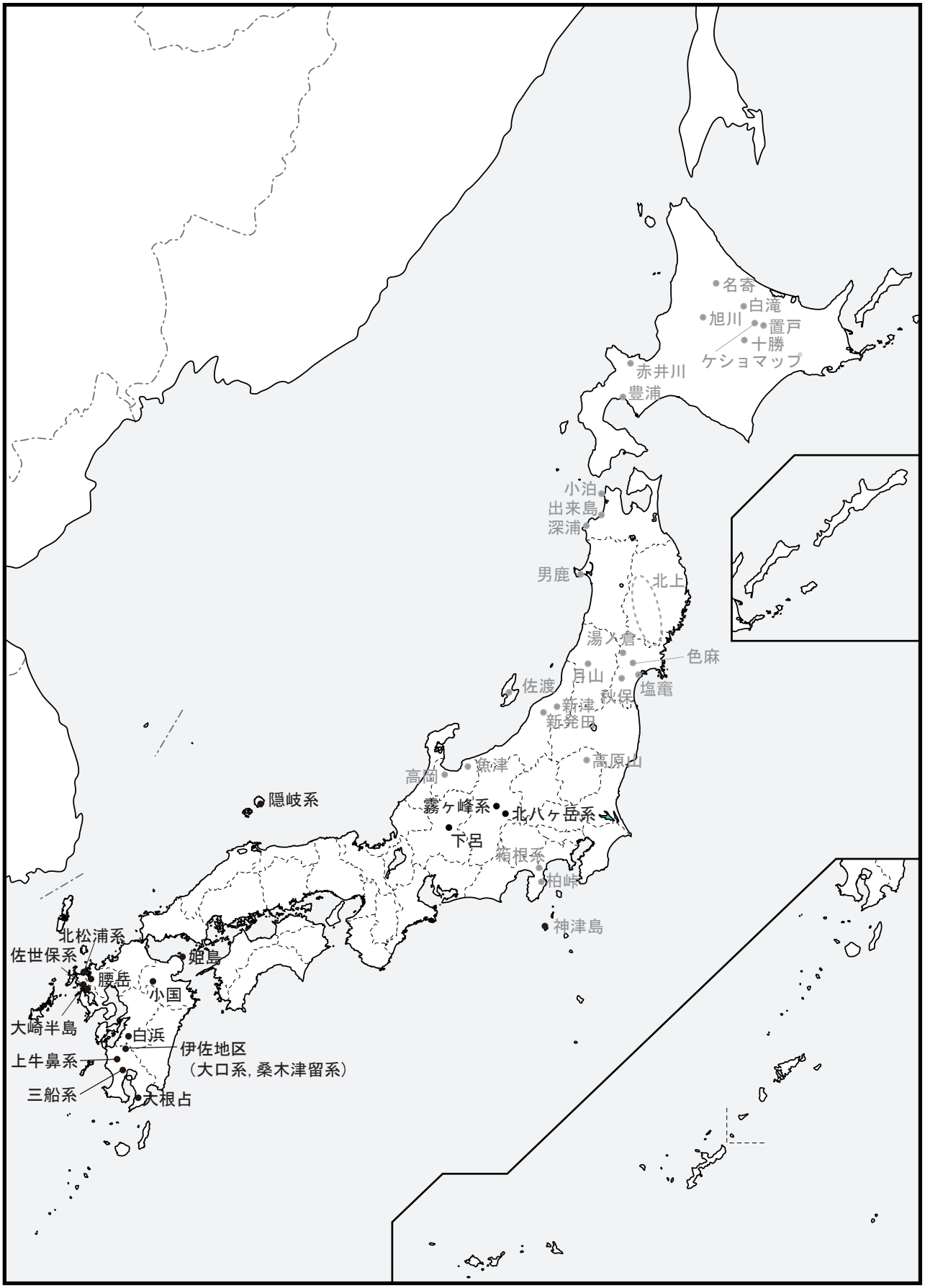
Rb分率とMn×100/Fe，Sr分率とLog（Fe/K）のグラフ中に，各判別群の重心より2σ(約95%)の範囲を示す楕円を書く(原産地試料の各分析データーは図が煩雑になるため割愛する)。これに，遺跡出土試料の分析結果を重ね合わせることにより，産地推定の指標の一つとなる。

一方，各判別群の5つの判別指標値について，それぞれの基本統計量(平均値や分散，共分散など)を求める。この値をもとに，遺跡出土試料と各判別群とのマハラノビス平方距離を計算する。マハラノビス平方距離による判別は，先に述べた5つの判別指標値を使う方法(望月,2004など)と，基本的にZr分率を除くグラフに使った4つの判別指標値を使うが，群間の判別が難しい場合にZr分率を加える方法(明治大学古文化財研究所,2009,2011;明治大学文学部,2014a,b)がある。今回は，4成分，5成分双方の結果を掲載する。測定試料と各判別群全てについて，4成分，5成分のマハラノビス平方距離を求め，測定試料に近いものから3判別群を表に示す。これらについてカイ二乗検定を行い，99.5%の範囲に入った場合を「True」，入らなかった場合を「False」とする。

3.結果および考察

各試料の詳細および元素Ｘ線強度（cps）および判別指標値を第46表に示す。また，Rb分率とMn×100/Fe，Sr分率－Log（Fe/K）について，原産地試料の重心から2σ(95%)の範囲を記したグラフに，各試料の結果を重ね合わせた図を，第152・153図に記す。第47表には，測定試料に近いものから3原産地分のマハラノビス平方距離を示し，これらについてカイ二乗検定を行なった結果を示す。

第151図，第152図をみてわかるように，北松浦地区の北松浦1群，有田地区の腰岳，佐世保地区の針尾1群は互いに組成が近く，確率を示す楕円がほとんど重なっている。このため，第47表に示すように，今回測定した黒曜石2点は，第一，第二，第三候補ともに統計学的には「True」となる。したがって，これらの3つの産地を判別することは現時点では難しいので，現在のところは「北松浦1群-腰岳-針尾1群」と判定する。エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置を用いて産地推定を行っている報文の原産地のデーターや判別基準をみると，「北松浦」，「腰岳」，「針尾島」原石の一部の値は近接もしくは，重なっているものが多い(杉原,2011;片多,2015など)。一部の報文では，北松浦や針尾島に関しては，大き



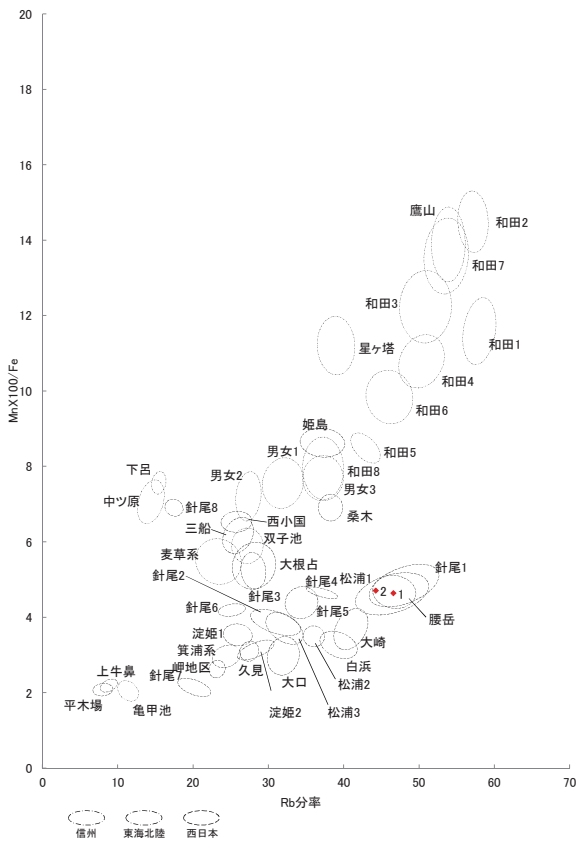
第150図　黒曜石産地一覧（薄字は今回原産地として対象としていない地点）

第45表　黒曜石原産地試料一覧

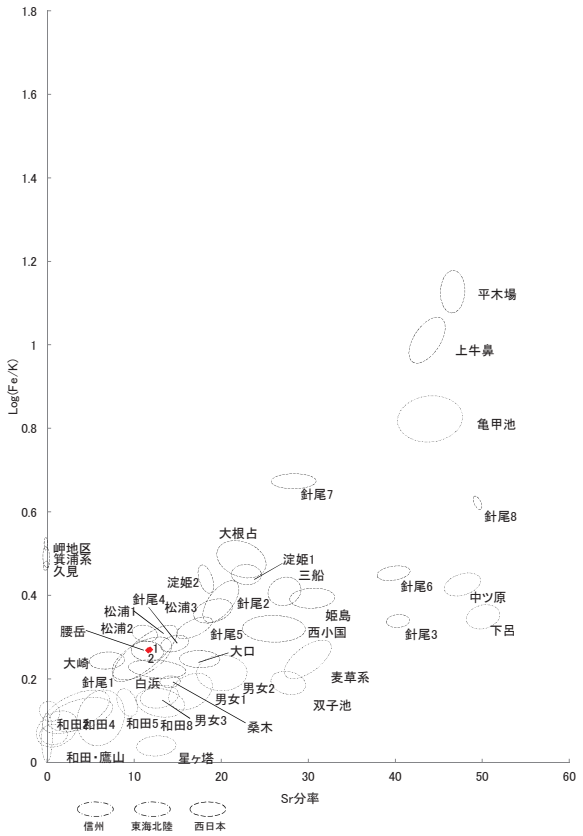
大分類	中分類	判別群	記号	該当する原産地
信州	霧ヶ峰	男女倉１群	男女１	ぶどう沢、牧ヶ沢、高松沢、本沢下
信州	霧ヶ峰	男女倉２群	男女２	ぶどう沢、牧ヶ沢
信州	霧ヶ峰	男女倉３群	男女３	ぶどう沢、牧ヶ沢、高松沢、本沢下
信州	霧ヶ峰	鷹山系	鷹山	星糞峠、鷹山
信州	霧ヶ峰	西霧ヶ峰系	星ヶ塔	星ヶ塔、星ヶ台
信州	霧ヶ峰	和田峠１群	和田１	古峠、土屋橋北
信州	霧ヶ峰	和田峠２群	和田２	丁子御領、芙蓉パーライト、鷲ヶ峰
信州	霧ヶ峰	和田峠３群	和田３	小深沢、芙蓉パーライト、新和田トンネル、土屋橋北、土屋橋東、18 地点、24 地点、26 地点、丁子御領、鷲ヶ峰
信州	霧ヶ峰	和田峠４群	和田４	小深沢、芙蓉パーライト、新和田トンネル、土屋橋北、土屋橋西、土屋橋東、18 地点、24 地点、26 地点、丁子御領、鷲ヶ峰
信州	霧ヶ峰	和田峠５群	和田５	24 地点、25 地点、26 地点、小深沢
信州	霧ヶ峰	和田峠６群	和田６	小深沢、芙蓉パーライト、24 地点、25 地点、26 地点、土屋橋西、土屋橋東
信州	霧ヶ峰	和田峠７群	和田７	東餅屋、芙蓉パーライト、古峠、丁子御領、鷲ヶ峰、土屋橋北
信州	霧ヶ峰	和田峠８群	和田８	25 地点、26 地点、土屋橋東
信州	北八ヶ岳	横岳系双子池	双子池	双子池
信州	北八ヶ岳	横岳系亀甲池	亀甲池	亀甲池　擂鉢池
信州	北八ヶ岳	冷山・麦草系	麦草系	冷山、麦草峠、双子池、渋ノ湯、八ヶ岳 7、八ヶ岳 9、長門美しの森
信州	北八ヶ岳	中ツ原	中ツ原	中ツ原 (遺跡試料)
東海・北陸	岐阜	下呂市	下呂	湯ヶ峰
中国・四国	隠岐	久見	久見	久見
中国・四国	隠岐	岬地区	岬地区	隠岐岬
中国・四国	隠岐	箕浦系	箕浦系	箕浦、加茂赤土、岸浜
九州	有田	腰岳	腰岳	腰岳
九州	伊佐地区	大口	大口	五女木、猩猩、日東
九州	伊佐地区	桑木津留	桑木	桑木津留
九州	三船	三船	三船	三船
九州	串木野東	上牛鼻系	上牛鼻	樋脇上牛鼻
九州	串木野東	上牛鼻系	平木場	平木場
九州	西小国	西小国	西小国	西小国
九州	大崎半島	大崎半島	大崎	大崎半島
九州	姫島	姫島	姫島	姫島
九州	佐世保	針尾１群	針尾１	針尾中町、針尾古里、針尾田ノ上
九州	佐世保	針尾２群	針尾２	針尾中町、針尾田ノ上、針尾古里、針尾通信塔
九州	佐世保	針尾３群	針尾３	針尾古里、針尾田ノ上
九州	佐世保	針尾４群	針尾４	針尾田ノ上、針尾通信塔、針尾古里
九州	佐世保	針尾５群	針尾５	針尾田ノ上、針尾通信塔
九州	佐世保	針尾６群	針尾６	針尾田ノ上
九州	佐世保	針尾７群	針尾７	針尾中町、針尾田ノ上
九州	佐世保	針尾８群	針尾８	針尾中町
九州	佐世保	針尾・淀姫１群	淀姫１	針尾土器田、、針尾古里、針尾大崎、針尾通信塔、淀姫
九州	佐世保	針尾・淀姫２群	淀姫２	針尾通信塔、淀姫
九州	大根占	大根占	大根占	大根占
九州	球磨	白浜	白浜	白浜
九州	北松浦地区	北松浦１群	松浦１	大崎免、岳崎免、松浦牟田
九州	北松浦地区	北松浦２群	松浦２	大崎免、岳崎免
九州	北松浦地区	北松浦３群	松浦３	大崎免、岳崎免、松浦牟田

第46表　スペクトル強度と判別指標値

No.	試料名	強度 (cps)											判別指標				
		Al	Si	K	Ca	Ti	Mn	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	Rb 分率	Sr 分率	Zr 分率	Mn*100/Fe	log(Fe/K)
1	SD10 Ⅱ J-97	60.27	481.16	62.45	18.67	1.22	5.40	116.34	17.68	4.48	6.44	9.34	46.60	11.80	24.62	4.64	0.27
2	包含層 Ⅳ 98-I	64.73	506.84	65.89	23.25	1.03	5.77	122.53	18.13	4.75	7.45	10.64	44.25	11.60	25.97	4.71	0.27



第151図　黒曜石産地推定結果（1）



第152図　黒曜石産地推定結果（2）

な破片や破片が得られる産地のみに絞ってばらつきを小さくし，判別を行っている例もある。しかし，過去には大きな破片も得られたが，現在枯渇している可能性もあるため，今回は小規模な黒曜石産地から得られた黒曜石や小型の黒曜石も対象とし，判別図を作成している。しかしながら，現在の状況をみると，他の2つの産地に比べて腰岳の規模が大きいことから，今回得られた黒曜石の産地は，腰岳の可能性がやや大きい。

引用文献

片多雅樹，2015，判別図法を用いた黒曜石の産地推定～原産地データの蓄積～.長崎県埋蔵文化財センター研究紀要,5,35-39

明治大学古文化財研究所,2009,蛍光X線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定　-基礎データー集1-.明治大学古文化財研究所,294p.

明治大学古文化財研究所,2011,蛍光X線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定　-基礎データー集2-.明治大学古文化財研究所,294p.

明治大学文学部,2014a,蛍光X線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定　-基礎データー集3-,杉原重夫編,森 義勝監修,明治大学文学部,170p.

明治大学文学部,2014b,日本における黒曜石の産状と理化学分析-資料集-,75,杉原重夫編,森 義勝監修,明治大学文学部,170p.

望月明彦,2004,第5節　和野Ⅰ遺跡出土黒曜石製石鏃の石材原産地分析,岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書452集　和野Ⅰ遺跡発掘調査報告書,476-480.

杉原重夫，2011，九州腰岳，平沢良遺跡・鈴桶遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定．駿台史学，142，111－137.

第47表　黒曜石判定結果

No.	4成分									5成分								
	第1候補			第2候補			第3候補			第1候補			第2候補			第3候補		
	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定
1	腰岳	0.1	TRUE	松浦1	0.2	TRUE	針尾1	0.9	TRUE	腰岳	0.1	TRUE	松浦1	0.3	TRUE	針尾1	1.0	TRUE
2	松浦1	2.2	TRUE	腰岳	4.6	TRUE	針尾1	6.4	TRUE	松浦1	2.9	TRUE	腰岳	4.7	TRUE	針尾1	6.5	TRUE

距離：マハラノビス平方距離　判定はχ二乗検定(3σ)の結果

１．はじめに

喜界町教育委員会の依頼により、鹿児島県喜界町手久津久地区の川尻遺跡出土青銅鋤先について、鉛同位体比の分析を行った結果を報告する。

２．資料

資料は、川尻遺跡の包含層から出土した時期不明の青銅鋤先１点(第17図24，第４表)である。

３．分析方法

刃を使い捨てにするマイクロナイフを使って表面から錆粉末を採取して分析試料とした。採取した試料粉末から高周波加熱分離法で鉛を単離し、鉛100ng相当量をリン酸・シリカゲルとともにレニウム・シングル・フィラメント上に塗布した。表面電離型質量分析装置（Finnigan MAT 262）を用いて、フィラメント温度1200℃で鉛同位体比を測定した（齋藤、2001）。

４．結果

表１、図1・２に鉛同位体比測定結果を示した。

馬淵・平尾は弥生時代から平安時代までの多くの青銅器についてデータを蓄積した結果、その鉛同位体比の変遷は下記のようにグループ分けできると報告している（馬淵・平尾、1982a、1982b、1983、1987；平尾・榎本、1999）。

Ａ：弥生時代に将来された前漢鏡が示す数値の領域で、華北の鉛。弥生時代の国産青銅器の多くがここに入る。

Ｂ：後漢・三国時代の舶載鏡が示す数値の領域で、華中～華南の鉛。古墳出土の青銅鏡の大部分はここに入る。

Ｃ：日本産の鉛鉱石の領域。

Ｄ：多鈕細文鏡や細形銅剣など、弥生時代に将来された朝鮮半島系遺物が位置するライン。

ここでも、これらの領域とともに測定結果をあらわした。

測定結果の表示には通常$^{207}Pb/^{206}Pb$比と$^{208}Pb/^{206}Pb$比の関係（ａ式図）が使用されることが多く、それだけで識別が困難な場合などには、必要に応じて$^{206}Pb/^{204}Pb$比と$^{207}Pb/^{204}Pb$比の関係（ｂ式図）が併用される。今回の測定結果では両方を用いた。

いずれの図でもＣ領域に含まれ、日本産原料と推定される。日本産の青銅原料は現在までのところ、飛鳥時代以降の資料にしか見出されていないので、この資料もそれ以降の時期のものである可能性が高い。

表１　川尻遺跡出土青銅鋤先の鉛同位体比分析結果

掲載番号	分析番号	$^{207}Pb/^{206}Pb$	$^{208}Pb/^{206}Pb$	$^{206}Pb/^{204}Pb$	$^{207}Pb/^{204}Pb$	$^{208}Pb/^{204}Pb$
24	B12901	0.8423	2.0868	18.570	15.642	38.753

参考文献

齋藤努（2001）「日本の銭貨の鉛同位体比分析」『国立歴史民俗博物館研究報告』86、pp.65-129

平尾良光、榎本淳子（1999）「古代日本青銅器の鉛同位体比」『古代青銅の流通と鋳造』平尾良光編、鶴山堂、pp.29-162.

馬淵久夫（1987）「第5節　鉛同位体比による原料産地推定」『出雲岡田山古墳』、pp.167-171、島根県教育委員会.

馬淵久夫、平尾良光（1982a）「鉛同位体比からみた銅鐸の原料」『考古学雑誌』68（1）、pp.42-62.

馬淵久夫、平尾良光（1982b）「鉛同位体比法による漢式鏡の研究」『MUSEUM』370、pp.4-12.

馬淵久夫、平尾良光（1983）「鉛同位体比による漢式鏡の研究（二）」『MUSEUM』382、pp.16-26.

馬淵久夫、平尾良光（1987）「東アジア鉛鉱石の鉛同位体比-青銅器との関連を中心に-」『考古学雑誌』73（2）、pp.199-245.

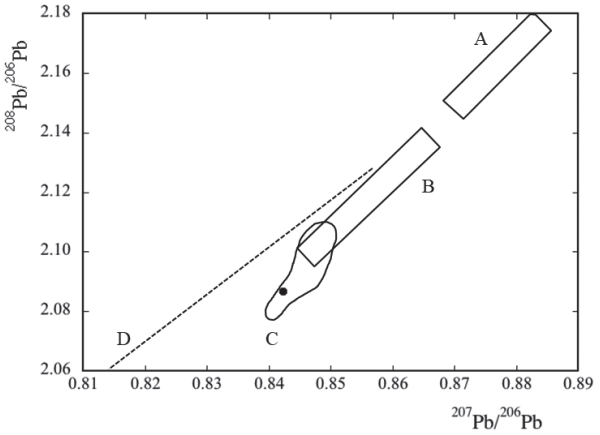


図１　川尻遺跡出土青銅鋤先の鉛同位体比分析結果(a式図)

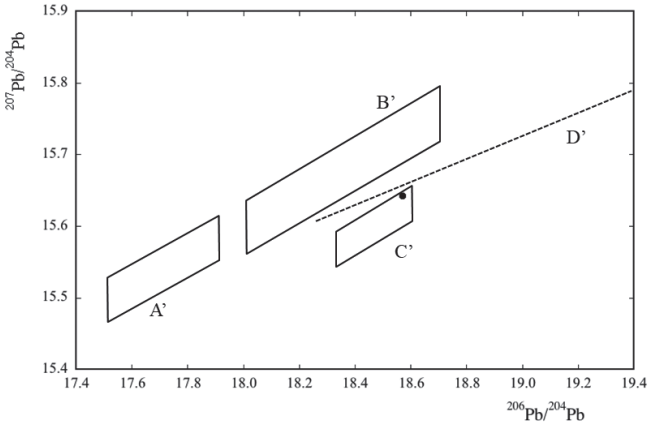


図２　川尻遺跡出土青銅鋤先の鉛同位体比分析結果(b式図)

第Ⅶ章　分析・同定

第１節　鉄製品・鍛冶関連遺物

愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター　村上恭通

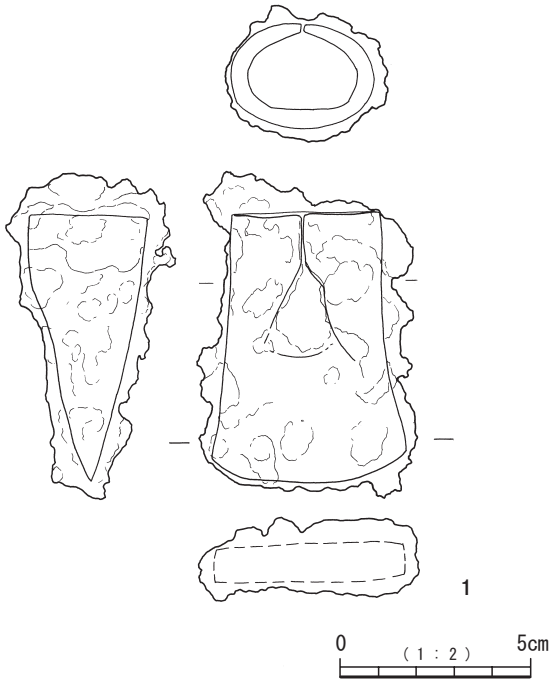
１．概要

出土した鉄製品・鍛冶関連遺物は総182点を数え、出土層位の内訳は表土・Ⅰ層が86点、Ⅱ層が6点、Ⅲ層1点、Ⅳ層32点、Ⅴ層8点、Ⅵ層1点、その他が48点である。表土層・Ⅰ層出土品のなかには釘、ナットなど現代の鉄製品が含まれているが、形態や劣化の特徴から本来Ⅱ層以下に含まれていたと推測される鉄製品も多いため、それらも含めて報告することとする。鉄製品は鋳造の鉄鍋を除くと鍛造品が主体を占める。器種には袋状斧、刀子、小刀・庖丁、鑿、釣針、ケージャー、突き棒、釘、棒状鉄器、鋳鉄製容器、その他がある。鍛冶関連遺物は12点あり、鞴羽口、鉄塊状遺物、鍛冶滓に分けられる。以下、92点について図示して報告する。

２．鉄製品

(1) 袋状鉄斧（第153図、1）

完形品であるが、全体が堅固な錆に覆われており、袋端部を除くと表面はほとんど観察できないため、所見の多くはX線画像の解読による。全長は約7cmを測り、袋端部幅4.0cm、刃部幅約5cmと刃部付近でやや広がっている。袋部の折り返し部は非対称で、突合せの長さは1.5cmであり、密着している。袋部の横断面形は楕円形を呈し、短径は2.7cmを測る。袋端部の鉄地の厚みは0.5cmと厚く、その厚みを維持しながら身にいたって大きく厚みを増して刃部にいたる。刃部は弧刃を呈し、両刃である。H96区のⅣ層から出土した。



第153図　袋状鉄斧

(2) 刀子・小刀・庖丁（第154図、2～6）

2、3は刀子である。2は完形品であり、棟がわずかに反り、刃部は弧状を呈し、身の中位で最大幅となる。棟側にわずかに関があり、刃はそのまま茎にいたり、茎端部はやや丸く収まる。全長14.1cm、刀身長11.1cm、身幅1.6cm、茎幅0.7cmを測り、身、茎の厚みは0.4cmである。R98区から出土し、その層位は不明である。3は茎を欠損する。切先から棟はほぼまっすぐに伸び、両関部分で最大幅となる。両関ともに斜め関であり、幅広の茎につながる。現存長9.5cm、刀身長7.7cm、身幅1.8cm、茎幅1.1cmを測り、身と茎の厚みは0.4cmである。R100区の表土より出土した。

4は切先と茎の端部を欠く小刀である。反りはなく、刃部は長い切先をもつ。両関はいずれもなで関であり、幅狭の短い茎につながる。現存長17.3cm、刀身長15.2cm、身幅2.1cm、茎幅約1cmであり、身と茎の厚みはそれぞれ0.4cm、0.3cmを測る。出土地点不明である。5は切先と茎の端部を欠く内反りの小刀である。棟は切先に向けてやや傾き、茎に向けても大きく傾いている。刃関は長い角関である。現存長21cm、刀身長18.7cm、身幅3.5cm、茎幅1.5cmを測り、棟、茎の厚さはそれぞれ0.5cm、0.3cmである。T98区の表土より出土した。

6は庖丁であり、切先と茎部を欠損している。棟は切先に向けて大きく傾いており、刃はまっすぐである。刃関はほぼ角関である。茎は身幅のほぼ半分となり、端部に向けてやや細くなる。茎には木柄の痕跡を残している。現存長17.5cm、身の長さ11.3cm、身幅3.4cm、茎幅1.7cmであり、身と茎の厚みはそれぞれ0.4cm、0.6cmである。R100区の表土より出土した。

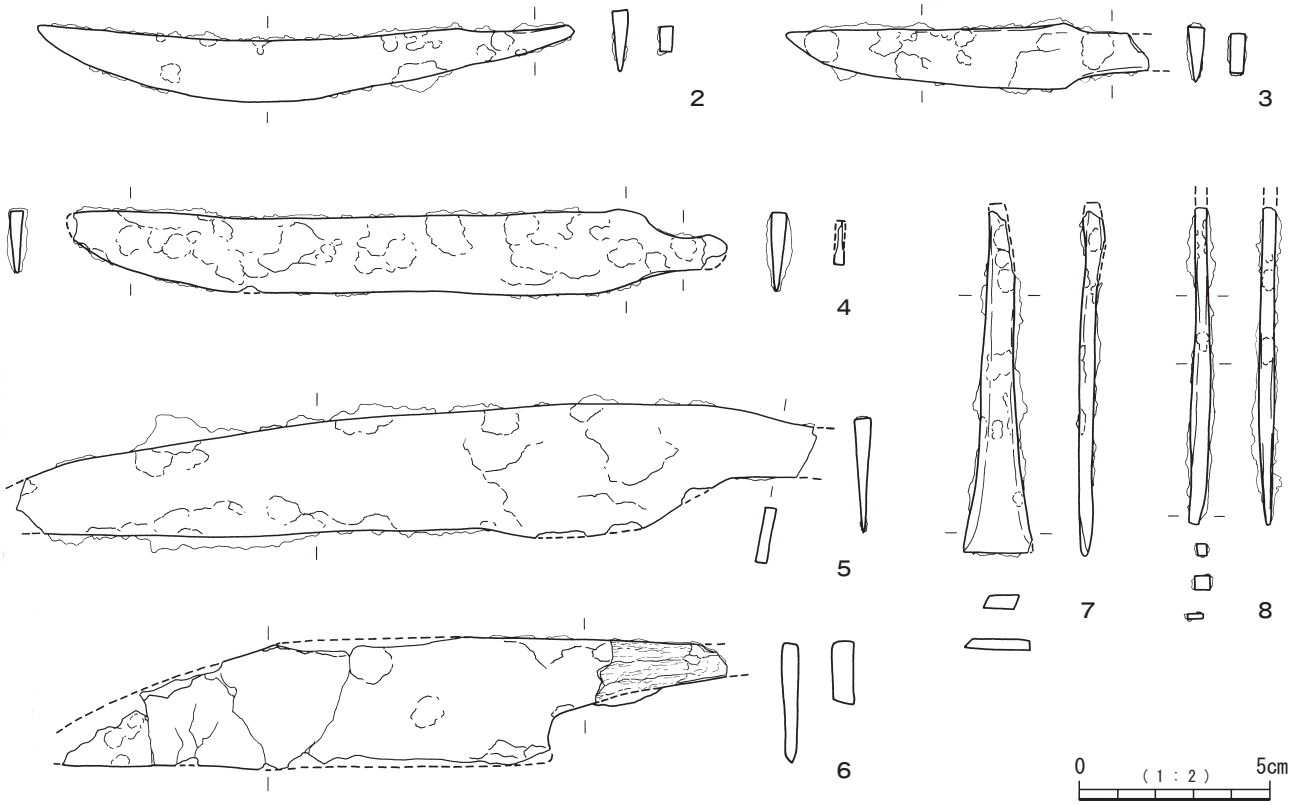
(3) 鑿（第154図、7・8）

7は平刃の鑿であり、わずかに欠損する茎部から幅を増しながら撥状に開き刃部にいたる。現存長9.0cm、幅1.8cm、茎端部幅0.5cmで、刃の厚み、茎の厚みはそれぞれ0.3cm、0.4cmである。H97区P1001から出土した。8は細い角棒の先端が薄く平刃状に仕上げられている。現存長8.3cm、幅0.4cm、厚み0.4cmである。O100区のⅠ層より出土した。

(4) 釣針（第155図、9～12・14）

5点出土し、完形品2点、針部の破片3点である。

9は完形品であり、針にはアグをもたず、チモトをやや尖り気味に仕上げられている。先曲げはやや角を立てるように曲がっている。軸の断面形は楕円形である。高さ3.7cm、幅2.3cmである。J98区Ⅳ層から出土した。10も完形品であり、チモトを欠いている可能性もある。針は明確なアグは認められないが、断面三角形に仕上げ、内側に稜が設けられ、



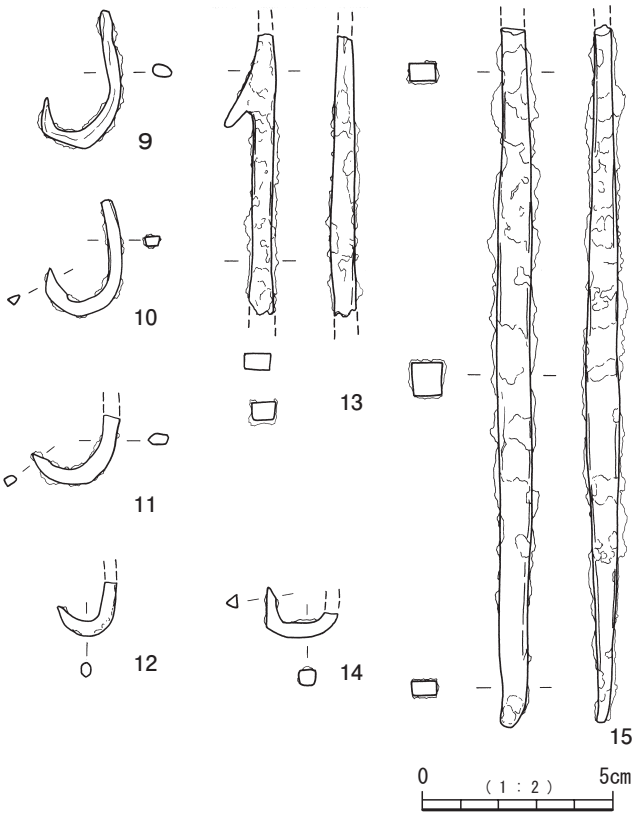
第154図　刀子・小刀・庖丁・鑿

わずかに段をもっている。高さ3.0cm、幅2.0cmを測る。J96区のⅣ層より出土した。11、12は針部の破片であり、12は5点の中で最も小さい。いずれも9、10に比較して先曲げから針先までが短い。それぞれ現存高1.8cm、1.4cm、幅2.2cm、1.5cmである。11はJ96区Ⅳ層、12はI98区Ⅳ層より出土した。14も針部の破片であり、先曲げが9よりも強く角をもつように曲がっている。針先にはアグは認められないが断面三角形に仕上げられ、外側に稜線が立っている。残存高1.3cm、幅1.8cmを測る。K97区のⅣ層に属する貝だまり5より出土した。

(5) モリ・ヤス・ケージャー（第155図、13、15）

13はモリであり、組み合わせてヤスとして使用された可能性もある。銛先を欠損し、長さ1.3cm、高さ0.8cmの返しをもっている。身の断面形は長方形を呈する。現存長7.4cm、幅0.5cm、厚み0.7cmである。J98区Ⅳ層の貝だまり５付近で出土した。

15 は岩場の貝を捕るためのケージャーと考えられる。先端の鉤部を欠き、基部はやや薄くなり弱く曲がっている。身の横断面は両端近くで長方形、中位で略正方形を呈しており、約0.9cm四方である。現存長18.4cmを測る。J99区SD06から出土している。



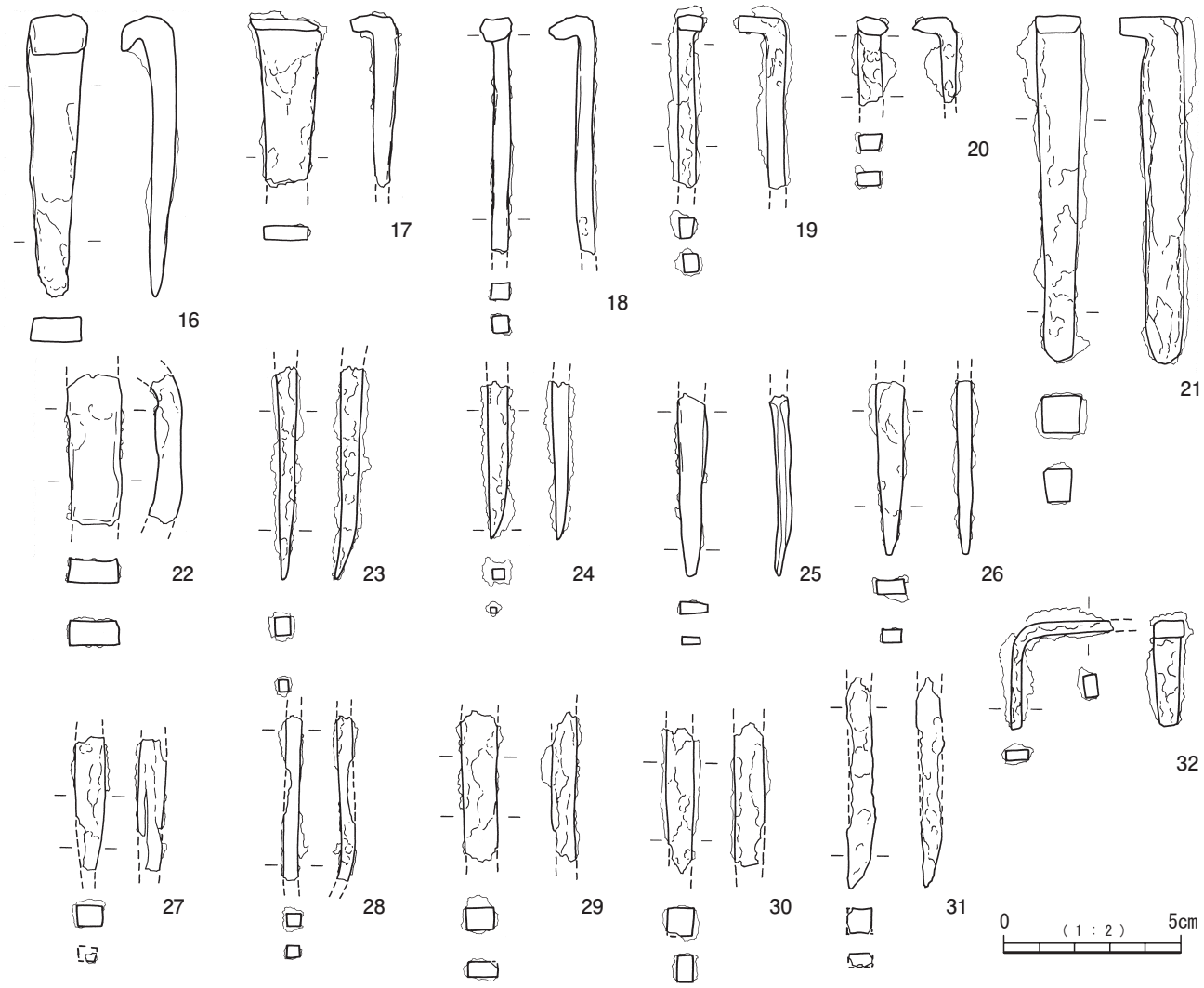
第155図　釣針・モリ・ヤス・ケージャー

(6) 釘（第156図、16 ～31）

釘は16点出土しており、折れ釘の完形品2点、頭部を残す破片4点、足部の破片10点である。出土調査区・層位・遺構

ならび寸法については第48表に掲載している。

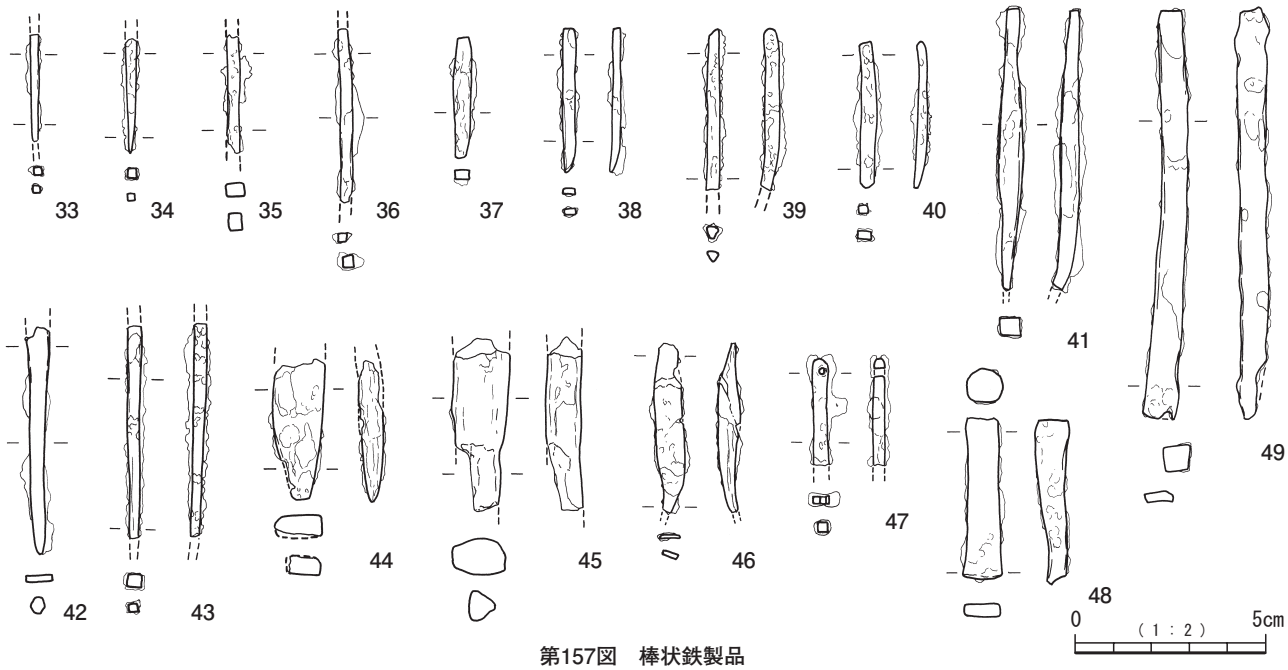
16は頭部が広く、足端部にむけて幅を減じており、頭部は強く折れ曲がり、やや巻き込み気味である。17は足部を欠いており、頭部の折れはほぼ直角で短い。頭部付近で幅広く、足に向けて狭くなる。18～23はいずれも足を欠いている。幅0.5～0.7cm、厚さ0.4～0.6cmの角棒を1.5cm程度直角に折り曲げて頭部としている。21は完形であり、内部にメタルの遺存が多いと推測され重い。頭部は薄く、直角に1.8cm折れ曲がっており、足部は1辺1.2cmの角柱であり、端部に向けてわずかに太さを減じている。22～31は折れ釘



第156図　釘・鎹

第48表　釘・鎹製品計測表

図番号	NO.	掲載番号	調査区	層位	遺構	全長（cm）	幅（cm）	厚み（cm）	頭長 (cm)	頭幅 (cm)	備考
第 156 図	16	745	T100	表土	-	8	1.5	0.7	1.5	1.5	-
	17	300	N99	表土	-	4.7	1.8	0.8	1.5	1.9	-
	18	762	O99	-	人骨集中か所 02	6.7	0.5	0.5	1.3	0.7	-
	19	763	O99	-	人骨集中か所 02	4.8	0.5	0.5	1.4	0.6	-
	20	764	O99	-	人骨集中か所 02	2.4	0.7	0.5	1.3	0.7	-
	21	744	T100	表土	-	9.8	1.2	1.1	1.8	1.3	-
	22	747	T100	表土	-	4.2	1.5	0.7	-	-	-
	23	765	O99	-	人骨集中か所 02	6	0.5	0.5	-	-	-
	24	460	J96	Ⅳ	貝だまり 11	4.2	0.3	0.3	-	-	-
	25	563	I98	Ⅳ	-	5.2	0.8	0.4	-	-	-
	26	749	T99	表土	-	4.9	0.8	0.4	-	-	-
	27	307	L99	Ⅱ	-	3.8	0.8	0.6	-	-	劣化顕著
	28	759	-	Ⅳ	獣骨集中か所 01	4.6	0.4	0.4	-	-	〃
	29	613	M98	Ⅳ	-	4.2	0.8	0.6	-	-	〃
	30	220	C99	白砂	-	4	0.7	0.9	-	-	〃
	31	675	K98	Ⅳ・Ⅴ	-	5.7	0.7	0.7	-	-	〃
	32	748	S99	表土	-	2.7	3.2	0.7	-	-	-



第157図　棒状鉄製品

第49表　棒状鉄製品計測表

図番号	NO.	掲載番号	調査区	層位	遺構	全長（cm）	幅（cm）	厚み（cm）	備考
第 157 図	33	585	J98	Ⅳ	-	2.8	0.2	0.2	-
	34	541	H98	Ⅳ	-	3	0.2	0.3	貝だまり 9 付近
	35	582	J98	Ⅳ	-	3	0.4	0.4	-
	36	583	J98	Ⅳ	-	4.6	0.3	0.3	-
	37	779	P97	Ⅳ	-	3.6	0.4	0.2	劣化顕著
	38	561	I98	Ⅳ	-	3.8	0.3	0.2	-
	39	559	I98	Ⅳ	-	4.2	0.4	0.3	-
	40	560	I98	Ⅳ	-	3.7	0.4	0.3	-
	41	761	O99	-	人骨集中箇所 02	7.5	0.6	0.5	劣化顕著
	42	301	-	表土	-	6	0.6	0.4	-
	43	584	J98	Ⅳ	-	5.6	0.4	0.3	-
	44	612	M98	Ⅳ	-	3.5	1.2	0.6	-
	45	746	T100	白砂上	-	4.6	1.3	0.9	-
	46	562	I98	Ⅳ	-	4.5	0.7	0.2	劣化顕著
	47	410	J98	Ⅳ	貝だまり 6	2.9	0.8	0.4	-
	48	329	H97	-	SD10	4.2	1	0.3	-
	49	686	K99	Ⅴ	-	10.7	0.7	0.7	劣化顕著

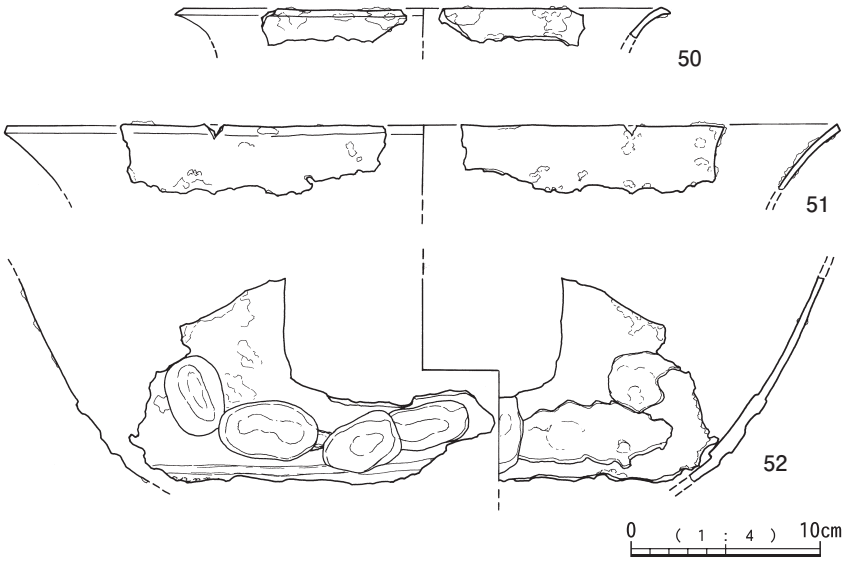
の足部の破片であり、大きさ、形状が多様である。

(7) 鎹（第156図、32）

半分を欠損しており、現存長2.7cm、足の長さ3.0cm、幅0.7cm、厚さ0.4cmを測る。足の端部は四角く収まっている。S99区表土出土である。

(8) 棒状鉄器（第157図、33～49）

大きさ、平面形、断面形がさまざまな鉄棒である。33、34は細く先端が尖っており、錐のような穿孔具あるいは釣針の未製品の可能性が考えられる。38、42は先端が鍛延され薄くなっており、小型の切削具である。44、45は遺存状態が悪く、釘の可能性もある。48は頭

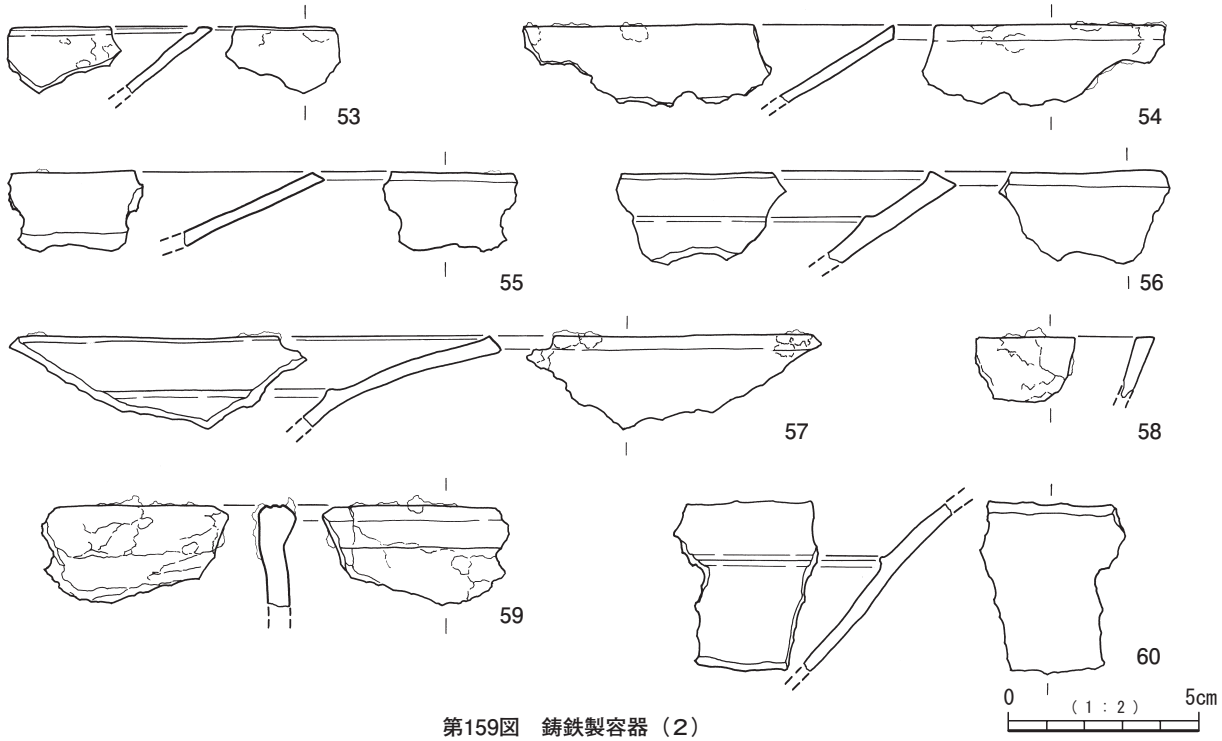


第158図　鋳鉄製容器（1）

部が断面円形、下端部が薄くなっており、鏨に見られるような頭部のつぶれはない。49は一辺0.7cmの角棒を加工して、その一端が薄く鍛延されている。ただし端部の孔蝕による劣化が著しく器種の判断にはおよばない。41、45、48を除き全てⅣ層以下から出土しており、貝だまりにともなう例（34、48）もある。

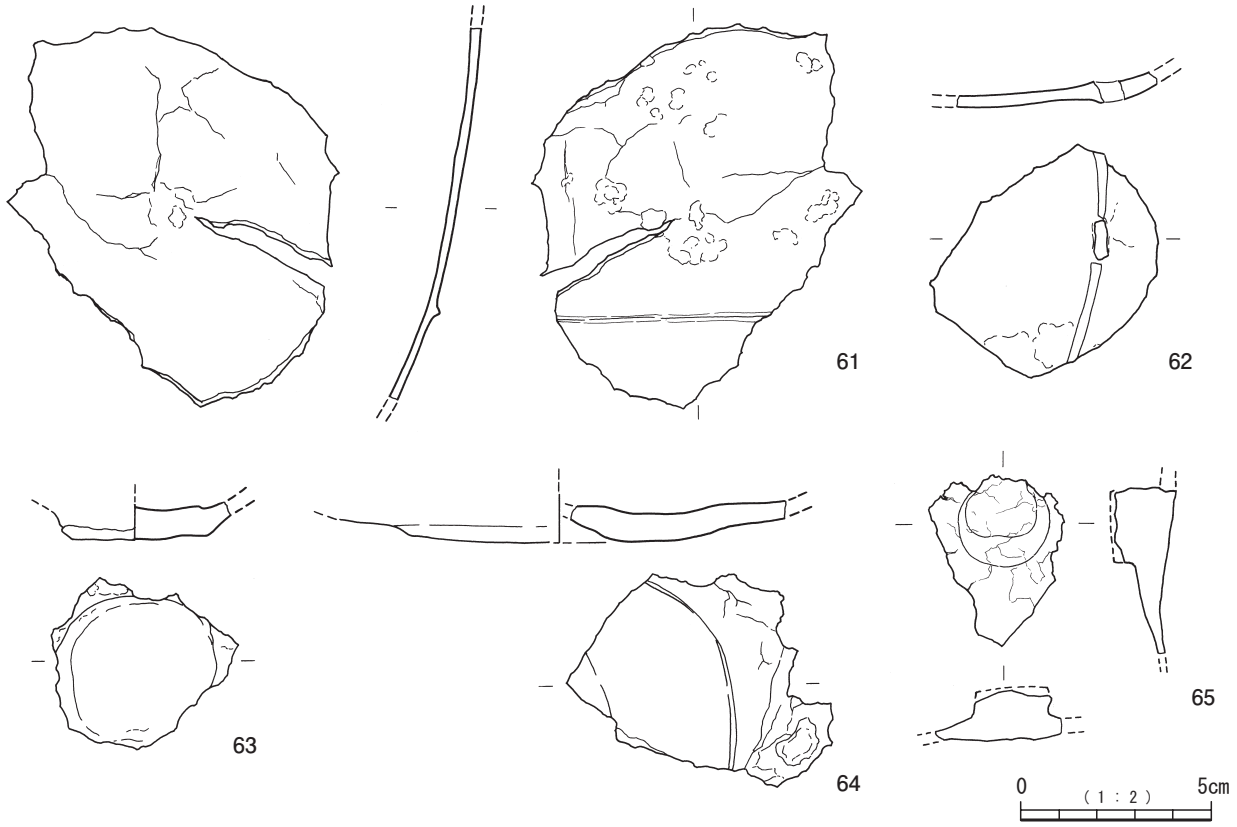
(9) 鋳鉄製容器（第158～161図、50～65）

鋳鉄製容器はほとんどが鍋であるが、1点のみ形態が異なっている（第159図、59）。鍋の口縁部片は8点あり、そ

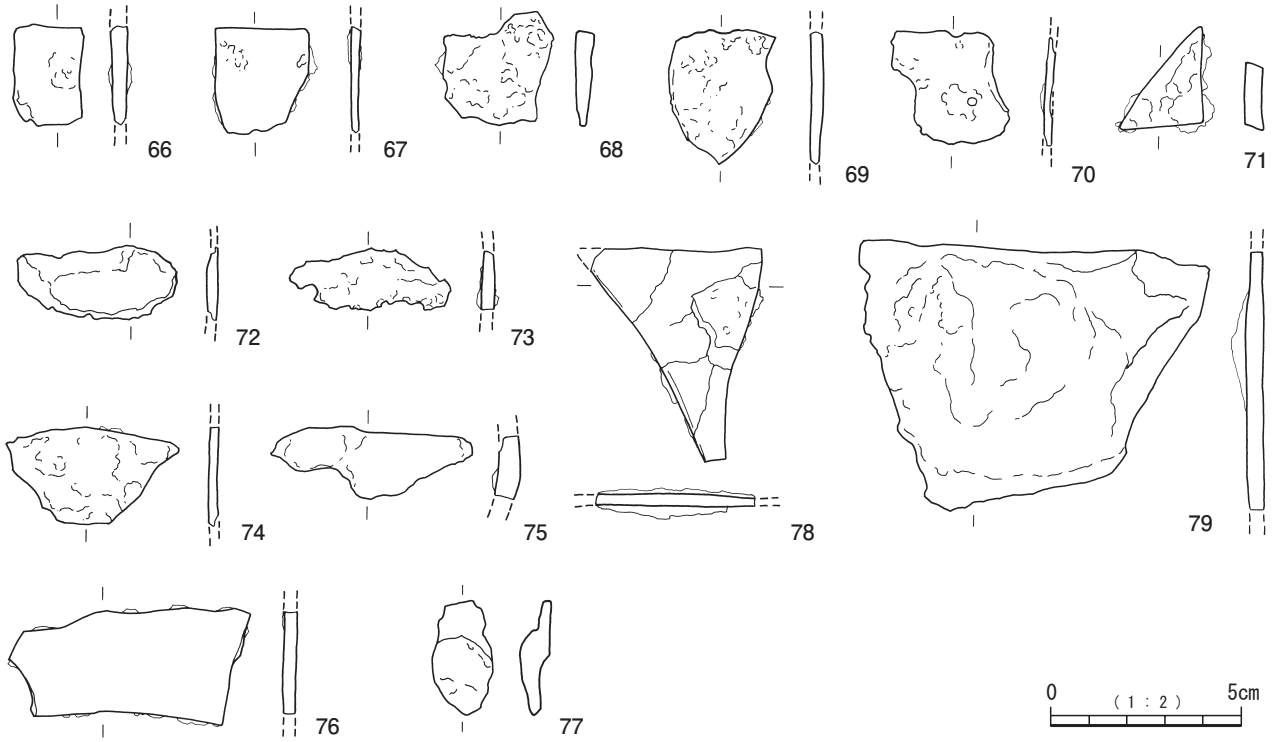


第159図　鋳鉄製容器（2）

第160図　鋳鉄製容器52



第161図　鋳鉄製容器（3）



第162図　板状鉄製品

のうち口径が判明する50、51はそれぞれ26cm、44cmを測る。50はJ96区SD06，J96区P045から出土している。出土口縁は全て大きく外反しており、口縁端部が内側に肥厚する例はその下部に横位の突線一条を有している（56・57）。厚みは平均で0.35～0.4cmと薄い。それに比べて、口縁が直行気味の甕59は肥厚する口縁部が厚さ0.9cm、肩部が0.55cmであり、鍋に比較して厚い。

52は鍋の銅下半部の破片であり、最大径約44cm、残高約11cm測る。破片の下縁付近で屈曲を強めて底部にいたると考えられる。屈曲部付近に鋳造欠陥による横位の亀裂があり、その亀裂を埋めるように4回の鋳掛けが認められる。鋳掛けの注湯部分は長径約5cm、短径約3cmの略楕円形を呈しており、中央部は湯冷えにより窪み、裏面は平坦である。鋳掛けの順はａが1回目、cが4回目であり、ｂとｄの先後関係は不明である（第160図）。

61は胴部片であり、外面に一条の突線を有する。62はその湾曲の度合いから胴部下半の破片と考えられ、外面には一条の突線と型持孔が認められる。型持孔は略長方形を呈し、1×0.3cmの大きさである。

63、64は底部片であり、いずれも分厚く作られている。63は強く底部が突出し、底径は3.8cmを測る。64の底部は復元すると直径8.5cmであり、中央部はわずかに0.7cm窪んでいる。

65は把手の一部と思われるが、劣化が著しく表面が剥落しており、その形状は不詳である。

（10）板状鉄製品（第162図、66～79）

鋳造品の破片で、容器の一部である可能性が高い鉄製品であるが、上述した容器にはみられない厚みや不均一な厚みをもっている。67、70は厚さ0.2cmと薄く、容器であれば鍋とは異なる形態が想定される。68、75は厚みが均一ではない。71は0.45cmの厚みがあり、破面を顕著にのこしている。78、79は大型の破片であり、厚みはそれぞれ0.4cm、0.45cmを測る。

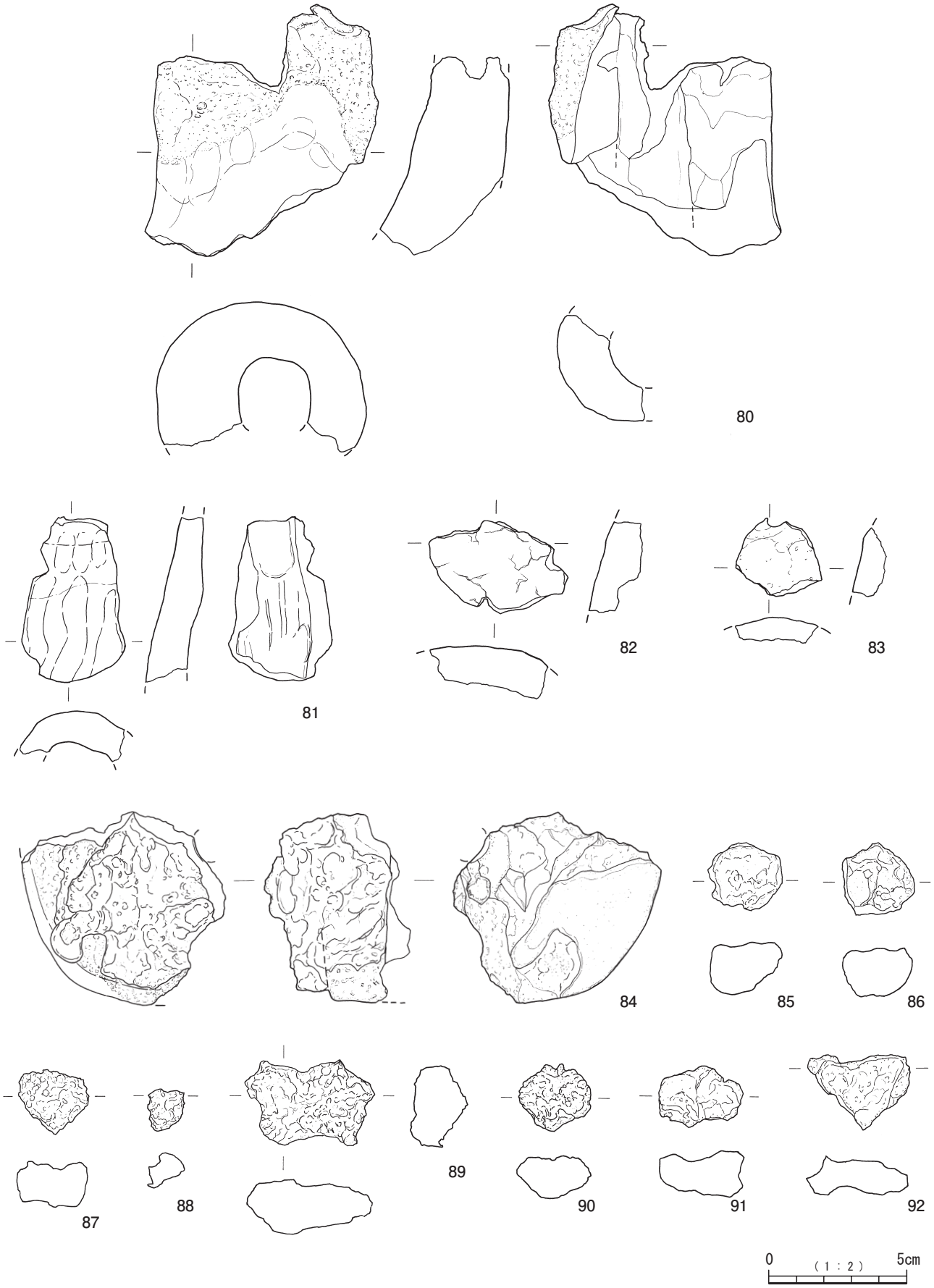
３．鍛冶関連遺物

（1）鞴羽口（図163、80～84）

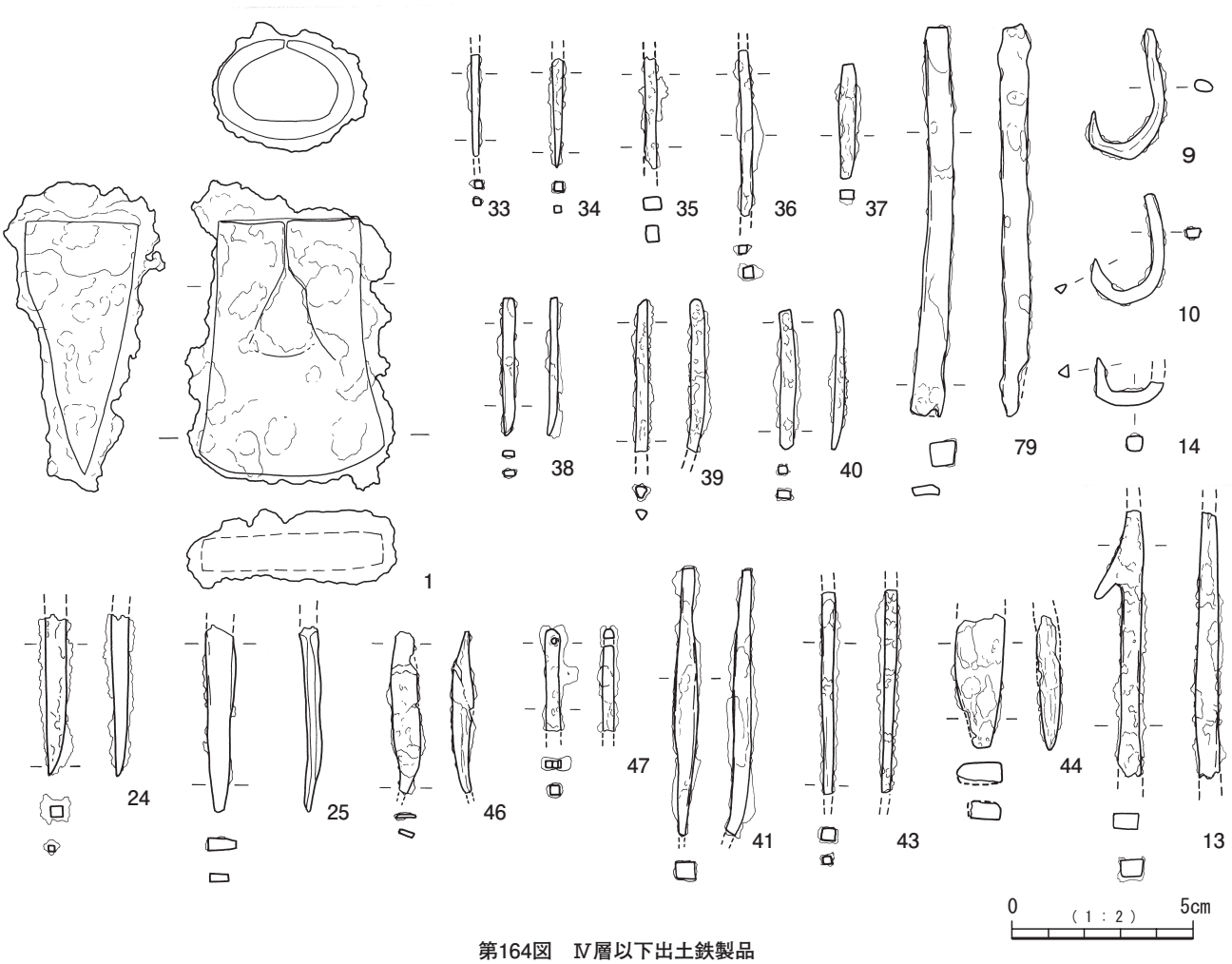
鞴羽口は５点出土した。80は現存長9.1cmを測るほぼ半周分の破片であり、基部を欠いている。旧状は先端から基部にかけてラッパ状に広がる形態が復元される。先端部付近の復元直径、孔径はそれぞれ6.0cm、3.0cmで、破片の中位では7.5cm、3.0cmである。器壁は最厚部が3.5cmであり、先端部付近で1.2～1.9cm、中位で1.9～3.0cmと厚みが一定ではない。表面には縦方向のナデ調整と指頭圧痕がのこる。送風孔には成形時の芯棒の抜き取り痕などはとくに観察できない。色調は橙色を呈し、胎土はきめが細かく、白色の貝片を多く含んでおり、貝片は最大0.8cmを測る。先端部は被熱のために溶融し、ガラス化しており、細かな発泡が認められ、その周囲は灰色を呈する。81～83も80と同様の旧状が想定される羽口の破片である。81は長さ6.1cm、幅3.8cmであり、厚みは最厚部で1.3cm、先端部付近で0.9cmを測る。表面には縦方向の長い面取りあるいは浅い凹部があり、成形の

第50表　鋳鉄製容器・板状鉄器計測表

図番号	NO.	掲載番号	調査区	層位	遺構	残高・縦（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	備考
第 159 図	53	293	K99	表土	-	1.7	3	0.3	-
	54	314	K97	-	SD06	2	6	0.3	-
	55	294	M98	Ⅰ	-	2	3.4	0.3	-
	56	740	T99	白砂直上	-	2.4	4.5	0.5	-
	57	292	I100	表土	-	2.3	3.4	0.3	-
	58	754	O98	-	SD08	1.7	2.5	0.4	-
	59	295	I97	表土	-	2.1	4.5	1	-
	60	315	H97	-	SD06	4.5	3.7	0.3	-
第 161 図	61	303	K100	-	近世サタガマ	9.8	8.7	0.3	-
	62	756	O98	Ⅱ	-	0.7	6	0.4	-
	63	297	J96	表土	-	0.9	4.7	0.8	-
	64	741	S99	表土	-	0.6	6	0.7	-
	65	296	L100	Ⅰ	-	4.4	3.6	1.3	劣化顕著
第 162 図	66	579	J98	Ⅳ	-	2.7	1.7	0.4	-
	67	299	L98	Ⅰ	-	2.8	2.4	0.3	-
	68	316	J96	-	SD06	2.8	2.9	0.4	劣化顕著
	69	304	L98	Ⅱ	-	3.4	2.7	0.3	-
	70	305	K99	Ⅱ	-	3	2.7	0.2	-
	71	580	J98	Ⅳ	-	2.6	2.3	0.4	-
	72	742	J96	-	SD06	1.9	4.1	0.3	劣化顕著
	73	136	F101	Ⅲ	-	1.5	4.1	0.4	〃
	74	306	L99	Ⅱ	-	3.6	4.6	0.3	-
	75	383	K97	Ⅳ	貝だまり５	1.7	5.3	0.6	-
	76	298	H97	表土	-	3.1	6.3	0.3	-
	77	730	K100	埋土Ｑ	P1537	3	1.6	0.7	劣化顕著
	78	417	J98	Ⅳ	貝だまり７	5.5	4.5	0.4	-
	79	743	U100	Ⅵ	-	6.8	9.2	0.5	-



第163図　鞴羽口・鉄塊・鉄滓



第164図　Ⅳ層以下出土鉄製品

痕跡とみられる。また裏面にわずかに観察される送風孔には縦方向の擦痕がみられ、芯棒の抜き取り痕の可能性がある。色調は外面が薄い橙色、内面が濃い橙色を呈し、外面先端部から基部に向けて3cmの範囲で濃い灰色から薄い灰色へとグラデーションを見せている。82は被熱痕のない羽口片であり、長さ3.2cm、幅4.8cm、厚さ1.5cmである。淡い橙色を呈している。83は先端部付近の破片であり、表面はガラス化し、灰色を呈している。長さ2.9cm、幅3.1cmであり、内面は剥落し、厚さは1.0cmを測る。いずれも胎土に貝粉をわずかに含んでいる。80は16・17トレンチⅤ層、81はH24調査区H102区の貝集中＃4、82はⅠ96区Ⅳ層、83はL97区Ⅰ層より出土した。

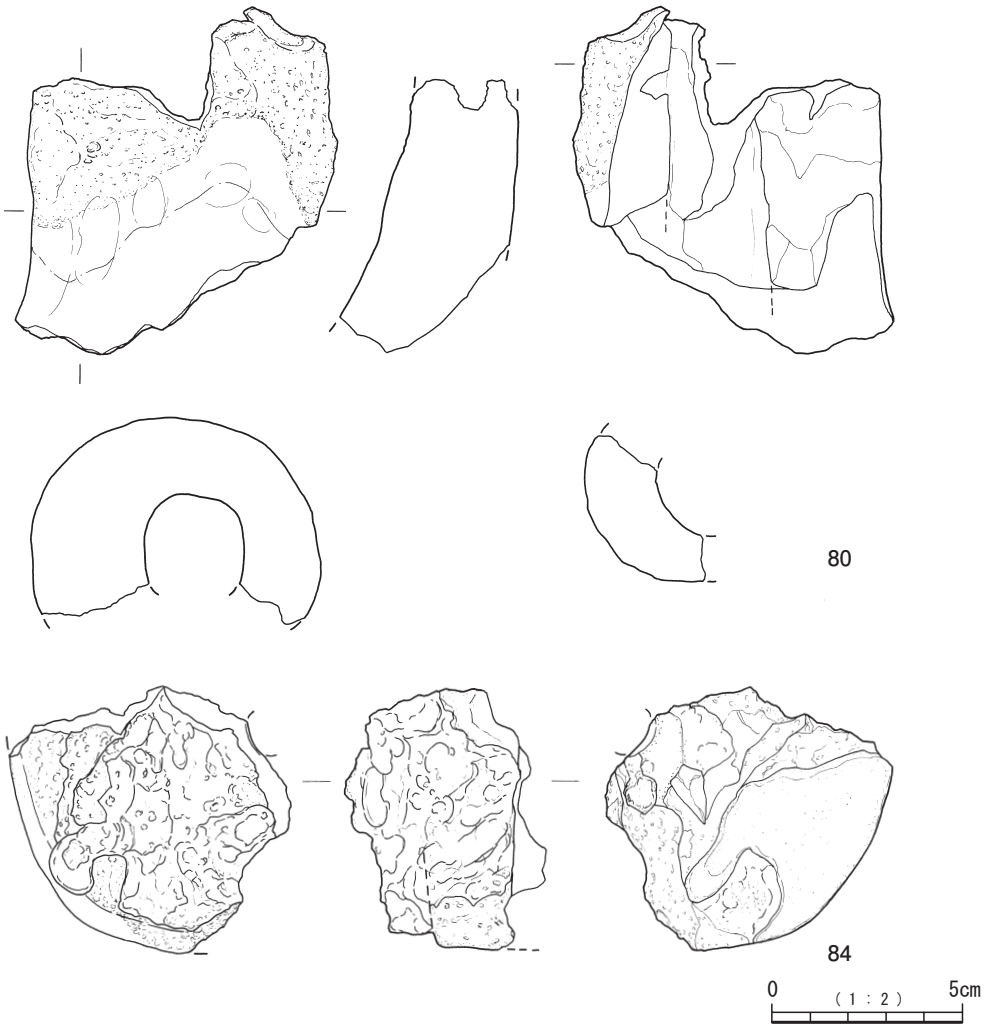
84は切り落とされた羽口先端部の破片であり、厚さは約2cmである。直径1.7cmに復元される送風孔の中心と外縁間の長さから復元すると短径（縦）12.5cm、長径（横）14.5cmの扁円形に復元される。前面は平坦であり、ガラス質の滓がその大部分を覆い、側面にもおよんでいる。また一部に1cm大の鉄塊が付着している。裏面は凹凸が著しいが、一部平滑であり、破断の際の痕跡である可能性が考えられる。色調は前面付近が灰色で、裏面は縁辺が黄橙色、芯部が赤褐色を呈する。胎土はきめが細かく、1mmにもおよばない貝粉をまばらに含んでいる。K96区のSD10より出土した。

(2) 鉄塊（図163、85～88）

小型の鉄塊であり、表面がわずかに鉄滓によって覆われている部分がある。85は平面略円形を呈し、縦2.5cm、横2.7cm、厚さ1.8cm、重さ24.1gを測る。86側面に二つの破面をもっており、これらは小割の際に生じたものとみられる。縦2.6cm、横2.5cm、厚さ1.9cmと85とほぼ同様の大きさであるが、19.0gと軽い。鉄分が溶脱したことに起因するものと推測される。87、88も溶脱の著しい軽い鉄塊である。87の縦、横、厚み、重さは2.3cm、2.6cm、1.8cm、14.0gであり、88は1.3cm、1.5cm、1.4cm、2.9gを測る。85はP220埋土O、86はH96区Ⅳ層、87はH24調査Ⅱｂ層一括、88はP286より出土した。

(3) 鉄滓（図163、89～92）

鉄滓はいずれも鍛冶滓であり、椀形滓である。89、90は周縁に破面をもたない。89は鉄分を多く含み重量感がある。縦3.0cm、横4.7cm、厚み1.8cm、重さ32.1gである。90は縦2.5cm、横3.2cm、厚み1.5cm、重さ8.8gであり、軽量である。91、92は側面に破面をもち、発泡の少ない金属質の破面は低温で形成されたものとされる。91は縦



第165図　古代(80)と中世(84)の羽口

2.1cm、横3.1cm、厚み1.5cm、重さ12.1gを測り、92はそれぞれ2.6cm、3.7cm、1.6cm、20.4gである。89はN97区Ⅲ層、90はH96区Ⅳ層、91はP364埋土O、92はI97区のSD06より出土した。

４．まとめ

今回の調査ではⅣ層以下の９～10世紀に属する鉄器群を抽出することができた。これらは鍛造工具、漁具が主体であり、鋳造容器を含んでいない（第164図）。ただし、78、79といった大型で厚手の鋳鉄製板状鉄製品があるため、これらの旧状が問題となる。

鍛造工具は袋状鉄斧(1)、棒状鉄器（33～40、43、44、46、47）からなり、棒状鉄器には鑿、錐といった機能が想定される。刃先の形状は尖状、薄刃状を呈し、また湾曲の程度も多様であることからさらなる機能の分化が想定される。

また、これらのなかには貝の集中区あるいはその周辺から出土品もあり（34、47）、貝製品加工との関連も想定しておかなければならない。

漁具にはモリ・ヤス、釣針があり、釣針は明確なアグをもっていない。中世以降はアグの発達した釣針が南西諸島に分布することが知られているので〔當眞・上原1997〕、この特徴が時代性を表すのか、あるいは対象魚種の違いによるものなのかを今後明らかにする必要があろう。

またⅣ層以下で出土した鞴羽口、鉄塊、鍛冶滓といった鍛冶関連遺物は上述の鍛造鉄器が在地で生産されたことを示す証左である。鞴羽口は80のように基部が広がり、先端に向けてすぼまる形態が復元され、器壁が薄い81もあることから、サイズの異なる大小の羽口が存在した可能性が考えられる。またこれらは中世のSD10より出土した外形が大きく、送風孔が小さい84との相違が一目瞭然である（第165図）。小型送風孔を有する大型羽口の出現は南西諸島における羽口の変遷のなかで一つの画期であり〔村上2019〕、川尻遺跡の出土品にその変遷を確認できた点は重要である。

【参考文献】

當眞嗣一・上原久編1997『考古資料より見た沖縄の鉄器文化』沖縄県立博物館

村上恭通2019「中世・南島における鉄器生産の基礎的研究」『中山清美と奄美学－中山清美氏追悼論集－』奄美考古学会、pp.307-314

図版 1

16
17
18
19
23
25
27
32
34
35
36
37
43
42
41
49
縮尺不同

図版３

1. はじめに

喜界町からの動物遺体の出土例は、これまで縄文前期の総合グラウンド遺跡、晩期の湾天神遺跡や伊実久貝塚、それに先山遺跡（7～12世紀）、提り遺跡（中世）、大ウフ遺跡・半田遺跡（13～14世紀）、崩リ遺跡、和早地遺跡および中増遺跡（14～15世紀）などがあり、中世の遺跡からはウシ、ウマを中心にイノシシなどが検出されている。

今回調査を依頼された川尻遺跡は、喜界町大字手久津久字川尻にあり、県営畑地総合整備事業に伴う調査で、喜界町教育委員会が平成24年度と25年度に調査を行ったもので、24年度は縄文後期～晩期、25年度は古代兼久式土器（9～10世紀）、中世（15世紀）の遺物が出土している。動物遺体は、主に集石、土坑、貝集中、貝だまり、溝状遺構、獣骨集中などの遺構から哺乳類、鳥類、爬虫類、魚類が検出されているが、ここでは主として哺乳類遺体の出土状況や出土骨について、調査年度別にその概要を報告する。なお，集計に当たっては依頼があった全てを記載しているため、報告書内で紹介されていない遺構も含まれている(遺構については第79図･第125図・第Ⅷ章基礎資料を参照)。

2. 調査年度別動物遺体の出土状況

1）平成24年度調査

平成24年度調査の出土動物遺体は、哺乳類、鳥類、爬虫類、魚類、甲殻類で、その遺構別、動物別出土状況は第51表に示した。同定された動物遺体の総重量は3,164.5gで、総骨片数は502点であり、哺乳類が2,633.2g（383点）で最も多く、鳥類8.1g（17点）、爬虫類512.1g（82点）、魚類5.4g（19点）甲殻類が5.7g（1点）である。遺構別出土骨片数は、一括遺構が204点で最も多く、次いで貝集中2の122点、貝集中3の63点、土坑SKの39点である。

哺乳類遺体はネズミ、イヌ、イノシシ、ウシ、クジラ、イルカ、ジュゴンの5種7種のもので、イノシシが最も多く（336点）、ウシ（20点）、イヌ（14点）の順で、他は少ない。

鳥類、魚類は出土例も少なく小骨片のため種を特定できず、爬虫類はウミガメとヘビで、ウミガメは背甲、腹甲や縁骨板、四肢骨など80点、ヘビは椎骨２点が出土している。動物遺体は各遺構の調査区99～102のA～Hグリッドから検出されており、その出土状況を第53～56表に示した。ここでは遺構別出土状況を調査区、層ごとに動物種と出土骨についてその概要を記述する。

（1）SX（図版１の1～3参照）

SX04，05

SX04の（A-101区）の白砂上面からイノシシの上腕骨が1点、B-101区から鳥類の上腕骨と脛骨の2点、SX05（A-100区）のⅠ層からイヌの第四中足骨1点、黒褐色層からイノシシの橈骨１点が出土している。

SX06（Aa-99区）

イヌ、イノシシ、クジラ、魚類の出土がみられ、イヌは①層から上腕骨１点が、イノシシは①層から肩甲骨と第三中足骨の5点、③層から胸椎1点、白砂層から肩甲骨が1点出土している。クジラは、骨を特定できないが、黒色層から1点出土している。魚類は①層から2点検出されている。

SX07，13，14（C-100区）

いずれもイノシシの出土で、SX07の④層から橈骨1点、SX13の③層から下顎骨、一括から肋骨が各1点、SX14の④層から小骨片1点が出土している。

SX19，27，37

SX19の北側①層からイノシシの上腕骨１点、SX27（C-101区）の①層からイヌの肩甲骨1点、イノシシの第三中足骨1点、SX37（D-100区）の④a層からイノシシの大腿骨1点がそれぞれ出土している。

（2）土坑（SK）（図版１の4～8参照）

ここでは調査区別、層別に出土状況を記載する。

C-99区

一括からイヌは脛骨1点、イノシシは肋骨、肩甲骨、大腿骨、脛骨の6点、ウミガメは腹甲、背甲の2点が出土している。

D-99区

SK15からウミガメの上腕骨と腹甲の2点が、Ⅱc層からイヌの上腕骨1点、イノシシの橈骨1点、クジラ1点が検出されている。Ⅱd層からウミガメの肩甲骨と腹甲の2点が、Ⅱe層からイノシシの肋骨、大腿骨、脛骨など7点、クジラ1点、鳥類の脛骨1点、ウミガメの大腿骨1点が出土している。

C･D-99区

一括からイノシシの基節骨1点、ウミガメの縁骨板1点が検出されている。

B･C-100区

B区の白砂層からはイヌの寛骨1点、鳥類1点が出土し、C区の一括からイノシシの胸椎、肩甲骨の2点が出土している。

B･C-101区

B区の一括からイノシシの脛骨が1点みられ、C区のSK06からイノシシの尺骨が1点検出されている。

A･B･D-102区

A区のSK03からウミガメの腹甲1点、B区のSK08からイノシシの上腕骨1点、D区のSK11からはイノシシの環椎1点が出土している。

A-102・103区

SK04からウミガメの腹甲１点が出土している。

貝集中区＃３からヘビの椎骨１点が検出されている。

（3）溝状遺構（SD）（図版1の9参照）

SD02

区不明の一括からイノシシの小骨片が１点検出されている。

SD03

B-100区の一括からイヌの下顎骨1点が出土している。

（4）ピット（SP）（図版1の10参照）

SP003区の一括からイノシシの骨1点、SP094からウシの中足骨1点が出土している。

（5）貝集中#2（図版1の11～21参照）

C-99区

すべてⅡc層から出土している。ネズミは脛骨1点、イノシシは下顎骨、胸椎、仙骨、肋骨、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨、脛骨など26点が出土している。鳥類は橈骨、大腿骨の2点、ウミガメは肋骨、背甲、腹甲、腓骨の15点、カニは鉗脚1点が検出されている。

D-99区

Ⅱc層からイヌは橈骨1点、イノシシは下顎犬歯、上腕骨、橈骨、尺骨、寛骨、脛骨など11点、クジラは1点、ジュゴンは橈骨1点、ウミガメは背甲、腹甲、縁骨板、肩甲骨、橈骨、第五中手骨の9点が出土している。

Ⅱd層からイノシシの橈骨1点、大腿骨2点、ウミガメの腹甲1点が検出されている。Ⅱe褐色砂層からイノシシは仙骨、寛骨、脛骨の3点、ウミガメは上腕骨1点、魚類は上顎骨1点が出土している。

Ⅱd, Ⅱe下層からイノシシ橈骨1点とウミガメの腹甲1点が出土している。

C-100区

Ⅱc層からイノシシは下顎骨、環椎、肩甲骨、上腕骨など11点、鳥類は脛骨の1点、ウミガメは背甲、腹甲、脛骨の4点、魚類は2点が出土している。

Ⅱe暗褐色砂層からイノシシは頭頂骨、肋骨、腓骨の4点、ウミガメは腹甲の1点が検出されている。

D-100区

すべてⅡc層から出土している。イヌは第五中手骨1点、イノシシは上腕骨、橈骨、尺骨、第五中手骨、脛骨、腓骨、踵骨の9点、クジラは1点、鳥類は猛禽類の末節骨1点、ウミガメは背甲、腹甲、縁骨板、腰椎、指（趾）骨の10点が出土している。

（6）貝集中#3（図版1の22～27参照）

G-102区

イノシシは下顎骨、肋骨、肩甲骨、上腕骨、第三中手骨、大腿骨、脛骨の11点、鳥類は上腕骨、尺骨、脛骨の4点、魚類は2点の出土である。

G･H-102区

イヌは橈骨1点、イノシシは頸椎、胸椎、肋骨、上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨、脛骨など34点、魚類は1点の出土である。

H-102区

イノシシは胸椎、肋骨、肩甲骨、上腕骨、尺骨、大腿骨、脛骨の8点、ヘビは椎骨1点、魚類は上顎骨1点が出土している。

（7）貝集中#4

H-102区から全て出土しており、イヌは尺骨が1点、イノシシは切歯、下顎骨、頸椎、胸椎、仙骨、上腕骨、橈骨、大腿骨など17点、魚類が1点出土している。

（8）貝集中5

G-102区からイノシシの下顎骨、上腕骨、中心足根骨の3点が出土している。

（9）貝集中#１（図版1の28～33参照）

A-100区のⅡ層からイノシシの肋骨、橈骨、第四中手骨、大腿骨、脛骨など7点が出土している。

A・B-100区のⅡ層からイノシシの上腕骨1点が検出されている。また、区不明からイノシシの肋骨1点、ウシの頭蓋、椎骨、肋骨、上腕骨、寛骨、大腿骨、第４趾基節骨の15点、ウミガメの腹甲1点が出土している。

（10）一括（図版1の34～56参照）

A・B，B，C，D，E-99区

A・B区のⅡb層からウミガメの中手骨1点、B区のⅣ層からウミガメの中手骨1点、C区ではⅡd・e層からイノシシの下顎第一切歯と大腿骨の2点が、Ⅱ層からウミガメの腹甲1点が出土している。また、D区のⅡc層からウミガメの前頭骨と縁骨板の2点、E区のⅠ層からウシの肋骨と大腿骨の2点が出土している。

C，C・D-99・100区

C区のⅡd層からイノシシの上腕骨1点がみられ、C・D区はすべてⅡd層からの出土で、ネズミは尺骨1点が、イノシシは下顎骨、下顎犬歯、腰椎、肋骨、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、寛骨、大腿骨、脛骨、踵骨など24点が、鳥類は中手骨1点が、ウミガメは頭骨、肋骨、指骨の3点がそれぞれみられる。

A，B，B・C-100区

A区のⅠ層からイノシシの上腕骨、踵骨など3点、Ⅱb層からイノシシとウミガメの大腿骨が各1点、白砂層からクジラが1点、Ⅱ層からウミガメの腹甲1点が出土し、B区のⅢ層からは鳥類の脛骨1点とウミガメの大腿骨と縁骨板各1点が検出されている。B・C区のⅣ層からイノシシの上腕骨1点、鳥類の烏口骨1点が検出されている。

C-100区

Ⅱd層からイノシシの下顎犬歯が1点、Ⅳ層からイノシシの下顎骨、仙骨、橈骨の3点とウミガメの縁骨板が1点、Ⅴ層からはイノシシの頸椎、胸椎、腰椎、肋骨、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、寛骨、大腿骨、脛骨が計17点、鳥類の

尺骨と中手骨が各1点出土している。また、白砂層からイノシシは肋骨、橈骨、尺骨、第三中手骨、寛骨、大腿骨など9点、ウミガメは縁骨板、寛骨、脛骨の3点、魚類1点が出土している。

D，E，F-100区

D区からイノシシの下顎犬歯、肋骨、胸椎、寛骨、大腿骨など7点が出土している。E区のⅠ層からイノシシの肋骨と上腕骨が各1点、ウシの下顎骨が1点、魚類が1点検出されている。F区からはⅠ層からイノシシの下顎骨、切歯骨、下顎犬歯、胸椎、腰椎、肩甲骨、上腕骨、橈骨、第四中手骨、大腿骨、脛骨、踵骨など22点、ウミガメが腹甲など3点、魚類が2点出土している。また、Ⅲ層からはイノシシの下顎骨、下顎切歯、肋骨、胸椎、腰椎、大腿骨、脛骨、距骨の10点、魚類1点が出土している。

G，H，J-100区

G区のⅠ層からウミガメの頸椎が1点、H区のⅠ層からイノシシの肩甲骨が1点、ウミガメの腹甲と上腕骨の各１点が検出され、J区のⅡ層からイノシシの脛骨と魚類の各１点が出土している。

B・C-100・101区

Ⅱb層からウミガメの寛骨が1点検出されている。

B，C，D-101区

B区のⅠ層からイノシシの環椎とウミガメの腹甲が各1点、Ⅲ層からイノシシの上腕骨が1点検出され、C区のⅡb層からイノシシの大腿骨1点、D区のⅡb層からイノシシの肩甲骨1点が検出されている。

E，F，G，H-101区

E区はⅠ層からイノシシの肋骨、胸椎、腰椎が各1点、ウミガメが腹甲など3点、Ⅱb層からウミガメの腹甲が1点、Ⅲ層からイノシシの踵骨1点が出土している。F区からはイノシシがⅠ層から下顎犬歯と上腕骨の3点、Ⅲ層から第三中足骨1点が検出され、G区のⅠ層からイヌの脛骨とイノシシの尺骨が各1点、H区のⅠ層からイノシシの上顎犬歯、寛骨など3点が出土している。

A，D，E，F-102区

A区はⅠ層からイノシシの上腕骨、Ⅲ層からウシの脛骨が各1点検出され、D区のⅢ層からイノシシの下顎骨1点、E区のⅡb層からイノシシの上腕骨1点が検出されている。F区はⅢ層からクジラの骨が2点出土している。

F・G，H-102区

F・G区のⅠb層からイヌの橈骨と大腿骨が各1点、イルカの肋骨２点が出土し、H区のⅠb層からイノシシの側頭骨、頸椎、胸椎、肩甲骨、上腕骨、橈骨、第三中手骨、寛骨、大腿骨、脛骨、踵骨、第四中足骨など24点、魚類4点が出土している。

区不明

東から20～30mのⅢ層からイノシシの尺骨1点が検出されている。

2）平成25年度調査

平成25年度の調査の出土動物遺体は、哺乳類、鳥類、爬虫類、魚類で、その出土状況は第52表に示した。同定された動物遺体の総重量は33,303.5gで、総骨片数4,699点であり、哺乳類が32,418.3g（4,255点）で、鳥類が29.2g（55点）、爬虫類が825.5g（324点）、魚類が30.5（65点）である。遺構別出土骨片数は、一括遺構が1,603点で最も多く、次いでSD07の543点、SD10の430点、SD06の348点である。哺乳類遺体はネズミ、イヌ、ネコ、イノシシ、ウシ、ヤギ、ウマ、クジラの5目8種のもので、イノシシが最も多く（2,381点）、次いでウシ（1,668点）であり、他は少ない。鳥類、魚類は出土数も少なく小骨片のため種を特定できず、爬虫類はウミガメで背甲、腹甲や縁骨板など324点が出土している。動物遺体は各遺構の調査区I～Qの96～101グリッドから検出されており、その出土状況を第57～63表に示した。ここでは主に遺構別にその出土状況を調査区、層ごとに動物種と出土骨についてその概要を記述する。

（1）ピット遺構（SP）（図版2の67～96参照）

ここでは各調査区画からの出土数が少ないので、列ごとにまとめて記載する。

H，I，J，O，T-96区

H区のN層からイノシシの第四中足骨1点、I区はN層からイヌの上顎第二切歯1点、イノシシの第四中足骨と第三中足骨の2点が出土し、O層からイノシシの踵骨1点、不明層からイノシシの小骨片1点が出土している。J区のO層からイノシシの小骨片1点、不明層からはイヌの腰椎1点が、O区の不明層からイノシシの下顎骨1点が検出されている。T区のD層からはイノシシの腰椎1点、ウマの第二手根骨1点、ウミガメの橈骨と尺骨各１点が出土している。

H，I，J，L，Q-97区

H区はイノシシのみの出土で、N層から下顎第二切歯と上腕骨の各1点が、O層から第三指基節骨1点が出土し、I区のN層からイヌの第四中手骨1点とイノシシの肋骨1点が、O層からイノシシの橈骨1点が検出されている。J区はイノシシのみの出土で、O層から肩甲骨1点、不明層から前頭骨と脛骨各1点が出土し、L区もイノシシのみの出土で、N層から脛骨1点、O層から第四中手骨1点が検出されている。Q区はP層からはウシの脛骨1点、R層からイノシシの腰椎1点とウミガメの背甲、指骨の各1点が出土している。

H，I，J，K，L-98区

H区はN層からイノシシの尺骨と第四中手骨各1点、O層からイノシシの肋骨1点、ウミガメの腹甲1点、魚類1点が出土し、I区はB層からイノシシの胸椎、腰椎、肋骨、大腿骨の計５点と魚類1点が、N層からイノシシの上腕骨、中手骨など3点、R層からウマの脛骨1点が出土している。J区のO層からイノシシの肋骨1点、K区のO層からイノシシの第四中足骨1点、L区の不明層からイノシシの肋骨1点、ウミガメの縁骨板、腹甲など8点が出土している。

M，Q-98区

M区はⅡ層からイノシシの橈骨と脛骨が各2点、Ⅲ層からウミガメの腹甲2点、黄褐色砂混じ層からはイノシシの上顎骨、上顎第一後臼歯、肋骨、上腕骨、第五中手骨、寛骨、脛骨など11点とウミガメの肋骨1点が出土し、Q区のR層からはイノシシの小骨片1点が検出されている。

H，I，J，K-99区

H区のO層からイノシシの腰椎、橈骨、大腿骨、脛骨の5点が、I区の不明層からイノシシの大腿骨1点とウシの大腿骨1点が検出されている。J区はイノシシのみの出土で、N層から下顎骨、O層から前頭骨の各1点、K区はO層からイノシシの頸椎と肋骨各1点、R層からウミガメの縁骨板1点が出土している。

M，Q-99区

M区のN層からネズミの上腕骨1点、イノシシの踵骨2点が出土し、Q区はO層からはネズミの上腕骨、鳥類の烏口骨、ウミガメの腹甲の各1点が検出され、P層からはイノシシの胸椎1点、ウシの胸椎と肋骨各1点が、R層からウミガメの上腕骨1点が出土している。

R，W-99区

R区はO層からイノシシの頸椎、脛骨、第三趾基節骨の3点、ウシの肋骨と中足骨の2点、ウマの第二中手骨がみられ、また、P層からイノシシの大腿骨とウシの中足骨各1点が、R層からイノシシの肋骨など2点と鳥類の大腿骨1点も出土している。W区はP層からイノシシの第二中手骨とウシの寛骨各1点、R層から鳥類の脛骨1点が検出されている。

I，Q-100区

I区のO層からイノシシの胸椎１点、Q区はのO層からウシの肋骨、脛骨、踵骨の４点、P層から鳥類の尺骨1点が出土し、また、R層からはウシの上腕骨、鳥類の中足骨、ウミガメの腹甲各1点、不明層からウシの肋骨1点も出土している。

R，W，X-100区

R区はP層から幼齢の同一個体のものと推定されるネコの全身骨格38点が出土し、これ以外にイノシシの脛骨1点も検出されている。W区のR層からイノシシの頭蓋1点とウシの肋骨1点が出土し、X区のR層からウマの脛骨1点が検出されている。

区不明

Ⅰ（黄土砂）層から鳥類の橈骨1点、O層からイノシシの第三中手骨など2点が検出されている。R層からはイノシシの頸椎と胸椎が各１点、ウシの脛骨と第四趾基節骨各１点、ウマが胸椎と肋骨各１点、ウミガメが背甲、腹甲、烏口骨、縁骨板など５点が出土している。また、一括からウシの側頭骨、仙骨、上腕骨、橈骨、寛骨、大腿骨の6点が、不明層からはイノシシの上腕骨など2点、ウマの橈骨と第四中足骨各１点も出土している。

（2）土坑（SK）（図版2の49～66参照）

I-96区

不明層からネコ、イノシシ、ウシ、ウマの出土骨がみられ、ネコは上顎骨、前頭骨、側頭骨、尺骨、脛骨、踵骨の7点、イノシシは上顎骨、胸椎、肩甲骨、橈骨、指骨、脛骨など10点、ウシは肩甲骨１点、ウマは鼻骨、胸椎、肋骨、手根骨、寛骨、大腿骨、足根骨、中足骨など18点が出土している。また、鳥類の尺骨、脛骨の各１点と魚類の小骨片2点も検出されている。

J-96区

Q層からイノシシの下顎後臼歯2点、R層からイノシシの胸椎と肩甲骨の2点、ウマの肋骨１点が出土している。断-③・④層からウシの肋骨2点と魚骨１点が、断-⑦層からイノシシの上腕骨１点、断-⑩層からイノシシの上顎骨と環椎の２点が検出されている。不明層からはネズミの脛骨１点、イノシシの下顎骨と脛骨の３点、ウシの後臼歯2点、ウマの中足骨１点が出土している。

I，K，V-97区

I区の不明層からウマの胸椎１点、K区のⅡ層からウシの尺骨とウマの後頭骨各１点が検出され、V区のD層からイノシシの胸椎、肋骨、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨が合計9点出土している。

I-98区

層は不明であるが、イノシシが鼻骨、切歯骨、肩甲骨、脛骨、腓骨の6点、ウシが肋骨、肩甲骨など３点、ウマが肋骨2点、魚類の小骨片1点が出土している。

O・P，P，Q-99区

O・P区のⅣ（白砂）層からイノシシの仙骨、上腕骨、寛骨の４点が出土している。P区の不明層からはネズミが下顎骨、環椎、上腕骨、下腿骨、第三中足骨の計７点、イノシシの肩甲骨１点、ウシの大腿骨1点、ウマの肋骨1点、ウミガメの小骨片１点が出土し、また、Q区のP層からイノシシの胸椎１点が検出されている。

N-101区

不明層からイノシシが胸椎、肋骨など5点、ウマ寛骨2点、魚骨1点が出土している。

区不明

不明層からネズミの下顎骨１点が検出されている。

（3）焼土跡（ST）

K-94区からウシの上腕骨１点、J-97区からイノシシの肩甲骨１点、Q-97区から鳥類の大腿骨１点、I-98区からイノシシの小骨片１点がそれぞれ検出されている。O-98区のⅡ層赤埋Cからイノシシの下顎骨１点、ウシの肩甲骨１点が出土している。

（4）集石

I-96区のⅢ層からはウシのみの出土で、頭蓋、頸椎、肋骨、肩甲骨、手根骨、中足骨、第三趾末節骨など9点がみられる。J-98・99区の不明層からイノシシの橈骨1点、J-99区のⅣ・Ⅴ層からイノシシの大腿骨１点、ウミガメの腹甲1点が、N-99・100区の層不明からウマの腰椎と種子骨各１点

が出土している。

（5）ドット（図版2の97～130参照）

各調査区ともⅣ層からの出土である。

J，K，L，M-96区

J区からイノシシの胸椎2点、K区からウシの尺骨と第三指基節骨各１点と魚類の小骨片１点が検出されている。L区からイノシシは肩甲骨、上腕骨、小骨片の3点、ウシは頸椎、胸椎、腰椎、尾椎、肋骨、肩甲骨、寛骨など19点が出土し、M区からイノシシは肩甲骨など5点、ウシは頸椎から尾椎までの椎骨、肋骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨、前腕骨、手根骨、寛骨、大腿骨など計92点が出土している。

H，I-97区

H区からウシの軸椎と大腿骨の2点が出土し、I区からイノシシは胸椎１点、ウシは頭蓋、椎骨、肋骨、肩甲骨、寛骨、大腿骨、脛骨、距骨など21点、ウマは肋骨、上腕骨、前腕骨の3点、クジラは中手骨1点がそれぞれ出土している。

J，K，M-97区

J区からウシが下顎骨、前腕骨、中手骨、大腿骨、脛骨、踵骨の8点、ウマは寛骨１点が出土している。K区からイノシシの下顎骨と橈骨の2点が、M区からはイノシシの下顎骨１点が検出されている。

H，H・I，I，I・J-98区

H区からイノシシの下顎骨2点、腰椎、橈骨の計4点、H・I区からイノシシのみの出土で、上腕骨、寛骨、大腿骨、脛骨2点の計5点がみられる。I区からイノシシは上顎骨、肋骨、尺骨の3点が、I・J区からはイノシシの胸椎、前腕骨、踵骨の3点が出土している。

J，L，M-98区

J区からイノシシは、下顎骨および後臼歯、肋骨、肩甲骨、上腕骨、尺骨、中手骨、大腿骨、脛骨、足根骨、中足骨の15点、ウミガメの腹甲1点がみられ、L区からイノシシの頭蓋、下顎犬歯、環椎、胸椎、肩甲骨、前腕骨、大腿骨、中足骨の9点が出土している。M区からイノシシは頭蓋、下顎骨および犬歯、椎骨、肋骨、前腕骨、中手骨、前肢基節骨、大腿骨、脛骨、中足骨など35点がみられ、クジラの胸椎１点、ウミガメの背甲2点、魚類の鰓蓋骨1点も出土している。

I，K-99区

I区からウミガメの腹甲1点、K区のⅣ層からはイノシシの頭蓋１点が出土している。

区不明

イノシシの大腿骨１点が検出されている。

（6）貝だまり（図版2の1～48参照）

貝だまり1（図版2の1参照）

I-99区のⅣ層からイノシシの頸椎、腰椎、肋骨、橈骨4点が出土している。

貝だまり2

I-99区のⅣ層からイノシシの肩甲骨1点が検出されている。

貝だまり3（図版2の2～3参照）

M-98区のⅣ層からイノシシの切歯骨、下顎骨、頸椎、上腕骨、橈骨、脛骨、第四中足骨の7点が出土している。

貝だまり4

L-96区のⅣ層からイノシシは下顎骨、頸椎、胸椎、肋骨、上腕骨、寛骨、脛骨、踵骨、第四足根骨、第五趾基節骨の12点、ウミガメは腹甲、肋骨の3点が出土している。

貝だまり5（図版2の4～24参照）

K-97区のⅣ層からイノシシの下顎骨、腰椎、尺骨、第三指中手骨、寛骨、大腿骨、腓骨の14点、ウミガメの縁骨板1点、魚類1点が出土している。K-97・98区のⅣ層からイノシシの頭蓋、下顎骨、胸椎、肩甲骨、上腕骨、尺骨、橈骨、第二および第五中手骨、第三指基節骨、第四指中節骨、脛骨、踵骨、距骨、第二～第五中足骨など計37点、ウミガメ1点が出土している。また、J-98区のⅣ層からイノシシが胸椎、肩甲骨、前腕骨、尺骨の6点、K-98区のⅣ層からはイノシシの頭蓋、下顎骨、下顎切歯、下顎犬歯、頸椎、胸椎、腰椎、仙骨、肋骨、肩甲骨、上腕骨、前腕骨、橈骨、尺骨、第二および第三中手骨、第四指基節骨、寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨、踵骨、第二～第四中足骨など146点、鳥類の上腕骨、大腿骨など3点、ウミガメの背甲、縁骨板、大腿骨の計8点、魚類17点が出土している。

貝だまり6（図版2の25～30参照）

J-98区のみの範囲である。Ⅳ層からネズミは下顎骨と大腿骨が各1点、イノシシは頭蓋、下顎骨、下顎切歯、下顎犬歯、下顎第三後臼歯、環椎、胸椎、腰椎、肋骨、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、第二～第四中手骨、第三および第四指基節骨、寛骨、大腿骨、脛骨、踵骨、距骨、第四足根骨、第二～第四中足骨、第三趾基節骨など計166点、ウシは上顎骨と第二・三手根骨が各1点、鳥類は中手骨が1点、ウミガメは背甲、腹甲、縁骨板、橈骨など36点、魚類は16点がそれぞれ出土している。また、層不明の一括としてイノシシの頭蓋、上顎犬歯、下顎骨、胸椎、肋骨、肩甲骨、第三中手骨、寛骨など10点が出土している。

貝だまり7

I-97区のⅣ層からイノシシの下顎犬歯、頸椎、肋骨、上腕骨、第四指基節骨、大腿骨、脛骨、第三中足骨の計12点と魚類1点が出土している。また、I-98区のⅣ層からイノシシの下顎骨、環椎、肩甲骨、第二および第三中手骨、寛骨、脛骨の8点、ウミガメは背甲、腹甲などの4点が出土している。

貝だまり8（図版2の31～35参照）

H・I-98区のⅣ層からイノシシの肩甲骨、第四中手骨、腓骨、踵骨、距骨の計5点とウミガメの背甲、尺骨、脛骨の計3点が検出されている。また、I-98区のⅣ層からイノシシの頭蓋、下顎骨、下顎切歯、下顎犬歯、下顎後臼歯、環椎、胸椎、肋骨、尺骨、大腿骨、脛骨、踵骨、第三～第五中足骨の計20点とウミガメの背甲5点が出土している。

貝だまり8・9の間

H-98区のⅣ層からイノシシが肋骨、肩甲骨、寛骨、脛骨の4点、鳥類が中手骨1点、ウミガメが腹甲と第二中手骨の2点、魚類が1点それぞれ検出されている。

貝だまり9

H-98区のⅣ層からイノシシの頭蓋、下顎骨、下顎切歯、橈骨、尺骨、第四中手骨、大腿骨、第二中足骨の計13点、鳥類が上腕骨と脛骨の各1点、ウミガメの背甲1点が出土している。

貝だまり10

K-97区のⅣ層からイノシシのみが検出され、後頭骨、下顎骨、下顎犬歯、胸椎、腰椎、肋骨、上腕骨、前腕骨、寛骨など17点が出土している。

貝だまり11（図版2の36～48参照）

J-96区のⅣ層からネズミの大腿骨が1点、イノシシが上顎骨、下顎骨、環椎、肋骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、第二および第三中手骨、寛骨、大腿骨、脛骨、距骨など計51点、ウシの中手骨1点、鳥類の脛骨1点、ウミガメの背甲と縁骨板が各1点、魚類が2点それぞれ出土している。

また、層不明の一括からはネズミの大腿骨と下腿骨が各1点、イノシシが頭蓋、上顎前臼歯、下顎骨、下顎後臼歯、頸椎、胸椎、腰椎、仙骨、肋骨、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、第三中手骨、第三指基節骨・中節骨・末節骨、寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨、踵骨、距骨、中心足根骨、第四足根骨、第三趾中節骨など計138点、ウシの脛骨1点、ウマの脛骨1点、鳥類が橈骨、尺骨、中手骨の3点、ウミガメが背甲、腹甲、縁骨板、上腕骨の5点、魚類が13点それぞれ出土している。

（7）獣骨集中①（中世15世紀以降、図版3の1～5参照）

Q-100区

一括からネコ、イノシシ、ウシがみられ、ネコは中手骨1点が、イノシシは肋骨、肩甲骨など3点、ウシは胸椎、上腕骨、脛骨、小骨片など26点が出土している。

（8）獣骨集中②（溝上部、中世15世紀以降、図版3の6～20参照）

I-97区

一括からイノシシ、ウシ、ウマがみられ、イノシシは胸椎1点のみで、ウシは頭蓋骨、下顎骨、舌骨、頸椎、胸椎、腰椎、肋骨、肩甲骨、橈骨、尺骨、中手骨、第二・三手根骨、第四手根骨、脛骨、踵骨、中心第四足根骨など141点が出土している。ウマは橈骨1点のみの出土である。

（9）獣骨集中③（溝上部、中世15世紀以降、図版3の21～38参照）

J-96・97区

ドットからイノシシ、ウシがみられ、イノシシは肋骨1点のみで、ウシは頭蓋骨、上顎第二後臼歯、頸椎、胸椎、肋骨、肩甲骨、前腕骨、第三指基節骨、寛骨、大腿骨、脛骨、小骨片など195点が出土している。一括からネズミ、ウシ、鳥類、魚類がみられ、ネズミは脛骨1点のみで、ウシは舌骨、腰椎、肋軟骨、肩甲骨、第三指末節骨、大腿骨、小骨片など40点が出土している。鳥類と魚類は小骨片各1点の出土である。

（10）一括（図版3の39～86参照）

I-96区

Ⅳ白砂層からイヌの上顎犬歯、下顎第一、二後臼歯、大腿骨の4点が出土している。

J-96区

Ⅳ層からイノシシ、ウシ、鳥類、ウミガメがみられ、イノシシは頭蓋骨、上顎犬歯、下顎骨、下顎切歯、下顎犬歯、下顎後臼歯、頚椎、胸椎、肋骨、胸骨柄、肩甲骨、上腕骨、尺骨、第三～第四中手骨、寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨、踵骨、距骨、第二中足骨、第四趾基節骨、小骨片など171点が出土している。ウシは下顎第三後臼歯、胸椎、肋骨、脛骨など8点が、鳥類は烏口骨、橈骨、尺骨など10点が、ウミガメは上腕骨、背甲、腹甲など26点が出土している。Ⅴ層からはイヌの後頭骨、大腿骨など3点とイノシシの仙骨、第三中手骨の2点が出土している。

K，L-96区

いずれもイノシシで、K区Ⅵ白砂層から下顎骨、小骨片など14点、L区Ⅳ層から尺骨1点が出土している。

K，M-97区

両区ともイノシシで、K区Ⅵ白砂層から上顎骨、上顎第三後臼歯の5点、M区Ⅳ層から上腕骨1点が出土している。

I-98区

Ⅳ層からイノシシ、鳥類、ウミガメがみられ、イノシシは頭蓋骨、上顎切歯、下顎骨、下顎切歯、下顎犬歯、下顎臼歯、頚椎、胸椎、腰椎、尾椎、肋骨、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、第三～五中手骨、第三指基節骨、寛骨、大腿骨、脛骨、踵骨、距骨、第四足根骨、第三趾基節骨・末節骨、小骨片など416点が出土している。鳥類は小骨片2点が、ウミガメは背甲、腹甲、橈骨など71点が出土している。

J-98区

Ⅴ層からイノシシの下顎骨、大腿骨、小骨片など5点、Ⅴ白砂直上層からイノシシの下顎骨、腰椎、大腿骨の3点とウミガメの背甲3点が出土している。

K-98区

Ⅳ層からイノシシ、鳥類、ウミガメがみられ、イノシシは頭蓋骨、上顎切歯、下顎骨、下顎切歯、下顎犬歯、下顎後臼歯、頚椎、胸椎、腰椎、肋骨、上腕骨、橈骨、尺骨、第二～第五中手骨、大腿骨、脛骨、腓骨、踵骨、距骨、第三中足骨、第三趾基節骨、小骨片など133点が出土し，鳥類は大腿骨など3点、ウミガメは縁骨板、背甲、腹甲など13点が出土している。Ⅴ白砂直上層からはネズミの下顎骨、イノシシの下顎骨各1点が、Ⅵ白砂層からイノシシの胸椎1点が出土している。

L-98区

Ⅳ層からイノシシの下顎第一切歯、脛骨の2点とウミガメの上腕骨の1点が出土している。

M-98区

Ⅳ層からネズミ、イヌ、イノシシ、鳥類、ウミガメがみられ、ネズミは下顎骨2点、脛骨の3点、イヌは胸椎、上腕骨、脛骨の3点が出土している。イノシシは頭蓋骨、上顎切歯、下顎骨、下顎切歯、下顎犬歯、下顎第三後臼歯、頸椎、胸椎、腰椎、肋骨、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、第三手根骨、第四中手骨、第三指基節骨・中節骨、寛骨、大腿骨、脛骨、膝蓋骨、足根骨、第三中足骨、第三趾基節骨・中節骨・末節骨、小骨片など535点が出土している。鳥類は大腿骨など2点、ウミガメは縁骨板、背甲、腹甲など73点が出土している。

J，K，L-99区

J区のⅣ層からイノシシの大腿骨1点、Ⅴ白砂直上層からイノシシの頸椎1点が、K区のⅣ層からウシの肩甲骨1点が検出され、L区のⅣ層からはイノシシ、ウシ、ウミガメがみられ、イノシシは上顎第一切歯、上顎犬歯の2点、ウシは脛骨1点、ウミガメは腹甲1点が出土している。Ⅴ層からイノシシの肋骨と腓骨の2点が出土している。

K，M，N-100区

K区のⅤ層からイノシシは肩甲骨1点とウシの肩甲骨（小骨片を含む）、脛骨など30点が、M区のⅥ砂層からイノシシの肩甲骨1点、ウシの肋骨1点が、N区のⅤ層からネコの大腿骨1点、ウシの肩甲骨、橈骨、尺骨、脛骨など8点が出土している。

K-101区

Ⅳ層からはウシの橈骨と脛骨の2点が出土している。

(11) SD06（溝遺構、中世15世紀、図版4参照）

I-96区

a層からイノシシは胸椎、第五中手骨、小骨片など8点が、ウシは中間手根骨1点が出土している。

J-96区

埋土j層からウシの肋骨、橈骨、尺骨、中手骨、第四指基節骨、大腿骨、中心第四足根骨、第四趾中節骨、小骨片など24点が出土している。また、a層からウシの第七頸椎、肋骨、大腿骨、第三趾末節骨など10点が、b層からイノシシは下顎犬歯、肋骨、寛骨の3点、ウシは尺骨、種子骨、小骨片など9点、ウミガメは背甲の1点が出土している。

K-96区

黒色土層からネズミは上腕骨、寛骨、大腿骨、脛骨の4点、イノシシは肩甲骨、橈骨、尺骨など5点が出土している。ウシは頭蓋骨、下顎骨、頸椎、胸椎、肋骨、肩甲骨、上腕骨、中手骨、中間手根骨、第三・第四指基節骨、距骨、第三趾基節骨・中節骨・末節骨など50点が、ウミガメは背甲、腹甲など3点が出土している。また、a層からはネズミの大腿骨1点、ウシの後頭骨、胸椎、第三・第四指中節骨、大腿骨、第三趾基節骨、第四趾中節骨、小骨片など25点、ウミガメは腹甲の1点が出土している。

J，K-96･97区

J区の一括からはイノシシのみで、胸椎、寛骨、大腿骨、脛骨、踵骨など10点が、K区のa層からウシの肋骨1点が出土している。

H-97区

a層からはウシとヤギがみられ、ウシは頭蓋骨、上腕骨、尺骨など5点が、ヤギは中手骨1点が出土している。一括からはイノシシ、ウシがみられ、イノシシは尺骨、大腿骨の2点、ウシは大腿骨1点が出土している。

I-97区

a層からクジラの椎骨1点が、埋土層からウシの後頭骨1点が出土している。埋土a層からはウシのみの出土で、後頭骨、下顎骨、下顎第二・第三乳臼歯、肋骨、上腕骨、橈骨、中手骨、第二・三手根骨、大腿骨、脛骨、第四趾中節骨、小骨片など32点がみられる。一括からはネコ、イノシシ、ウシ、ウマ、クジラ、魚類が検出され、ネコは大腿骨1点、イノシシは上顎犬歯、第五中足骨の2点、ウシは頸椎、胸椎、肋骨、中手骨、大腿骨、第四趾中節骨、小骨片など18点が出土している。ウマは前肢中節骨、踵骨、中足骨、後肢の基節骨・中節骨の5点、クジラ類は椎骨1点、魚類は小骨片2点が検出されている。

J-97区

a層からイノシシは頭蓋骨、下顎骨、頸椎、肩甲骨、第三中足骨の8点が、ウミガメは上腕骨1点が出土している。埋土a層からはウシと鳥類がみられ、ウシは下顎骨、下顎第三乳臼歯、腰椎、尾椎、肋骨、橈骨、第三指基節骨、寛骨、第四趾基節骨、小骨片など31点が、鳥類は小骨片1点が出土している。J層からウシは下顎骨、肩甲骨、第三指中節骨、寛骨、脛骨、中足骨、第三趾末節骨、小骨片など19点が、ウマは脛骨の4点が出土している。埋土J層からはウシの肋骨、肩甲骨、上腕骨、中手骨、脛骨など12点が出土している。K層からはネズミの大腿骨2点、イノシシの頸椎、肋骨、脛骨など4点が出土している。

K-97区

埋土a層からネズミ、イノシシ、ウシがみられ、ネズミは大腿骨1点、イノシシは肋骨1点、ウシは中手骨、第三指中節骨、大腿骨、小骨片など8点が出土している。埋土J層からイノシシ、ウシ、鳥類がみられ、イノシシは下顎骨、肋骨、第二、第三、第五中足骨など7点、ウシは第三指基節骨、小骨片など8点が、鳥類は尺骨1点が出土している。V層からはウシの上腕骨、第二・三手根骨の2点が出土し、埋土一括からネズミの大腿骨2点、ヤギの肩甲骨1点が出土している。6サブトレaⅣ－Ⅴからネズミの大腿骨1点、イノシシの第四趾基節骨、小骨片の2点が出土している。

O-97区

埋土C白砂層からネズミとイヌがみられ、ネズミは上腕骨、寛骨、大腿骨の3点、イヌは大腿骨1点が出土している。

（12）SD07：（溝遺構、中世、図版5の1～20参照）

P・Q-97区

層の記載なしからはウシのみで、頭蓋骨、上顎臼歯、切歯、胸椎、肋骨、肩甲骨、尺骨、第三指基節骨・中節骨・末節骨、寛骨、中足骨、第四趾基節骨・中節骨・末節骨、近位・遠位種子骨、小骨片など309点が出土しているが、小骨片が多い。⑤黄土砂層からはウシの胸椎、肩甲骨、上腕骨、尺骨、寛骨、大腿骨、脛骨、中足骨、遠位種子骨、小骨片など52点が出土している。⑥層からイノシシとウシがみられ、イノシシは後頭骨、小骨片など7点が、ウシは上腕骨、第三趾基節骨・中節骨・末節骨など8点が出土している。一括からはウシの頭蓋骨、下顎骨、胸椎、腰椎、肋骨、上腕骨、橈骨、尺骨、中手骨、寛骨、大腿骨、膝蓋骨、脛骨、距骨、中心第四足根骨、第三趾中節骨、第四趾基節骨・中節骨、小骨片など100点が出土している。

Q-97区

②埋土D層からウシのみがみられ、頸椎、尾椎、肋骨、尺骨、中間手根骨、第二・三手根骨、第四指基節骨、大腿骨、脛骨、踵骨、距骨、果骨、中心第四足根骨、近位・遠位種子骨など67点が出土している。

（13）SD10：（溝遺構、中世15世紀代、図版5の21－75参照）

J-96区

断面3層からネズミ、イノシシ、ウシ、鳥類、ウミガメがみられ、ネズミは大腿骨2点、イノシシは下顎骨、頸椎、肋骨、肩甲骨、上腕骨、大腿骨、脛骨、小骨片など10点、ウシは中手骨、中間手根骨、大腿骨など5点、鳥類は1点、ウミガメは縁骨板1点の出土である。断面4層からはイノシシの胸椎、大腿骨など4点が出土している。一括からはイノシシの第五中手骨1点、ウシは橈骨、中手骨、小骨片など5点が出土している。

J・K-96区

一括からウシの肋骨、小骨片など13点が出土している。

K-96区

断面3層からはネズミの脛骨1点、鳥類の烏甲骨、上腕骨、尺骨、大腿骨、小骨片など13点が出土している。断面4層からはネズミ、イヌ、イノシシ、ウシがみられ、ネズミは大腿骨1点、イヌは上腕骨1点、イノシシは大顎骨、脛骨、第五中足骨の3点、ウシは上腕骨、橈骨の2点が出土している。断面5層からはネズミ、イノシシ、ウシがみられ、ネズミは大腿骨1点、イノシシは胸椎、腰椎など3点が、ウシは大腿骨4点が出土している。一括からはイヌ、イノシシ、ウシ、ウマがみられ、イヌは脛骨1点、イノシシは尺骨、腓骨など3点が出土し、ウシは肋骨、上腕骨、尺骨、中足骨、第四趾末節骨、小骨片など21点が、ウマは脛骨の1点が検出されている。

J-96・97区

断面4層からイノシシの大腿骨1点が出土している。

H-97区

Ⅱ層からイノシシの小骨片3点が検出され、埋土a 層からイノシシの寛骨1点、ウシの胸椎、肋骨、距骨、小骨片など10点が出土している。

I-97区

断面2層からネズミの脛骨1点とイノシシの上顎第三後臼歯1点が出土している。断面6層からはネズミ、ネコ、イノシシ、ウシ、ウマがみられ、ネズミは下顎骨の1点、ネコは下顎骨2点、イノシシは第三中手骨1点が出土している。ウシは肋骨、上腕骨、中足骨、種子骨、小骨片など15点が、ウマは中手骨、第三足根骨など5点が出土している。

Ⅱ層からはウシの小骨片2点が出土している。埋土a層からはヤギ、ウシ、ウマがみられ、ヤギは中手骨1点のみで、ウシは頭蓋骨、舌骨、尺骨、副手根骨、寛骨、踵骨、第四趾基節骨・中節骨、小骨片など28点が出土し、ウマは中手骨、脛骨の2点が出土している。埋土J層からはネズミ、イノシシ、ウシ、ウマ、ウミガメ、魚類がみられ、ネズミは大腿骨1点、イノシシは前頭骨、上顎第三後臼歯、下顎骨、腰椎、肋骨、上腕骨、尺骨、大腿骨、脛骨、距骨、第五中足骨、小骨片など34点が出土し、ウシは頸椎、肋骨、肩甲骨、第三指中節骨、寛骨、脛骨、第三趾基節骨・中節骨、小骨片など24点が、ウマは鼻骨、上顎第三前臼歯、肩甲骨、橈骨、第三手根骨、第三中手骨、前肢基節骨、第三・四中足骨、後肢基節骨など17点が出土している。また、ウミガメの腹甲の1点と魚類1点も出土している。一括からネズミは橈骨、尺骨、寛骨、大腿骨など7点が出土し、イノシシは頭蓋骨、肋骨、上腕骨、大腿骨、脛骨など8点、ウシは頭蓋骨、頬骨、上腕骨、寛骨、大腿骨、小骨片など26点が出土している。

I・J-97区

一括からネズミ、イノシシ、ウシ、ウマ、ウミガメがみられ、ネズミは脛骨1点で、イノシシは脛椎、肋骨、上腕骨、大腿骨、小骨片など29点が出土している。ウシは頭蓋骨、第一頸椎、胸椎、腰椎、肋骨、上腕骨、橈骨、尺骨、副手根骨、中間手根骨、大腿骨、脛骨、中足骨、中心第四足根骨、第四趾基節骨・中節骨、遠位第四趾種子骨、小骨片など67点が出土し、ウマは第三指中節骨1点、ウミガメは小骨片1点が出土している。

J-97区

断面3層からネズミの大腿骨、脛骨の2点とウミガメの縁骨板1点が出土している。断面4層からはネズミの大腿骨1点、イノシシの下顎骨、肋骨、距骨の5点が出土している。貝だまり層からはイノシシの肋骨、肩甲骨、小骨片の3点とウミガメの背甲1点が出土している。Ⅲ層からはイノシシの頸椎、胸椎、腰椎、大腿骨、第四趾末節骨、小骨片など15点が出土し、魚類の小骨片1点もみられる。

サブトレ

一括からイヌの肋骨1点、ウシの肋軟骨、上腕骨、脛骨、小骨片など8点が出土している。

3. 動物別出土骨の概要

今回調査を行った平成24年度、25年度の出土哺乳類は、ネズミ、イヌ、ネコ、イノシシ、ヤギ、ウシ、ウマ、クジラ、イルカ、ジュゴンの6目10種であり、動物種を判別できた遺構別出土骨量は第51・52表に、また、遺構別、調査区別出土状況は第53～63表に示した。以下各動物の小骨片を除く動物種と骨を同定できた出土量（骨片数）と計測可能な骨について記述する。なお、イノシシとウシは出土骨数が多いため、大きく頭蓋骨、下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨と纏めて記載した。

1）ネズミ

ネズミの出土例は、24年度の貝集中#2から右脛骨1点、一括から右尺骨1点の合計2点が出土し、25年度のピットSPから2点、土坑から9点、貝だまり6から2点、貝だまり11から3点、獣骨集中③から1点、一括から4点、SD06から14点、SD10から19点の合計54点が出土している。

獣骨集中③から出土した右脛骨の中央幅と径は1.9×2.3㎜である。一括からは左下顎骨1、右下顎骨2、右脛骨1点の出土で、下顎骨の数から2個体のものと推定され、左下顎骨の臼歯における下顎高と厚さは7.1×4.2mmで、右下顎骨のそれらは5.4×2.6㎜であり、前者はドブネズミ、後者はクマネズミの大きさである。

SD06からは右上腕骨2、左寛骨1、右寛骨1、左大腿骨1、右大腿骨7、右脛骨1など合計14点が出土しており、右大腿骨の数から少なくとも7個体のものと推定される。J-97区のK層から出土した右大腿骨はほぼ完形骨で、最大長34.7㎜、中央幅と径は3.95×3.49㎜（以下同様に記載）であり、これは現生のドブネズミの大きさである。他の大腿骨の中央幅と径は3.2±0.2×2.8±0.2㎜（n＝4）であり、クマネズミとほぼ同じ大の大きさである。

SD10からは右下顎骨1、右橈骨1、右尺骨1、左寛骨1、左大腿骨7、右大腿骨3、左脛骨3、右脛骨1など合計19点が出土している。左大腿骨の数から7個体のものと推測される。完形骨はなく、大腿骨の近位端の幅と径は、6.9±0.6×3.4±0.3㎜（n＝9）で、中央幅と径は、3.5±0.3×2.8±0.3㎜（n＝9）であり、大きい方はドブネズミ大で、小さい方はクマネズミの大きさである。脛骨2例の中央幅と径は2.9×3.0㎜と2.0×2.1㎜で2つのタイプがある。

2）イヌ

イヌは24年度のSX(集石)から左肩甲骨、左上腕骨、右第四中足骨の3点が、SK(土坑)から左上腕骨、左寛骨、左脛骨の3点が出土し、SD03から右下顎骨1点、貝集中#2から右橈骨、左第五中手骨の2点、貝集中#3から左橈骨1点、貝集中#4から右尺骨1点、一括から右橈骨、右大腿骨、右脛骨の3点の合計14点が出土している。

SXから出土した肩甲骨の頚幅と径は16.7×8.2mm、上腕骨の中央幅と径は9.0×9.9mm、遠位端幅と径は22.4×16.9mmであり、SD03の下顎骨高（M1）は19.5mmで、著者らの方法（2008）で体高を推定すると34cm以下の小型犬である。

25年度のピット遺構から右上顎第二切歯、腰椎、左第四中手骨の3点が出土している。一括からは後頭骨片2、左上顎犬歯、左下顎第一、第二後臼歯、胸椎、右上腕骨、左・右大腿骨、左脛骨の10点が出土し、犬歯の最大長は31.4㎜、第一、第二後臼歯の歯冠長と幅はそれぞれ9.2×4.6、17.2×96.9㎜であり、また、左大腿骨の中央幅と径は12.3×11.6㎜で、これより体高を推定すると44㎝であり、これは中型犬の大きさである。

SD06からは左大腿骨1点の出土で、その中央幅と径は10.4×11.1㎜であり、これらは40㎝以下の柴犬大の大きさである。SD10からは上顎第四前臼歯を持つ左上顎骨片、右肋骨、右脛骨の3点がみられ、第四前臼歯の歯冠長と幅は14.8×7.5㎜で、仔犬の脛骨の中央幅と径は6.7×6.6㎜である。いずれも出土遺構が異なるので個体数の推定は出来ない。

3）ネコ

ネコは25年度のピット遺構のR-100から同一個体と思われる幼齢の全身骨格38点が出土している。左右の下顎全長はそれぞれ46.5mm、46.7mm、右上腕骨は保存長64.1mm、中央幅×径は5.2×5.7mm、左尺骨保存長は67.3mm、左橈骨保存長56.4mm、右大腿骨保存長72.1mm、中央幅×径は6.2×6.1mmである。土坑遺構からも同一個体と思われる若齢の頭蓋骨片、尺骨、脛骨、踵骨など7点が出土している。

獣骨集中①からは左第三中手骨1点が検出され、その保存長は28.8㎜である。一括からは右大腿骨1点の出土で、骨幹のみで中央幅×径は7.8×7.3㎜である。SD06から1点、SD10から2点の出土がみられ、SD06から両骨端のない右大腿骨1点が出土し、その中央端×径は7.0×6.1㎜である。SD10からは左右の下顎骨2点が出土し、下顎全長（保存長）はそれぞれ50.9㎜と50.8㎜で、下顎枝高は20.6㎜、21.0㎜であり同一個体のものと思われる。いずれも現生のネコより少し小さい。

4）イノシシ

イノシシは、24年度のSX(集石)から下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨の16点、土坑から椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨など21点が出土し、SD02、ピットからの各1点は小骨片である。貝集中#2からは頭蓋骨、下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨の67点であり、左脛骨の数から5個体以上と推定される。貝集中#3からも下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨など53点が出土し、右の脛骨や距骨の数から2個体以上と推定される。貝集中#4からは下顎骨、前肢骨、後肢骨など17点、貝集中#5からは下顎骨、上腕骨、中心足根骨の3点、貝集中#1からは下顎骨、前肢骨、後肢骨など9点が出土している。また、一括からは頭蓋骨、下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨など148点が出土している。

SXの左上腕骨の遠位端幅×径は37.8×33.2mm、SKから出土した第三指基節骨は完全で最大長31.7mm、近位端幅×径は15.2×14.9mmである。貝集中#２の左下顎骨は雄のもので、臼歯列長92.0mm、下顎体高×幅（M1）は38.8×21.4mmであり、貝集中#3の距骨2点の最大長×最大幅×

最大頚（平均）は33.1×18.3×17.4mmである。貝集中#1から出土した左橈骨の近位端幅×径は25.5×16.7mm、左第四中手骨の最大長と中央幅径は62.0mm、10.2×9.6mmである。一括から出土した左下顎骨の下顎体高×幅（M1）は28.9×14.8mm、上腕骨２点の遠位端幅×径（平均）は35.2×31.3mm、左第三中手骨の最大長×中央幅×中央径は63.2×11.2×9.9mm、右寛骨の腸骨体幅×径と寛骨臼長は26.6×13.3mm、26.3mm、左脛骨の遠位端幅×径は24.3×21.8mmである。

25年度のピットから頭蓋骨、下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨など78点が出土し、左脛骨の数から5個体以上と推定される。土坑からは頭蓋骨、下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨など46点が出土し、左上腕骨の数から4個体以上と推定される。焼土跡から左下顎骨、左肩甲骨、小骨片の3点、集石からは左橈骨と右大腿骨の2点の出土である。ドットからは頭蓋骨、下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨など91点が出土し、左大腿骨の数から4個体以上と推定される。

貝だまり1から頚椎、腰椎、肋骨、左橈骨の4点、貝だまり2から左肩甲骨1点、貝だまり3から右切歯骨、右下顎骨、頚椎、右上腕骨、右橈骨、左脛骨、右第四中足骨の7点、貝だまり4からは下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨の12点の出土であり、右踵骨の最大長×最大福は58.7×16.7mmである。

貝だまり5からは頭蓋骨、下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨など203点が出土し、下顎骨の数から13個体以上と推定される。計測された下顎骨4点の下顎体高×幅（M3）は35.7±2.9×18.4±2.1mmであり、第三中手骨2点の最大長（平均）は63.3mm、中央幅×径は9.3×9.1mm、脛骨2点の平均遠位端幅×径は26.3×24.0mmである。

貝だまり6からは頭蓋骨、下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨など166点が出土し、左大腿骨の数から11個体以上と推定される。計測可能な骨は少ないが、下顎第三後臼歯2点の歯冠長×幅（平均）は31.0×12.9mmで、右第四指基節骨の最大長と近位端幅×径は29.3mm、13.9×14.4mm、右脛骨の遠位端幅×径は26.7×23.0mmである。

貝だまり7からは下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨の20点が出土し、右下顎骨と左脛骨の数から2個体以上と思われる。右上腕骨の遠位端幅×径は35.9×30.6mmである。貝だまり8からは頭蓋骨、下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨など25点が出土し、右尺骨の数から3個体以上と推定される。右尺骨の遠位端幅×径は12.6×14.0mmである。貝だまり8と9の間からは右肋骨、右肩甲骨、右寛骨、左脛骨の4点が出土しているが、計測可能な骨はない。貝だまり９から頭蓋骨、前肢骨、後肢骨の13点が出土し、貝だまり10からは頭蓋骨、下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨の17点が出土しているが、計測可能な骨はない。

貝だまり11から頭蓋骨、下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨など189点の出土で、右肩甲骨の数から6個体以上と推定される。ほぼ完全な左上腕骨の骨頭長は159.6mm、骨幹幅×径16.3×22.7mm、遠位端幅×径36.8×32.6mmであり、橈骨の近位端幅×径は25.7×16.9mmである。

獣骨集中①からは肋骨1、肩甲骨2の計3点、②からは胸椎1点、③からは肋骨1点の合計5点の出土である。いずれも計測可能な骨はない。

一括遺構からは1,309点の骨片が出土しているが、小骨片が多く、同定された骨は、頭蓋骨、下顎骨、前肢骨、後肢骨など557点であり、左大腿骨や右脛骨の数から6個体以上と推測される。計測された骨は数多くあるが主なものを上げると、J-96区からの左下顎犬歯の長さは84.3㎜、右上腕骨中央幅と径は13.3×17.0㎜であり、左第三中手骨の最大長は58.7㎜である。J-98区の左大腿骨の遠位端の幅と径は34.6×13.2㎜、右距骨の最大長は35.3㎜で、右第三中手骨、右第四趾中足骨の最大長はそれぞれ60.4㎜、71.5㎜である。

SD06からは59点の骨片が出土しているが、同定された骨は頭蓋骨、下顎骨や前肢、後肢骨など45点であり、左下顎骨の数から少なくとも3個体分のものと思われる。イノシシの大きさを知るために骨の計測値の主なものを上げると、J-97区から出土した右肩甲骨の遠位端の幅と径は31.6×20.8㎜で、同じ区からの右第三中足骨の最大長は70.8㎜であり、また、J-96・97区からの右脛骨の中央幅と径は17.5×15.6㎜で、左踵骨は保存長65.4㎜である。これらの大きさは、九州本土のイノシシより小さく、リュウキュウイノシシとほぼ同じ大きさである。

SD07からは後頭骨1、小骨片7点の出土で計測可能な骨はない。

SD10からは127点の骨片が出土しており、それらのうちは頭蓋骨、下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨など80点が同定され、左上顎第三後臼歯の数から少なくとも4個体のものと推測される。I-97区から出土した左距骨の最大長歯32.5㎜で、同じ区の右第五中足骨の最大長は42.7㎜である。I・J-97区の左上腕骨の遠位端の幅と径は12.7×16.2㎜であり、J-97区の右下顎骨第三後臼歯での下顎高と厚さは39.1×19.5㎜で、右肩甲骨遠位端の幅と径は33.5×23.2㎜である。

本遺跡のイノシシは、計測値から見るといずれも小型で、骨の形状からもリュウキュウイノシシに類似している。

5）ウシ

24年度のピットから左中足骨1点がみられ、貝集中#1からは頭蓋骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨の15点が出土している。ほぼ完全な左上腕骨は最大長277.0mm、骨幹中央幅×径は29.0×39.7mm、遠位端幅×径は72.0×64.9mmであり、左第四趾中節骨の最大長は43.8mm、近位端幅×径は27.8×28.6mm、骨幹幅×径は20.4×21.4mm、遠位端幅×径は21.5×27.5mmである。これらの計測値から著者らの体高推定式（2017）を用いて体高を算出すると111.7cmとなり、雌と推定される。一括からは下顎骨、肋骨、後肢骨など4点の出土で、計測可能な骨はない。

25年度では、ピットから頭蓋骨、肋骨、前肢骨、後肢骨など23点の出土であり、左脛骨の数から3個体以上と推定される。左大腿骨の骨幹中央幅×径は22.5×20.6mm、中足骨

2点の近位端幅×径（平均）は49.1×45.9mmであり、推定体高はそれぞれ111.3cmと120.2cmとなり、前者は雌で後者は雄と推定される。

土坑からは臼歯、前肢骨、後肢骨など10点の出土で、左大腿骨の近位端幅×径は105.2×62.8mmで、推定体高111.1cmの雌のものと思われる。

焼土跡からは右肩甲骨と右上腕骨の2点の出土であり、肩甲頚幅×径は44.3×20.3mmで、推定体高115.5cmの雌と思われる。

集石から頭蓋骨、椎骨、肋骨、前肢骨など9点の出土で、計測可能な骨はない。

ドットからは頭蓋骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨など144点の出土で、上腕骨の数から少なくとも3個体と推定される。脛骨の近位端幅×径は95.0×85.9mm、左踵骨の最大長120.9mm、最大幅37.3mmとなり、推定体高はそれぞれ116.6cm、112.5cmとなり、雌と思われる。

貝だまり6から右上顎骨と左第二・三手根骨の2点がみられる。貝だまり11から右中手骨と右脛骨の2点が出土している。

獣骨集中①からは26点出土し、そのうち胸椎3、右上腕骨1、左脛骨1の5点が同定され、1個体のものと推測されるが、計測可能な骨はない。

獣骨集中②からは頭蓋骨、下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨などの141点が同定され、肩甲骨、橈骨の数から3個体のものと推測される。I-97区からの右肩甲骨の肩甲頚と遠位端の長さと径はそれぞれ45.5×212.2㎜、64.8×46.1㎜で、中手骨の中央幅と径は56.6×33.1㎜、右踵骨の最大長は126.0㎜で、推定体高122.1㎝と115.9㎝であり、前者は雄で後者は雌と推測される。

獣骨集中③からは235点の骨片が出土しており、そのうち頭蓋骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨など193点が同定され、大腿骨の数や部位から5個体のものと推測される。J-96･97区から出土した右橈骨はほぼ完形骨で、その最大長は272.6㎜であり、右大腿骨の遠位端の幅は90.2㎜、左脛骨の近位端の幅は90.3㎜である。別個体の左脛骨の中央および遠位端の幅と径は、それぞれ33.9×24.9㎜、58.4×46.9㎜で、右第三指基節骨の最大長は58.7㎜である。これらの計測値から体高を求めると125.8㎝と114.0㎝である。

一括遺構からは、臼歯、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨など51点が同定され、K-100区から出土した左肩甲骨頚の長さと幅は50.1×22.7㎜、左橈骨の近位端幅と径は88.5×39.2㎜である。左尺骨の肘突起の径は60.8㎜である。これらの値から体高を求めると116.8㎝である。

SD06からは257点の骨片が出土しているが、そのうち骨の種類を同定された骨は、頭蓋骨、下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨などの119点であり、左大腿骨の数や出土地点から少なくとも7個体のものと推測される。J-96区からの左第三趾末節骨の最大長は62.8㎜であり、K-96区からの肩甲骨の頚の長さと径は48.3×20.2㎜で、左上腕骨遠位端の幅と径は78.6×75.4㎜、左中手骨の遠位端の幅と径は53.1×31.1㎜、右距骨の最大長は61.5㎜、左中足骨の遠位端の幅と径は49.3×28.3㎜、右第四趾基節骨の最大長は59.8㎜、左第三趾中節骨のそれは40.3㎜である。I-97区からの左中手骨の中央幅は27.7㎜、左第四趾骨中節骨の最大長は39.0㎜であり、J-97区からの右橈骨の近位端幅と径は68.9×33.7㎜、ほぼ完形な右中手骨の最大長は190.3㎜、中央幅と径は28.9×20.9㎜である。これらの計測値から体高を推定すると、122.2±2.5㎝と115.3±1.8㎝である。

SD07からは536点の骨片が出土しているが、そのうち骨種を同定された骨は、頭蓋骨、下顎骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨の合計127点であり、上腕骨や大腿骨の数や出土地点を考慮して6個体のものと推測される。P･Q-97区から出土した右橈骨の近位端幅と径は66.1×34.0㎜で、左第三指中節骨の最大長は39.0㎜、右第四指末節骨のそれは66.5㎜であり、右大腿骨の遠位端の幅と径は86.2×112.2㎜、左脛骨の遠位端の幅と径は58.5×42.6㎜、左距骨の最大長は61.6㎜であり、第四趾基節骨の最大長は57.3㎜、第四趾骨末節骨のそれは60.3㎜である。Q-97区から出土した右踵骨の最大長128.5㎜で、右距骨の最大長は69.8㎜である。これらの計測値から体高を推定すると、123.2±1.8㎝と114.9±2.2㎝であり、前者は雄、後者は雌と推測される。

SD10からは230点の骨片が出土しているが、そのうち骨の種類を同定できた骨は、頭蓋骨、椎骨、肋骨、前肢骨、後肢骨など123点であり、上腕骨や大腿骨の数や出土地点から少なくとも5個体のものと推測される。K-96区から出土した左脛骨の遠位端の幅と径は58.1×37.3㎜、左中足骨の中央幅と径は123.3×23.7㎜で、左第四趾末節骨の最大長は58.9㎜である。H-97区から出土した左距骨の最大長は64.8㎜であり、I-97区の右踵骨の最大長は119.0㎜、右第四趾基節骨の最大長は61.4㎜、右第四趾中節骨のそれは38.9㎜である。I・J-97区から出土した右上腕骨の遠位端の幅と径は76.0×68.5㎜、左橈骨の近位端の幅と径は79.8×41.2㎜で、左中足骨中央の幅と径は24.4×24.6㎜、右第四趾基節骨の最大長は59.1㎜、左中節骨のそれは37.9㎜である。J-97区からのほぼ完形な右中手骨は最大長187.3㎜、中央幅と径は29.5×20.2㎜であり、大腿骨の遠位端の幅と径は88.9×117.4㎜である。これらの計測値から体高を算出すると、123.4±4.0cmの雄と114.0±2.3cmの雌と推定される。

以上、本遺跡のウシの体高は、日本在来牛である口之島野生化牛の雄と雌の大きさに匹敵する値である。

6）ヤギ

平成25年度のみの出土で、SD06のH-97区から右中手骨、K-97区から右肩甲骨、SD10のI-97区から右中手骨の僅か3点が検出されている。計測可能な部位はないが、トカラヤギと同じような小型のヤギと思われる。

7）ウマ

平成25年度のみの出土で、ピット遺構から胸椎、肋骨、前肢骨、後肢骨など8点の出土であり、右橈骨の遠位端幅×径21.5×27.5mmから、著者らの方法（2020）と林田・山内の方法（1957）を用いて体高を推定すると111.1cmの小

型馬となる。

土坑遺構からは頭蓋骨、肋骨、前肢骨、後肢骨など27点が出土しており、右大腿骨の数から3個体以上と推定される。左寛骨の腸骨体幅×径は24.5×25.3mm、寛骨臼長は58.1mmとなり、推定体高116.7cmの小型馬である。
集積遺構から腰椎、後肢近位種子骨の2点が検出されているが、計測可能な部位はない。

ドット遺構からは左肋骨、左上腕骨、左前腕骨、左寛骨の4点が出土している。上腕骨の遠位端幅×径は67.6×61.5mm、橈骨の近位端幅×径は68.5×38.5mmであり、これらからの推定体高はそれぞれ113.9cmと118.9cmである。

貝だまり11からは左脛骨1点のみの出土である。

獣骨集中②からはI-97区の左脛骨1点が出土しており、その遠位端の幅と径は58.6×57.9㎜で、体高を推定すると117.5㎝である。

SD06からは9点の骨片が出土し、そのうち左第三指中節骨1、右脛骨2、左踵骨1、右中足骨1、右第三趾基節骨1、右第三趾中節骨1点の7点が同定されている。右脛骨の数と部位から2個体のものと推測される。K-96区からの出土した右第三趾基節骨の最大長は76.6㎜、I-97区の右中足骨遠位端の幅と径は41.1×30.1㎜、右第三趾中節骨の最大長は37.9㎜であり、J-97区から出土の右脛骨の遠位端の幅と径は62.2×36.3㎜である。これらの計測値から体高を推定すると125.6㎝と115.8±1.0㎝である。

SD10からは26点が同定され、それらは左上腕骨、左橈骨、右橈骨、左第二・三手根骨、左中手骨、右中手骨、右第四中手骨、左第一指骨、右第二指骨、左脛骨、右脛骨、左中足骨、右中足骨である。I-97区の左中手骨の近位端の幅と径は44.0×30.0㎜で、右第二指骨の最大長は36.0㎜、K-96区からの左脛骨遠位端の幅と径は58.1×37.8㎜である。これらの計測値から体高を推定すると122.6㎝と115.4㎝の2つに分けられる。

本遺跡のウマの大きさは、トカラ馬と同じ大きさの小型馬と御崎馬の中型馬より少し小さい対州馬の大きさの2つタイプがあることが示唆される。

写真１　仔ウマの埋葬骨

近世～近代の仔ウマ（写真１参照）

調査区の南側で確認された仔ウマの全身骨格は、横105㎝、縦73㎝、深さ30㎝の土壙から検出され、頭部を東側に左側を下にして、後肢を前方に揃えた状態で埋葬されている。発掘時にはほぼ完全な状態であったが、搬入された時は脆く壊れており、一部の骨について計測することが可能であった。前頭骨は破損し、上下の下顎骨は噛みあった状態であり、四肢骨は両骨端が外れ、臼歯は乳歯の状態にあるものもあることから2歳位と推定される。左側のみの計測で肩甲骨の頸の長さ27.7㎜、上腕骨骨幹の最小幅と径は27.7×29.5㎜で、橈骨のそれらは25.9×19.5㎜、中手骨27.1×20.0㎜、基節骨27.8×20.2㎜であり、また、大腿骨29.2×33.4㎜、脛骨28.1×26.8㎜である。これらの計測値から体高を推定すると108.1㎝である。この資料が当時飼われていた喜界馬であることは推測されるが、今後、他の遺構から出土したウマの骨と共にミトコンドリアDNAの鑑定が必要であろう。

8）クジラ

クジラは24年度の集石、土坑、貝集中#2、一括から8点の小骨片が出土し、25年度のドット遺構から胸椎と左第三中手骨の2点、SD06のI-97区から椎骨片2点のみの出土である。第三中手骨の保存長は305.8mm、中央幅と径は110.5×86.0mmで、大型鯨類と推定される。

9）イルカ

イルカは、24年度の一括のF・G-102から肋骨2点が検出されている。

10）ジュゴン

ジュゴンは24年度の貝集中#2のD-99から橈骨1点が出土している。

11）その他の動物

その他の動物として、鳥類、爬虫類（ウミガメ）、魚類、甲殻類が出土しているが、分類の詳細は専門家にお願いすることにして、24年、25年度の遺構および調査区と出土骨のみを記載する。

平成24年度

（1）鳥類

集石からはB-101区から右上腕骨と右脛骨の2点、土坑のD-99区から右脛骨、B-100区から小骨片の各1点が出土している。貝集中#2のC-99区から右橈骨、右大腿骨の2点、C-100区から右脛骨、D-100区から末節骨1点の合計4点がみられ、貝集中#3のG-102区から左上腕骨、右尺骨2、右脛骨の4点が出土している。また、一括のC・D-99・100区から左中手骨、B-100区から左脛骨、B・C-100区から左烏口骨、C-100区から左尺骨、右中手骨の合計5点が出土している。

（2）爬虫類

ウミガメは、土坑からはC-99区から腹甲2点、C・D-99区から縁骨板1点、D-99区から腹甲2、肩甲骨、左上腕骨、左大腿骨の5点、A-102区から腹甲1点、A-102・103区から腹甲1点の合計10点が出土している。貝集中#2からはC-99区から背甲5、腹甲7、肋骨2、左腓骨の15点、D-99区から背

甲2、腹甲2、肋骨、縁骨板、左肩甲骨2、左上腕骨、左橈骨、第五中手骨の11点が出土している。C-100区から背甲、腹甲3、左脛骨の5点、D-100区から背甲、腹甲、縁骨板2、腰椎、右上腕骨、左第三指基節骨、左第二指中節骨など10点の合計41点が出土している。貝集中#1から腹甲1点が検出されている。一括からはA・B-99区から中手骨、B-99区から中手骨、C-99区から腹甲、D-99区から左前頭骨、縁骨板の各1点が出土している。C・D-99・100区から頭蓋、肋骨、指骨の各1点、A-100区から腹甲と大腿骨の2点、B-100区から縁骨板と大腿骨の2点、C-100区から縁骨板2点、寛骨、脛骨の４点が出土している。F-100区から腹甲、小骨片など3点、G-100区から頸椎1点、H-100区から腹甲、左上腕骨の2点、B・C-100・101区から寛骨1点がみられる。B-101区から腹甲1点、E-101区からは頭蓋、腹甲など4点が出土している。

ヘビは土坑のG・H-102区と貝集中#3のH-102区から椎骨が各１点検出されている。

（3）魚類

集石のAa-99区から小骨片1点、貝集中#2のD-99区から右上顎骨1点、C-100区から鰓条骨と小骨片の各1点、貝集中#3のG-102区から鰭条棘2点、G・H-102区から小骨片1点、H-102区から右上顎骨1点の合計4点が出土している。貝集中#4のH-102区から小骨片1点、一括からはC-100区から小骨片1点、E-100区から上顎骨1点、F-100区から鰭条棘1点、小骨片2点、J-100区から鰭条棘1点、H-102区から小骨片4点の出土である。

（4）甲殻類

貝集中#2のC-99区からカニの鉗脚1点が出土している。

25年度

（1）鳥類

ピットからはQ-99区から左烏口骨1点、R-99区から右大腿骨1点、W-99区から左脛骨1点、Q-100区から左尺骨と右中足骨が各1点、不明区から左橈骨1点の合計6点が出土している。土坑のI-96区から左尺骨と左脛骨の2点が、焼土跡のQ-97区からは右大腿骨1点がみられる。貝だまり5のK-98区から左上腕骨、左大腿骨など3点、貝だまり6のJ-98区からは右中手骨1点、貝だまり8と9の間のH-98区から左中手骨1点、貝だまり9のH-98区から右上腕骨と左脛骨の2点、貝だまり11のJ-96区から左橈骨、左尺骨、右中手骨、右脛骨の4点が出土している。獣骨集中③からはJ-96・97区から小骨片1点が検出されている。一括からはJ-96区から烏口骨、橈骨、尺骨など10点が、I-98区から小骨片2点が、K-98区から左大腿骨1、小骨片2、M-98区から左大腿骨1と小骨片1点が出土している。SD06からはJ-97区から小骨片1、K-97区から左尺骨１、SD10からはJ-96区から右尺骨1と小骨片1、K-96区から左烏口骨、左上腕骨、左尺骨、左大腿骨など13点が出土している.

（2）爬虫類

すべてウミガメの骨である。ピットからはT-96区から左橈骨、左尺骨の2点、Q-97区から背甲、指骨の2点、H-98区から腹甲1点、L-98区から縁骨板1、腹甲7の8点、M-98区から腹甲2点、肋骨1点、K-99区から縁骨板1点、Q-99区から腹甲、右上腕骨の2点、Q-100区から腹甲1点、不明区から背甲、腹甲、縁骨板、左烏口骨など5点の合計25点が出土している。土坑のP-99区から小骨片1点、集積のJ-99区から腹甲1点、ドットからはJ-98区から腹甲1点、M-98区から背甲2点、I-99区から腹甲1点が検出されている。貝だまり4のL-96区から肋骨1点、腹甲2点、貝だまり5からはK-97区から縁骨板1点、K-97・98区から小骨片1点、K-98区から背甲5点、縁骨板2点、大腿骨1点が出土している。貝だまり6のJ-98区から背甲、腹甲、縁骨板、橈骨など36点が出土し、貝だまり7のI-98区からは背甲、腹甲、小骨片2の4点、貝だまり8からはH・I-98区から背甲、右尺骨、右脛骨の3点、I-98区から背甲5点の合計8点が出土している。貝だまり8と9の間のH-98区から腹甲、左第二中手骨の2点、貝だまり9のH-98区から背甲1点、貝だまり11のJ-96区から背甲2点、腹甲2点、縁骨板2点、右上腕骨1点の合計7点が出土している。一括からはJ-96区から背甲、腹甲、右上腕骨、小骨片など26点、I-98区から背甲、腹甲、橈骨など71点、J-98区から背甲3点、K-98区から背甲1、腹甲1、縁骨板1、小骨片10の合計13点、L-98区から右上腕骨1点、M-98区からは背甲、腹甲、縁骨板など73点が出土し、L-99区から腹甲1点がみられ、合計で211点出土している。SD06からはJ-96区から背甲1、K-96区から背甲2、腹甲2、J-97区から上腕骨1点の6点が出土している。SD10からはJ-96区から縁骨板1、I-97区から腹甲1、I・J-97区から小骨片１、J-97区から縁骨板1、背甲1の5点が出土している。

（3）魚類

ピットからはH-98区とI-98区から小骨片各1点、土坑からはI-96区から小骨片2点、J-96区から鰭条棘1点、I-98区から小骨片1点、N-101区から鰭条棘1点の合計5点、ドットからはK-96区から小骨片1点、M-98区から右鰓蓋骨1点が検出されている。貝だまり5からはK-97区から鰓条骨1点、K-98区から小骨片17点の合計18点が、貝だまり6のJ-98区から小骨片16点、貝だまり7のI-97区、貝だまり8と9の間のH-98区から小骨片各1点、貝だまり11のJ-96区から顎骨１、小骨片14の合計15点が出土している。獣骨集中③のJ-96・97区から小骨片1点、SD06のI-97区から小骨片2点、SD10からはI-97区とJ-97区から小骨片が各1点検出されている。

4. 考　察

川尻遺跡は昭和24年度と25年度に発掘調査され、出土した動物は哺乳類、鳥類、爬虫類魚類および甲殻類のものであるが、本報告では特に哺乳類を中心に動物種と出土量を明らかにした。

まず、哺乳類の出土状況を年度別にみると、平成24年度が2,633.2g（骨片数383点）、平成25年度が32,418.3g（骨片数4255点）である。また、発掘遺構別に出土骨片数をみると、24年度では一括遺構が155点で最も多く、次いで貝集中#2が73点である。平成25年度は一括遺構が1,375点で

第51表　川尻遺跡の24年度調査区別・動物別出土骨量

種 / 遺構	哺乳類								鳥　類	爬虫類	魚　類	甲殻類	合　計
	ネズミ	イ　ヌ	イノシシ	ウ　シ	クジラ	イルカ	ジュゴン	小　計					
集石		7.8	101.1		12.0			120.9	0.7		0.2		121.8
		3	16		1			20	2		1		23
土坑 SK		9.7	66.4		8.6			84.7	1.8	86.1			172.6
		3	21		2			26	2	11			39
SD-2			1.2					1.2					1.2
			1					1					1
SD-3		15.6						15.6					15.6
		1						1					1
ピット SP			1.2	22.3				23.5					23.5
			1	1				2					2
貝集中 #2	0.1	2.8	448.8		12.8		12.1	476.6	1.5	265.8	1.5	5.7	751.1
	1	2	67		2		1	73	4	41	3	1	122
貝集中 #3		1.5	171.5					173.0	2.1	0.1	1.0		176.2
		1	53					54	4	1	4		63
貝集中 #4		0.4	49.4					49.8			0.3		50.1
		1	17					18			1		19
貝集中 #5			8.0					8.0					8.0
			3					3					3
貝集中 #1			55.0	598.2				653.2		7.7			660.9
			9	15				24		1			25
一　括	0.1	7.0	825.5	67.3	124.3	2.5		1026.7	2.0	152.4	2.4		1183.5
	1	3	148	4	3	2		161	5	28	10		204
合　計	0.2	44.8	1728.1	687.8	157.7	2.5	12.1	2633.2	8.1	512.1	5.4	5.7	3164.5
	2	14	336	20	8	2	1	383	17	82	19	1	502

＊上段：重量（g）　下段：骨片数

最も多く、次いでSD07の543点、SD10の408点、SD06の338点、ドットの241点、獣骨集中③の237点、貝だまり5の203点、貝だまり11の195点、貝だまり6の170点、ピットの152点、獣骨集中②143点などであり、両年度共に一括遺構からの出土が多い。

出土した動物種は、24年度はネズミ、イヌ、イノシシ、ウシ、クジラ、イルカおよびジュゴンの5目7種で、25年度調査はネズミ、イヌ、ネコ、イノシシ、ウシ、ヤギ、ウマおよびクジラの5目8種である。これらのうち出土量が多いのはイノシシとウシである。

縄文時代の人々は、一般に狩猟や漁労、採集などを中心に生活していたと言われており、本遺跡でも縄文後～晩期からはイノシシの出土量の多いことから、イヌを伴侶として狩猟が行われていたことが想像される。一方、本遺跡の古代から中世の遺構、遺物からは、イノシシ、ウシやウマの遺体が出土することから当時の人々は、イノシシ猟を行いながらウシ、ウマを飼育し、農耕を主体とした生活をしていたことがうかがわれる。また、出土量は極めて少ないが、クジラ、イルカおよびジュゴンなども狩猟していたことが想像される。

本遺跡のイノシシは、骨の大きさや形態からリュウキュウイノシシ系統のイノシシと推測され、縄文時代に奄美諸島などから持ち込まれたものが15世紀頃も繁殖しており、狩猟の対象にされ食料として利用されていたのであろう。

ヤギは僅か3点の出土であり、大きさ的にはトカラヤギのような小型のヤギであったと思われる。

一方、イヌは伴侶動物として、ネコは愛玩用として飼われていたと考えられ、イヌの出土例数は少ないが、体高40㎝以下の小型犬とそれ以上の中型犬であり、番犬や狩猟犬として飼われていたことが想像される。

ネズミは平成24年度から2点、平成25年度から52点が検出されているが、その大きさはドブネズミとクマネズミタイプの大きさである。当時の人々がネズミを食していたかはわからないが、多くは後世の混入とも考えられる。

ウシのわが国への渡来時期は、古墳時代以降であると言われ、本遺跡のウシも多くは中世のものと推測され、繁殖に供しながら飼育して農耕や運搬に使役し、一部は食料として利用していたことが考えられる。また、当時の喜界町の大ウフ遺跡や先山遺跡からもウシの出土がみられ、それらの体高は123㎝前後の雄と115㎝位の雌のものであり、本遺跡のウシもほぼ同じ大きさであることから、恐らく日本在来牛である見島牛や口之島野生化牛と同じ体形をしていたことが想像される。

喜界馬はトカラ馬の元祖とされ、戦前には4千頭も飼育されていたが、昭和になりその数が減り、消滅したと言われている。しかし、この馬がどこから渡来したかは明らかにされていない。15世紀の川尻遺跡から78点の骨片が出土しているが、それらの推定体高は125㎝前後と116㎝位であり、ウマは大きさに有意な雌雄差がないことから、小型馬と中型馬が存在していたことが示唆された。これらは同時代の九州の遺跡から出土したものと同じタイプであり、恐らく朝鮮半島を経由して渡来した日本在来馬である御崎馬や対州馬と同じ系統に由来すると思われる。なお、喜界馬の起源系統については、各遺構から出土した骨と埋葬された仔馬の骨のミトコンドリアDNAを鑑定することで明らかにすることが可能になるだろう。

5.　まとめ

川尻遺跡は、喜界町川尻にあり、県営畑地総合整備事業に

第52表　川尻遺跡の25年度調査区別・動物別出土骨量

遺構＼種	哺乳類									鳥類	爬虫類	魚類	合計
	ネズミ	イヌ	ネコ	イノシシ	ウシ	ヤギ	ウマ	クジラ	小計				
ピット SP	0.4	3.8	25.3	263.0	605.8		181.7		1080.0	6.4	117.0	1.2	1204.6
	2	3	38	78	23		8		152	6	25	2	185
土坑 SK	1.5		9.1	116.5	242.2		344.3		713.6	0.8	0.6	1.7	716.7
	9		7	46	10		27		99	2	1	5	107
焼土跡 ST				3.5	80.9				84.4	0.7			85.1
				3	2				5	1			6
集石				13.3	232.0		27.0		272.3		1.6		273.9
				2	9		2		13		1		14
ドット				1459.2	4123.8		243.6	1345.2	7171.8		38.3	1.6	7211.7
				91	144		4	2	241		4	2	247
貝だまり 1				9.3					9.3				9.3
				4					4				4
貝だまり 2				9.4					9.4				9.4
				1					1				1
貝だまり 3				23.7					23.7				23.7
				7					7				7
貝だまり 4				25.9					25.9		12.7		38.6
				12					12		3		15
貝だまり 5				1481.0					1481.0	1.2	30.2	5.1	1517.5
				203					203	3	10	18	234
貝だまり 6	1.0			485.5	7.3				493.8	0.2	69.2	6.5	569.7
	2			166	2				170	1	36	16	223
貝だまり 7				51.0					51.0		2.5	0.1	53.6
				20					20		4	1	25
貝だまり 8				71.4					71.4		16.7		88.1
				25					25		8		33
貝だまり 8 と 9 の間				9.6					9.6	0.4	8.3	0.6	18.9
				4					4	1	2	1	8
貝だまり 9				47.3					47.3	1.5	1.7		50.5
				13					13	2	1		16
貝だまり 10				72.8					72.8				72.8
				17					17				17
貝だまり 11	1.4			982.4	72.5		6.8		1063.1	1.5	31.5	11.4	1107.5
	3			189	2		1		195	4	7	15	221
獣骨集中①			0.1	6.4	54.1				60.6				60.6
			1	3	26				30				30
獣骨集中②				1.7	1273.5		44.7		1319.9				1319.9
				1	141		1		143				143
獣骨集中③	0.1			1.8	2220.7				2222.6	0.1		1.1	2223.8
	1			1	235				237	1		1	239
一括	1.3	21.1	1.7	2761.2	984.3				3769.6	9.5	436.3		4215.4
	4	10	1	1309	51				1375	17	211		1603
SD06	2.0	3.8	2.3	292.7	3602.5	5.5	486.7	54.7	4450.2	1.1	35.0	0.3	4486.6
	14	1	1	52	257	2	9	2	338	2	6	2	348
SD07				49.3	3245.8				3295.1				3295.1
				7	536				543				543
SD10	3.4	6.5	4.1	695.4	3424.0	7.2	479.3		4619.9	5.8	23.9	0.9	4650.5
	19	3	2	127	230	1	26		408	15	5	2	430
合計	11.1	35.2	42.6	8933.3	20169.4	12.7	1814.1	1399.9	32418.3	29.2	825.5	30.5	33303.5
	54	17	50	2381	1668	3	78	4	4255	55	324	65	4699

＊上段：重量（g）　下段：骨片数

伴う調査で、喜界町教育委員会が平成24年度と25年度に調査を行ったもので、24年度は縄文後期～晩期、25年度は古代兼久式土器（9～10世紀）、中世（15世紀）の遺物が出土している。動物遺体は哺乳類、鳥類、爬虫類、魚類、甲殻類が検出されているが、今回は主として哺乳類遺体の出土状況や出土骨について調査を行った。

1）平成24年度の調査では、出土した動物遺体の総重量は、3,164.5ｇ（骨片数502点）で、哺乳類が22,633.2g（383点）で最も多く、爬虫類が512.1g（82点）、鳥類が8.1ｇ（17点）魚類が5.4g（19点）甲殻類5.7g（1点）である。遺構別骨片数は一括遺構が203点で最も多く、次いで貝集中#2の122点、貝集中#3の63点、土坑の39点、貝集中#1の25点、集積の23点であり、他は少ない（第51表参照）。

2）出土した哺乳類は、ネズミ、イヌ、イノシシ、ウシ、クジラ、イルカ、ジュゴンの5目7種で、出土した骨片数は、イノシシが336点で最も多く、次いでウシが20点、イヌ14点、クジラ8点、ネズミとイルカが2点、ジュゴンが1点である。

3）イノシシは出土量も多く食料として利用されており、その大きさは小型で、形状はリュウキュウイノシシに類似している。ウシは縄文期のものではなく後世のもと思われ、推定体高は雄で124㎝前後と雌で115㎝位であり、日本在来牛とほぼ同じ大きさである。イヌは伴侶動物として飼われていたことは明らかであるが、ネズミは後世の混入とも考えられ、クジラ、イルカ、ジュゴンは食料として利用されたものであろう。

4）平成25年度の調査では、動物遺体の総重量は、33,303.5ｇ（骨片数4,699点）で、哺乳類が32,418.3g（4,255点）

で最も多く、爬虫類が825.5g（324点）、魚類が30.5g（65点）、鳥類が29.2g（55点）である。遺構別骨片数は一括遺構が1,603点で最も多く、次いでSD07が543点、SD10が430点、SD06が348点、獣骨集中③が239点、貝だまり5が234点と続いている（第52表参照）。

5）出土した哺乳類は、ネズミ、イヌ、ネコ、イノシシ、ウシ、ヤギ、ウマ、クジラの5目8種で、出土した骨片数は、イノシシが2,381点で最も多く、次いでウシが1,668点、ウマ78点、ネズミ54点、ネコ50点、イヌ17点、クジラ4点、ヤギ3点である。

6）イノシシは最も多く食料として利用されてたものであり、その大きさと形状はリュウキュウイノシシに類似している。ウシは農耕や運搬に使役され、また食料としても利用されており、その推定体高は雄で124㎝前後、雌で115㎝位であり、日本在来牛とほぼ同じ大きさである。ウマも運搬などに使役されていたことが考えられ、その推定体高は125前後と116㎝位であり、中型馬と小型馬が存在していたことが示唆される。

7）イヌは伴侶動物として、ネコは愛玩動物として飼われていたことは明らかであるが、ネズミは後世の混入とも考えられる。また、ヤギやクジラは食料とされたものであろう。なお、鳥類や魚類は小骨片のため種の同定を出来なかったが、爬虫類のウミガメが多いことは本遺跡の特徴である。

参考文献

1. Driesch, A: A guide to the measurement of animal bones from archaeological sites. Pub. Peabody Museum, Harvard Univ., USA, pp. 1-137 (1976)
2. 林田重幸・山内忠平：馬における骨長より体高の推定法，鹿大農学術報告，4，70-77（1957）
3. 鹿児島県立埋文センター：和早地遺跡，鹿児島県埋蔵文化センター発掘調査報告書（119）43-56（2008）
4. 喜界町教育委員会：先山遺跡，喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（1），36-37（1987）
5. 喜界町教育委員会：提り遺跡，喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（6），39（1987）
6. 喜界町教育委員会：大ウフ遺跡，喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（12），173-178（2013）
7. 喜界町教育委員会：半田遺跡，喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（12），298-300（2013）
8. 喜界町教育委員会：中増遺跡I，喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（16），59-70(2015)
9. 喜界町教育委員会：崩り遺跡I，喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（16），87-121(2015)
10.並河鷹夫:遺伝学より見た牛の家畜化と系統史，日畜会報、51（4），235-246（1980）
11.西中川駿・松元光春他：イヌの骨計測値から骨長ならびに体高の推定法，動物考古学（25），1-11（2008）
12.西中川駿・松元光春他：ウシの骨計測値から骨長ならびに体高の推定法，動物考古学（34），21-32（2017）
13.西中川駿・松元光春他：ウマの骨計測値から骨長ならびに体高の推定法-体高推定への応用-，動物考古学（37），21-29（2020）
14. 西中川駿先生古希記念論集刊行会：遺跡から出土する動物たち，pp.1-97，南九州縄文研究会（2011）
15. 野沢　謙：東亜と日本在来馬の起源と系統，日本ウマ科学会誌，3（1），1-18（1992）
16. 宮崎国雄：日本在来馬，喜界島は馬の大産地だった，ホースメイト，49，15-17（2006）
17. 芝田清吾：日本古代家畜史の研究，pp.190-293，学術出版会（1969）
18. 在来家畜研究会編:アジアの在来家畜，pp.117-159，名古屋大学出版会　(2009)

第53表　川尻遺跡の遺構・調査区別動物遺体の出土状況(H24年度調査)（1）

遺　構	調査区	層	動物種	部　位	点数	重量
SX06	Aa99	①	イヌ	L 上腕骨 1	1	5.6
			イノシシ	L 肩甲骨 2、R 肩甲骨 1、R 第三中足骨 1	4	11.6
			魚類	小骨片 1	1	0.2
		①	イノシシ	R 肩甲骨 1	1	8.9
		③	イノシシ	胸椎 1、	1	4.4
		白砂	イノシシ	L 肩甲骨 1	1	4.6
		黒色	クジラ	骨片 1	1	12.0
SX05	A100	①	イヌ	R 第四中足骨 1	1	0.5
		黒褐色	イノシシ	R 橈骨 1	1	2.3
SX13	C100	③	イノシシ	R 下顎骨 1	1	6.6
SX07		④	イノシシ	L 橈骨 1	1	2.5
SX14		④	イノシシ	小骨片 1	1	0.6
SX13		一括	イノシシ	L 肋骨 1	1	3.1
SX37	D100	④ a	イノシシ	R 大腿骨 1	1	16.3
SX04 周辺	A101	白砂上面	イノシシ	R 上腕骨 1	1	9.4
SX04	B101	①	鳥類	R 上腕骨 1	1	0.4
		黒色	鳥類	R 脛骨 1	1	0.3
SX27	C101	①	イヌ	L 肩甲骨 1	1	1.7
			イノシシ	L 第三中足骨 1	1	3.1

第54表　川尻遺跡の遺構・調査区別動物遺体の出土状況(H24年度調査)（２）

遺　構	調査区	層	動物種	部　位	点数	重量
SX19	北側	①	イノシシ	L 上腕骨 1	1	27.7
SK18	C99	一括	イヌ	L 脛骨 1	1	5.8
			イノシシ	R 肋骨 1、R 肩甲骨 1、L 大腿骨 1、R 大腿骨 2、L 脛骨 1、	6	12.2
			ウミガメ	腹甲 2	2	13.2
	C・D99	一括	イノシシ	L 第三指基節骨 1	1	3.6
			ウミガメ	縁骨板 1	1	11.1
	C100	一括	イノシシ	胸椎 1、L 肩甲骨 1	2	12.8
SK15	D99	Ⅱb	ウミガメ	腹甲 1 、L 上腕骨 1	2	26.4
SK14		Ⅱc	イヌ	L 上腕骨 1	1	1.5
			イノシシ	L 橈骨 1	1	2.8
			クジラ	小骨片 1	1	3.7
SK15		Ⅱd	ウミガメ	腹甲 1 、肩甲骨 1、	2	2.7
SK16		Ⅱe	イノシシ	R 肋骨 1、L 大腿骨 1、R 大腿骨 1、L 脛骨 1、R 腓骨 1、R 第二中足骨 1、小骨片 1	7	15.4
			クジラ	小骨片 1	1	4.9
			鳥類	R 脛骨 1	1	1.0
		Ⅱe 褐色砂	ウミガメ	L 大腿骨 1	1	10.2
SK01	B100	白砂	イヌ	L 寛骨 1	1	2.4
			鳥類	小骨片 1	1	0.8
SK10	B101	一括	イノシシ	L 脛骨 1	1	2.2
SK06	C101	Ⅳ白砂	イノシシ	L 尺骨 1	1	6.2
SK03	A102	Ⅲ	ウミガメ	腹甲 1	1	8.6
SK08	B102	①	イノシシ	L 上腕骨 1	1	1.3
SK11	D102	Ⅰ	イノシシ	環椎 1	1	9.9
SK04	A102・103	Ⅳ白砂	ウミガメ	腹甲 1	1	13.8
SK12	G・H102	貝集中区３	ヘビ	椎骨 1	1	0.1
SD02	不明	一括	イノシシ	小骨片 1	1	1.2
SD03	B100	一括	イヌ	R 下顎骨 1	1	15.6
SP003	F102	一括	イノシシ	小骨片 1	1	1.2
SP094	不明	不明	ウシ	L 中足骨 1	1	22.3
貝集中２	C99	Ⅱc	ネズミ	R 脛骨 1	1	0.1
			イノシシ	L 類骨 1、L 下顎骨 1、R 下顎骨 1、L 下顎犬歯 1、胸椎 1、仙骨 1、L 肋骨 1、L 肩甲骨 1、R 肩甲骨 2、L 上腕骨 1、R 橈骨 3、L 尺骨 1、R 尺骨 2、L 第五中手骨 1、L 大腿骨 1、L 脛骨 3、R 脛骨 1、L 第三中足骨 1、L 第三趾基節骨 1、小骨片 1	26	181.2
			鳥類	R 橈骨 1、R 大腿骨 1	2	0.4
			ウミガメ	背甲 5、腹甲 7、肋骨 2、L 腓骨 1	15	67.2
			甲殻類	鉗脚 1	1	5.7
	D99	Ⅱc	イヌ	R 橈骨 1	1	1.6
			イノシシ	L 下顎犬歯 1、L 上腕骨 1、R 上腕骨 1、R 橈骨 1、R 尺骨 1、L 寛骨 1、L 脛骨 2、R 脛骨 1、小骨片 2	11	73.3
			クジラ	骨片 1	1	7.6
			ジュゴン	橈骨 1	1	12.1
			ウミガメ	背甲 2、腹甲 1、肋骨 1、縁骨板 1、L 肩甲骨 2、L 橈骨 1、第五中手骨 1	9	53.6
		Ⅱd	イノシシ	R 橈骨 1、R 大腿骨 2	3	17.9
			ウミガメ	腹甲 1	1	2.7
		Ⅱe 褐色砂	イノシシ	仙骨 1、L 寛骨 1、L 脛骨 1	3	9.6
			ウミガメ	L 上腕骨 1	1	26.1
			魚類	R 上顎骨 1	1	1.2
	C100	Ⅱc	イノシシ	L 下顎骨 2、R 下顎犬歯 1、環椎 1、R 肩甲骨 2、L 上腕骨 1、R 上腕骨 1、小骨片 3	11	94.3
			鳥類	R 脛骨 1	1	0.8
			ウミガメ	背甲 1 、腹甲 2、L 脛骨 1	4	11.9
			魚類	鰯条骨 1、小骨片 1	2	0.3
		Ⅱd 暗褐色砂	イノシシ	L 頭頂骨 1、R 肋骨 1、L 腓骨 2	4	8.3
			ウミガメ	腹甲 1	1	3.3
	D100	Ⅱc	イヌ	L 第五中手骨 1	1	1.2
			イノシシ	L 上腕骨 1、L 橈骨 2、L 尺骨 1、L 第五中手骨 1、L 脛骨 1、R 脛骨 1、R 腓骨 1、L 踵骨 1	9	64.2
			クジラ	骨片 1	1	5.2
			鳥類	末節骨 1	1	0.3
			ウミガメ	腰椎 1、背甲 1、腹甲 1、縁骨板 2、R 上腕骨 1、L 第三指基節骨 1、L 第二指中節骨 1、指（趾）骨 2	10	101.0
貝集中３	G102	不明	イノシシ	L 下顎骨 1、L 肋骨 1、R 肋骨 3、R 肩甲骨 2、L 上腕骨 1、R 第三中手骨 1、L 大腿骨 1、R 脛骨 1	11	28.2
			鳥類	L 上腕骨 1、R 尺骨 2、R 脛骨 1	4	2.1
			魚類	鰭条棘 2	2	0.6
	G・H102	不明	イヌ	L 橈骨 1	1	1.5
			イノシシ	環椎 1、頸椎 6、胸椎 2、腰椎 1、L 肋骨 6、R 肋骨 8、L 上腕骨 1、L 橈骨 1、R 尺骨 1、L 大腿骨 1、L 脛骨 1、R 脛骨 2、R 距骨 2、小骨片 1	34	106.1
			魚類	小骨片 1	1	0.3
	H102	不明	イノシシ	胸椎 1、R 肋骨 1、R 肩甲骨 1、L 上腕骨 1、L 尺骨 1、L 寛骨 1、L 大腿骨 1、L 脛骨 1	8	37.2
			ヘビ	椎骨 1	1	0.1
			魚類	R 上顎骨 1	1	0.1
貝集中４	H102	不明	イヌ	R 尺骨 1	1	0.4
			イノシシ	R 下顎骨 2、L 下顎第二切歯 1、R 下顎第二切歯 2、環椎 2、頸椎 1、胸椎 1、仙骨 1、R 上腕骨 1、L 橈骨 1、L 大腿骨 1、小骨片 4	17	49.4
			魚類	小骨片 1	1	0.3
貝集中５	G102	不明	イノシシ	R 下顎骨 1、L 上腕骨 1、R 中心足根骨 1	3	8.0
貝集中 #1	A100	Ⅱ	イノシシ	R 肋骨 1、L 橈骨 1、L 第四中手骨 1、L 大腿骨 1、L 脛骨 1、R 脛骨 1、小骨片 1	7	47.5
	A・B100	Ⅱ	イノシシ	L 上腕骨 1	1	6.7

第55表　川尻遺跡の遺構・調査区別動物遺体の出土状況(H24年度調査)（３）

遺　構	調査区	層	動物種	部　位	点数	重量
貝集中 #1	不明	貝集中	イノシシ	R 肋骨 1	1	0.8
			ウシ	L 前頭骨 1、L 上顎骨 1、L 頬骨 1、L 涙骨 1、胸椎 1、腰椎 3、L 肋骨 2、R 肋骨 1、L 上腕骨 1、L 寛骨 1、L 大腿骨 1、L 第四趾中節骨 1、	15	598.2
			ウミガメ	腹甲 1	1	7.7
	A・B99	Ⅱb 礫	ウミガメ	中手骨 1	1	4.9
	B99	Ⅳ白砂	ウミガメ	中手骨 1	1	2.8
	C99	Ⅱd・e	イノシシ	R 下顎第一乳切歯 1、R 大腿骨 1	2	4.0
		Ⅱ	ウミガメ	腹甲 1	1	5.8
	D99	Ⅱc	ウミガメ	L 前頭骨 1、縁骨板 1	2	6.7
	E99	Ⅰ黒褐色	ウシ	肋骨 1、L 大腿骨 1	2	3.4
	C99・100	Ⅱd	イノシシ	L 上腕骨 1	1	25.1
	C・D99・100	Ⅱd	ネズミ	R 尺骨 1	1	0.1
			イノシシ	R 下顎骨 2、L 下顎犬歯 1、腰椎 2、L 肋骨 2、R 肋骨 1、L 肩甲骨 1、R 上腕骨 1、L 橈骨 1、R 尺骨 2、R 寛骨 1、L 大腿骨 2、R 大腿骨 1、L 脛骨 2、R 脛骨 2、L 踵骨 2、小骨片 2	25	116.9
			鳥類	L 中手骨 1	1	0.3
			ウミガメ	頭蓋 1、肋骨 1、指骨 1	3	21.9
	A100	Ⅰ黒褐色	イノシシ	R 上腕骨 1、L 踵骨 1、小骨片 1	3	36.7
		Ⅱb 礫	イノシシ	R 大腿骨 1	1	8.3
			ウミガメ	大腿骨 1	1	13.5
		Ⅱ	ウミガメ	腹甲 1	1	9.2
		白砂	クジラ	骨片 1	1	114.6
	B100	Ⅲ砂質暗褐色	鳥類	L 脛骨 1	1	0.2
			ウミガメ	縁骨板 1、大腿骨 1	2	9.8
	B・C100	Ⅳ白砂中	イノシシ	R 上腕骨 1	1	17.9
			鳥類	L 烏口骨 1	1	0.4
	C100	Ⅱd	イノシシ	L 下顎犬歯 1	1	2.8
		Ⅳ白砂	イノシシ	R 下顎骨 1、仙骨 1、L 橈骨 1	3	11.5
			ウミガメ	縁骨板 1	1	12.6
		Ⅴ白砂下にぶい黄褐色砂	イノシシ	頸椎 1、胸椎 2、腰椎 3、L 肋骨 2、L 肋骨 1、L 上腕骨 1、R 尺骨 1、R 寛骨 1、R 大腿骨 1、L 脛骨 2	15	70.1
		Ⅴ下	イノシシ	L 肩甲骨 1、L 橈骨 1	2	5.5
		Ⅴ白砂下にぶい黄褐色	鳥類	L 尺骨 1、R 中手骨 1	2	1.1
		白砂	イノシシ	L 肋骨 1、L 尺骨 2、R 橈骨 1、L 第三中手骨 1、R 寛骨 1、R 大腿骨 2、小骨片 1	9	64.5
			ウミガメ	縁骨板 1、寛骨 1、脛骨 1	3	21.9
			魚類	小骨片 1	1	0.1
	D100	Ⅳ白砂直上	イノシシ	L 肋骨 1	1	0.7
		Ⅴ白砂下にぶい黄褐色土	イノシシ	R 下顎犬歯 1、胸椎 1、R 寛骨 1、L 大腿骨 1	4	6.0
		白砂	イノシシ	L 大腿骨 1、小骨片 1	2	3.5
	E100	Ⅰ黒褐色	イノシシ	L 肋骨 1、R 上腕骨 1	2	8.3
			ウシ	R 下顎骨 1	1	1.8
			魚類	上顎骨 1	1	0.1
	F100	Ⅰ黒褐色	イノシシ	R 切歯骨 1、L 下顎骨 1、R 下顎骨 2、下顎骨 1、L 下顎犬歯 1、胸椎 2、腰椎 1、L 肩甲骨 2、R 肩甲骨 1、R 上腕骨 1、L 橈骨 1、L 第四中手骨 1、L 大腿骨 1、L 脛骨 1、L 踵骨 1、小骨片 4	22	113.5
			ウミガメ	腹甲 1、小骨片 2	3	2.3
			魚類	小骨片 2	2	0.2
		Ⅲ砂質暗褐色	イノシシ	L 下顎骨 1、R 下顎骨 1、R 下顎第一乳切歯 1、L 肋骨 1、胸椎 1、腰椎 1、R 大腿骨 1、L 脛骨 1、R 脛骨 1、R 距骨 1	10	36.2
		Ⅲ	魚類	鰭条棘 1	1	0.3
	G100	Ⅰ黒褐色	ウミガメ	頸椎 1	1	1.8
	H100	Ⅰ黒褐色	イノシシ	L 肩甲骨 1	1	6.9
			ウミガメ	腹甲 1、L 上腕骨 1	2	25.8
	J100	Ⅱ	イノシシ	L 脛骨 1	1	1.2
			魚類	鰭条棘 1	1	0.5
	B・C100・101	Ⅱb	ウミガメ	寛骨 1	1	5.4
	B101	Ⅰ黒褐色	イノシシ	環椎 1	1	1.9
			ウミガメ	腹甲 1	1	2.6
		Ⅲ砂質暗褐色	イノシシ	R 上腕骨 1	1	13.2
	C101	Ⅱb 礫	イノシシ	R 大腿骨 1	1	1.3
	D101	Ⅱb 礫	イノシシ	R 肩甲骨 1	1	5.3
	E101	Ⅰ黒褐色	イノシシ	胸椎 1、腰椎 1、R 肋骨 1	3	3.0
			ウミガメ	頭蓋 1、腹甲 1、小骨片 1	3	4.6
		Ⅱb 礫	ウミガメ	腹甲 1	1	1.3
		Ⅲ砂質暗褐色	イノシシ	L 踵骨 1	1	9.3
	F101	Ⅰ黒褐色	イノシシ	R 下顎犬歯 1、R 上腕骨 2	3	35.1
		Ⅲ砂質暗褐色	イノシシ	L 第三中足骨 1	1	6.6
	G101	Ⅰ黒褐色	イヌ	R 脛骨 1	1	4.4
			イノシシ	L 尺骨 1	1	6.1
	H101	Ⅰ黒褐色砂質	イノシシ	L 上顎犬歯 1、R 寛骨 1、小骨片 1	3	1.9
	A102	Ⅰ黒褐色	イノシシ	L 上腕骨 1	1	27.5
		Ⅲ砂質暗褐色	ウシ	L 脛骨 1	1	62.1
	D102	Ⅲ砂質暗褐色	イノシシ	R 下顎骨 1	1	0.8
	E102	Ⅱb 礫	イノシシ	R 上腕骨 1	1	3.2
	F102	Ⅲ砂質暗褐色	クジラ	小骨片 2	2	9.7

第56表　川尻遺跡の遺構・調査区別動物遺体の出土状況(H24年度調査)（4）

遺　構	調査区	層	動物種	部　位	点数	重量
	F・G102	Ⅰb	イヌ	R 橈骨 1、R 大腿骨 1	2	2.6
			イルカ	L 肋骨 2	2	2.5
	H102	Ⅰb	イノシシ	L 側頭骨 1、軸椎 1、頸椎 3、胸椎 1、R 肩甲骨 1、L 上腕骨 1、R 上腕骨 1、R 橈骨 1、L 第三中手骨 1、R 寛骨 2、L 大腿骨 1、L 脛骨 3、R 脛骨 2、R 踵骨 1、R 第四中足骨 1、小骨片 3	24	164.0
			魚類	小骨片 4	4	1.2
	東から 20-30m	Ⅲ砂質？	イノシシ	R 尺骨 1	1	9.4

第57表　川尻遺跡の遺構・調査区別動物遺体の出土状況(H25年度調査)（1）

遺構番号	ドット	調査区	層	動物種	部　位	点数	重量
SP712		H96	N	イノシシ	L 第四中足骨 1	1	3.4
SP735		I96	N	イヌ	R 上顎第二切歯 1	1	0.3
SP734, 804				イノシシ	L 第四中足骨 1、L 第三中足骨 1	2	12.3
SP771			O	イノシシ	R 踵骨 1	1	5.4
SP39			不明	イノシシ	小骨片 1	1	0.4
SP848		J96	O	イノシシ	小骨片 1	1	0.2
SP44			不明	イヌ	腰椎 1	1	2.5
SP151		O96	不明	イノシシ	R 下顎骨 1、	1	11.4
SP79		T96	D	イノシシ	胸椎 1	1	1.1
				ウマ	L 第二手根骨 1	1	1.7
				ウミガメ	L 橈骨 1、L 尺骨 1	2	26.5
SP713, 894		H97	N	イノシシ	L 下顎第二切歯 1、R 上腕骨 1	2	4.1
SP798			O	イノシシ	R 第三指基節骨 1	1	2.6
SP1418		I97	N	イヌ	L 第四中手骨 1	1	1.0
SP818				イノシシ	R 肋骨 1	1	1.2
SP888			O	イノシシ	L 橈骨 1	1	2.5
SP1186		J97	O	イノシシ	R 肩甲骨 1	1	0.7
SP1134			不明	イノシシ	R 前頭骨 1、L 脛骨 1	2	1.9
SP598		L97	N	イノシシ	L 脛骨 1	1	8.3
SP403			O	イノシシ	L 第四中手骨 1	1	0.8
SP638		Q97	P	ウシ	L 脛骨 1	1	30.7
SP289			R	イノシシ	腰椎 1	1	1.3
SP290				ウミガメ	背甲 1、指骨 1	2	24.9
SP955, 1179		H98	N	イノシシ	R 尺骨 1、R 第四中手骨 1	2	12.8
SP1090			O	イノシシ	L 肋骨 1	1	1.2
				ウミガメ	腹甲 1	1	5.7
				魚類	小骨片 1	1	0.5
SP1195		I98	B	イノシシ	胸椎 1、腰椎 2、R 肋骨 1、R 大腿骨 1	5	17.2
				魚類	小骨片 1	1	0.7
SP1029, 1056			N	イノシシ	L 上腕骨 1、中手骨 1、小骨片 1	3	10.1
SP1025			R	ウマ	L 脛骨 1	1	16.7
SP1287		J98	O	イノシシ	L 肋骨 1	1	0.8
SP1285		K98	O	イノシシ	L 第四中足骨 1	1	2.6
SP70		L98	不明	イノシシ	肋骨 1	1	0.3
				ウミガメ	縁骨板 1、腹甲 7	8	13.0
SP72		M98	Ⅱ	イノシシ	L 橈骨 1、R 橈骨 1、R 脛骨 2	4	42.5
			Ⅲ	ウミガメ	腹甲 2	2	4.3
			黄褐色砂混じ	イノシシ	R 上顎骨 1、L 上顎第一後臼歯 1、L 肋骨 1、R 上腕骨 1、R 第五中手骨 1、L 寛骨 1、L 脛骨 1、小骨片 4	11	17.5
				ウミガメ	肋骨 1	1	1.1
SP647		Q98	R	イノシシ	小骨片 1	1	0.6
SP1113,1044,1050		H99	O	イノシシ	胸椎 2、R 橈骨 1、L 大腿骨 1、R 脛骨 1	5	28.9
SP 不明		I99	不明	イノシシ	R 大腿骨 1	1	7.0
				ウシ	L 大腿骨 1	1	162.1
SP1384		J99	N	イノシシ	L 下顎骨 1	1	1.3
SP1263			O	イノシシ	R 前頭骨 1	1	0.8
SP1424,1483		K99	O	イノシシ	頸椎 1、肋骨 1	2	5.3
SP573			R	ウミガメ	縁骨板 1	1	2.9
SP411		M99	N	ネズミ	L 上腕骨 1	1	0.2
SP431, 433				イノシシ	L 踵骨 2	2	6.3
SP292		Q99	O	ネズミ	R 上腕骨 1	1	0.2
SP228				鳥類	L 烏口骨 1	1	1.2
SP216				ウミガメ	腹甲 1	1	2.2
SP453			P	イノシシ	胸椎 1	1	1.1
				ウシ	腰椎 1、L 肋骨 1	2	5.7
SP452			R	ウミガメ	R 上腕骨 1	1	8.0
SP266, 267		R99	O	イノシシ	第七頸椎 1、R 第三趾基節骨 1、L 脛骨 1	3	4.7
SP275				ウシ	R 肋骨 1、L 中足骨 1	2	66.1
SP267				ウマ	R 第二中手骨 1	1	3.4
SP380			P	イノシシ	R 大腿骨 1	1	12.1
				ウシ	L 中足骨 1	1	80.4
SP269, 382			R	イノシシ	L 肋骨 1、小骨片 1	2	5.1
SP269				鳥類	R 大腿骨 1	1	1.2

第58表　川尻遺跡の遺構・調査区別動物遺体の出土状況(H25年度調査)（２）

遺構番号	ドット	調査区	層	動物種	部　位	点数	重量
SP374		W99	P	イノシシ	R 第二中手骨 1	1	0.5
				ウシ	R 寛骨 1	1	4.8
SP375			R	鳥類	L 脛骨 1	1	1.3
SP1556		I100	O	イノシシ	胸椎 1	1	2.9
SP220		Q100	O	ウシ	L 肋骨 1、L 脛骨 1、R 脛骨 1、L 踵骨 1	4	38.0
SP219			P	鳥類	L 尺骨 1	1	0.4
SP454			R	ウシ	L 上腕骨 1	1	3.4
				鳥類	R 中足骨 1	1	1.9
				ウミガメ	腹甲 1	1	3.8
SP231			不明	ウシ	L 肋骨 1	1	1.6
SP232		R100	P	ネコ	頭蓋 1、下顎骨 2、頸椎 7、胸椎 10、腰椎 1、仙椎 1、肩甲骨 2、上腕骨 2、橈骨 2、尺骨 2、R 第二中手骨 1、R 第四中手骨 1、R 大腿骨 1、脛骨 2、L 踵骨 1、L 第三中足骨 1、L 第四中足骨 1	38	25.3
				イノシシ	L 脛骨 1	1	0.5
SP443		W100	R	イノシシ	頭蓋 1	1	11.8
				ウシ	R 肋骨 1	1	15.0
SP373		X100	R	ウマ	L 脛骨 1	1	17.0
SP92		不明	Ⅰ黄土砂	鳥類	L 橈骨 1	1	0.4
SP509, 1533			O	イノシシ	L 第三中手骨 1、小骨片 1	2	8.1
SP223			R	イノシシ	頸椎 1、胸椎 1	2	2.0
				ウシ	L 脛骨 1、L 第四趾基節骨 1	2	15.0
				ウマ	胸椎 1、L 肋骨 1	2	23.0
				ウミガメ	背甲 1、腹甲 1、L 烏口骨 1、縁骨板、小骨片 1	5	24.6
SP53			一括	ウシ	R 側頭骨 1、仙骨 1、R 上腕骨 1、L 橈骨 1、L 寛骨 1、L 大腿骨 1	6	183.0
SP532, 1276			不明	イノシシ	R 上腕骨 1、小骨片 1	2	1.4
SP53				ウマ	R 橈骨 1、R 第四中足骨 1	2	119.9
SK41・42		I96	不明	ネコ	LR 上顎骨 2、L 前頭骨 1、L 側頭骨 1、L 尺骨 1、L 脛骨 1、L 踵骨 1	7	9.1
SK41, 41・42				イノシシ	L 上顎骨 1、胸椎 2、R 肩甲骨 2、L 橈骨 1、R 第三指基節骨 1、L 第四指基節骨 1 、L 第四指中節骨 1、L 脛骨 1	10	33.0
SK 4 1				ウシ	L 肩甲骨 1	1	11.9
SK41, 41・42				ウマ	L 鼻骨 1、胸椎 1、R 肋骨 1、R 橈骨 1、L 尺側手根骨 1、L 副手根骨 1、L 第３中手骨 1、L 寛骨 1、R 大腿骨 3、L 踵骨 1、L 距骨 1、R 中心足根骨 1、R 第三足根骨 1、L 第三中足骨 1、L 第四中足骨 1、L 後肢末節骨 1	18	212.4
SK41・42				鳥類	L 尺骨 1、L 脛骨 1	2	0.8
SK41, 41・42				魚類	小骨片 2	2	0.7
SK45		J96	Q	イノシシ	L 下顎第二後臼歯 1、R 下顎第三後臼歯 1	2	8.8
SK46			R	イノシシ	胸椎 1、L 肩甲骨 1	2	2.4
				ウマ	R 肋骨 1	1	1.5
SK45			断 - ③・④	ウシ	R 肋骨 2	2	7.0
				魚類	鰭条棘 1	1	0.3
			断 - ⑦	イノシシ	R 上腕骨 1	1	1.7
			断 - ⑩	イノシシ	R 上顎骨 1、環椎 1	2	8.7
			不明	ネズミ	L 脛骨 1	1	0.3
				イノシシ	L 下顎骨 1、R 下顎骨 1、R 脛骨 1	3	4.3
				ウシ	R 上顎第一後臼歯 1、L 下顎第三後臼歯 1	2	13.4
				ウマ	L 中足骨 1	1	1.0
SK41		I97	不明	ウマ	胸椎 1	1	7.7
SK43		K97	Ⅱ	ウシ	L 尺骨 1	1	12.4
				ウマ	後頭骨 1	1	4.2
SK22		V97	D	イノシシ	胸椎 1、L 肋骨 2、L 肩甲骨 1、L 上腕骨 1、R 橈骨 1、R 尺骨 1、L 大腿骨 1、R 大腿骨 1	9	25.0
SK19		I98	不明	イノシシ	L 鼻骨 1、L 切歯骨 1、L 肩甲骨 1、L 脛骨 1、R 脛骨 1、R 腓骨 1	6	5.1
				ウシ	L 肋骨 1、R 肩甲骨 1、小骨片 1	3	39.1
				ウマ	L 肋骨 2	2	2.6
				魚類	小骨片 1	1	0.4
SK36		O・P99	Ⅳ白砂	イノシシ	仙骨 1、L 上腕骨 1、R 寛骨 2	4	8.2
SK26, 34		P99	不明	ネズミ	R 下顎骨 1、環椎 1、L 上腕骨 1、R 上腕骨 2、L 下腿骨 1、R 第三中足骨 1	7	0.9
SK23				イノシシ	R 肩甲骨 1	1	10.3
				ウシ	L 大腿骨 1	1	158.4
SK26				ウマ	R 肋骨 1	1	3.2
SK23				ウミガメ	小骨片 1	1	0.6
SK27		Q99	P	イノシシ	胸椎 1	1	2.1
円形土坑 (集石 51)		N101	不明	イノシシ	胸椎 1、R 肋骨 2、小骨片 2	5	6.9
				ウマ	L 寛骨 2	2	111.7
				魚類	鰭条棘 1	1	0.3
SK30		不明	不明	ネズミ	L 下顎骨 1	1	0.3
ST4		K94	不明	ウシ	R 上腕骨 1	1	8.2
ST5		J97	不明	イノシシ	L 肩甲骨 1	1	0.7
ST8		Q97	不明	鳥類	R 大腿骨 1	1	0.7
ST6		I98	不明	イノシシ	小骨片 1	1	1.0
ST7		O98	Ⅱ赤埋 C	イノシシ	L 下顎骨 1	1	1.8
				ウシ	R 肩甲骨 1	1	72.7
集石 55		I96	Ⅲ	ウシ	R 頭蓋 1、環椎 1、第 7 頸椎 1、L 肋骨 1、R 肋骨 1、L 肩甲骨 1、第二･三手根骨 1、R 中足骨 1、L 第三趾末節骨 1	9	232.0
集石 48		J98・99	不明	イノシシ	L 橈骨 1	1	6.1
集石 2		J99	Ⅳ・Ⅴ	イノシシ	R 大腿骨 1	1	7.2
集石 2				ウミガメ	腹甲 1	1	1.6

第59表　川尻遺跡の遺構・調査区別動物遺体の出土状況(H25年度調査)（3）

遺構番号	ドット	調査区	層	動物種	部　位	点数	重量
集石 51		N99・100	不明	ウマ	腰椎 1、R 後肢近位種子骨 1	2	27.0
	ドット	J96	Ⅳ	イノシシ	胸椎 2	2	2.1
	ドット	K96	Ⅳ	ウシ	R 尺骨 1、R 第三指基節骨 1	2	47.5
	ドット			魚類	小骨片 1	1	0.5
	ドット	L96	Ⅳ	イノシシ	R 肩甲骨 1、L 上腕骨 1、小骨片 1	3	10.9
	ドット			ウシ	頸椎 1、胸椎 4、腰椎 1、尾椎 1、L 肋骨 6、R 肋骨 3、L 肩甲骨 1、L 寛骨 1、寛骨 1	19	226.1
	ドット	M96	Ⅳ	イノシシ	R 肩甲骨 1、小骨片 4	5	5.8
	ドット			ウシ	頸椎 6、胸椎 10、腰椎 8、仙骨 7、尾椎 5、L 肋骨 24、R 肋骨 4、胸骨 1、L 肩甲骨 1、R 肩甲骨 2、L 上腕骨 3、R 上腕骨 3、R 前腕骨 2、L 尺骨 1、L 橈骨 1、R 橈骨 2、R 橈側手根骨 1、R 中間手根骨 1、R 尺側手根骨 1、L 寛骨 2、R 寛骨 5、L 大腿骨 1、小骨片 1	92	2163.8
	ドット	H97	Ⅳ	ウシ	軸椎 1、R 大腿骨 1	2	142.4
	ドット	I97	Ⅳ	イノシシ	胸椎 1	1	2.7
				ウシ	R 頭蓋 2、頸椎 1、胸椎 3、腰椎 1、L 肋骨 3、R 肋骨 2、R 肩甲骨 1、L 寛骨 1、L 大腿骨 1、R 大腿骨 2、L 脛骨 1、R 脛骨 2、R 距骨 1	21	821.0
				ウマ	L 肋骨 1、L 上腕骨 1、L 前腕骨 1	3	171.3
				クジラ	L 第三中手骨 1	1	1215.6
	ドット	J97	Ⅳ	ウシ	L 下顎骨 1、R 前腕骨 2、R 尺骨 1、R 中手骨 1、L 大腿骨 1、L 脛骨 1、L 踵骨 1	8	720.8
				ウマ	L 寛骨 1	1	72.3
	ドット	K97	Ⅳ	イノシシ	R 下顎骨 1、R 橈骨 1	2	55.6
	ドット	M97	Ⅳ	イノシシ	L 下顎骨 1	1	38.3
	ドット	H98	Ⅳ	イノシシ	R 下顎骨 2、腰椎 1、R 橈骨 1	4	81.3
	ドット	H・I98	Ⅳ	イノシシ	L 上腕骨 1、L 寛骨 1、L 大腿骨 1、L 脛骨 1、R 脛骨 1	5	153.7
	ドット	I98	Ⅳ	イノシシ	R 上顎骨 1、L 肋骨 1、R 尺骨 1	3	17.6
	ドット	I・J98	Ⅳ	イノシシ	胸椎 1、L 前腕骨 1、L 踵骨 1	3	33.2
	ドット	J98	Ⅳ	イノシシ	L 下顎骨 1、L 下顎第三後臼歯 1、R 肋骨 1、L 肩甲骨 1、R 上腕骨 2、L 尺骨 1、L 第三中手骨 1、L 大腿骨 1、L 脛骨 3、R 踵骨 1、L 中心足根骨 1、R 第三中足骨 1	15	128.9
	ドット			ウミガメ	腹甲 1	1	6.1
	ドット	L98	Ⅳ	イノシシ	L 頭蓋 1、L 下顎犬歯 1、環椎 1、胸椎 1、R 肩甲骨 1、R 前腕骨 1、R 橈骨 1、L 大腿骨 1、R 第三中足骨 1	9	82.2
	ドット	M98	Ⅳ	イノシシ	L 頭蓋 2、R 頭蓋 2、L 上顎骨 1、L 下顎骨 3、R 下顎骨 2、L 下顎犬歯 1、R 下顎犬歯 2、環椎 2、胸椎 1、腰椎 1、R 肋骨 1、L 橈骨 1、L 尺骨 3、R 尺骨 2、R 第二中手骨 1、L 第三指基節骨 1、L 大腿骨 1、R 大腿骨 3、L 脛骨 1、R 脛骨 1、R 第三中足骨 2、L 第四中足骨 1	35	609.0
	ドット			クジラ	胸椎 1	1	129.6
	ドット			ウミガメ	背甲 2	2	26.2
	ドット			魚類	R 鰓蓋骨 1	1	1.1
	ドット	I99	Ⅳ	ウミガメ	腹甲 1	1	6.0
	ドット	K99	Ⅳ	イノシシ	頭蓋 1	1	142.0
	ドット	不明	Ⅳ	イノシシ	L 大腿骨 1	1	32.5
貝だまり 1	1427	I99	Ⅳ	イノシシ	頸椎 1、腰椎 1、L 肋骨 1、L 橈骨 1	4	9.3
貝だまり 2	1274	I99	Ⅳ	イノシシ	L 肩甲骨 1	1	9.4
貝だまり 3	1520	M98	Ⅳ	イノシシ	R 切歯骨 1、R 下顎骨 1、頸椎 1、R 上腕骨 1、R 橈骨 1、L 脛骨 1、R 第四中足骨 1	7	23.7
貝だまり 4	1583	L96	Ⅳ	イノシシ	R 下顎骨 2、頸椎 1、胸椎 1、R 肋骨 1、R 上腕骨 1、R 寛骨 1、L 脛骨 2、R 踵骨 1、L 第四足根骨 1、L 第五趾基節骨 1	12	25.9
貝だまり 4				ウミガメ	肋骨 1、腹甲 2	3	12.7
貝だまり 5	ドット	K97	Ⅳ	イノシシ	L 下顎骨 5、R 下顎骨 1、腰椎 1、L 尺骨 1、R 第三指中手骨 2、R 寛骨 1、L 大腿骨 1、R 大腿骨 1、L 腓骨 1	14	162.0
				ウミガメ	縁骨板 1	1	8.4
				魚類	鰓条骨 1	1	0.1
		K97・98	Ⅳ	イノシシ	L 頭蓋 1、R 前頭骨 1、L 下顎骨 2、R 下顎骨 1、L 下顎第一切歯 1、R 下顎第二後臼歯 1、R 下顎第三後臼歯 1、胸椎 1、R 肩甲骨 1、L 上腕骨 4、R 上腕骨 1、L 橈骨 1、R 橈骨 1、R 尺骨 1、R 第二中手骨 1、R 第五中手骨 1、R 第三指基節骨 2、R 第四指中節骨 1、L 脛骨 1、R 脛骨 1、L 踵骨 1、R 踵骨 1、L 距骨 2、L 第二中足骨 1、L 第三中足骨 1、L 第四中足骨 1、R 第五中足骨 1、小骨片 4	37	105.3
				ウミガメ	小骨片 1	1	1.2
		J98	Ⅳ	イノシシ	胸椎 2、L 肩甲骨 1、R 肩甲骨 1、R 前腕骨 1、L 尺骨	6	38.4
		K98	Ⅳ	イノシシ	頭蓋 2、L 頭蓋 1、L 前頭骨 2、R 前頭骨 1、L 側頭骨 1、R 頬骨 1、L 鼻骨 1、R 上顎骨 5、下顎骨 2、L 下顎骨 12、R 下顎骨 13、L 下顎第一切歯 1、L 下顎第二切歯 2、L 下顎犬歯 1、L 下顎第二後臼歯 1、環椎 2、軸椎 1、胸椎 6、腰椎 2、仙骨 1、L 肋骨 6、R 肋骨 6、L 肩甲骨 1、R 肩甲骨 2、L 上腕骨 3、R 上腕骨 1、R 前腕骨 1、R 橈骨 4、L 尺骨 2、R 尺骨 2、L 第二中手骨 1、L 第三中手骨 1、R 第三中手骨 1、L 第四指基節骨 1、L 寛骨 3、R 寛骨 2、L 大腿骨 4、R 大腿骨 8、L 脛骨 5、R 脛骨 5、R 腓骨 1、R 踵骨 1、R 第二中足骨 1、L 第三中足骨 4、R 第三中足骨 4、L 第四中足骨 1、小骨片 16	146	1213.7
				鳥類	L 上腕骨 1、L 大腿骨 1、小骨片 1	3	1.2
				ウミガメ	背甲 5、縁骨板 2、大腿骨 1	8	20.6
				魚類	小骨片 17	17	5.0
貝だまり 6	ドット	J98	Ⅳ	ネズミ	下顎骨、大腿骨	2	1.0
				イノシシ	R 頭蓋 1、L 前頭骨 1、L 上顎骨 1、R 上顎骨 3、L 頭頂骨 3、R 頭頂骨 1、L 側頭骨 1、R 後頭骨 1、鋤骨 1、R 上顎犬歯 1、L 下顎骨 10、R 下顎骨 4、R 下顎第一切歯 1、L 下顎第二切歯 2、R 下顎第二切歯 1、L 下顎第三切歯 1、L 下顎犬歯 1、R 下顎犬歯 2、L 下顎第三前臼歯 1、L 下顎第三後臼歯 2、環椎 2、胸椎 9、腰椎 6、L 肋骨 2、R 肋骨 3、L 肩甲骨 1、R 肩甲骨 3、L 上腕骨 5、R 上腕骨 8、R 橈骨 1、L 尺骨 4、R 尺骨 1、L 第二中手骨 1、R 第二中手骨 1、L 第三中手骨 1、R 第三中手骨 1、L 第四中手骨 2、L 第三指基節骨 1、R 第三指基節骨 1、R 第四指基節骨 1、L 寛骨 1、R 寛骨 4、L 大腿骨 14、R 大腿骨 8、L 脛骨 3、R 脛骨 4、L 踵骨 1、R 踵骨 1、L 距骨 2、R 距骨 1、L 第四足根骨 1、R 第四足根骨 1、L 第二中足骨 1、R 第二中足骨 1、R 第三中足骨 3、L 第四中足骨 1、R 第三趾基節骨 1、小骨片 26	166	485.5
				ウシ	上顎骨 1、第二・三手根骨 1	2	7.3
				鳥類	R 中手骨 1	1	0.2

第60表　川尻遺跡の遺構・調査区別動物遺体の出土状況(H25年度調査)（4）

遺構番号	ドット	調査区	層	動物種	部　位	点数	重量
貝だまり 6	ドット	J98	Ⅳ	ウミガメ	背甲、腹甲、縁骨板、橈骨	36	69.2
				魚類	小骨片 16	16	6.5
			一括	イノシシ	鋤骨 1、R 頭頂骨 1、R 上顎犬歯 1、L 下顎骨 1、胸椎 1、R 肋骨 1、R 肩甲骨 1、L 第三中手骨 1、R 寛骨 1、小骨片 1	10	23.0
貝だまり 7		I97	Ⅳ	イノシシ	L 下顎犬歯 1、頸椎 1、L 肋骨 3、R 肋骨 1、R 上腕骨 1、L 第四指基節骨 1、R 大腿骨 1、L 脛骨 1、R 第三中足骨 2	12	38.1
				魚類	小骨片 1	1	0.1
		I98	Ⅳ	イノシシ	R 下顎骨 2、環椎 1、L 肩甲骨 1、R 第二中手骨 1、L 第三中手骨 1、L 寛骨 1、L 脛骨 1	8	12.9
				ウミガメ	背甲 1、腹甲 1、小骨片 2	4	2.5
貝だまり 8		H・I98	Ⅳ	イノシシ	R 肩甲骨 1、L 第四中手骨 1、L 腓骨 1、L 踵骨 1、L 距骨 1	5	9.7
				ウミガメ	背甲 1、R 尺骨 1、R 脛骨 1	3	12.4
		I98	Ⅳ	イノシシ	L 頭頂骨 1、R 切歯骨 1、L 下顎骨 2、L 下顎第一切歯 1、R 下顎犬歯 1、L 下顎第二後臼歯 1、環椎 1、胸椎 1、R 肋骨 2、R 尺骨 3、L 大腿骨 1、R 脛骨 1、R 踵骨 1、L 第三中足骨 1、L 第四中足骨 1、L 第五中足骨 1	20	61.7
				ウミガメ	背甲 5	5	4.3
貝だまり 8 と 9 の間		H98	Ⅳ	イノシシ	R 肋骨 1、R 肩甲骨 1、R 寛骨 1、L 脛骨 1	4	9.6
				鳥類	L 中手骨 1	1	0.4
				ウミガメ	腹甲 1、L 第二中手骨 1	2	8.3
				魚類	小骨片 1	1	0.6
貝だまり 9	ドット	H98	Ⅳ	イノシシ	L 頭蓋 1、R 側頭骨 1、R 下顎骨 1、R 下顎第一切歯 1、L 下顎第二切歯 1、L 橈骨 1、R 尺骨 1、L 第四中手骨 1、L 大腿骨 3、R 大腿骨 1、L 第二中足骨 1	13	47.3
				鳥類	R 上腕骨 1、L 脛骨 1	2	1.5
				ウミガメ	背甲 1	1	1.7
貝だまり 10		K97	Ⅳ	イノシシ	L 後頭骨 1、R 下顎骨 3、R 下顎犬歯 1、L 肋骨 3、胸椎 5、腰椎 1、L 上腕骨 1、R 前腕骨 1、R 寛骨 1	17	72.8
貝だまり 11		J96	Ⅳ	ネズミ	R 大腿骨 1、	1	0.6
				イノシシ	R 上顎骨 1、R 下顎骨 1、環椎 1、胸椎 1、胸骨 1、L 肋骨 5、R 肋骨 8、L 肩甲骨 2、R 肩甲骨 7、R 上腕骨 8、L 橈骨 1、R 尺骨 1、R 第二中手骨 1、L 第三中手骨 1、R 第三中手骨 1、L 寛骨 1、R 大腿骨 2、L 脛骨 3、R 脛骨 2、L 踵骨 1、L 距骨 1、小骨片 1	51	389.7
				ウシ	L 中手骨 1	1	61.5
				鳥類	R 脛骨 1	1	0.2
				ウミガメ	背甲 1、縁骨板 1	2	9.1
				魚類	小骨片 2	2	1.4
	ドット		一括	ネズミ	R 大腿骨 1、R 下腿骨 1	2	0.8
				イノシシ	R 切歯骨 1、R 上顎骨 1、L 頭頂骨 1、後頭骨 1、R 上顎第二前臼歯 1、L 下顎骨 1、R 下顎骨 3、下顎骨 1、R 下顎第三後臼歯 2、環椎 1、軸椎 2、頸椎 4、胸椎 14、腰椎 11、仙骨 2、L 肋骨 9、R 肋骨 15、L 肩甲骨 5、R 肩甲骨 6、L 上腕骨 3、R 上腕骨 5、L 橈骨 2、L 尺骨 2、R 尺骨 2、R 第三中手骨 1、L 第三指基節骨 1、L 第三指中節骨 1、L 第三指末節骨 1、L 寛骨 1、R 寛骨 4、L 大腿骨 4、R 大腿骨 3、L 脛骨 4、R 脛骨 2、R 腓骨 2、R 踵骨 1、R 距骨 1、L 中心足根骨 2、L 第四足根骨 1、L 第三趾中節骨 1、小骨片 13	138	592.7
				ウシ	R 脛骨 1	1	11.0
				ウマ	L 脛骨 1	1	6.8
				鳥類	L 橈骨 1、L 尺骨 1、R 中手骨 1	3	1.3
				ウミガメ	背甲 1、腹甲 2、縁骨板 1、R 上腕骨 1	5	22.4
				魚類	顎骨 1、小骨片 12	13	10.0
獣骨集中①		Q100	一括	ネコ	L 第三中手骨 1	1	0.1
				イノシシ	R 肋骨 1、L 肩甲骨 2	3	6.4
				ウシ	胸椎 3、R 上腕骨 1、L 脛骨 1、小骨片 21	26	54.1
獣骨集中②	ドット	I97	一括	イノシシ	胸椎 1	1	1.7
				ウシ	頭蓋骨片 44、L 下顎骨 11、切歯骨 7、L 舌骨 1、R 下顎骨 1、第一頸椎 1、第二頸椎 1、頸椎 1、胸椎 2、腰椎 30、R 肋骨 2、L 肩甲骨 5、R 肩甲骨 20、L 橈骨 2、R 橈骨 3、R 尺骨 3、L 中手骨 1、R 中手骨 1、L 第二・三手根骨 1、L 第四手根骨 1、L 脛骨 1、R 踵骨 1、R 中心第四足根骨 1	141	1273.5
				ウマ	L 橈骨 1	1	44.7
獣骨集中③	ドット	J96・97	ドット	イノシシ	L 肋骨 1	1	1.8
				ウシ	頭蓋骨片 40、L 上顎第二後臼歯 1、切歯骨片 18、第一頸椎 1、第二頸椎 1、胸椎 2、L 肋骨 9、R 肋骨 13、肋骨 40、肋軟骨 11、L 肩甲骨 8、R 肩甲骨 13、R 前腕骨 1、L 尺骨 1、R 第三指基節骨 2、L 寛骨 6、R 寛骨 1、L 大腿骨 8、R 大腿骨 7、L 脛骨 2、小骨片 10	195	2173.9
			一括	ネズミ	R 脛骨 1	1	0.1
				ウシ	舌骨 1、腰椎 1、肋軟骨 2、L 肩甲骨 2、R 第三指末節骨 1、R 大腿骨 1、小骨片 32	40	46.8
				鳥類	小骨片	1	0.1
				魚類	小骨片	1	0.1
		I96	Ⅵ白砂	イヌ	L 上顎犬歯 1、L 下顎第一、二後臼歯 2、L 大腿骨 1	4	6.3
		J96	Ⅳ	イノシシ	LR 頭蓋骨 5、R 上顎犬歯 1、L 下顎骨 2、R 下顎第一切歯 1、L 下顎犬歯 1、L 下顎第二後臼歯 1、頸椎 3、胸椎 5、L 肋骨 8、R 肋骨 8、胸骨柄 1、L 肩甲骨 2、L 上腕骨 1、R 上腕骨 1、L 尺骨 3、R 尺骨 2、L 第三中手骨 1、L 第四中手骨 1、L 寛骨 2、R 寛骨 1、L 大腿骨 2、L 脛骨 3、L 腓骨 2、L 踵骨 2、R 踵骨 1、L 距骨 1、R 第二中足骨 1、L 第四趾基節骨 1、小骨片 105	171	485.5
				ウシ	R 下顎第三後臼歯 1、胸椎 4、L 肋骨 2、L 脛骨 1	8	154.9
				鳥類	烏口骨、橈骨、尺骨、小骨片	10	4.4
				ウミガメ	背甲、腹甲、R 上腕骨、小骨片	26	82.3
			Ⅴ	イヌ	R 後頭骨 2、R 大腿骨 1	3	5.2
				イノシシ	仙骨 1、L 第三中手骨 1	2	9.2
		K96	Ⅵ白砂	イノシシ	下顎骨片 10、小骨片 4	14	9.9
	ドット	L96	Ⅳ	イノシシ	L 尺骨 1	1	12.1
		K97	Ⅵ白砂	イノシシ	L 上顎骨 4、R 上顎第三後臼歯 1	5	16.8
	ドット	M97	Ⅳ	イノシシ	L 上腕骨 1	1	28.1

第61表　川尻遺跡の遺構・調査区別動物遺体の出土状況(H25年度調査)（5）

遺構番号	ドット	調査区	層	動物種	部　位	点数	重量
		I98	Ⅳ	イノシシ	LR 頭蓋骨片 10、R 側頭骨 1、L 上顎切歯 2、L 下顎骨 3、L 下顎切歯 6、R 下顎切歯 5、L 下顎犬歯 3、R 下顎犬歯 2、L 下顎臼歯 2、R 下顎臼歯 2、第一頚椎 6、胸椎 13、腰椎 6、尾椎 1、L 肋骨 27、R 肋骨 22、L 肩甲骨 2、R 肩甲骨 3、L 上腕骨 1、R 上腕骨 2、L 橈骨 1、R 橈骨 2、L 尺骨 2、R 尺骨 3、L 第三中手骨 2、R 第三中手骨 4、L 第四中手骨 3、R 第四中手骨 2、R 第五中手骨 1、LR 中手骨片 7、L 第三指基節骨 3、R 第三指基節骨 2、L 寛骨 1、R 寛骨 2、L 大腿骨 2、R 大腿骨 5、L 脛骨 2、R 脛骨 6、L 踵骨 2、R 踵骨 2、R 距骨 2、R 第四足根骨 3、L 第三中足骨 2、LR 中足骨片 6、L 第三趾基節骨 2、R 第三趾基節骨 1、L 第三趾骨末節骨 2、R 第三趾末節骨 2、小骨片 223	416	820.5
				鳥類	小骨片 2	2	1.4
				ウミガメ	背甲、腹甲、橈骨など	71	154.3
		J98	Ⅴ	イノシシ	L 下顎骨 1、L 大腿骨 1、小骨片 3	5	16.7
			Ⅴ白砂直上	イノシシ	下顎骨 1、腰椎 1、L 大腿骨 1	3	5.6
				ウミガメ	背甲 3	3	25.6
		K98	Ⅳ	イノシシ	L 頭蓋骨 1、R 上顎切歯 1、R 下顎骨 2、LR 下顎骨片 16、L 下顎犬歯 1、L 下顎切歯 3、L 下顎後臼歯片 3、R 下顎臼歯 2、第二頚椎 1、胸椎 3、腰椎 2、L 肋骨 4、R 肋骨 3、L 上腕骨 1、R 橈骨 1、L 尺骨 4、R 第二中手骨 1、R 第三中手骨 1、R 第四中手骨 1、R 第五中手骨 1、L 大腿骨 2、R 大腿骨 2、L 脛骨 1、L 腓骨 1、L 踵骨 3、R 踵骨 1、R 距骨 1、L 第三中足骨 1、L 第三趾基節骨 1、小骨片 68	133	346.3
				鳥類	L 大腿骨 1、小骨片 2	3	2.2
				ウミガメ	縁骨板 1、背甲 1、腹甲 1、小骨片 10	13	23.5
			Ⅴ白砂直上	ネズミ	R 下顎骨 1	1	0.3
				イノシシ	R 下顎骨 1	1	20.9
			Ⅳ白砂	イノシシ	胸椎 1	1	3.1
	ドット	L98	Ⅳ	イノシシ	R 下顎第一切歯 1、L 脛骨 1	2	3.7
				ウミガメ	R 上腕骨 1	1	26.6
	ドット	M98	Ⅳ	ネズミ	L 下顎骨 1、R 下顎骨 1、R 脛骨 1、	3	1.0
				イヌ	胸椎 1、R 上腕骨 1、L 脛骨 1	3	9.6
				イノシシ	LR 頭蓋骨片 10、R 後頭骨 1、L 上顎骨 2、R 上顎骨 4、L 上顎切歯 3、R 上顎切歯 2、R 上顎犬歯 1、L 下顎骨 3、R 下顎骨 4、L 下顎切歯 4、R 下顎切歯 3、R 下顎犬歯 1、L 下顎第三後臼歯 1、L 下顎第三後臼歯 1、R 下顎第三後臼歯 1、頚椎 15、胸椎 10、腰椎 7、L 肋骨片 68、L 肋骨 30、L 肩甲骨 5、R 肩甲骨 4、L 上腕骨 2、R 橈骨 1、L 尺骨 2、R 尺骨 2、L 第三手根骨 1、L 第四中手骨 1、R 第四中手骨 3、中手骨 7、L 第三指基節骨 2、LR 基節骨片 3、L 第三指中節骨 1、R 第三指中節骨 1、L 寛骨 1、L 大腿骨 1、R 大腿骨 1、L 脛骨 4、R 脛骨 3、L 膝蓋骨 1、L 踵骨 2、R 踵骨 2、L 距骨 1、R 距骨 1、L 第四足根骨 1、L 第三中足骨 2、R 第三中足骨 3、中足骨 7、L 第三趾基節骨 2、R 第三趾基節骨 2、L 第三趾中節骨 1、L 第三趾末節骨 1、小骨片 284	535	910.3
				鳥類	L 大腿骨 1、小骨片 1	2	1.5
				ウミガメ	縁骨板、背甲、腹甲など多数	73	128.4
	ドット	J99	Ⅳ	イノシシ	R 大腿骨 1	1	16.8
			Ⅴ白砂直上	イノシシ	第一頚椎 1	1	5.5
		K99	Ⅳ	ウシ	R 肩甲骨 1	1	2.1
	ドット	L99	Ⅳ	イノシシ	R 上顎第一切歯 1、R 上顎犬歯 1	2	9.2
				ウシ	L 脛骨 1	1	66.9
				ウミガメ	腹甲 1	1	2.0
			Ⅴ	イノシシ	R 肋骨 1、L 腓骨 1	2	1.7
	ドット	K100	Ⅴ	イノシシ	L 肩甲骨 1	1	8.6
				ウシ	L 肩甲骨 22、R 肩甲骨 5、R 脛骨 3	30	230.4
		M100	Ⅵ砂	イノシシ	R 肩甲骨 1	1	2.7
				ウシ	L 肋骨 1	1	1.5
	ドット	N100	Ⅴ	ネコ	R 大腿骨 1	1	1.7
				ウシ	L 肩甲骨 2、R 肩甲骨 1、L 橈骨 3、L 尺骨 1、L 脛骨 1	8	474.1
	ドット	K101	Ⅳ	ウシ	R 橈骨 1、R 脛骨 1	2	54.4
SD06		I96	a	イノシシ	胸椎 1、R 第五中手骨 1、小骨片 6	8	17.7
				ウシ	L 中間手根骨 1	1	6.2
		J96	埋土 j	ウシ	L 肋骨 2、L 橈骨 1、R 橈骨 1、R 尺骨 3、R 中手骨 1、R 第四指基節骨 1、L 大腿骨 1、L 中心第四足根骨 1、L 第四趾中節骨 1、小骨片 12	24	354.9
			a	ウシ	第七頚椎 1、L 肋骨 1、L 大腿骨 2、L 第三趾末節骨 1、小骨片 5	10	131.6
			b	イノシシ	R 下顎犬歯 1、L 肋骨 1、L 寛骨 1	3	10.3
				ウシ	R 尺骨 1、種子骨 1、小骨片 7	9	16.6
				ウミガメ	背甲 1	1	3.3
		K96	黒色土	ネズミ	R 上腕骨 1、R 寛骨 1、R 大腿骨 1、R 脛骨 1	4	0.4
				イノシシ	L 肩甲骨 2、R 橈骨 1、R 尺骨 2	5	33.8
				ウシ	L 頭蓋骨 3、L 下顎骨 1、第一頚椎 1、胸椎 2、L 肋骨 1、R 肋骨 1、L 肩甲骨 3、L 上腕骨 4、L 中手骨 2、R 中間手根骨 1、L 第三指基節骨 1、R 第四指基節骨 1、L 距骨 1、R 中足骨 1、L 第三趾基節骨 1、L 第三趾中節骨 2、R 第三趾末節骨 1、L 第四趾末節骨 1、小骨片 22	50	923.1
				ウミガメ	背甲、腹甲	3	12.6
			a	ネズミ	R 大腿骨 1	1	0.1
				ウシ	L 後頭骨 1、胸椎 1、L 第三指中節骨 1、R 第四指中節骨 1、R 寛骨 1、L 大腿骨 1、L 第三趾基節骨 1、R 第四趾中節骨 1、小骨片 17	25	140.8
				ウミガメ	腹甲 1	1	2.9
		J96・97	一括	イノシシ	胸椎 1、L 寛骨 2、L 大腿骨 3、R 脛骨 2、L 踵骨 1、小骨片 1	10	87.5
		K96・97	a	ウシ	R 肋骨 1	1	1.7
		H97	a	ウシ	頭蓋骨片 1、R 頬骨 1、L 上腕骨 1、L 尺骨 1、R 尺骨 1	5	26.4
				ヤギ	R 中手骨 1	1	3.5
			一括	イノシシ	L 尺骨 1、R 大腿骨 1	2	6.9
				ウシ	L 大腿骨 1	1	20.3

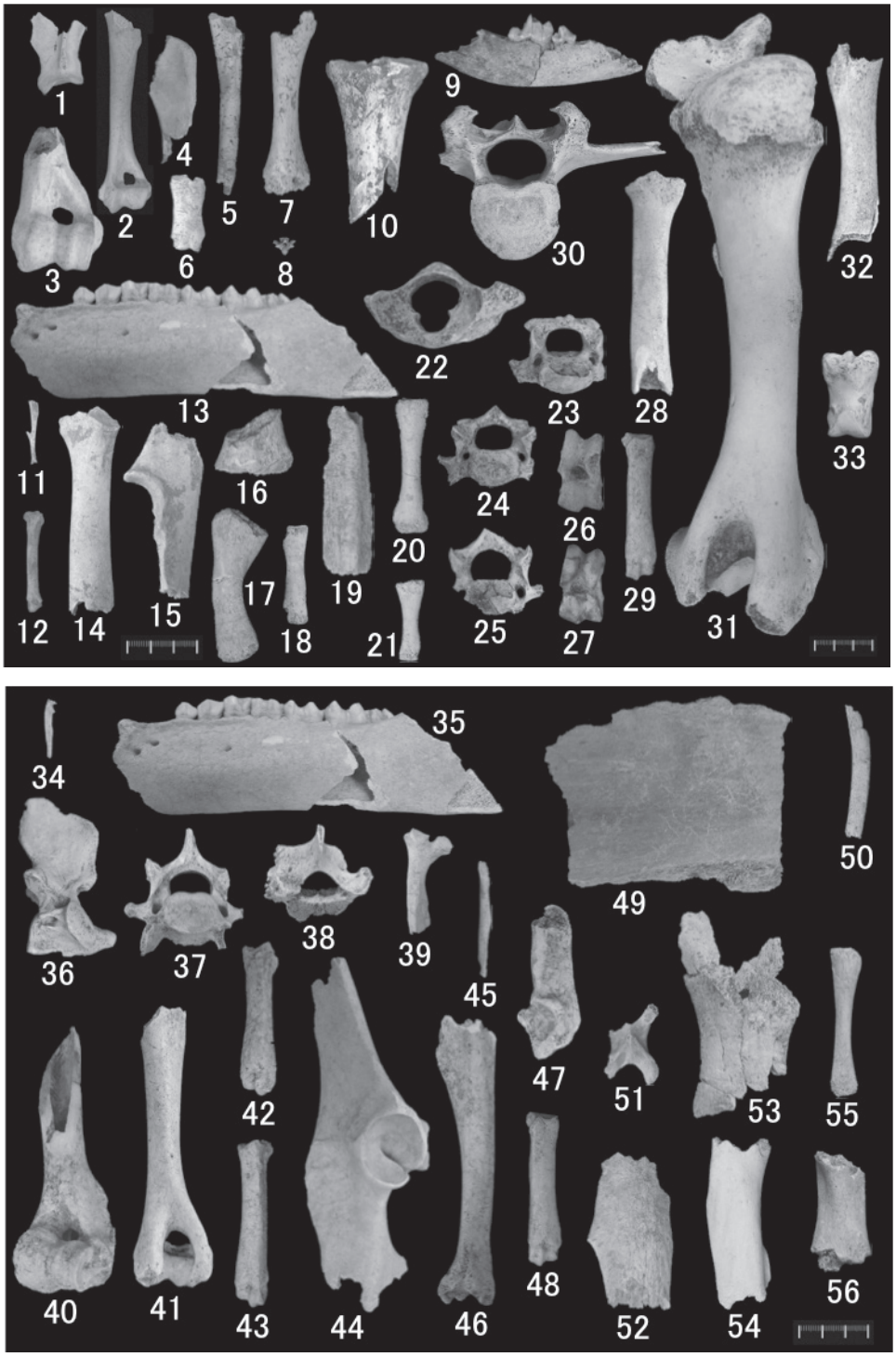
第62表　川尻遺跡の遺構・調査区別動物遺体の出土状況(H25年度調査)（6）

遺構番号	ドット	調査区	層	動物種	部　位	点数	重量
SD06		I97	a	クジラ	椎骨 1	1	42.7
			埋土	ウシ	L 後頭骨 1	1	13.7
			埋土 a	ウシ	L 後頭骨 1、L 下顎骨 1、L 下顎第二乳臼歯 1、L 下顎第三乳臼歯 1、R 肋骨 1、L 上腕骨 2、L 橈骨 2、R 橈骨 1、R 中手骨 1、R 第二・三手根骨 1、L 大腿骨 2、L 脛骨 2、L 第四趾中節骨 1、小骨片 15	32	265.1
			一括	ネコ	R 大腿骨 1	1	2.3
				イノシシ	L 上顎犬歯 1、L 第五中足骨 1	2	8.2
				ウシ	第一頸椎 1、第二頸椎 1、胸椎 2、L 肋骨 1、L 中手骨 1、R 大腿骨 1、L 第四趾中節骨 1、小骨片 10	18	295.8
				ウマ	L 第三指中節骨 1、L 踵骨 1、R 中足骨 1、R 第三趾基節骨 1、R 第三趾中節骨 1	5	133.0
				クジラ	椎骨 1	1	12.0
				魚類	小骨片 2	2	0.3
		J97	a	イノシシ	R 頭蓋骨 1、L 下顎骨 3、頸椎 1、R 肩甲骨 1、R 第三中足骨 2	8	58.7
				ウミガメ	上腕骨 1	1	16.2
			埋土 a	ウシ	R 下顎骨 1、R 下顎第三乳臼歯 1、腰椎 1、尾椎 1、L 肋骨 5、R 橈骨 1、R 第三指基節骨 1、R 寛骨 1、第四趾基節骨 1、小骨片 18	31	441.3
				鳥類	小骨片 1	1	0.5
			J	ウシ	L 下顎骨 1、R 肩甲骨 2、R 第三指中節骨 1、R 寛骨 1、L 脛骨 1、R 中足骨 1、L 第三趾末節骨 2、小骨片 10	19	349.3
				ウマ	R 脛骨 2、L 脛骨 2	4	353.7
			埋土 j	ウシ	R 肋骨 4、R 肩甲骨 3、R 上腕骨 1、R 中手骨 1、L 脛骨 3	12	346.9
			K	ネズミ	L 大腿骨 1、R 大腿骨 1	2	0.6
				イノシシ	頸椎 1、L 肋骨 1、R 肋骨 1、L 脛骨 1	4	38.7
		K97	埋土 a	ネズミ	R 大腿骨 1	1	0.1
				イノシシ	R 肋骨 1	1	3.3
				ウシ	R 中手骨 1、R 第三指中節骨 1、R 大腿骨 1、小骨片 5	8	108.8
			埋土 J	イノシシ	下 R 顎骨 1、L 肋骨 2、R 肋骨 1、L 第二中手骨 1、L 第三中足骨 1、L 第五中足骨 1	7	14.7
				ウシ	R 第三指基節骨 1、小骨片 7	8	29.4
				鳥類	L 尺骨 1	1	0.6
			V	ウシ	R 上腕骨 1、R 第二・三手根骨 1	2	130.6
			埋土一括	ネズミ	R 大腿骨 2	2	0.2
				ヤギ	R 肩甲骨 1	1	2.0
			サブトレ	ネズミ	R 大腿骨 1	1	0.1
				イノシシ	L 第四趾基節骨 1、小骨片 1	2	12.9
		O97	埋土 C 白砂	ネズミ	R 上腕骨 1、L 寛骨 1、R 大腿骨 1	3	0.5
				イヌ	L 大腿骨 1	1	3.8
SD07		P・Q97	記載なし	ウシ	頭蓋骨片 4、L 上顎第二前臼歯 1、L 上顎第三前臼歯 1、R 第三切歯 1、R 第四切歯 1、胸椎 5、L 肋骨 5、R 肋骨 3、R 肩甲骨 3、L 尺骨 1、R 尺骨 3、L 第三指基節骨 1、R 第三指基節骨 2、R 第三指末節骨 1、L 寛骨 1、R 寛骨 2、L 中足骨 3、L 第四趾基節骨 1、R 第四趾基節骨 1、L 第四趾中節骨 1、L 第四趾末節骨 1、R 第四趾末節骨 1、近位種子骨 3、遠位種子骨 2、小骨片 261	309	815.1
			V 黄土砂	ウシ	胸椎 1、R 肩甲骨 1、L 上腕骨 1、R 上腕骨 1、R 尺骨 1、L 寛骨 2、R 大腿骨 4、L 脛骨 1、L 中足骨 1、R 遠位種子骨 1、小骨片 38	52	957.1
			VI	イノシシ	L 後頭骨 1、小骨片 6	7	49.3
				ウシ	L 上腕骨 5、R 第三趾基節骨 1、R 第三趾骨中節骨 1、R 第三趾末節骨 1	8	189.5
			一括	ウシ	頭蓋骨 1、R 上顎骨 1、L 下顎骨 1、胸椎 4、腰椎 2、L 肋骨 2、L 上腕骨 1、L 橈骨 2、R 橈骨 3、L 尺骨 1、R 中手骨 1、L 寛骨 2、R 寛骨 1、L 大腿骨片 6、R 大腿骨 1、L 脛骨 1、R 脛骨 1、L 膝蓋骨 1、L 距骨 1、L 中心第四足根骨 1、R 第四趾基節骨 1、R 第三趾中節骨 1、R 第四趾中節骨 1、小骨片 63	100	760.3
		Q97	II 埋土 D	ウシ	第一頸椎 1、尾椎 1、L 肋骨 3、L 尺骨 1、R 中間手根骨 1、R 第二・三手根骨 1、R 第四指基節骨 1、近位種子骨 1、遠位種子骨 1、R 大腿骨 2、R 脛骨 2、L 踵骨 1、R 踵骨 1、R 距骨 1、R 果骨 1、R 中心第四足根骨 1、R 中足骨 1、小骨片 46	67	523.8
SD10		J96	断面 3	イノシシ	第二頸椎 1、L 上腕骨 1、L 脛骨 1	3	35.5
				鳥類	小骨片 1	1	0.2
			断面 3-2	ネズミ	L 大腿骨 2	2	0.5
				ウシ	R 中手骨 1、L 大腿骨 3	4	338.8
				鳥類	L 尺骨 1	1	0.1
			断面 3-3	イノシシ	R 上腕骨 1	1	4.7
			断面 3-4	ウシ	R 中間手根骨 1	1	9.0
			断面 3-5・6	イノシシ	R 大腿骨 1	1	3.1
				ウミガメ	縁骨板 1	1	7.8
			断面 3-10	イノシシ	L 下顎骨 1、R 肋骨 1、R 脛骨 1、	3	70.9
			断面 3-12	イノシシ	L 肩甲骨 1、小骨片 1	2	26.7
			断面 4-12	イノシシ	L 大腿骨 1	1	10.5
			断面 4-13	イノシシ	胸椎 3	3	6.7
			一　括	イノシシ	R 第五中手骨 1	1	2.6
				ウシ	R 橈骨 1、R 中手骨 1、小骨片 3	5	56.6
		J・K96	一括	ウシ	R 肋骨 3、小骨片 10	13	23.6

第63表　川尻遺跡の遺構・調査区別動物遺体の出土状況(H25年度調査)（7）

遺構番号	ドット	調査区	層	動物種	部　位	点数	重量
SD10		K96	断面 3-4	ネズミ	R 脛骨 1	1	0.2
				鳥類	L 烏口骨 1、L 上腕骨 1、L 尺骨 1、L 大腿骨 1、その他 9	13	5.5
			断面 4-3	イノシシ	脛骨 1	1	1.6
				ウシ	上腕骨 1、L 橈骨 1	2	22.4
			断面 4-4	ネズミ	L 大腿骨 1	1	0.3
			断面 4-5	イノシシ	R 大腿骨 1、R 第五中足骨 1	2	5.2
			断面 4 － 10	イヌ	L 上顎骨 1	1	3.9
			断面 5-7	ネズミ	R 大腿骨 1	1	0.2
				ウシ	L 大腿骨 4	4	29.9
			断面 5-10	イノシシ	腰椎 1	1	2.0
			断面 5-11	イノシシ	胸椎 1	1	2.2
			断面 5-12	イノシシ	腰椎 1	1	3.8
			一　括	イヌ	R 脛骨 1	1	1.5
				イノシシ	R 尺骨 1、L 腓骨 1、小骨片 1	3	12.1
				ウシ	R 第一肋骨 1、R 上腕骨 1、R 尺骨 1、R 中足骨 2、L 中足骨 1、L 第四趾末節骨 1、小骨片 14	21	259.0
				ウマ	L 脛骨 1	1	97.5
		J96・97	断面 4-12	イノシシ	L 大腿骨 1	1	10.9
		H97	Ⅱ	イノシシ	小骨片 3	3	8.6
			埋土 a	イノシシ	R 寛骨 1	1	17.0
				ウシ	胸椎 4、R 肋骨 1、L 距骨 1、小骨片 4	10	93.4
		I97	断面 2-5	ネズミ	L 脛骨 1	1	0.3
				イノシシ	L 上顎第三後臼歯 3	3	18.5
			断面 6-1	ネズミ	R 下顎骨 1	1	0.2
				ウマ	R 第四中手骨 1、R 中手骨 3、R 第三足根骨 1	5	27.5
			断面 6-2	ネコ	L 下顎骨 1、R 下顎骨 1	2	4.1
				イノシシ	L 第三中手骨 1	1	3.8
				ウシ	L 遠位種子骨 1、小骨片 4	5	22.8
			断面 6-5	ウシ	L 肋骨 1、上腕骨 5、L 中足骨 1、近位種子骨 1、小骨片 2	10	91.1
			Ⅱ	ウシ	小骨片 2	2	7.9
			埋土 a	ウシ	頭蓋骨片 1、舌骨 1、R 尺骨 1、L 副手根骨 1、寛骨 5、R 踵骨 1、R 第四趾基節骨 1、R 第四趾中節骨 1、小骨片 16	28	236.4
				ヤギ	R 中手骨 1	1	7.2
				ウマ	L 中手骨、R 脛骨 1	2	110.1
			埋土 J	ネズミ	R 大腿骨 1	1	0.1
				イノシシ	L 前頭骨 1、L 上顎第三後臼歯 1、L 下顎骨 3、R 下顎骨 1、腰椎 1、L 肋骨 2、L 上腕骨 3、R 上腕骨 2、R 尺骨 2、L 大腿骨 1、R 脛骨 1、L 距骨 1、R 第五中足骨 1、小骨片 14	34	183.6
				ウシ	第一頸椎 2、L 肋骨 4、L 肩甲骨 1、L 第三指中節骨 1、R 寛骨 1、L 脛骨 1、R 脛骨 1、R 第三趾基節骨 1、R 第三趾中節骨 1、小骨片 10	24	333.5
				ウマ	L 鼻骨 1、L 上顎第三前臼歯 1、L 肩甲骨 1、R 橈骨 3、L 第三手根骨 1、L 第三中手骨 2、L 第一指骨 1、L 第三中足骨 2、L 第四中足骨 1、L 第一趾骨 1、小骨片 3	17	231.0
				ウミガメ	腹甲 1	1	1.2
				魚類	小骨片 1	1	0.7
			一括	ネズミ	R 橈骨 2、R 尺骨 1、L 寛骨 1、L 大腿骨 2、R 大腿骨 1	7	0.8
				イノシシ	頭蓋骨 2、L 肋骨 1、R 肋骨 1、R 上腕骨 1、L 大腿骨 1、L 脛骨 1、小骨片 1	8	47.8
				ウシ	頭蓋骨片 1、L 頬骨 1、L 上腕骨 1、L 寛骨 1、寛骨片 16、R 大腿骨 1、小骨片 5	26	158.7
		I・J97	一括	ネズミ	L 脛骨 1	1	0.1
				イノシシ	頸椎 1、L 肋骨 3、R 肋骨 1、L 上腕骨 3、L 大腿骨 1、小骨片 20	29	85.2
				ウシ	R 頭蓋骨片 4、R 頬骨 1、第一頸椎 1、胸椎 2、腰椎 1、L 肋骨 11、R 肋骨 3、L 上腕骨 1、R 上腕骨 1、L 橈骨 4、R 橈骨 1、L 尺骨 1、R 尺骨 1、R 副手根骨 1、R 中間手根骨 1、R 尺側手根骨 1、L 大腿骨 8、R 大腿骨 2、R 脛骨 1、 L 中足骨 1、R 中足骨 1、L 中心第四足根骨 1、L 第二・三足根骨 1、R 第四趾基節骨 1、L 第四趾中節骨 1、R 遠位種子骨 1、小骨片 14	67	1515.6
				ウマ	R 第三指中節骨 1	1	13.2
				ウミガメ	小骨片 1	1	5.4
		J97	断面 3-7	ウミガメ	縁骨板 1	1	4.0
			断面 3-8	ネズミ	L 大腿骨 1、L 脛骨 1	2	0.5
			断面 4-6	ネズミ	L 大腿骨 1	1	0.2
				イノシシ	R 下顎骨 3、R 肋骨 1、L 距骨 1	5	47.6
			貝だまり	イノシシ	L 肋骨 1、R 肩甲骨 1、小骨片 1	3	33.7
				ウミガメ	背甲 1	1	5.5
			Ⅲ	イノシシ	頸椎 2、胸椎 1、腰椎 1、R 大腿骨 2、R 第四趾末節骨 1、小骨片 8	15	51.1
				魚類	小骨片 1	1	0.2
		サブトレ	一括	イヌ	R 肋骨 1	1	1.1
				ウシ	L 肋軟骨 1、L 上腕骨 2、L 脛骨 1、小骨片 4	8	225.3

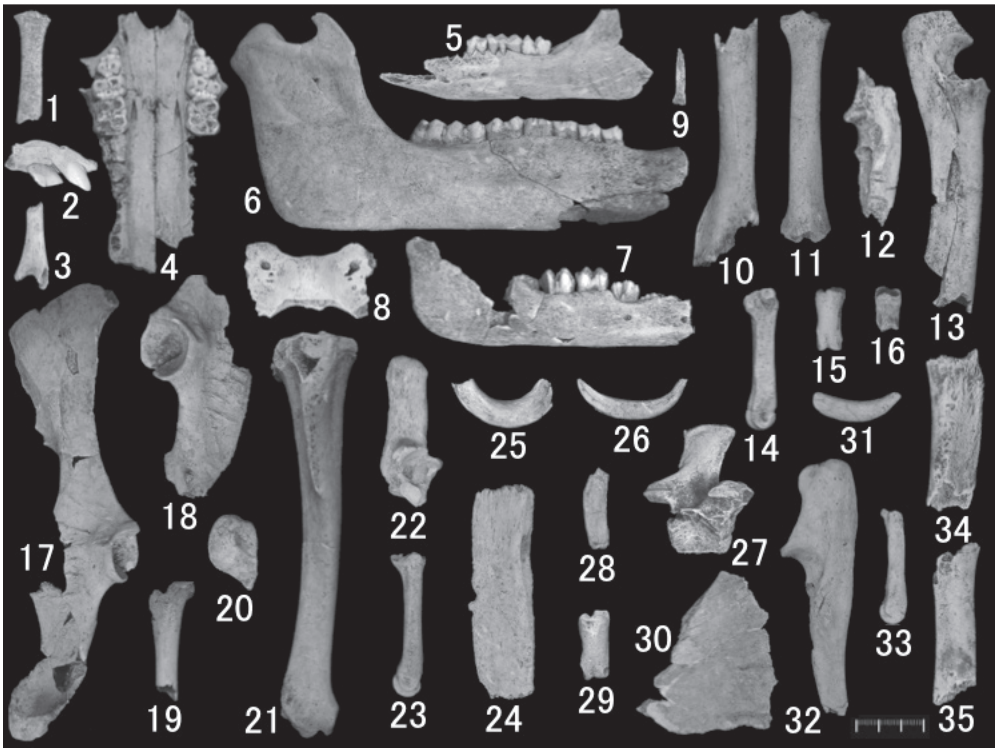
図版1　集石、土坑、SD03、ピット、貝集中#１，#２，#３、一括

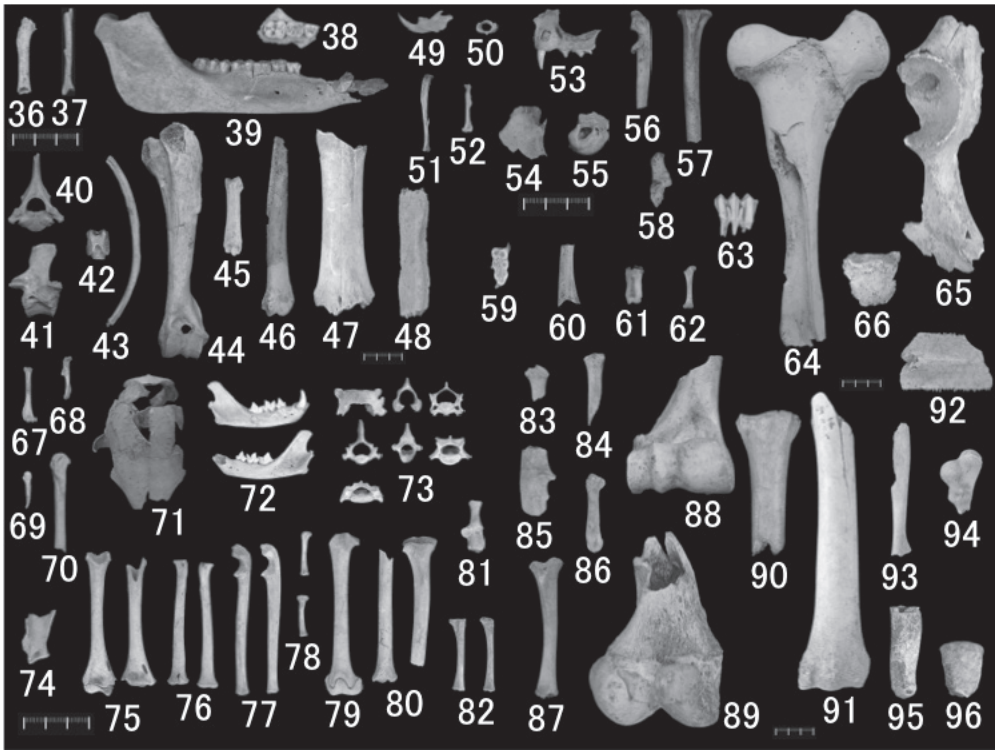


1～3：集石　1～2：イヌ　3：イノシシ　4～8：土坑　4, 5：イヌ　6：イノシシ　7：ウミガメ　8：ヘビ　9：SD03　9：イヌ　10：ピット　10：ウシ　11～21：貝集中2　11：ネズミ　12：イヌ　13～15：イノシシ　16：ジュゴン　17～21：ウミガメ　22～27：貝集中#3　イノシシ　28～33：貝集中#1　28, 29：イノシシ　30～33：ウシ　34～56：一括　34：ネズミ　35～48：イノシシ　49：クジラ　50：イルカ　51～56：ウミガメ

1. 左肩甲骨　2. 左上腕骨　3. 左上腕骨　4. 左寛骨　5. 左脛骨　6. 左第三指基節骨　7. 左大腿骨　8. 椎骨　9. 右下顎骨　10. 左中足骨　11. 右脛骨　12. 左第五中手骨　13. 左下顎骨　14. 右橈骨　15. 右尺骨　16. 左橈骨　17. 縁骨板　18. 左橈骨　19. 右第五中手骨　20. 左第三指基節骨　21. 左第二指中節骨　22. 環椎　23. 第三頸椎　24. 第四頸椎　25. 第五頸椎　26. 右距骨　27. 右距骨　28. 左橈骨　29. 左第四中手骨　30. 第二腰椎　31. 左上腕骨　32. 左大腿骨（子牛）　33. 第四趾中節骨　34. 右尺骨　35. 左下顎骨　36. 軸椎　37. 第六頸椎　38. 腰椎（骨折痕）　39. 左肋骨　40. 左上腕骨　41. 右上腕骨　42. 左第三中手骨　43. 左第四中手骨　44. 右寛骨　45. 左脛骨（研磨）　46. 左脛骨　47. 右踵骨　48. 左第三中足骨　49. 不明（焼痕）　50. 左肋骨　51. 頸椎　52. 縁骨板　53. 左上腕骨　54. 左尺骨　55. 中手骨　56. 左脛骨

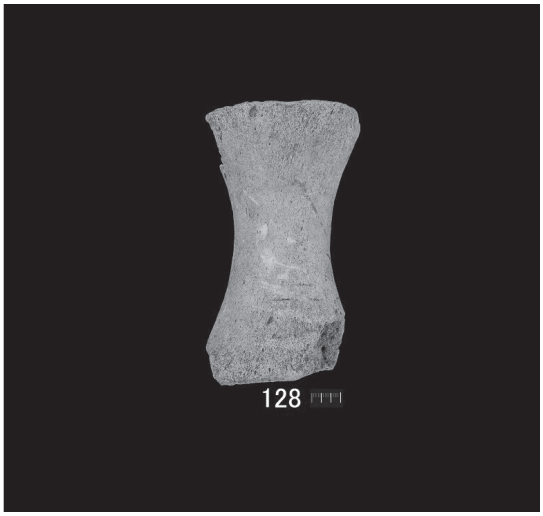
図版2-1　貝だまり１・３・５・６・８・11、土坑、ピット，ドット





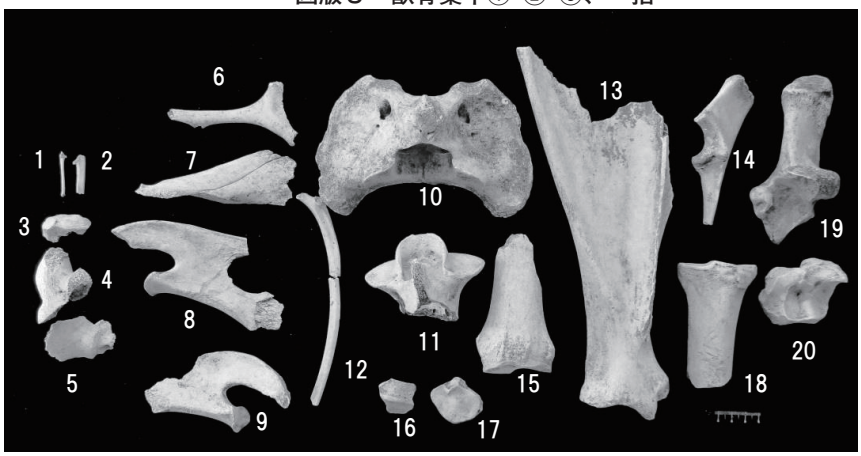
1：貝だまり1　1：イノシシ　2, 3：貝だまり3　2, 3：イノシシ　4～24：貝だまり5　4～23：イノシシ　24：ウミガメ　25～30：貝だまり6　25～29：イノシシ　30：ウミガメ　31～35：貝だまり8　31～33：イノシシ　34, 35：ウミガメ　36～48：貝だまり11　36, 37：ネズミ　38～46：イノシシ　47：ウシ　48：ウミガメ　49～66：土坑　49～52：ネズミ　53～58：ネコ　59～62：イノシシ　63, 64：ウシ　65, 66：ウマ　67～96：ピット　67, 68:ネズミ　69, 70：イヌ　71～82：ネコ（幼齢の1個体分）　83～87：イノシシ　88～90：ウシ　91：ウマ　92～96：ウミガメ　97～130：ドット　97～106：イノシシ　107～123：ウシ　124～126：ウマ　127, 128：クジラ　129, 130：ウミガメ

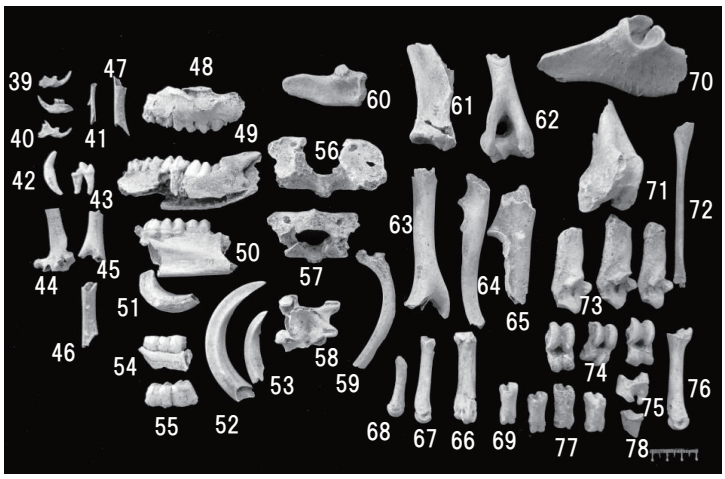
図版2-2　貝だまり１・３・５・６・８・11、土坑、ピット，ドット



1. 左橈骨（幼獣）　2. 右切歯骨　3. 右上腕骨（幼獣）　4. 上顎骨と口蓋骨（雌）　5. 左下顎骨　6. 右下顎骨（雄）　7. 右下顎骨　8. 環椎　9. 右肩甲骨（研磨加工痕）　10. 右上腕骨　11. 右橈骨　12. 左尺骨（刃痕）　13. 右前腕骨　14. 右第三中手骨　15. 右第三指基節骨　16. 右第三指中節骨　17. 右寛骨　18. 左寛骨　19. 右大腿骨（幼獣）　20. 左膝蓋骨　21. 右脛骨　22. 左踵骨　23. 左第三中足骨　24. 縁骨板　25. 右上顎犬歯（雄）　26. 右下顎犬歯（雌）　27. 腰椎　28. 左尺骨（研磨加工痕）　29. 右第三趾基節骨　30. 腹甲　31. 右下顎犬歯（雌）　32. 右尺骨　33. 左第五中足骨　34. 右尺骨　35. 右脛骨　36. 右大腿骨　37. 右下腿骨　38. 右上顎骨　39. 右下顎骨（雌）　40. 第一胸椎　41. 後位胸椎　42. 第四仙椎　43. 右肋骨（切痕、骨折痕）　44. 左上腕骨　45. 左第三中手骨　46. 左脛骨　47. 左中手骨　48. 縁骨板　49. 左下顎骨　50. 環椎　51. 右上腕骨　52. 左脛骨　53. 左上顎骨　54. 左前頭骨　55. 左側頭骨（鼓室胞）56. 左尺骨　57. 左脛骨　58. 左踵骨　59. 左下顎第三後臼歯　60. 右第三指基節骨　61. 右橈骨（刃痕）　62. 左大腿骨（胎仔）　63. 左下顎第三後臼歯　63. 左大腿骨　65. 左寛骨　66. 左後肢末節骨　67. 右上腕骨　68. 左下腿骨　69. 右上顎第二切歯　70. 左第四中手骨　71. 頭蓋　72. 左・右下顎骨　73. 椎骨（頸椎・胸椎・腰椎・仙椎）　74. 左肩甲骨　75. 左・右上腕骨　76. 左・右橈骨　77. 左・右尺骨　78. 右第二・四中手骨　79. 右大腿骨　80. 左・右脛骨　81. 左踵骨　82. 左第三・四中足骨　83. 右橈骨　84. 右橈骨（研磨痕）　85. 右尺骨（研磨痕）　86. 左第三中手骨　87. 右脛骨　88. 右上腕骨　89. 左大腿骨　90. 左中足骨　91. 右橈骨　92. 背甲　93. 左烏口骨　94. 右上腕骨　95. 左橈骨　96. 左尺骨　97. 左下顎犬歯（雄）　98. 左下顎骨（雌）　99. 右下顎骨（雌）　100. 左下顎骨　101. 環椎　102. 胸椎（刃痕）　103. 右上腕骨　104. 左大腿骨　105. 右脛骨（切削痕）　106. 右踵骨　107. 左下顎骨　108. 仙骨（切断痕）　109. 尾椎　110. 左肋骨（骨折痕）111. 左肋軟骨（両端切断痕）　112. 右肩甲骨（切断痕）　113. 左肩甲骨（切断痕）　114. 右上腕骨（子牛）　115. 右上腕骨　116. 左上腕骨　117. 右前腕骨　118. 右前腕骨　119. 右中手骨（子牛）　120. 寛骨（切断痕）　121. 左寛骨（刃痕）　122. 左脛骨（切断痕）　123. 左踵骨　124. 左上腕骨　125. 左前腕骨　126. 左寛骨　127. 胸椎　128. 左第三中手骨　129. 背甲　130. 背甲

図版３　獣骨集中①･②･③、一括

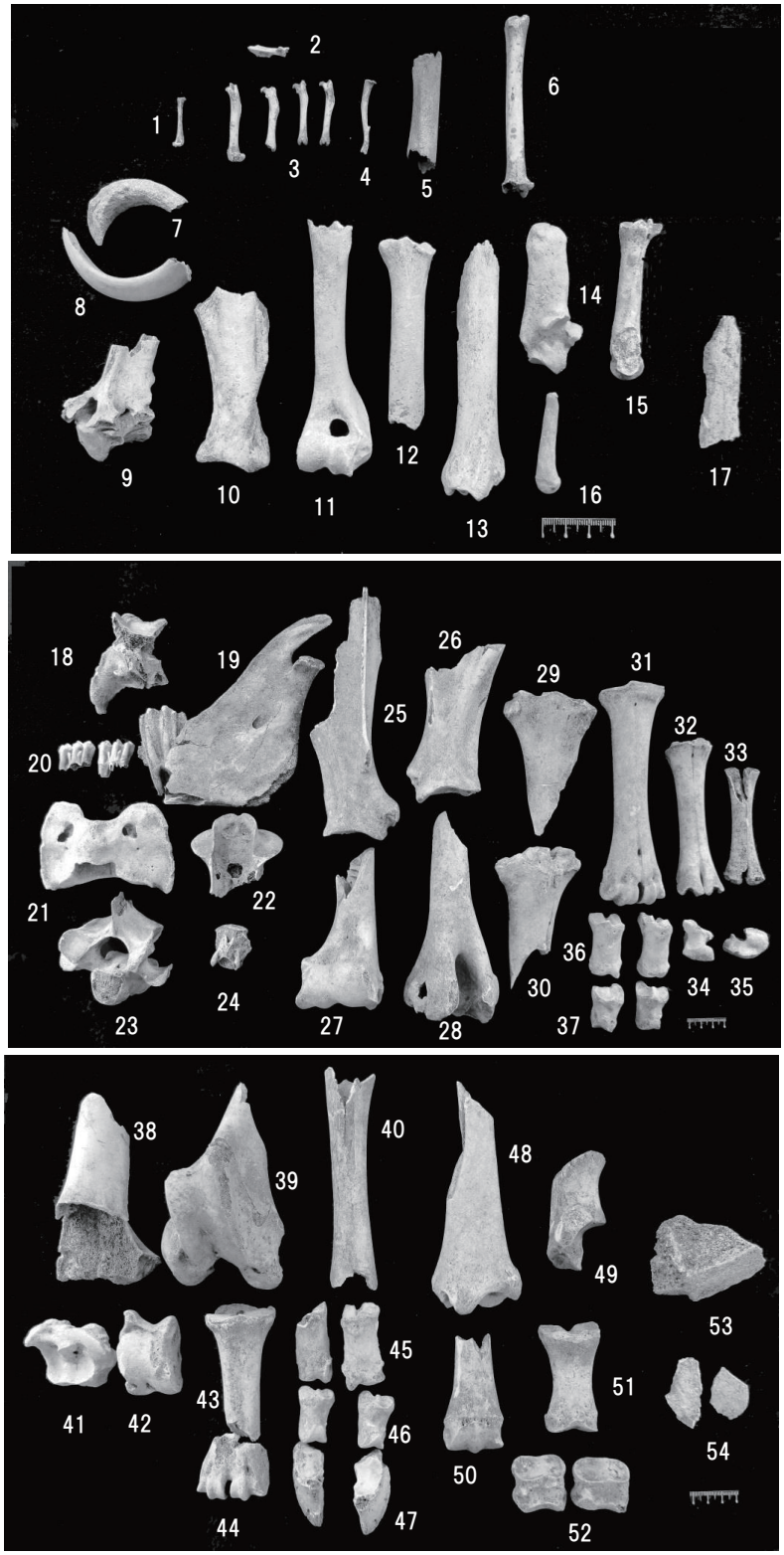




1～５：獣骨集中①　1，2：ネコ　3～5：ウシ、　6～20：獣骨集中②　6～20：ウシ、　21～38：獣骨集中③　21：ネズミ　22～38：ウシ　39～86：一括　39～41：ネズミ　42～46：イヌ　47：ネコ　48～78：イノシシ　79～85：ウシ　86：ウミガメ

1．左第三中手骨　2．左尺骨　3．椎骨片　4．右上腕骨片　5．左脛骨片　6．舌骨　7．左切歯骨　8．右下顎骨　9．左下顎骨　10．第一系頚椎　11．第二頚椎　12．右肋骨　13．右肩甲骨　14．右尺骨　15．左橈骨　16．第二・三手根骨　17：第四手根骨　18．右中手骨　19．右踵骨　20．中心第四足根骨　21．左脛骨　22．頭蓋骨　23．舌骨　24．上顎第二後臼歯　25．第一頚椎　26．第一頚椎　27．第二頚椎　28．胸椎　29．胸椎　30．左肋骨　31．左肋骨　32．右橈骨　33．右尺骨　34．右第三指基節骨　35．左大腿骨　36．右大腿骨　37．左脛骨　38．左脛骨　39．上から左下顎骨、右下顎骨　40．右下語骨　41．右脛骨　42．左上顎犬歯　43．左下顎第一後臼歯　44．胸椎　45．右上腕骨　46．左大腿骨　47．右大腿骨　48．左上顎骨　49．右下顎骨　50．左下顎骨　51．左上顎犬歯　52．左下顎犬歯　53．左下顎犬歯　54．左下顎第三後臼歯　55．右下顎第三後臼歯　56．第一頚椎　57．第一頚椎　58．腰椎　59．左肋骨　60．胸骨柄　61．左肩甲骨　62．左上腕骨　63．右上腕骨　64．右尺骨　65．右尺骨　66．左第四中手骨　67．右第三中手骨　68．右第五中手骨　69．左第三指基節骨　70．右寛骨　71．左大腿骨　72．左腓骨　73．左から左踵骨（3個共）74．左から右距骨、左距骨、左距骨　75．第四足根骨　76．右第四中足骨　77．左から左第三趾基節骨、第四趾基節骨、左第三趾基節骨　78．左第三趾末節骨　79．右肩甲骨　80．右肩甲骨　81．左橈骨　82．左橈骨　83．左橈骨　84．左尺骨　85．左脛骨　86．上腕骨

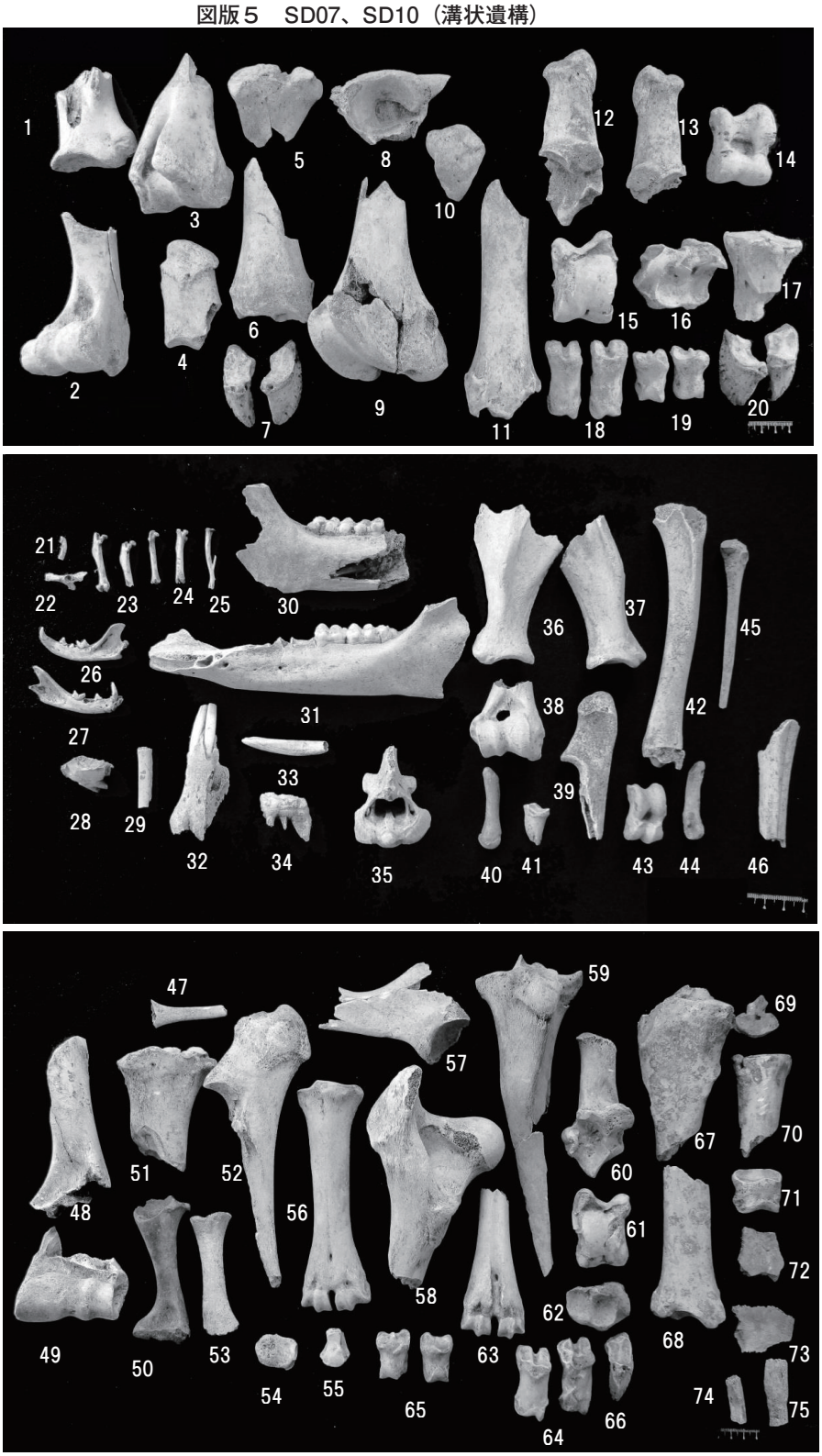
図版４　SD06（溝状遺構）



1～4：ネズミ　5：イヌ　6：ネコ　7～16：イノシシ　17：ヤギ　18～37：ウシの前肢骨　38～47：ウシの後肢骨　48～52：ウマ　53：クジラ　54：ウミガメ

1．右上腕骨　2．右寛骨　3．左からすべて右大腿骨　4．右脛骨　5．左大腿骨　6．右大腿骨　7．左上顎犬歯　8．右下顎犬歯　9．胸椎　10．右肩甲骨　11．左上腕骨　12．右橈骨　13．右脛骨　14．左踵骨　15．右第三中足骨　16．左第五中足骨　17．中手骨　18．右後頭骨　19．右下顎骨　20．左右乳臼歯　21．第一頚椎　22．第二頚椎　23．第七頚椎　24．尾椎　25．右肩甲骨　26．左肩甲骨　27．右上腕骨　28．右上腕骨　29．右橈骨　30．右橈骨　31．右中手骨　32．右中手骨　33．右中手骨　34．右中心手根骨　35．左第二・三手根骨　36．左から左第三指基節骨、右第四基節骨　37．左から右第三指中節骨、右第四指中節骨　38．左大腿骨　39．右大腿骨　40．左脛骨　41．左中心第四足根骨　42．左距骨　43．左中足骨　44．右中足骨　45．左から左第三趾基節骨、右第三趾基節骨　46．左から左第三趾中節骨、左第三趾中節骨　47．左から左第三趾末節骨、右第三趾末節骨　48．右脛骨　49．左踵骨　50．右中足骨　51．右第三趾基節骨　52．右から右第三指中節骨、右第三趾中節骨　53．椎骨　54．背甲

図版５　SD07、SD10（溝状遺構）



SD07：1～20：ウシ

SD10：21～25：ネズミ　26，27：ネコ　28，29：イヌ　30～44：イノシシ　45：ウマ　46：ヤギ　47～66：ウシ　67～71：ウマ　72～75：ウミガメ

１．右肩甲骨　２．右上腕骨　３．左上腕骨　４．左尺骨　５．左橈骨　６．右橈骨　７．左から左第三指末節骨、右第三指末節骨　８．左寛骨　９．右大腿骨　10．左膝蓋骨　11．左脛骨　12．右踵骨　13．左踵骨　14．左距骨　15．右距骨　16．右中心第四足根骨　17．右中足骨　18．左から右第四趾基節骨、右第三趾基節骨　19．左から右第四趾中節骨、左第三趾中節骨　20．左から右第四趾末節骨、左第四趾末節骨　21．右尺骨　22．左寛骨　23．左から左大腿骨（3個共）　24．右大腿骨　25．右脛骨　26．左下顎骨　27．右下顎骨　28．左上顎骨片（P4）　29．右肋骨　30．右下顎骨（M2, 3）　31．左下顎骨M2, 3)　32．下顎骨（切歯）33．右第一切歯　34．左上顎第三後臼歯　35．第二頚椎　36．左肩甲骨　37．右肩甲骨　38．左上腕骨　39．右尺骨　40．右第五中手骨　41．右第四趾末節骨　42．右脛骨　43．左距骨　44．右第五中足骨　45．右第四中手骨　46．右中足骨　47．舌骨　48．左上腕骨　49．左上腕骨　50．右上腕骨（幼）53．右橈骨（幼）54．左尺骨　55．右副手根骨　56．中心手根骨　57．右寛骨　58．左大腿骨　59．左脛骨　60．右踵骨　61．左距骨　62．左第四中心足根骨　63．左中足骨　64．左から右第四趾基節骨、右第四趾基節骨　65．左から左第四趾中節骨、右第四趾中節骨　66．左第四趾末節骨　67．右脛骨　68．左脛骨　69．右第三足根骨　70．左中手骨　71．右中節骨　72．背甲　73．腹甲　74, 75．縁骨板

はじめに

川尻遺跡（鹿児島県喜界町）は喜界島南西部の手久津久地区に広がる４つの遺跡のひとつで，標高10～12m前後の海岸段丘上に位置する縄文時代後～晩期，兼久式期，および中近世の複合遺跡である。本遺跡では平成24～25年度に実施された喜界町教育委員会による発掘調査において脊椎動物遺体（魚骨・獣骨など）が多数出土した。ここではそのうち魚類遺体の分析結果について報告し，その特徴について予察する。

１．分析資料と分析方法

魚骨の保存状態は全体的に良好である。分析資料には (1) ピックアップ資料（発掘現場での目視確認と手での拾い上げによって採集されたもの）および (2) 水洗選別資料（堆積物サンプルの水洗選別に伴う沈殿物（ヘビー・フラクション：HF）から1.5mm目のフルイによって回収された資料）の２種類がある。

(1) ピックアップ資料

ピックアップ資料の年代については，縄文時代後～晩期，兼久式期（9～10世紀），中世（14世紀後半～15世紀前半），近世，近現代の資料がある。各資料の年代については分析結果の表中に示した。各層準・遺構などの年代の詳細は本書の当該項目を参照されたい。

分析対象とした資料については，平成24年度採集資料および平成25年度採集資料のうち遺構（SD・SK・P・貝だまり・集石）からの出土資料およびドット取り上げ資料（出土位置を記録して取り上げられた資料）については全資料を分析した。その他に平成25年度調査では，包含層からグリッド単位で一括して取り上げられた資料があるが，その量は膨大であり，またその多くは年代が不明確であったことから，今回は時間の制約のため，年代が明確なⅣ層（兼久式期）の資料の中からI-98グリッドとM-98グリッドの資料のみを選んで分析対象とした。

(2) 水洗選別資料

膨大な量の水洗選別資料が回収されているが，今回は時間の制約のため，出土数がとくに多い平成25年度調査区Ⅳ層（兼久式期）から検出された「貝だまり」のうち，「貝だまり５」と「貝だまり11」に対象を絞り，それぞれから採取されたサンプルの中から各１サンプルを選んで分析対象とした。なおHFの回収には1.5mmメッシュが使用されたが，分析に先立って回収された骨を4mmメッシュで再度フルイがけして，4mmメッシュ上に残った大型骨とこれを通過し

第64表　川尻遺跡平成24～25年度調査で採取された魚類遺体の種名一覧

和名			学名			ピックアップ	水洗選別
軟骨魚綱			CHONDRICHTHYES				
	メジロザメ科	属・種不明		Carcharhinidae	gen. et sp. indet.	●	●
	エイ上目	目不明		Batoidea	Order indet.	●	
硬骨魚綱			OSTEICHTHYES				
	ニシン科 / カタクチイワシ科	キビナゴ属 / カタクチイワシ亜科		Clupeidae / Engraulidae	Spratelloides /Engraulinae		●
	アナゴ科	属・種不明		Congridae	gen. et sp. indet.	●	
	ウツボ科	属・種不明 A		Muraenidae	gen. et sp. indet. (type A)	●	●
		属・種不明 B		Muraenidae	gen. et sp. indet. (type B)	●	
	エソ科	属・種不明		Synodontidae	gen. et sp. indet.		●
	ダツ科	属・種不明		Belonidae	gen. et sp. indet.		●
	トウゴロウイワシ科	属・種不明		Atherinidae	gen. et sp. indet.		●
	ボラ科	属・種不明		Mugilidae	gen. et sp. indet.	●	
	カマス科	属・種不明		Sphyraenidae	gen. et sp. indet.	●	
	ハタ科	マハタ型		Serranidae	cf. Epinephelus	●	●
		バラハタ型			cf. Variola	●	
		スジアラ型			cf. Plectropomus	●	
	アジ科（大型種）	属・種不明		Carangidae (large)	gen. et sp. indet.	●	●
	シイラ科	シイラ属		Coryphaenidae	Coryphaena	●	
	フエダイ科	属・種不明		Lutjanidae	gen. et sp. indet.	●	●
	イスズミ科	属・種不明		Kyphosidae	gen. et sp. indet.		●
	イサキ科	コショウダイ類		Haemulidae	Plectorhinchus/Diagramma	●	
	タイ科	クロダイ属		Sparidae	Acanthopagrus	●	●
	フエフキダイ科	ヨコシマクロダイ		Lethrinidae	Monotaxis grandoculis	●	●
		ノコギリダイ属			Gnathodentex	●	
		メイチダイ属			Gymnocranius	●	●
		フエフキダイ属（ハマフエフキ型）			Lethrinus cf. L.. nebulosus	●	●
		フエフキダイ属（アマミフエフキ型）			Lethrinus cf. L.. amamianus	●	
	ベラ科	タキベラ型		Labridae	cf. "Bodianus perditio"	●	
		ベラ科 A			gen. et sp. indet. (type A)	●	
		ベラ科 B			gen. et sp. indet. (type B)	●	
		ベラ科（その他）			gen. et sp. indet. (others)		●
	ブダイ科	イロブダイ属		Scaridae	Balbometopon	●	
		アオブダイ属			Scarus	●	●
	サバ科	マグロ属？		Scombridae	Thunnus ?	●	
	アイゴ科	アイゴ属		Siganidae	Siganus	●	●
	ニザダイ科	属・種不明		Acanthrinidae	gen. et sp. indet.	●	●
	オニオコゼ科？	属・種不明		Synanceiidae ?	gen. et sp. indet.	●	
	カレイ目	科不明		Pleuronectiformes	family indet.		●
	モンガラカワハギ科	属・種不明		Balistidae	gen. et sp. indet.	●	●
	ハコフグ科？	属・種不明		Ostraciidae ?	gen. et sp. indet.		●
	ハリセンボン科	属・種不明		Diodontidae	gen. et sp. indet.	●	●

た小型骨に分離した（以下，前者を「4mm資料」，後者を「1.5mm資料」とする）。

同定対象部位については，魚骨では主上顎骨，前上顎骨，歯骨，角骨，方骨，主鰓蓋骨，椎骨の全資料およびその他同定可能な資料を同定用資料とした。

同定方法は現生標本との比較を原則とした。比較標本には筆者の所蔵標本を使用した。

２．分析結果

ピックアップ資料の同定結果の詳細・集計結果・組成を第65表～第71表に，水洗選別資料の同定結果の詳細・集計結果・組成を第72表～第73表にそれぞれ示した。

(1) 標本の記載

軟骨魚類（板鰓類）２分類群，硬骨魚類37分類群が同定された（第64表）。以下に注釈を要するものについて簡単に記載する。

サメ類：椎骨が得られている。いずれもメジロザメに類するタイプのもので，大型のものはメジロザメ科の可能性が高い。なお骨製品扱いなので表には含めていないが，SK-26からはメガロドン（ムカシオオホホジロザメ）の大型の歯が出土している。化石が利用されたもので，加工痕は認められないが製品と同様の扱いがなされたものと推測される。

ハタ科：前上顎骨・歯骨・前鰓蓋骨にはマハタ，バラハタ，スジアラに類するタイプ（それぞれマハタ型，バラハタ型，スジアラ型とする）が確認された。なお「ハタ型」とした椎骨もハタ科のものである可能性が高いが，フエダイ科など類似の形態をもつ種類も含まれる可能性がある。

アジ科（大型種）：カスミアジに近似する前上顎骨・角骨・尾椎およびイトヒキアジに近似する尾椎が各１点確認された。

フエフキダイ科：前上顎骨・歯骨・角骨・方骨によってヨコシマクロダイ，ノコギリダイ属，メイチダイ属，フエフキダイ属（名島・樋泉2008）が判別された。フエフキダイ属の前上顎骨・歯骨にはアマミフエフキに類するタイプ（アマミフエフキ型）とハマフエフキに類するタイプ（ハマフエフキ型）が確認された。

ベラ科：咽頭骨には「タキベラ型」，ベラ科A，ベラ科B（金子1996，樋泉2006）およびこれら以外の小型種と思われるもの（「ベラ科（その他）」とした」）がみられた。

ブダイ科：咽頭骨・前上顎骨・歯骨にはアオブダイ属とイロブダイ属がみられた。

サバ科：平成24年度調査貝集中#1出土の尾柄部椎骨はマグロ属の可能性が強いが，欠損が大きいため断定できない。集石6出土の尾椎も尾柄部のもので，大型のサバ科であることは間違いないが，詳細な同定は困難である。SK-26出土の角骨はマグロ類に似るが，小破片で断定困難のため「サバ科（大型種）？」とした。

(2) ピックアップ資料

出土数

同定対象となった資料数（同定標本数＝NISP）は合計1792点であった（第71表）。これを年代別にみると，縄文時代後～晩期37点，兼久式期（9～10世紀）1,456点，中世（14世紀後半～15世紀前半）183点，近世35点，近現代19点で，兼久式期の資料が圧倒的に多く，中世の資料がこれに次ぎ，他の時期の資料は少ない。これら以外にも包含層一括で取り上げられた未分析の資料が多数あるため，上記の数値が年代的な傾向を正確に示しているわけではないが，本遺跡において兼久式期にきわめて活発な魚類の利用が行われていたことは間違いない。

兼久式期の遺構別の出土数をみると（第71表），貝だまり11が785点と突出しており，貝だまり５・６からも，それぞれ149点・70点とまとまった数の資料が出土している。中世の資料では， SD06からの出土数が119点と過半を占めている。

組成

最少個体数（MNI）比による組成を第166図，同定標本数（NISP）比よる組成を第167図に示した。なおNISPの算出に際しては，モンガラカワハギ科の歯とハリセンボン科の棘は除外している。

縄文後～晩期：ハタ科とブダイ科が主体をなす。ハタ科はマハタ型，ブダイ科はアオブダイ属が多く，他に前者ではスジアラ型，後者ではイロブダイ属もわずかにみられた。その他にベラ科，ニザダイ科，サメ類，ウツボ科，カマス科，フエダイ科，クロダイ属，フエフキダイ科，サバ科大型種，ハリセンボン科が確認されているが，いずれも少数である。

兼久式期～中世：全体的にブダイ科とフエフキダイ科が卓越しており，ハタ科とベラ科がこれに次ぐ。また同定標本数（NISP）比ではニザダイ科，最小個体数（MNI）比ではハリセンボン科も多い。サメ類，ウツボ科，フエダイ科，クロダイ属，モンガラカワハギ科なども，比率としては低いが比較的多くの資料が得られている。その他にも少数ながらエイ目，アナゴ科，ボラ科，アジ科大型種，シイラ属，コショウダイ類，アイゴ属，オニオコゼ科？など多様な種が確認されている。

主要種（科）の内訳をみると，ブダイ科はアオブダイ属が大半を占めるが，イロブダイ属もある程度の数がみられた。フエフキダイ科はフエフキダイ属が最も多く，メイチダイ属，ヨコシマクロダイがこれに次ぎ，ノコギリダイ属も１点確認された。フエフキダイ属はアマミフエフキ型が主体だが，ハマフエフキ型も普通である。ハタ科はマハタ型を主体として，スジアラ型，バラハタ型も若干混じる。ベラ科の咽頭骨の大半はベラ科Bとしたタイプだが，タキベラ型やベラ科Aもわずかにみられる。

兼久式期（９～10世紀）と中世（14～15世紀）を比較すると，基本的な組成の特徴は一致しており，明確な年代差は認められない。

一方で，兼久式期の魚骨の内容には微妙な空間的な差異が認められる。このことを示すため，平成25年度調査において多数の資料を出土した兼久式期のⅣ層出土資料について，同層から検出された貝だまりのうち出土数の多い貝だまり

第65表　川尻遺跡平成24～25年度調査で採取された魚類遺体の同定結果（１）（SK･SP･集積･集石･ドット取上げ出土資料を除く）

＊貝だまりはドット取り上げ資料を含む。SK･SP･集積・集石については表３，ドット取り上げ資料については表４参照。

種類	部位	H24										H25		
		Ⅰ層	Ⅲ層	白砂	Ⅴ層	貝集中 #1	貝集中 #2	貝集中 #3	貝集中 #4	貝集中 一括	合計	貝だまり 1	貝だまり 4	貝だまり 5
		近現代	縄後晩	縄後晩	縄後晩	縄後晩 - 兼	兼久	兼久	兼久	兼久		兼久	兼久	兼久
メジロザメ科	椎骨										0			
メジロザメ型	椎骨	3						1			4			1
エイ目	椎骨										0			
ウツボ科	歯骨										0			
ウツボ科	方骨										0			/ 1
アナゴ科	歯骨										0			
ボラ科	主鰓蓋骨										0			
ボラ科	腹椎										0			
ボラ科	尾椎										0			
ボラ科？	尾椎										0			
ハタ科（マハタ型）	前上顎骨		1 / 1								2			1 / 3
ハタ科（マハタ型）	歯骨	/ 1		1 /		1 /					3			2 / 1
ハタ科（マハタ型）	前鰓蓋骨		/ 1			1 /					2			1 / 1
ハタ科（バラハタ型）	歯骨										0			
ハタ科（バラハタ型）	前鰓蓋骨										0			
ハタ科（スジアラ型）	前上顎骨										0			
ハタ科（スジアラ型）	歯骨					/ 1		1 /			2			/ 1
ハタ科（スジアラ型）	前鰓蓋骨										0			1 /
ハタ科	主上顎骨										0			2 /
ハタ科	前上顎骨	/ 1									1			
ハタ科	角骨	1 /				/ 1					2			/ 2
ハタ科	方骨				/ 1						1			1 / 2
ハタ科	前鰓蓋骨										0			
ハタ科	主鰓蓋骨					1 /					1			
ハタ科	擬鎖骨		1 / 1								2			/ 3
ハタ科	第１椎骨										0			
ハタ科	腹椎										0			
ハタ型	腹椎										0		1	
ハタ型	尾椎										0			2
アジ科（大型種）	前上顎骨										0			
アジ科（大型種）	角骨										0			
アジ科（大型種）	尾椎										0			
シイラ属	尾椎										0			
フエダイ科	主上顎骨							1 /			1			
フエダイ科	前上顎骨				1 /						1			/ 1
フエダイ科	歯骨					1 /					1			
フエダイ科	角骨					/ 1					1			
フエダイ科	方骨										0			
フエダイ科	前鰓蓋骨										0			
フエダイ科？	方骨										0			
コショウダイ類	歯骨										0			
コショウダイ類	角骨										0			
コショウダイ類	方骨										0			
コショウダイ類	腹椎										0			
クロダイ属	主上顎骨										0			
クロダイ属	前上顎骨		/ 1			/ 1					2			1 /
クロダイ属	歯骨										0			1 /
クロダイ属	角骨										0			
クロダイ属	方骨										0			
クロダイ属	口蓋骨										0			
クロダイ属	主鰓蓋骨										0			
タイ科	第２椎骨										0			
ヨコシマクロダイ	前上顎骨	1 / 1				1 / 1		/ 1			5			
ヨコシマクロダイ	歯骨					1 / 1					2			/ 1
ヨコシマクロダイ	角骨										0			
ヨコシマクロダイ	第２椎骨										0			1
ヨコシマクロダイ	腹椎										0			1
ノコギリダイ属	前上顎骨										0			
メイチダイ属	前上顎骨							/ 2			2			
メイチダイ属	方骨										0			
メイチダイ属	第２椎骨										0			1
フエフキダイ属（アマミフエフキ型）	前上顎骨	1 /				1 /		1 /			3			6 / 7
フエフキダイ属（ハマフエフキ型）	前上顎骨							/ 1			1			
フエフキダイ属	前上顎骨										0			
フエフキダイ属	方骨										0			1 / 2
フエフキダイ属	口蓋骨					/ 1		/ 1			2			5 / 2
フエフキダイ科	主上顎骨										0			2 / 2
フエフキダイ科	前上顎骨										0			1 /
フエフキダイ科	歯骨							1 /			1			3 / 8
フエフキダイ科	角骨							/ 1			1			1 / 1

種類	部位	H25													総計
		貝だまり 6	貝だまり 7	貝だまり 8	貝だまり 9	貝だまり 10	貝だまり 11	貝溜り C	貝溜り	SD06	SD10	Ⅳ層一括 I-98	Ⅳ層一括 M-98	合計	
		兼久	兼久	兼久	兼久	兼久	兼久	兼久	兼久	中世	中世	兼久	兼久		
メジロザメ科	椎骨									2	1			3	3
メジロザメ型	椎骨	2		1								2		5	9
エイ目	椎骨						2							2	2
ウツボ科	歯骨			1 /			1 / 1					/ 1	2 / 1	7	7
ウツボ科	方骨													1	1
アナゴ科	歯骨						2 /							2	2
ボラ科	主鰓蓋骨						1 / 1							2	2
ボラ科	腹椎						1							1	1
ボラ科	尾椎						2							2	2
ボラ科？	尾椎						6							6	6
ハタ科（マハタ型）	前上顎骨	3 /		/ 1			2 / 2			/ 2		1 / 1	5 / 4	24	26
ハタ科（マハタ型）	歯骨	1 / 1				/ 1	2 / 7			2 / 1	1 / 1	2 /	4 / 3	27	30
ハタ科（マハタ型）	前鰓蓋骨						0 / 2						/ 2	6	8
ハタ科（バラハタ型）	歯骨									1 /			/ 1	2	2
ハタ科（バラハタ型）	前鰓蓋骨									/ 1				1	1
ハタ科（スジアラ型）	前上顎骨												1 /	1	1
ハタ科（スジアラ型）	歯骨												2 /	3	5
ハタ科（スジアラ型）	前鰓蓋骨												1 /	2	2
ハタ科	主上顎骨	1 /					1 / 2					2 /	2 / 1	10	10
ハタ科	前上顎骨													0	1
ハタ科	角骨						1 / 0					1 /	3 / 1	8	10
ハタ科	方骨	/ 1		1 /			3 / 4			1 / 3		1 / 2	1 / 2	21	22
ハタ科	前鰓蓋骨						1 / 0			/ 1			1 / 1	4	4
ハタ科	主鰓蓋骨						1 / 1							2	3
ハタ科	擬鎖骨	/ 3		/ 1	/ 1		4 / 2			/ 1			2 / 3	19	21
ハタ科	第 1 椎骨	1													
ハタ科	腹椎						2							2	2
ハタ型	腹椎	1					4			4	2	6	3	21	21
ハタ型	尾椎						8			1		6	2	18	18
アジ科（大型種）	前上顎骨											1 /		1	1
アジ科（大型種）	角骨	1 /										1 /		1	1
アジ科（大型種）	尾椎	1					1					3		4	4
シイラ属	尾椎						3							3	3
フエダイ科	主上顎骨	/ 1					1 / 0			1 /				3	4
フエダイ科	前上顎骨	1 /					4 / 3						1 / 1	10	11
フエダイ科	歯骨						2 / 0						1 / 1	4	5
フエダイ科	角骨						0 / 1			/ 1				2	3
フエダイ科	方骨						0 / 1						/ 1	2	2
フエダイ科	前鰓蓋骨						1 / 0					1 /		2	2
フエダイ科？	方骨						1 / 0							1	1
コショウダイ類	歯骨						0 / 2							2	2
コショウダイ類	角骨						1 / 0							1	1
コショウダイ類	方骨						1 / 0							1	1
コショウダイ類	腹椎						11							11	11
クロダイ属	主上顎骨						4 / 3							7	7
クロダイ属	前上顎骨						6 / 3			/ 1				11	13
クロダイ属	歯骨						5 / 4				/ 1		1 /	12	12
クロダイ属	角骨						1 / 3			/ 1				5	5
クロダイ属	方骨						1 / 1							2	2
クロダイ属	口蓋骨						1 / 2							3	3
クロダイ属	主鰓蓋骨						0 / 1							1	1
タイ科	第 2 椎骨						1							1	1
ヨコシマクロダイ	前上顎骨						2 / 0			/ 1		/ 1	/ 1	5	10
ヨコシマクロダイ	歯骨						0 / 1							2	4
ヨコシマクロダイ	角骨	1 /												1	1
ヨコシマクロダイ	第 2 椎骨						1							1	1
ヨコシマクロダイ	腹椎													1	1
ノコギリダイ属	前上顎骨						1 / 0							1	1
メイチダイ属	前上顎骨						3 / 5			1 / 1			2 / 2	14	16
メイチダイ属	方骨						3 / 1							4	4
メイチダイ属	第 2 椎骨														
フエフキダイ属（アマミフエフキ型）	前上顎骨	2 / 1		1 / 2		2 / 1	19 / 15			2 / 4	1 / 1	3 / 1	3 / 3	68	71
フエフキダイ属（ハマフエフキ型）	前上顎骨						1 / 4							5	6
フエフキダイ属	前上顎骨									/ 1				1	1
フエフキダイ属	方骨						5 / 4			1 /			/ 1	14	14
フエフキダイ属	口蓋骨	/ 1					11 / 5					1 / 1	2 / 1	26	28
フエフキダイ科	主上顎骨			/ 1			12 / 7			1 / 1				26	26
フエフキダイ科	前上顎骨				/ 1		1 / 2			2 /				5	5
フエフキダイ科	歯骨	/ 1					12 / 11		1 /	2 / 3		1 / 2	1 / 1	41	42
フエフキダイ科	角骨			1 / 1			11 / 2			1 / 1	/ 1	1 /	1 / 1	22	23

第66表　川尻遺跡平成24～25年度調査で採取された魚類遺体の同定結果（２）（SK･SP･集積･集石･ドット取上げ出土資料を除く）

種類	部位	H24										H25		
		Ⅰ層	Ⅲ層	白砂	Ⅴ層	貝集中 #1	貝集中 #2	貝集中 #3	貝集中 #4	貝集中 一括	合計	貝だまり 1	貝だまり 4	貝だまり 5
		近現代	縄後晩	縄後晩	縄後晩	縄後晩 - 兼	兼久	兼久	兼久	兼久		兼久	兼久	兼久
フエフキダイ科	方骨										0			
フエフキダイ科	主鰓蓋骨										0			
フエフキダイ科	腹椎										0			
タイ型	腹椎										0			6
タイ型	尾椎			1							1			1
タキベラ型	下咽頭骨							1			1			
ベラ科 A	下咽頭骨										0			
ベラ科 B	上咽頭骨										0			
ベラ科 B	下咽頭骨							3			3			4
ベラ科（シロクラベラ型）	尾椎										0			
ベラ科 (コブダイ型)	腹椎										0			
ベラ科 (コブダイ型)	尾椎										0			
ベラ科	主上顎骨										0			
ベラ科	前上顎骨	/ 1	/ 1			2 /		1 /			5			2 / 2
ベラ科	歯骨							1 /			1			
ベラ科	前上顎 / 歯骨										0			1
ベラ科	角骨										0			
ベラ科	方骨										0			
イロブダイ属	上咽頭骨										0			1 /
イロブダイ属	下咽頭骨										0			
イロブダイ属	前上顎骨										0			
イロブダイ属	歯骨				/ 1						1			/ 1
アオブダイ属	上咽頭骨	1 /				2 / 1		/ 1	/ 1	/ 1	7			1 / 3
アオブダイ属	下咽頭骨	1				3		3			7	1	1	1
アオブダイ属	前上顎骨	2 /			1 /	2 / 3	1 /	4 / 2			15		1 /	4 / 2
アオブダイ属	歯骨			/ 1		/ 1		2 / 3	1 /	2 / 1	11		1 /	7 / 5
ブダイ科	主上顎骨	1 /									1			/ 1
ブダイ科	角骨					/ 1		/ 1			2			
ブダイ科	方骨					/ 1					1			1 /
ブダイ科	主鰓蓋骨			1		1 / 1		1 /			4			
ブダイ科	第 1 椎骨										0			
ブダイ科	腹椎	1				1		1		1	4			2
ブダイ科	尾椎					3		1			4			12
マグロ属？	尾椎					1					1			
アイゴ属	腹椎										0			
ニザダイ科	主鰓蓋骨										0			
ニザダイ科	擬鎖骨										0			
ニザダイ科	腹椎					1					1			1
ニザダイ科	尾椎	1									1			1
ニザダイ科	楯鱗					1					1			4
モンガラカワハギ科	前上顎骨										0			/ 1
モンガラカワハギ科	歯骨										0			
モンガラカワハギ科	前上顎 / 歯骨										0			1
モンガラカワハギ科	歯										0			
モンガラカワハギ科	角骨										0			
モンガラカワハギ科	方骨							/ 1			1			
モンガラカワハギ科	擬鎖骨										0			
モンガラカワハギ科	腹椎										0			
モンガラカワハギ科	腰帯							1			1			2
モンガラカワハギ科	背鰭棘	1									1			
ハリセンボン科	前上顎骨							1			1			2
ハリセンボン科	歯骨					2		1			3			
ハリセンボン科	前上顎 / 歯骨	1				1					2	1		1
ハリセンボン科	方骨										0			
ハリセンボン科	棘										0			
真骨類未同定	主上顎骨										0			
真骨類未同定	歯骨										0			
真骨類未同定	椎骨										0			
真骨類保留	角骨										0			
真骨類保留	方骨										0			
真骨類保留	前鰓蓋骨										0			
真骨類保留	主鰓蓋骨										0			
真骨類保留	腹椎							1			1			
真骨類保留	尾椎										0			
真骨類保留	椎骨					2					2			5
真骨類同定不可	主上顎骨										0			
真骨類同定不可	角骨					1 /					1			
真骨類同定不可	方骨										0			
真骨類同定不可	主鰓蓋骨										0			
真骨類同定不可	椎骨										0			1
合計		19	7	4	4	45	1	41	2	5	128	2	4	149

種類	部位	H25												合計	総計
		貝だまり 6	貝だまり 7	貝だまり 8	貝だまり 9	貝だまり 10	貝だまり 11	貝溜り C	貝溜り	SD06	SD10	Ⅳ層一括 I-98	Ⅳ層一括 M-98		
		兼久	兼久	兼久	兼久	兼久	兼久	兼久	兼久	中世	中世	兼久	兼久		
フエフキダイ科	方骨									1 /				1	1
フエフキダイ科	主鰓蓋骨			1 /			/ 4							5	5
フエフキダイ科	腹椎						6					2		8	8
タイ型	腹椎						8							10	10
タイ型	尾椎						22			5			3	31	32
タキベラ型	下咽頭骨													0	1
ベラ科 A	下咽頭骨						1							1	1
ベラ科 B	上咽頭骨	1					1 / 2					1 /		5	5
ベラ科 B	下咽頭骨	4		1			11		2	3	1	4	2	31	34
ベラ科（シロクラベラ型）	尾椎						2							2	2
ベラ科 (コブダイ型)	腹椎						4							4	4
ベラ科 (コブダイ型)	尾椎						4			1				5	5
ベラ科	主上顎骨						1 / 0					1 /		2	2
ベラ科	前上顎骨			/ 1			5 / 2				/ 1		/ 1	14	19
ベラ科	歯骨	/ 1		1 / 1			1 / 2			1 /			2 / 2	10	11
ベラ科	前上顎 / 歯骨														
ベラ科	角骨						0 / 1							1	1
ベラ科	方骨						1 / 0							1	1
イロブダイ属	上咽頭骨						1 / 1							3	3
イロブダイ属	下咽頭骨						1		1					2	2
イロブダイ属	前上顎骨						1 / 1		2 /	1 /				5	5
イロブダイ属	歯骨						2 / 0			/ 1				4	5
アオブダイ属	上咽頭骨	2 / 1					4 / 5			2 /		/ 1	2 / 3	23	30
アオブダイ属	下咽頭骨	3	1		2		16			5		5	5	36	43
アオブダイ属	前上顎骨	5 / 6					27 / 22			7 / 6	1 /	6 / 4	9 / 2	99	114
アオブダイ属	歯骨	8 / 3		/ 1		2 /	22 / 28			3 / 5	1 / 1	3 / 3	6 / 7	102	113
ブダイ科	主上顎骨						12 / 8	/ 1		/ 1			/ 1	24	25
ブダイ科	角骨						6 / 6			1 /			1 /	14	16
ブダイ科	方骨						8 / 8			1 /		/ 1		19	20
ブダイ科	主鰓蓋骨						2 / 5			/ 1			1 /	9	13
ブダイ科	第 1 椎骨						3					1		4	4
ブダイ科	腹椎			1	1		43			3		2	10	62	66
ブダイ科	尾椎	4		1		2	100		1	10	1	6	11	142	146
マグロ属？	尾椎													0	1
アイゴ属	腹椎											1		1	1
ニザダイ科	主鰓蓋骨												1 /	1	1
ニザダイ科	擬鎖骨									/ 1			1 /	2	2
ニザダイ科	腹椎	1					8			2			2	14	15
ニザダイ科	尾椎		1				22		2	1		3	3	32	33
ニザダイ科	楯鱗	1		1			24			2		1	4	37	38
モンガラカワハギ科	前上顎骨			1 /									/ 1	3	3
モンガラカワハギ科	歯骨												1 /	1	1
モンガラカワハギ科	前上顎 / 歯骨													1	1
モンガラカワハギ科	歯									1		1	1	3	3
モンガラカワハギ科	角骨												1 /	1	1
モンガラカワハギ科	方骨	/ 1							/ 1			1 / 1		4	5
モンガラカワハギ科	擬鎖骨									1 / 1				2	2
モンガラカワハギ科	腹椎						1							1	1
モンガラカワハギ科	腰帯		1				2							4	5
モンガラカワハギ科	背鰭棘						2							2	3
ハリセンボン科	前上顎骨	2					2			1		1	1	9	10
ハリセンボン科	歯骨						3			2		2	1	8	11
ハリセンボン科	前上顎 / 歯骨	1	1		1		1			1		1	3	10	12
ハリセンボン科	方骨						1							1	1
ハリセンボン科	棘									2		1	4	7	7
真骨類未同定	主上顎骨						2 / 0							2	2
真骨類未同定	歯骨									1 /			1 /	2	2
真骨類未同定	椎骨						5							5	5
真骨類保留	角骨												/ 1	1	1
真骨類保留	方骨			1 /									/ 1	2	2
真骨類保留	前鰓蓋骨											1	4	5	5
真骨類保留	主鰓蓋骨						0 / 1			1 /				2	2
真骨類保留	腹椎						1							1	2
真骨類保留	尾椎	1					1			1				3	3
真骨類保留	椎骨	1				1	13					2	4	23	25
真骨類同定不可	主上顎骨								1 /						
真骨類同定不可	角骨													0	1
真骨類同定不可	方骨						1							1	1
真骨類同定不可	主鰓蓋骨												1	1	1
真骨類同定不可	椎骨			1			11					4	7	24	24
合計		70	4	23	6	9	785	1	11	122	15	102	184	1424	1552

第67表　平成24年度(H24)SK･SP･SXおよび平成25年度(H25)SK･SP･集石から採取された魚類遺体の同定結果（１）

*1 年代凡例　縄：縄文後～晩期，古 - 中：古代～中世，*2 サイズ凡例　S：小型，SM：やや小型，M：中型，ML：やや大型，L：大型，LL：きわめて大型

年度	遺構	年代 *1	区	層準	日付	種類	部位	左右	数	サイズ *2	備考
H24	SK01	縄	Ｂ１００	黒色砂（②?）	H240919	ハタ科	主上顎骨	L	1	MS	
H24	SK01	縄	AB101	②	H240927	アオブダイ属	下咽頭骨		1	L	
H24	SK07	兼久	BC101102	-	H240926	ハタ科	方骨	L	1	M	
H24	SK07	兼久	BC101102	-	H240926	ハタ型	腹椎		1		
H24	SK07	兼久	BC101102	-	H240926	アジ科（大型種）	主上顎骨		1	M/L	カスミアジ近似
H24	SK13	兼久	G102	①	H240731	アマミフエフキ型	前上顎骨	L	1	ML	
H24	SK13	兼久	G102	①	H240731	ブダイ科	尾椎		1		
H24	SK14	兼久	D99	Ⅱc	H240921	アオブダイ属	下咽頭骨		1	L	
H24	SK14	兼久	D99	Ⅱc	H240921	ブダイ科	腹椎		1		
H24	SK15	兼久	D99	Ⅱb	H240921	ヨコシマクロダイ	前上顎骨	L	1	L	
H24	SK15	兼久	D99	Ⅱb	H240921	アオブダイ属	上咽頭骨	L	1	L	
H24	SK15	兼久	D99	Ⅱb	H240921	アオブダイ属	前上顎骨	R	2	L	
H24	SK15	兼久	D99	Ⅱb	H240921	アオブダイ属	歯骨	R	1	ML	
H24	SK15	兼久	D99	Ⅱb	H240921	ブダイ科	主鰓蓋骨	L	1	L	
H24	SK15	兼久	D99	Ⅱb	H240921	ブダイ科	主鰓蓋骨	R	1	L	
H24	SK15	兼久	D99	Ⅱb	H240921	ブダイ科	尾椎		2		
H24	SK15	兼久	D99	Ⅱb	H240921	オニオコゼ科？	主鰓蓋骨	L	1		
H24	SK16	縄	D99	Ⅱe	H240921	メジロザメ型	椎骨		1	ML	
H24	SK16	縄	D99	Ⅱe	H240921	マハタ型	前上顎骨	R	1	M	
H24	SK16	縄	D99	Ⅱe	H240921	真骨類保留	尾椎		1		大型アジ科？
H24	SK18	縄	C99	-	H240928	スジアラ型	歯骨	L	1	ML	
H24	SK18	縄	C99	-	H240928	ブダイ科	主上顎骨	L	1	S	
H24	SK18	縄	C99	-	H240928	ニザダイ科	腹椎		1	L	
H24	SK18	縄	CD99	-	H241002	ニザダイ科	尾椎		1	L	
H24	P0002	中近世	G102	-	H240730	ブダイ科	尾椎		2		
H24	SX04	縄	B101	白砂層（①）	H240731	ウツボ科	椎骨		1	L	
H24	SX04	縄	AB101	白砂の部分から	H240718	アマミフエフキ型	前上顎骨	L	1	L	
H24	SX04	縄	B101	白砂層（①）	H240731	タイ型	尾椎		1		
H24	SX04	縄	B101	白砂層（①）	H240731	アオブダイ属	前上顎骨	L	1	S	
H24	SX04	縄	B101	白砂層（①）	H240731	ブダイ科	主鰓蓋骨	L	1	L	
H24	SX04	縄	B101	白砂層（①）	H240731	ハリセンボン科	棘		2	L	
H24	SX06	縄	Aa99	①	H240918	ブダイ科	角骨	L	1	ML	
H24	SX06	縄	Aa99	①	H240918	サバ科（大型種）	尾椎（尾柄部）		1		
H24	SX13	縄	C101	①	H241011	真骨類同定不可	尾椎		1		タイ型？
H24	SX14	縄	C100	④	H241019	アオブダイ属	下咽頭骨		1	L	
H24	SX19	縄	北側	①	H241017	カマス科	腹椎		1		
H24	SX19	縄	-	①	H241017	ベラ科	歯骨	R	1	SM	
H24	SX19	縄	北側	①	H241017	アオブダイ属	上咽頭骨	R	1	S	
H24	SX32	縄	D101	①a	H241023	ハタ科	角骨	R	1	M	
H25	SK19	不明	I98	-	H250527	ベラ科 B	下咽頭骨		1	M	
H25	SK22	近世	V97	埋：D?/P?	H2506xx	フエフキダイ科	歯骨	R	1	ML	
H25	SK22	近世	V97	埋：D?/P?	H2506xx	タイ型	尾椎		1		
H25	SK22	近世	V97	埋：D?/P?	H2506xx	ベラ科 (コブダイ型)	腹椎		1		
H25	SK22	近世	V97	埋：D?/P?	H2506xx	ベラ科	前上顎骨	L	1	SM	
H25	SK22	近世	V97	埋：D?/P?	H2506xx	真骨類未同定	椎骨		1		きわめて大型．鉈状の刃物で激しく切断
H25	SK22	近世	V97	埋：D?/P?	H2506xx	真骨類未同定	未確認		6		きわめて大型．椎骨と同一種．鉈状の刃物で激しく切断
H25	SK23	中世	-	-	H250919	アオブダイ属	歯骨	R	1	SM	
H25	SK26	近世	-	P	-	フエフキダイ属	口蓋骨	R	1	L	
H25	SK26	近世	-	P	-	フエフキダイ科	歯骨	R	1		メイチダイ型
H25	SK26	近世	-	P	-	タイ型	腹椎		1		
H25	SK26	近世	-	P	-	アオブダイ属	前上顎骨	L	1	L	
H25	SK26	近世	-	P	-	アオブダイ属	歯骨	L	1		
H25	SK26	近世	-	P	-	サバ科（大型種）？	角骨	L	1		マグロ類似だが小破片のため断定困難．アジ科ではない
H25	SK27	中世	-	P	-	アオブダイ属	前上顎骨	R	1	L	
H25	SK36	近世	-	Ⅳ白砂	H260218	クロダイ属	歯骨	L	1	L	
H25	SK36	近世	-	Ⅳ白砂	H260218	クロダイ属	角骨	R	1	L	
H25	SK41	中世	I96	-	H260128	マハタ型	歯骨	L	1	SM	
H25	SK41	中世	I96	-	H260128	フエダイ科	方骨	R	1	L	
H25	SK41	中世	I96	-	H260128	フエフキダイ科	主上顎骨	L	1		
H25	SK41	中世	I96	-	H260128	フエフキダイ科	腹椎		1		
H25	SK41	中世	I96	-	H260128	ベラ科	方骨	L	1		
H25	SK41	中世	I96	-	H260128	アオブダイ属	歯骨	R	1	L	
H25	SK41	中世	I96	-	H260128	ブダイ科	腹椎		1		
H25	SK41	中世	I96	-	H260128	真骨類保留	尾椎		1		大型．大型フエダイ科の可能性があるが保存不良のため断定困難
H25	SK43	中世	K97	Ⅱ	H260128	アオブダイ属	下咽頭骨		1	L	
H25	SK43	中世	K97	Ⅱ	H260128	アオブダイ属	歯骨	L	1	L	
H25	SK45	中世	J96	断面図⑩	H260311	ウツボ科	歯骨	L	1		臼歯型
H25	SK45	中世	J96	-	H260309	スジアラ型	歯骨	R	1	L	
H25	SK45	中世	J96	-	H260309	メイチダイ属	前上顎骨	L	1	L	
H25	SK45	中世	J96	-	H260309	アマミフエフキ型	前上顎骨	R	1	L	
H25	SK45	中世	J96	断面図⑩	H260311	ハマフエフキ型	前上顎骨	R	1	L	
H25	SK45	中世	J96	-	H260309	フエフキダイ科	前上顎骨	R	1	S	
H25	SK45	中世	J96	9	H260311	アオブダイ属	下咽頭骨		1	L	
H25	SK45	中世	J96	-	H260309	アオブダイ属	下咽頭骨		1	LL	
H25	SK45	中世	J96	断面図⑥	H260311	アオブダイ属	前上顎骨	L	1	L	
H25	SK45	中世	J96	-	H260309	アオブダイ属	前上顎骨	R	1	L	
H25	SK45	中世	J96	-	H260309	アオブダイ属	歯骨	L	1	L	
H25	SK45	中世	J96	-	H260309	ブダイ科	角骨	L	1		
H25	SK45	中世	J96	9	H260311	ブダイ科	方骨	L	1		
H25	SK45	中世	J96	-	H260309	ブダイ科	方骨	R	1		

第68表　平成24年度(H24)SK･SP･SXおよび平成25年度(H25)SK･SP･集石から採取された魚類遺体の同定結果（2）

年度	遺構	年代 *1	区	層準	日付	種類	部位	左右	数	サイズ *2	備考
H25	SK45	中世	J96	-	H260309	ブダイ科	尾椎		2		
H25	SK45	中世	J96	9	H260311	ニザダイ科	尾椎		1		
H25	SK45	中世	J96	-	H260309	ハリセンボン科	歯骨		1	M	
H25	SK45	中世	J96	断面図⑩	H260311	ハリセンボン科	棘		1		
H25	SK45	中世	J96	断面図③④	H260311	真骨類保留	前鰓蓋骨	R	1		
H25	SK45	中世	J96	-	H260309	真骨類保留	前鰓蓋骨		1		
H25	SK46	中世	J96	R	H260306	フエフキダイ属	口蓋骨	R	1	L	
H25	SK46	中世	J96	R	H260306	フエフキダイ科	歯骨	R	2		
H25	SK46	中世	J96	R	H260306	ハリセンボン科	前上顎骨		1	ML	
H25	P0039	不明	I96		H2505xx	イロブダイ属	前上顎骨	R	1	L	
H25	P0045	不明	T96		H2505xx	メジロザメ科	椎骨		1	ML	
H25	P0070	不明	L98		-	フエフキダイ科	歯骨	R	1		
H25	P0072	不明	M98	黄褐色砂混じり	H25xxxx	クロダイ属	口蓋骨	R	1	L	
H25	P0072	不明	M98		H250902	フエフキダイ科	腹椎		1		
H25	P0072	不明	M98	黄褐色砂混じり	H25xxxx	アオブダイ属	下咽頭骨		1	L	
H25	P0072	不明	M98	黄褐色砂混じり	H25xxxx	ブダイ科	腹椎		1		
H25	P0079	不明	T96		H2506xx	アオブダイ属	歯骨	R	1	L	
H25	P0179	不明	-		-	ブダイ科	尾椎		1		
H25	P0203	兼久	P97	O	H250927	タイ型	尾椎		1		
H25	P0203	兼久	P97	O	H250927	ブダイ科	角骨	R	1		
H25	P0203	兼久	P97	O	H250927	ブダイ科	腹椎		1		
H25	P0217	兼久	-	O	-	ブダイ科	主上顎骨	L	1		
H25	P0219	近世	-	P	H251007	メイチダイ属	前上顎骨	R	1		シロダイ型
H25	P0219	近世	-	P	H251007	ブダイ科	腹椎		1		
H25	P0220	兼久	-	O	-	ハリセンボン科	歯骨		1	SM	
H25	P0223	近世	-	P	-	マハタ型	前鰓蓋骨	L	1	ML	
H25	P0223	近世	-	P	-	ハタ型	尾椎		1		
H25	P0223	近世	-	P	-	フエダイ科	歯骨	L	1	L	
H25	P0223	近世	-	P	-	フエフキダイ属	方骨	L	1		
H25	P0223	近世	-	P	-	タイ型	尾椎		1		
H25	P0223	近世	-	P	-	ベラ科 (コブダイ型)	腹椎		1		
H25	P0223	近世	-	P	-	ベラ科	前上顎骨	L	1	ML	
H25	P0223	近世	-	P	-	ブダイ科	方骨	L	1		
H25	P0223	近世	-	P	-	ブダイ科	腹椎		1		
H25	P0223	近世	-	P	-	ニザダイ科	楯鱗		1		可動型
H25	P0226	不明	-		-	真骨類保留	尾椎		1		
H25	P0228	兼久	-	O	H25xxxx	ニザダイ科	腹椎		1		
H25	P0248	中世	-	R	-	フエダイ科	前上顎骨	L	1	ML	
H25	P0275	兼久	-	O	-	ハタ型	腹椎		2		
H25	P0275	兼久	-	O	-	アオブダイ属	歯骨	L	1	SM	
H25	P0275	兼久	-	O	-	アオブダイ属	歯骨	R	1	SM	
H25	P0275	兼久	-	O	-	ニザダイ科	尾椎		1		
H25	P0290	中世	-	R	-	メジロザメ型	椎骨		1	M	
H25	P0290	中世	-	R	-	真骨類保留	尾椎		1		ニザダイ科？（テングハギ型？）
H25	P0291	兼久	-	O	-	クロダイ属	口蓋骨	L	1	L	
H25	P0291	兼久	-	O	-	ブダイ科	腹椎		1		
H25	P0317	兼久	-	N	-	アマミフエフキ型	前上顎骨	R	1	ML	
H25	P0374	近世	-	P	-	真骨類同定不可	椎骨		1		やや大型
H25	P0380	近世	-	P	-	アジ科（大型種）	尾椎		3	ML	カスミアジ近似
H25	P0385	兼久	-	N	-	真骨類保留	主鰓蓋骨	L	1		やや小型
H25	P0391	兼久	-	O	-	ハタ科	方骨	R	1	ML	
H25	P0396	兼久	-	O	-	ベラ科 B	下咽頭骨		1	ML	
H25	P0403	兼久	-	O	H251016	フエフキダイ科	前上顎骨	L	1		
H25	P0453	中世	-	R	-	ハタ科	角骨	R	1	L	
H25	P0453	中世	-	R	-	フエフキダイ属	口蓋骨	R	1		
H25	P0453	中世	-	R	-	モンガラカワハギ科	腰帯		1	SM	
H25	P0453	中世	-	R	-	真骨類保留	尾椎		1		
H25	P0454	中世	-	R	-	真骨類保留	尾椎		1	CM	ハタ科？
H25	P0573	中世	-	R	H251016	メジロザメ型	椎骨		1	SM	
H25	P0573	中世	-	R	H251016	フエフキダイ科	第 1 椎骨		1		
H25	P0627	兼久	-	O	H25xxxx	ニザダイ科	尾椎		1		
H25	P0632	兼久	-	O	-	アオブダイ属	前上顎骨	L	1	L	
H25	P0697	兼久	H96	N	-	フエフキダイ科	角骨	L	1		
H25	P0849	中世	J96	R	-	アナゴ科	歯骨	L	1		
H25	P0849	中世	J96	R	-	アオブダイ属	前上顎骨	L	1	L	
H25	P0849	中世	J96	R	-	ニザダイ科	尾椎		1		
H25	P0894	兼久	-	N	H260312	真骨類保留	角骨	L	1	L	大型アジ科の可能性が強い
H25	P0929	兼久	I98	O	H260524	ベラ科 B	上咽頭骨	L	1	L	
H25	P1003	兼久	I98	O	H260524	アオブダイ属	下咽頭骨		1	L	
H25	P1009	不明	I98	N?	H260524	アマミフエフキ型	前上顎骨	L	1	L	
H25	P1009	不明	I98	N?	H260524	アマミフエフキ型	前上顎骨	R	1	L	
H25	P1010	不明	E98	-	H260424	フエフキダイ科	歯骨	L	1		
H25	P1044	兼久	H99	O	H260424	ウツボ科	歯骨	L	1	SM	
H25	P1044	兼久	H99	O	H260424	ベラ科 B	上咽頭骨	R	1	M	
H25	P1044	兼久	H99	O	H260424	ブダイ科	尾椎		1		
H25	P1044	兼久	H99	O	H260424	ニザダイ科	尾椎		1		
H25	P1047	兼久	H99	O	H260424	ブダイ科	尾椎		1		
H25	P1056	兼久	I98	N	H260424	ハリセンボン科	棘		1		
H25	P1056	兼久	I98	N	H260424	真骨類保留	前鰓蓋骨		1		
H25	P1090	兼久	H98	O	H260424	真骨類保留	尾椎		1		ハタ科？
H25	P1279	兼久	J98	O	H260507	ヨコシマクロダイ	前上顎骨	R	1	LL	
H25	P1281	兼久	K98	O	H260514	ハタ科	主上顎骨	L	1	SM	
H25	P1299	兼久	K98	O	-	フエフキダイ科	角骨	R	1		
H25	P1307	兼久	J97	O	H260509	フエフキダイ科	前上顎骨	R	1	SM	
H25	P1355	兼久	K99	O	-	ブダイ科	腹椎		1		
H25	P1602	兼久	-	O	H260529	メイチダイ属	方骨	R	1		
H25	集石 55	古 - 中	I96	Ⅲ	H260124	アオブダイ属	歯骨	L	1	LL	

第69表　平成25年度(H25)ドット取り上げ資料における魚類遺体の同定結果

＊凡例は第 67 表を参照

年度	取上No.	遺構	区	層準	年代	日付	種類	部位	左右	数	計測	損傷	備考
H25	1583	貝だまり 4	L96		兼久	-	ハタ型	腹椎		1			
H25	2206	貝だまり 5	K98		兼久	H250220	ブダイ科	尾椎		1			
H25	2415	貝だまり 5	K98		兼久	H250826	イロブダイ属	上咽頭骨	L	1	LL		
H25	2415	貝だまり 5	K98		兼久	H250826	アオブダイ属	上咽頭骨	R	1	LL		
H25	2518	貝だまり 5	K98		兼久	H250826	フエフキダイ科	歯骨	R	1	M		
H25	2591	貝だまり 5	K97		兼久	-	バラハタ型	前鰓蓋骨	L	1	ML		
H25	2596	貝だまり 5	K98		兼久	-	フエフキダイ属	口蓋骨	L	1	ML		
H25	2753	貝だまり 5	K97		兼久	H250828	フエフキダイ科	歯骨	R	1	L		
H25	2913	貝だまり 5	K98		兼久	H250829	ベラ科 B	下咽頭骨		1	ML		
H25	7682	貝だまり 5	K98	Ⅳ	兼久	H260306	ハタ型	尾椎		1			
H25	7687	貝だまり 5	K98	Ⅳ	兼久	H260306	ベラ科 B	下咽頭骨		1	L		
H25	8299	貝だまり 5	K97		兼久	-	フエフキダイ科	主上顎骨	L	1			
H25	8299	貝だまり 5	K97		兼久	-	アオブダイ属	歯骨	R	1	LL		
H25	8309	貝だまり 5	K97		兼久	-	アオブダイ属	歯骨	L	1	L		
H25	8309	貝だまり 5	K97		兼久	-	ブダイ科	主上顎骨	R	1			
H25	8002	貝だまり 6	J98		兼久	-	ベラ科 B	上咽頭骨	L	1	M		
H25	8005	貝だまり 6	J98		兼久	-	アオブダイ属	歯骨	L	1	ML		
H25	8032	貝だまり 6	J98		兼久	-	ハリセンボン科	前上顎骨		1	M		
H25	4853	貝だまり 11	J96		兼久	-	クロダイ属	前上顎骨	R	1	L		
H25	4910	貝だまり 11	J96		兼久	H251210	ニザダイ科	尾椎		1			
H25	4920	貝だまり 11	J96		兼久	H251210	アオブダイ属	下咽頭骨		1	LL		
H25	5614	貝だまり 11	J96		兼久	H260220	フエフキダイ科	歯骨	R	1			
H25	5614	貝だまり 11	J96		兼久	H260220	アオブダイ属	歯骨	R	1	LL		
H25	5617	貝だまり 11	J96		兼久	H260220	フエフキダイ属	口蓋骨	R	1	M		
H25	5618	貝だまり 11	J96		兼久	H260220	フエダイ科	方骨	R	1	L		
H25	5618	貝だまり 11	J96		兼久	H260220	タイ型	尾椎		1			
H25	5618	貝だまり 11	J96		兼久	H260220	ベラ科	前上顎骨	L	1	L		
H25	5618	貝だまり 11	J96		兼久	H260220	ブダイ科	尾椎		1			
H25	5619	貝だまり 11	J96		兼久	H260220	クロダイ属	歯骨	L	1	ML		
H25	5624	貝だまり 11	J96		兼久	H260220	フエフキダイ科	前上顎骨	R	1			
H25	5624	貝だまり 11	J96		兼久	H260220	ニザダイ科	楯鱗		1			
H25	5626	貝だまり 11	J96		兼久	H260220	マハタ型	前上顎骨	L	1	ML		
H25	5627	貝だまり 11	J96		兼久	H260220	アオブダイ属	前上顎骨	L	1	ML		
H25	6205	貝だまり 11	JK96		兼久	H260226	アオブダイ属	前上顎骨	L	1	L		
H25	1128		M98		兼久	H250807	モンガラカワハギ科	背鰭棘		1	LL		
H25	1128		M98		兼久	H250807	真骨類同定不可	主鰓蓋骨	R	1			
H25	3648		K98		兼久	-	ベラ科	前上顎骨	L	1	ML		
H25	4587		K97		兼久	-	アオブダイ属	前上顎骨	L	1	L		
H25	6091		J98		兼久	-	タイ型	腹椎		1			
H25	7732		K98		兼久	-	モンガラカワハギ科	腰帯		1	M		
H25	7742		K98		兼久	-	アオブダイ属	上咽頭骨	L	1	L		
H25	7742		K98		兼久	-	アオブダイ属	上咽頭骨	R	1	LL		
H25	7742		K98		兼久	-	アオブダイ属	歯骨	R	1	M		
H25	7742		K98		兼久	-	ブダイ科	主上顎骨	R	1			

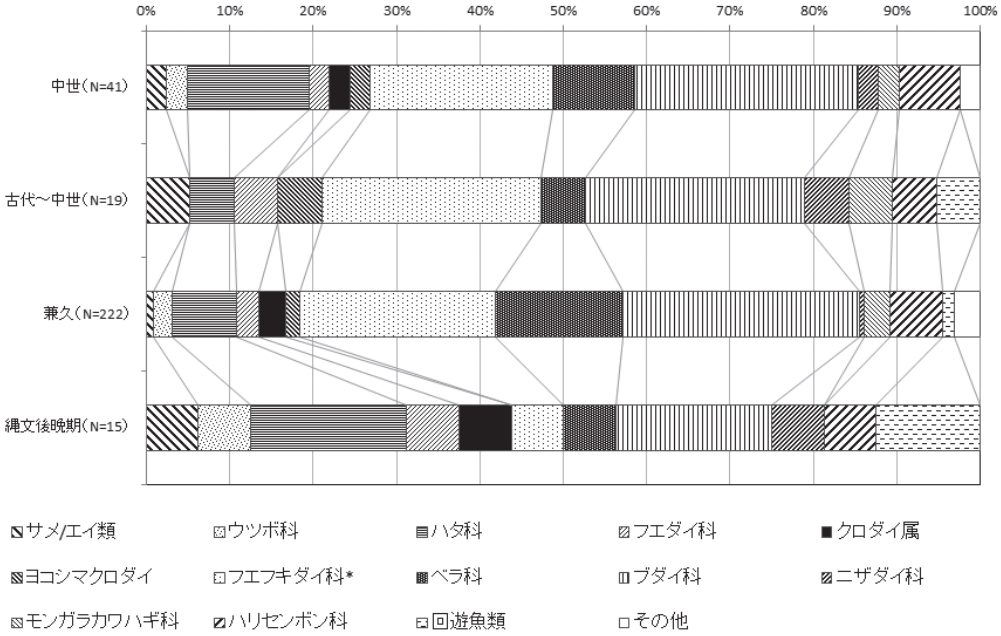
第70表　川尻遺跡平成24～25年度調査で採取された魚類遺体の組成（1）：最小個体数（MIN）

種類	近現代	近世	中世	兼久～中世	兼久	縄文後晩期
メジロザメ科 / 型	1		1	1	1	1
エイ目					1	
ウツボ科 A					3	1
ウツボ科 B			1		2	
アナゴ科			1		2	
ボラ科					1	
カマス科						1
ハタ科（マハタ型）	1	1	4	1	13	2
ハタ科（バラハタ型）			1		1	
ハタ科（スジアラ型）			1		3	1
ハタ科	<1>		<3>	<1>	<13>	<1>
アジ科（大型種）		1		1	2	
シイラ属					1	
フエダイ科		1	1	1	6	1
コショウダイ類					2	
クロダイ属		1	1		7	1
タイ科					<1>	
ヨコシマクロダイ	1		1	1	4	
ノコギリダイ属					1	
メイチダイ属		1	2	1	9	
フエフキダイ属（アマミフエフキ型）	1		6	4	36	1
フエフキダイ属（ハマフエフキ型）			1		6	
フエフキダイ属		1	<2>	<3>	<19>	
フエフキダイ科		<2>	<5>	<3>	<23>	
ベラ科（タキベラ型）					1	
ベラ科 A					1	
ベラ科 B			4	1	32	
ベラ科	1	2	<1>	<1>	<8>	1
イロブダイ属			1		2	1
アオブダイ属	2	1	10	5	61	2
ブダイ科	<1>	<1>	<2>	<1>	<13>	<1>
マグロ属？						
サバ科（大型種）						1
サバ科（大型種）？		1				
アイゴ属					1	
ニザダイ科	1	1	1	1	1	1
オニオコゼ科？					1	
モンガラカワハギ科	1		1	1	7	
ハリセンボン科	1		3	1	14	1
合計	10	11	41	19	222	16

第71表　川尻遺跡平成24～25年度調査で採取された魚類遺体の組成（2）：同定標本数（NISP）

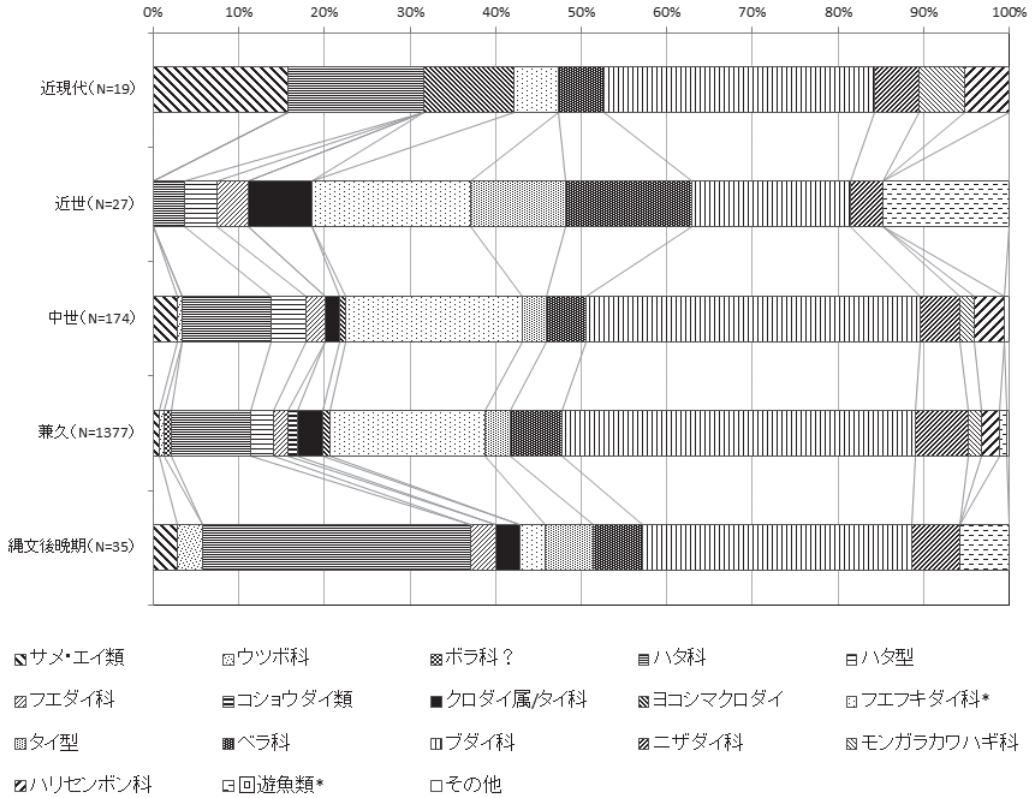
＊モンガラカワハギ科の歯とハリセンボン科の棘は除外した。貝だまりはドット資料を含む。ドット取上は貝だまりを除く。

種類	H24													H25																								総計
	Ⅰ層	貝集中				Ⅲ層	白砂	Ⅴ層	集石	SK		P	合計	SD06	SD10	SK			P				集石55	ドット取上	貝だまり									Ⅳ層一括		合計	合計
		#2	#3	#4	-	#1																		1	4	5	6	7	8	9	10	11	C	-	I98	M98		
	近現代	兼久	兼久	兼久	兼久	縄～兼	縄	縄	縄	縄	縄	兼久	中近世	-	中世	中世	中世	近世	不明	兼久	中世	近世	不明	古～中	兼久	兼久	兼久	兼久	兼久	兼久	兼久	兼久	兼久	兼久	兼久	兼久	兼久		
メジロザメ科 / 型	3		1							1			5	2	1					2		1				1	2		1						2		12	17
エイ目													0																			2					2	2
ウツボ科									1				1			1			1							1			1			2			1	3	10	11
アナゴ科													0							1												2					3	3
ボラ科？													0																			11					11	11
カマス科									1				1																								0	1
マハタ型	1					2	3	1		1			8	5	2	1					1					9	5		1		1	15			4	18	62	70
バラハタ型													0	2																						1	3	3
スジアラ型			1			1				1			3			1										2										4	7	10
ハタ科	2					2	2		1	1	1	1	10	6					2	1						10	6		2	1		22			6	17	73	83
ハタ型												1	1	5	2				2		1				1	2	1					12			12	5	43	44
アジ科（大型種）												1	1								3						2					1			5		11	12
シイラ属													0																			3					3	3
フエダイ科			1			2			1				4	2		1				1	1					1	2					14			1	5	28	32
コショウダイ類													0																			15					15	15
クロダイ属						1	1						2	2	1		2		1			1				2						35				1	45	47
タイ科													0																			1					1	1
ヨコシマクロダイ	2		1			4						1	8	1					1							3	1					4			1	1	12	20
ノコギリダイ属													0																			1					1	1
メイチダイ属			2										2	2		1			1		1					1						12				4	22	24
フエフキダイ属（アマミフエフキ型）	1		1			1				1		1	5	6	2	1			1			2				13			3		3	34			4	6	75	80
フエフキダイ属（ハマフエフキ型）			1										1			1											3					5					9	10
フエフキダイ属			1			1							2	2		1	1			1	1					10	1					25			2	4	48	50
フエフキダイ科			2										2	12	1	5	2		4	1		3				18	1		4	1		68		1	6	4	131	133
タイ型								1		1			2	5			2		1		1			1		7						30				3	50	52
タキベラ型			1										1																								0	1
ベラ科 A													0																			1					1	1
ベラ科 B			3										3	3	1			1	3							4	5		1			14		2	5	2	41	44
ベラ科	1		2			2	1			1			7	2	1	1	2				2			1		5	1		3			23			1	5	47	54
イロブダイ属									1				1	2								1				2						7		3			15	16
アオブダイ属	4	1	15	2	4	12		1	1	3	1	5	49	28	3	10	2		4	1		2	1	4	1	3	23	28	1	1	2	2	124			22	34	296	345
ブダイ科	2		4		1	8		1		2	1	6	2	27	17	1	6			7		3	2		1		16	4		2	1	2	201	1	1	10	24	299	326
マグロ属？						1							1																								0	1
サバ科（大型種）										1			1																								0	1
サバ科（大型種）？													0				1																				1	1
アイゴ属													0																						1		1	1
ニザダイ科	1					2					2		5	6		1			4	1	1					6	2	1	1			54		2	4	11	94	99
オニオコゼ科？												1	1																								0	1
モンガラカワハギ科	1		2										3	2						1				2		4	1	1	1			5		1	2	3	23	26
ハリセンボン科	1		2			3				+			6	4		2			1						1	3	3	1		1		7			4	5	32	38
真骨類未同定													0	1			7															2				1	11	11
真骨類要検討			1								1		2	1		1			2	1							1		1							2	9	11
真骨類保留						2							2	1		2				2		1				5	1				1	21			3	8	45	47
真骨類同定不可						1			1				2						2		1			1		1			1			12		1	4	8	31	33
合計	19	1	41	2	5	45	7	4	4	13	9	17	2	169	119	15	36	19	1	37	13	16	13	1	10	2	4	149	70	4	23	6	9	785	1	11	100	179	1623	1792



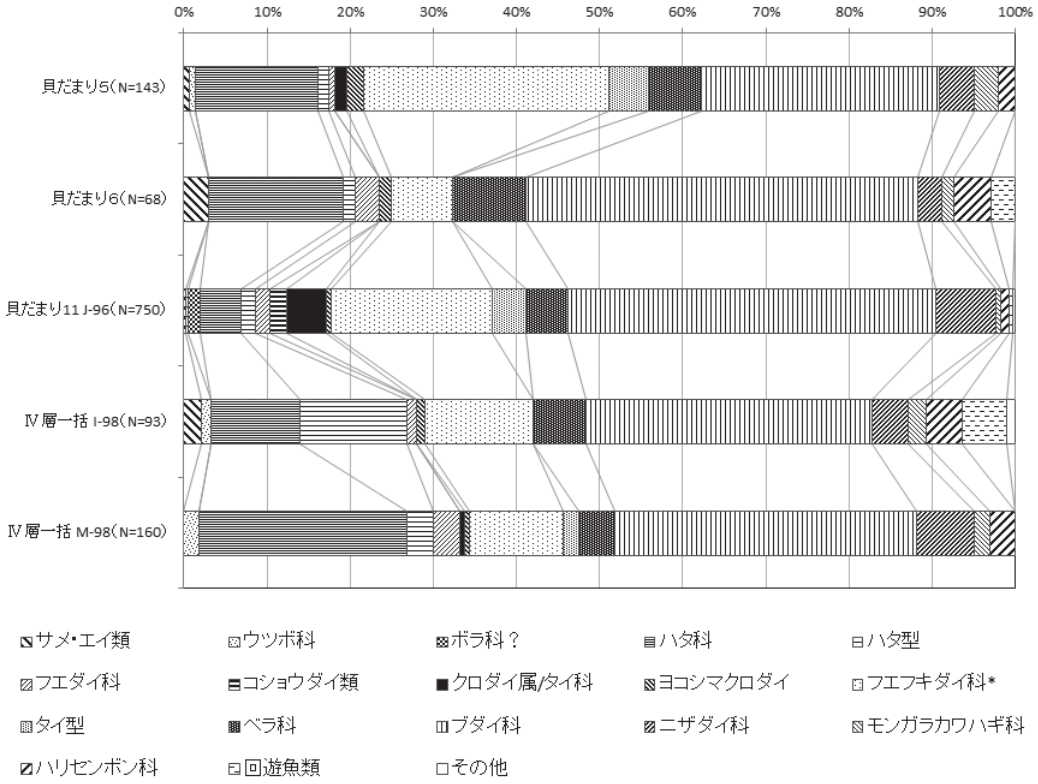
第166図　川尻遺跡平成24～25年度調査で採集された魚類遺体の組成の変遷（1）：MNI比

＊「フエフキダイ科」はヨコシマクロダイ以外の種類.「回遊魚」はカマス科・アジ科（大型種）・シイラ属・マグロ属？・サバ科（大型種）



第167図　川尻遺跡平成24～25年度調査で採集された魚類遺体の組成の変遷（２）：NISP比

*「フエフキダイ科」はヨコシマクロダイ以外の種類.「回遊魚」はカマス科・アジ科（大型種）・シイラ属・マグロ属？・サバ科（大型種）



第168図　川尻遺跡Ⅳ層（兼久期）における貝だまりと包含層の魚類遺体の組成の比較：NISP比

第72表　川尻遺跡平成25年の調査において貝だまりの水洗選別によって採集された魚類遺体の同定結果

種類	部位	貝だまり 5（K-96）			貝だまり 11（J-96）			総計		
		1114			1106					
		4mm	1.5mm	合計	4mm	1.5mm	合計	4mm	1.5mm	合計
サメ類	歯			0		1	1	0	1	1
カタクチイワシ / キビナゴ属	尾椎			0		1	1	0	1	1
ウツボ科	歯骨			0 / 0		/ 1	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 1
ウツボ科	角骨			0 / 0		/ 2	0 / 2	0 / 0	0 / 2	0 / 2
ウツボ科	方骨			0 / 0		/ 1	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 1
ウツボ科	椎骨	1	10	11	1	20	21	2	30	32
ダツ科	前上顎骨			0	1		1	1	0	1
エソ科	腹椎			0		3	3	0	3	3
トウゴロウイワシ科	腹椎			0		1	1	0	1	1
マハタ型	前上顎骨			0 / 0		1 /	1 / 0	0 / 0	1 / 0	1 / 0
マハタ型	歯骨		1 / 2	1 / 2	/ 1	2 / 2	2 / 3	0 / 1	3 / 4	3 / 5
ハタ科	主上顎骨		/ 1	0 / 1			0 / 0	0 / 0	0 / 1	0 / 1
ハタ科	前上顎骨			0 / 0	/ 1		0 / 1	0 / 1	0 / 0	0 / 1
ハタ科	角骨		1 /	1 / 0	/ 1		0 / 1	0 / 1	1 / 0	1 / 1
ハタ科	方骨		1 /	1 / 0			0 / 0	0 / 0	1 / 0	1 / 0
ハタ科	擬鎖骨		1 / 1	1 / 1		/ 1	0 / 1	0 / 0	1 / 2	1 / 2
ハタ型	腹椎	1		1	2	2	4	3	2	5
ハタ型	尾椎	4	1	5	1	2	3	5	3	8
アジ科（大型種）	方骨	/ 1		0 / 1			0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 1
フエダイ科	前上顎骨	/ 1		0 / 1			0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 1
フエダイ科	腹椎			0	1		1	1	0	1
イスズミ科	前上顎骨		/ 1	0 / 1			0 / 0	0 / 0	0 / 1	0 / 1
クロダイ属	前上顎骨			0 / 0	1 /		1 / 0	1 / 0	0 / 0	1 / 0
クロダイ属	歯骨			0 / 0	1 /		1 / 0	1 / 0	0 / 0	1 / 0
クロダイ属	口蓋骨	/ 1		0 / 1			0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 1
ヨコシマクロダイ	前上顎骨			0 / 0	/ 1		0 / 1	0 / 1	0 / 0	0 / 1
メイチダイ属	前上顎骨	1 /		1 / 0			0 / 0	1 / 0	0 / 0	1 / 0
アマミフエフキ型	前上顎骨	1 /		1 / 0	/ 1		0 / 1	1 / 1	0 / 0	1 / 1
フエフキダイ属	前上顎骨	/ 1		0 / 1			0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 1
フエフキダイ属	方骨	1 /		1 / 0	/ 1		0 / 1	1 / 1	0 / 0	1 / 1
フエフキダイ属	口蓋骨	/ 2		0 / 2			0 / 0	0 / 2	0 / 0	0 / 2
フエフキダイ科	歯骨	/ 1		0 / 1	/ 1		0 / 1	0 / 2	0 / 0	0 / 2
フエフキダイ科	角骨	/ 1		0 / 1			0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 1
フエフキダイ科	第 1 椎骨			0	2		2	2	0	2
フエフキダイ科	腹椎			0	1		1	1	0	1
タイ型	腹椎	1		1	2	2	4	3	2	5
タイ型	尾椎	9		9	5		5	14	0	14
ベラ科（その他）	上咽頭骨		/ 1	0 / 1		1 /	1 / 0	0 / 0	1 / 1	1 / 1
ベラ科（その他）	下咽頭骨		1	1		1	1	0	2	2
ベラ科	前上顎骨			0 / 0	1 /		1 / 0	1 / 0	0 / 0	1 / 0
ベラ科	角骨	1 /		1 / 0		/ 2	0 / 2	1 / 0	0 / 2	1 / 2
アオブダイ属	下咽頭骨			0	2		2	2	0	2
アオブダイ属	前上顎骨	/ 1		0 / 1	/ 1	1	0 / 2	0 / 2	0 / 1	0 / 3
アオブダイ属	歯骨	/ 2		0 / 2	1 /		1 / 0	1 / 2	0 / 0	1 / 2
ブダイ科	主上顎骨			0 / 0	/ 1		0 / 1	0 / 1	0 / 0	0 / 1
ブダイ科	角骨		1 /	1 / 0	/ 1		0 / 1	0 / 1	1 / 0	1 / 1
ブダイ科	主鰓蓋骨	1 /		1 / 0	/ 1		0 / 1	1 / 1	0 / 0	1 / 1
ブダイ科	腹椎		2	2	2		2	2	2	4
ブダイ科	尾椎	4	1	5	7	2	9	11	3	14
アイゴ属	腹椎			0		1	1	0	1	1
ニザダイ科	前上顎骨		/ 1	0 / 1			0 / 0	0 / 0	0 / 1	0 / 1
ニザダイ科	歯			0		4	4	0	4	4
ニザダイ科	主鰓蓋骨	/ 1	/ 1	0 / 2			0 / 0	0 / 1	0 / 1	0 / 2
ニザダイ科	擬鎖骨	/ 1	/ 1	0 / 2		2	0 / 2	0 / 1	0 / 3	0 / 4
ニザダイ科	第 1 椎骨			0		2	2	0	2	2
ニザダイ科	腹椎		2	2	3	9	12	3	11	14
ニザダイ科	尾椎	6	1	7	14	23	37	20	24	44
カレイ目	尾椎			0		1	1	0	1	1
モンガラカワハギ科	歯			0		1	1	0	1	1
モンガラカワハギ科	擬鎖骨			0 / 0	1 /		1 / 0	1 / 0	0 / 0	1 / 0
モンガラカワハギ科	腹椎			0		2	2	0	2	2
モンガラカワハギ科？	尾椎			0	3		3	3	0	3
モンガラカワハギ科	鱗		3	3			0	0	3	3
ハコフグ科？	鱗板			0		2	2	0	2	2
ハリセンボン科	棘			0	2		2	2	0	2
真骨類未同定 A	腹椎		1	1		1	1	0	2	2
真骨類未同定 A	尾椎		8	8		19	19	0	27	27
真骨類未同定 B	腹椎			0		6	6	0	6	6
真骨類未同定 C	腹椎			0		11	11	0	11	11
真骨類未同定 D	第 1 椎骨			0		4	4	0	4	4
真骨類未同定	方骨		1	1			0	0	1	1
真骨類未同定	第 1 椎骨		1	1			0	0	1	1
真骨類未同定	腹椎		3	3	1		1	1	3	4
真骨類未同定	尾椎			0	4		4	4	0	4
真骨類保留	主上顎骨			0 / 0		/ 1	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 1
真骨類保留	前上顎骨			0 / 0		1 /	1 / 0	0 / 0	1 / 0	1 / 0
真骨類保留	方骨			0 / 0		3 /	3 / 0	0 / 0	3 / 0	3 / 0
真骨類保留	前鰓蓋骨	1		1			0	1	0	1
真骨類保留	主鰓蓋骨			0 / 0		1 /	1 / 0	0 / 0	1 / 0	1 / 0
真骨類保留	耳石			0	1		1	1	0	1
真骨類保留	第 1 椎骨			0		1	1	0	1	1
真骨類保留	腹椎	1		1		31	31	1	31	32
真骨類保留	椎骨	5	19	24	5	143	148	10	162	172
真骨類同定不可	前鰓蓋骨	1		1			0	1	0	1
真骨類同定不可	主鰓蓋骨	1 / 2	1	1 1 2			0	1 / 2	1	1 1 2
真骨類同定不可	椎骨	4	8	12	6	55	61	10	63	73
合計		59	77	136	82	373	455	141	450	591

第73表　川尻遺跡平成25年の調査において水洗選別によって採集された魚類遺体の組成

* 総計 A はサンプル No.1114 と 1106 の MNI の合計，総計 B は両サンプルの資料合計値に基づいて算出した MNI。

種類	同定標本数（NISP）									最小個体数（MNI）			
	貝だまり 5（K-96）			貝だまり 11（J-96）			総計			貝だまり 5（K-96）	貝だまり 11（J-96）	総計 *	
	サンプル No.1114			サンプル No.1106						1114	1106	A	B
	4mm	1.5mm	合計	4mm	1.5mm	合計	4mm	1.5mm	合計				
サメ類					1	1		1	1		1	1	1
カタクチイワシ / キビナゴ属					1	1		1	1		1	1	1
ウツボ科	1	10	11	1	24	25	2	34	36	1	2	3	2
エソ科					3	3		3	3		1	1	1
ダツ科				1		1	1		1		1	1	1
トウゴロウイワシ科					1	1		1	1		1	1	1
マハタ型		3	3	1	5	6	1	8	9	2	3	5	5
ハタ科		5	5	2	1	3	2	6	8	<1>	<1>	<2>	<2>
ハタ型	5	1	6	3	4	7	8	5	13	-	-	-	-
アジ科（大型種）	1		1				1		1	1		1	1
フエダイ科	1		1	1		1	2		2	1	1	2	1
イスズミ科		1	1					1	1	1		1	1
クロダイ属	1		1	2		2	3		3	1	1	2	1
ヨコシマクロダイ				1		1	1		1		1	1	1
メイチダイ属	1		1				1		1	1		1	1
アマミフエフキ型	1		1	1		1	2		2	<1>	<1>	<2>	<1>
フエフキダイ属	4		4	1		1	5		5	2	<1>	3	2
フエフキダイ科	2		2	4		4	6		6	<1>	2	<3>	<2>
タイ型	10		10	7	2	9	17	2	19	-	-	-	-
ベラ科（その他）		2	2		2	2		4	4	1	<1>	<2>	2
ベラ科	1		1	1	2	3	2	2	4	<1>	2	3	<2>
アオブダイ属	3		3	4	1	5	7	1	8	2	2	4	3
ブダイ科	5	4	9	12	2	14	17	6	23	<1>	<1>	<2>	<1>
アイゴ属					1	1		1	1		1	1	1
ニザダイ科	8	6	14	17	36	53	25	42	67	2	2	4	4
カレイ目					1	1		1	1		1	1	1
モンガラカワハギ科				4	2	6	4	2	6	1	1	2	1
ハコフグ科？					2	2		2	2		1	1	1
ハリセンボン科				+		+	+		+		1	1	1
真骨類未同定		14	14	5	41	46	5	55	60	-	-	-	-
真骨類保留	7	19	26	6	181	187	13	200	213	-	-	-	-
真骨類同定不可	8	9	17	6	55	61	14	64	78	-	-	-	-
合計	59	74	133	80	368	448	139	442	581	16	26	41	34

５・６・11，および貝だまり以外の包含層からの一括採集資料の一部（I-98グリッド・M-98グリッド）の組成（NISP比）を第168図に比較して示した。一括採集資料のI-98グリッドとM-98グリッドは30m以上離れており，また貝だまり５（K-97～98），同６（J-98），同11（J-96）とは別グリッドであることから，貝だまりとの組成差の有無を検討するうえで適していると考えられる。

これをみると，全体的な傾向としてはいずれもブダイ科を最多種とし，フエフキダイ科，ハタ科，ベラ科などが多くみられる点で共通の特徴を示しているが，その一方で，詳細にみるとそれぞれの間で微妙な差異も認められる。すなわち，最も出土数の多い貝だまり11ではハタ科の比率が低く，クロダイ属が多いのに対して，貝だまり５ではハタ科の比率が高く，クロダイ属が少ない。貝だまり６ではハタ科の比率が高い点では貝だまり５と同様だが，フエフキダイ科の比率がきわめて低くハタ科との順位が逆転しており，その分ブダイ科などが高率となっている点で特徴的である。

包含層一括資料のI-98グリッドとM-98グリッドは，30m以上離れているにもかかわらず，いずれもハタ科が多く（I-98グリッドではハタ型とした椎骨が多いが，その多くはハタ科のものと思われる），フエフキダイ科が少ない点でよく似た特徴を示している。これを貝だまりと比較すると，貝だまり６とやや類似しているが，貝だまり５・11とは傾向が明らかに異なることがわかる。

上記の各遺構／地点の組成はいずれも十分な数の資料をもとに算出されているので，上記の差異は偶然の偏り等によるものではなく，実質的なものと判断してよい。こうした差異が生じた原因については，他の遺物の内容や出土状況も含め総合的に検討する必要があるが，ひとつの解釈として，貝だまりの魚骨はある程度短期間に集中的に廃棄されたために利用された魚類の短期的な内容の違いが表れているのに対して，包含層の魚骨はそれよりも長期間にわたって廃棄・蓄積したものであるために，そうした違いが相殺され組成が均一化している可能性なども考えられよう。

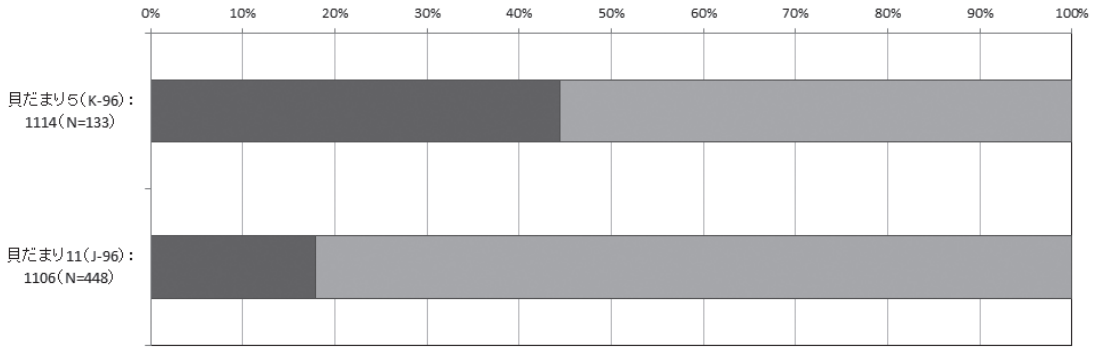
近世：基本的な組成の傾向性は兼久式期～中世と同様である。ベラ科と回遊魚（アジ科大型種，サバ科大型種？）がやや目立つが，資料数が少ないため意味のある差といえるかは明確ではない。

(3) 水洗選別資料

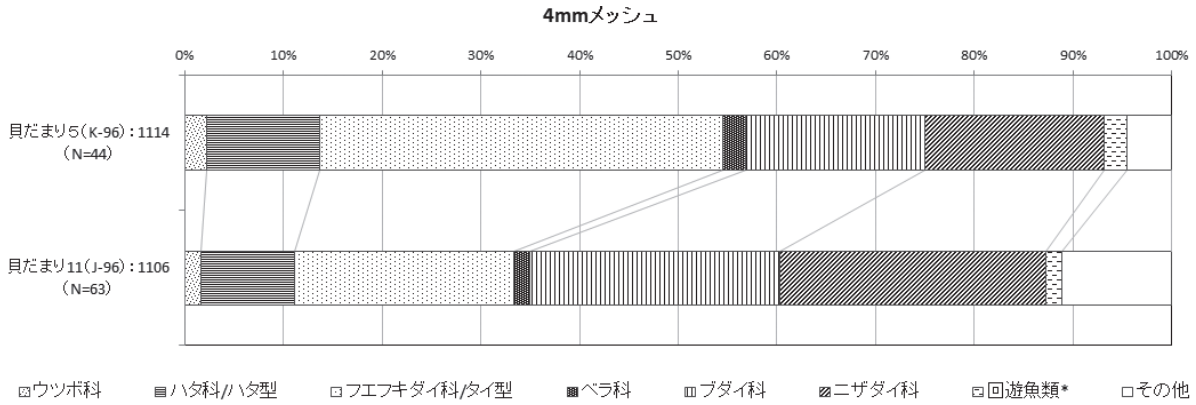
ピックアップ資料において多くの資料が得られた兼久式期に関して，小型魚骨の内容を明らかにするため，とくに出土数が多かった貝だまり５と11の水洗選別資料の中から各１サンプルを抽出し分析した。なおこれらのサンプルには同定対象となる資料が多数含まれていたが，今回は時間的な制約のため，とくに1.5mm資料の椎骨を中心に現時点で現生標本との比較検討を十分に行えていない資料が多数残されている。これらの資料については分析結果の表（第72表・第73表）に「真骨類保留」として示した。

魚骨のサイズ

まず埋蔵されていた魚骨の本来のサイズに関する大まかな傾向性を明らかにするため，4mm資料と1.5mm資料の比率

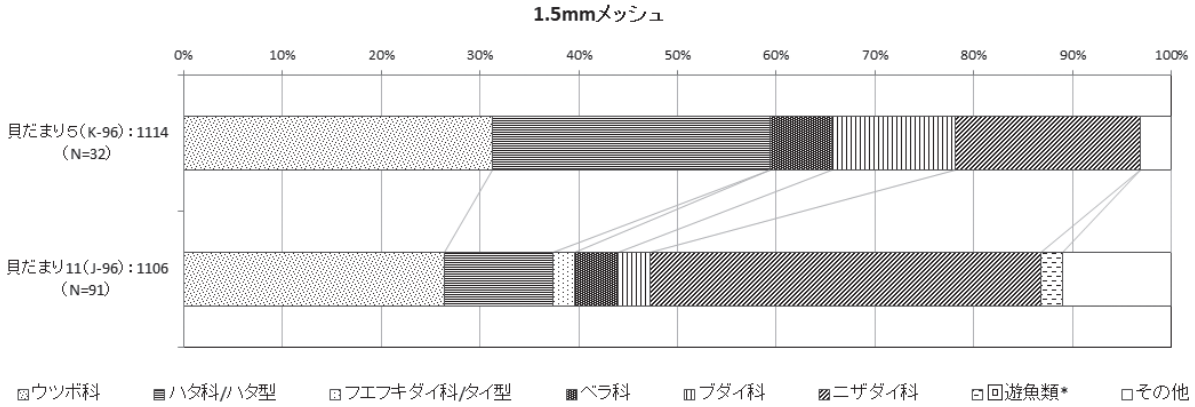


第169図　川尻遺跡平成25年度調査において水洗選別によって採集された魚類遺体のメッシュ別検出率：NISP比



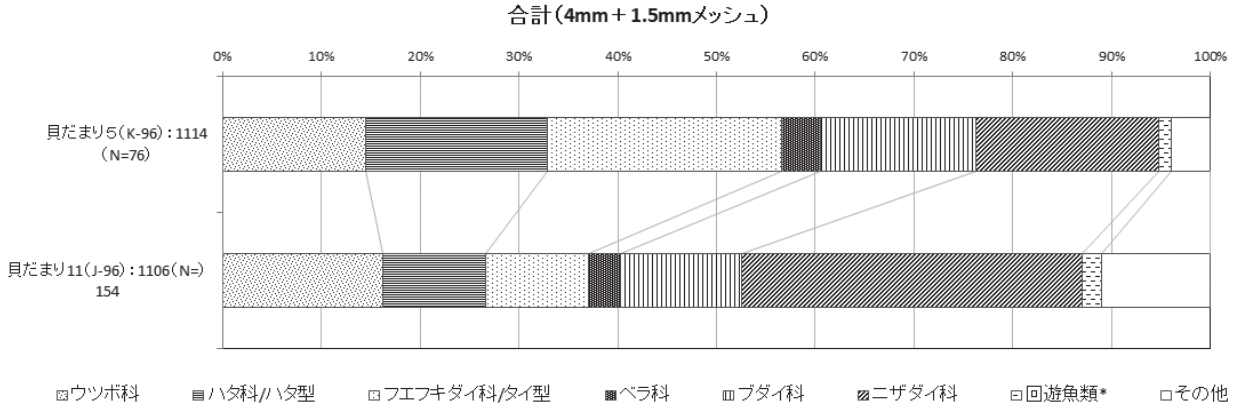
第170図　川尻遺跡平成25年度調査において水洗選別によって採集された魚類遺体の組成比(1)4mmメッシュ：NISP比

* 回遊魚類：ダツ科・アジ科（大型種）



第171図　川尻遺跡平成25年度調査において水洗選別によって採集された魚類遺体の組成比(2)1.5mmメッシュ：NISP比

* 回遊魚類：キビナゴ属／カタクチイワシ亜科・トウゴロウイワシ科



第172図　川尻遺跡平成25年度調査において水洗選別によって採集された魚類遺体の組成比(3)4mm+1.5mmメッシュ：NISP比

* 回遊魚類：キビナゴ属／カタクチイワシ亜科・ダツ科・トウゴロウイワシ科・アジ科（大型種）

を第169図に示した。これをみると，いずれも1.5mm資料がいずれも過半を占めており，実際にはこうした小型の魚も多数利用されていたことがわかる。ただしその比率は貝だまり５と11でかなり異なっており，1.5mm資料の比率は貝だまり11では８割以上に達するのに対して，貝だまり５では６割弱にとどまる。

組成

4mm資料，1.5mm資料および全資料の合計による組成を第170図～第172図にそれぞれ示した。

4mm資料（第170図）：貝だまり５と11のいずれもフエフキダイ科，ブダイ科，ニザダイ科，ハタ科が優占している点で共通している。ピックアップ資料（第168図）と比較すると，ブダイ科が少なく，ニザダイ科の比率が高い点が特徴である。これはブダイ科ではピックアップで採集されるようなとくに大型の骨が多いのに対して，ニザダイ科では発掘現場では見落とされるような比較的小型の骨が多いことによるものと考えられる。

貝だまり５と11を比較すると，貝だまり５ではフエフキダイ科が卓越しているのに対して，貝だまり11ではフエフキダイ科，ブダイ科，ニザダイ科が同程度の比率で優占する点で差異が認められる。貝だまり５でフエフキダイ科が多い傾向はピックアップ資料とも共通している。

1.5mm資料（第171図）：貝だまり５と11のいずれもウツボ科，ハタ科，ニザダイ科が優占し，ブダイ科とベラ科がこれに次ぐ点で共通しているが，貝だまり５ではハタ科，貝だまり11ではニザダイ科が多くみられる。

全資料合計（第172図）：4mm資料と1.5mm資料の合計値による組成は，当然ではあるが両者の特色を反映しており，全体的にはウツボ科，ハタ科，フエフキダイ科，ブダイ科，ニザダイ科が主体をなし，ベラ科もやや多くみられる。これら以外にも，少数ではあるがサメ類，カタクチイワシ/キビナゴ属，エソ科，ダツ科，トウゴロウイワシ科，アジ科（大型種），フエダイ科，イスズミ科，クロダイ属，アイゴ属，カレイ目，モンガラカワハギ科，ハコフグ科？，ハリセンボン科など多様な魚種が確認されている。

貝だまり５と貝だまり11を比較すると，前者ではウツボ科，ハタ科，フエフキダイ科，ブダイ科，ニザダイ科が同程度の比率で主要種をなしているのに対して，後者ではニザダイ科が卓越する点で傾向が異なる。両者の間で魚骨のサイズや種類の組成に差異がみられる点については，部分的なサンプルから得られた結果であることから，貝だまり内部における魚骨の空間的な偏りが反映されてしまっている可能性もあり得るが，先述のとおりピックアップ資料においても両者の組成に相違がみられることからみて，本来的な差異を反映している可能性も考えられる。

３．まとめと考察

(1) 川尻遺跡の魚類遺体群の内容

縄文後～晩期：喜界島において縄文後～晩期の詳細な魚類遺体のデータが得られたのは，本遺跡に隣接する崩リ遺跡（樋泉2018a）に次いで今回が２例目となる。今回はピックアップ資料のみのデータではあるが，魚類資源利用にかかわる資料を追加できた点は重要である。この時期の魚骨組成はブダイ科とハタ科が主体であり，他の少数種も含め，サンゴ礁やその周辺に生息する魚類が大半を占める。

兼久式期（９～10世紀）：今回の調査における最大の成果は，喜界島で初めて兼久式期の良好な脊椎動物遺体がまとまって得られた点である。今回得られた資料は兼久式期の末期に相当するものだが，様相が不明確であったこの時期の喜界島における魚類資源利用にかかわる良好かつ大量のデータが得られた意義はきわめて大きい。本遺跡の兼久式期の魚類遺体の特徴をまとめると，ピックアップ資料ではブダイ科とフエフキダイ科を主体にハタ科，ベラ科など，水洗資料ではウツボ科，ハタ科，フエフキダイ科，ブダイ科，ニザダイ科などが主体であり，いずれもサンゴ礁やその周辺に生息する魚類が大半を占める。

中世（14～15世紀）：ピックアップ資料の内容は兼久式期とほぼ同様である。水洗選別資料は得られなかった。

(2) 川尻遺跡における魚類資源利用の特徴

以上に述べた本遺跡における縄文後晩期から中世の魚類利用の様相をまとめると，縄文後～晩期，兼久式期，中世のいずれにおいてもサンゴ礁やその周辺に生息する魚類が主体となる点は同様であり，魚類資源利用はこの間一貫してサンゴ礁域を中心とした沿岸漁労が主力となっていたと推定される。この点は喜界島や他の奄美群島の縄文後期～中世（貝塚時代前４期～グスク時代）に普遍的にみられる特徴（樋泉2011，2018b，2019）とも合致している。

ピックアップ資料における魚類組成の詳細をみると，縄文後～晩期ではブダイ科とハタ科が主体で，兼久式期以降に比べてとくにハタ科が多く，フエフキダイ科が少ない点が特徴である。縄文後～晩期の魚類組成が中世とは異なる傾向を示すことは隣接する崩リ遺跡においても指摘されている（ただし崩リ遺跡ではハリセンボン科が多い点で本遺跡とはパターンが異なる）。このように縄文後～晩期の魚類組成は兼久式期以降とは異なった傾向を示しているようにも思われるが，この点については，まだ資料数が少ないこともあり，骨の保存条件なども考慮したうえで，さらに検討が必要である。

兼久式期（９～10世紀）については，喜界島においてこの時期にも多様なサンゴ礁性魚類の利用がきわめて活発に行われていたことが初めて確認された。一方，他の奄美群島の遺跡では兼久式期の末期には骨の出土量が減少する傾向が指摘されており（樋泉2019），本遺跡との落差が大きい。今後こうした相違の原因について検討を進めていく必要がある。

中世（14～15世紀）については，サンゴ礁性の魚類を主とした比較的多くの魚骨が確認され，本遺跡と同様の低位段

丘（標高13m）に位置する荒木地区の和早地遺跡と類似の様相といえる。いっぽう，本遺跡に隣接する崩リ遺跡と中増遺跡では魚骨は少なく，近接した同時代遺跡の間でこうした差異が生じた原因について，今後さらに検討していく必要がある。

付記：魚骨にみられる解体痕（カットマーク）について

今回の分析資料の中には鉄器によると考えられる解体痕（カットマーク）を伴うものが認められた（図版１）．体系的に観察したわけではないので気が付いた範囲での記録ではあるが，これまでにⅣ層一括資料（兼久式期）でハタ科（マハタ型）歯骨，ハタ型の腹椎・尾椎各１点，SD-6（中世）でアオブダイ属前上顎骨４点，同歯骨・フエダイ科方骨・ハタ型椎骨各１点が確認されている．

謝辞

喜界町教育委員会の澄田直敏，野崎拓司，松原信之の各氏には，調査・分析に際して多大なるご助力とご教示を賜った。記して厚く御礼申し上げる。

参考文献

金子浩昌（1996）「動物遺体（軟体動物を除く）」『平式屋トウバル遺跡』沖縄県教育委員会，pp.168-295。

樋泉岳二（2006）「魚類遺体群からみた住吉貝塚の特徴と重要性」『住吉貝塚』知名町教育委員会，pp.115-131。

樋泉岳二（2008）「和早地遺跡の脊椎動物遺体群」『荒木貝塚 和早地遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター，pp.43-56。

樋泉岳二（2011）「琉球先史時代人と動物資源利用－脊椎動物遺体を中心に－」『先史・原史時代の琉球列島～ヒトと景観～』六一書房，pp.109-131。

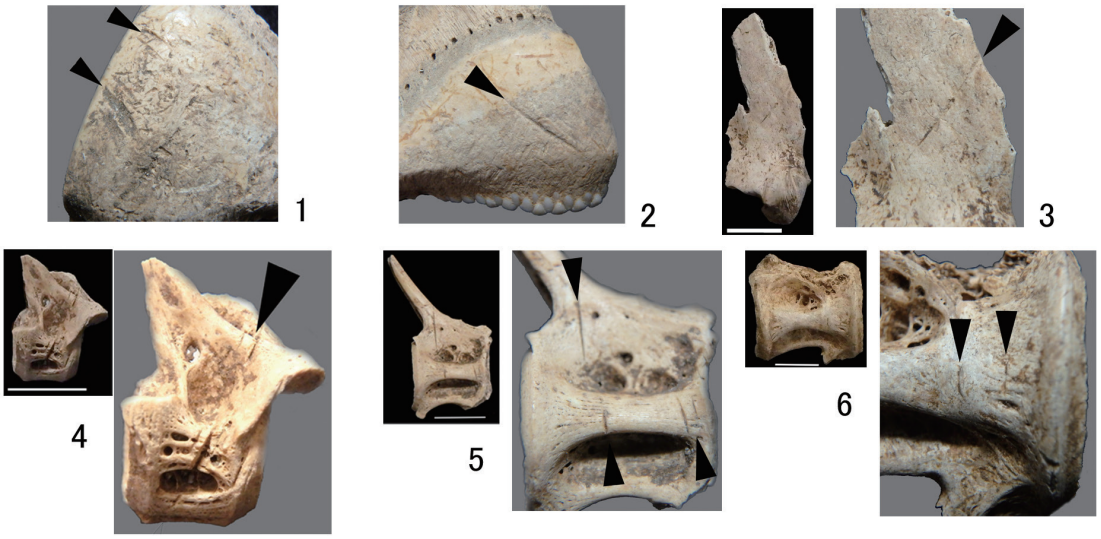
樋泉岳二（2018a）「崩リ遺跡の平成23～24年度調査で採集された脊椎動物遺体」『崩リ遺跡Ⅰ　第２分冊』喜界町教育委員会，pp.87-121。

樋泉岳二（2018b）「遺跡出土脊椎動物遺体からみた奄美・沖縄の動物資源利用」『奄美・沖縄諸島先史学の最前線』南方新社，pp.109-128。

樋泉岳二（2019）「奄美群島における兼久式期～中世の脊椎動物資源利用」『中山清美と奄美学－中山清美氏追悼論集－』奄美考古学会，pp.477-484。

名島弥生・樋泉岳二（2008）「南島考古学におけるフエフキダイ科魚類の属レベルでの同定とその意義」，動物考古学25：116。

図版１



図版１．川尻遺跡出土魚類遺体にみられる解体痕

1アオブダイ属前上顎骨L，2アオブダイ属前上顎骨R，3フエダイ科方骨R，4ハタ型腹椎，5～6ハタ型尾椎。スケールバーは1cm。

1～3はそれぞれ図版2の47・46・19と同一資料．4～5：Ⅳ層一括（兼久式期），1～3・6：SD-6（中世）。

図版２．川尻遺跡出土の魚類遺体

1メジロザメ科椎骨，2エイ目椎骨，3アナゴ科歯骨L，4ウツボ科A歯骨L，5ウツボ科B歯骨R，6ハタ科（マハタ型）前上顎骨R，7～8ハタ科（バラハタ型）〔7歯骨L，8前鰓蓋骨R〕，9～10ハタ科（スジアラ型）〔9前上顎骨L，10歯骨L，11前鰓蓋骨L〕，12～15アジ科（大型種）〔12角骨L，13前上顎骨L，14尾椎（尾柄部）15尾椎〕，16～21フエダイ科〔16主上顎骨L，17前上顎骨L，18歯骨R，19方骨R（CM），20方骨R，21角骨R〕，22サバ科（大型種）？角骨L，23サバ科（大型種）尾椎（尾柄部），24～25クロダイ属〔24歯骨L，25前上顎骨R〕，26～28コショウダイ類〔26角骨L，27歯骨R，28方骨L〕，29～30ヨコシマクロダイ〔29前上顎骨L，30歯骨R〕，31ノコギリダイ属前上顎骨L，32メイチダイ属前上顎骨L，33フエフキダイ属（アマミフエフキ型）前上顎骨L，34フエフキダイ属（ハマフエフキ型）前上顎骨L，35アイゴ属腹椎，36ベラ科（タキベラ型）下咽頭骨，37ベラ科A下咽頭骨，38ベラ科B下咽頭骨，39～41イロブダイ属〔39上咽頭骨L，40下咽頭骨，41前上顎骨L〕，42～48アオブダイ属〔42上咽頭骨L，43～45下咽頭骨，46前上顎骨R（CM），47前上顎骨L（CM），48歯骨L〕，49～52ニザダイ科〔49腹椎，50尾椎，51楯鱗，52楯鱗（可動型）〕，53真骨類（未同定）椎骨（CM），54～55モンガラカワハギ科〔54前上顎骨R，55歯骨＋角骨L〕，56～57ハリセンボン科〔56歯骨，57前上顎骨〕．CMはカットマークあり（図版１参照）．

鹿児島女子短期大学　竹中正巳

１　はじめに

鹿児島県喜界町川尻遺跡の発掘調査が行われ、石蓋土坑墓から人骨が1体出土した。人骨のクリーニングおよび復元を行い、人類学的精査を行った概要を本稿では報告する。

２　人骨の所見

ほぼ全身の骨が遺存する。保存状態は比較的よい。人骨の年齢は、頭蓋の蝶後頭軟骨結合が癒合しており、四肢の長骨の近位・遠位端が未癒合であることから20歳に近い若年であると推定される。性別は頭蓋の眉弓の発達が弱く、女性であると判定される。所属年代はC14年代測定により、縄文時代後期と推定されている。

人骨の頭蓋計測値を表1に示す。頭蓋長幅示数は82.9と短頭で、顔面は上顔高が54mm、顔高も97mmと低く、低顔傾向を示す。また、眼窩も低く、顔面全体と同様の傾向である。ただ、鼻部は鼻示数が47.6と高く、眼窩や顔面全体とは異なる傾向を示す。顔面平坦度は前頭部が16.9と平坦ではない。鼻部を除けば、顔面のほとんどは琉球列島の縄文時代相当期から古墳時代相当期の人々の形質と変わるところはない。

他の琉球列島の縄文時代相当期の人骨のデータが蓄積された段階で、本人骨について再度検討したい。

第173図　川尻遺跡石蓋土坑墓出土人骨(上段:正面観,下:左側面観)

第74表　出土人骨の頭蓋計測値(mm)および示数

基礎情報	遺跡名	川尻
	遺構名	石蓋土坑墓
	人骨番号	-
	性別	女性
	年齢	若年
M No.	計測項目	
1	頭蓋最大長	170
8	頭蓋最大幅	141
3	ｸﾞﾗﾍﾞﾛﾗﾑﾀﾞ長	168
9	最小前頭幅	99
10	最大前頭幅	121
11	両耳幅	122
12	最大後頭幅	101
13	乳突幅	103
23	頭蓋水平周	494
24	横弧長	305
26	正中矢状前頭弧長	131
27	正中矢状頭頂弧長	117
29	正中矢状前頭弦長	111
30	正中矢状頭頂弦長	105
8/1	頭蓋長幅示数	82.9
9/10	横前頭示数	81.8
9/8	横前頭頭頂示数	70.2
27/26	矢状前頭頭頂示数	89.3
29/26	矢状前頭示数	84.7
30/27	矢状頭頂示数	89.7
47	顔高	97
48	上顔高	54
51	眼窩幅 (左)	((37))
52	眼窩高 (左)	29
54	鼻幅	20
55	鼻高	42
H.	NLH 鼻高	42
43	上顔幅	100
44	両眼窩間幅	(90)
52/51	眼窩示数 (左)	78.3
54/55	鼻示数	47.6
66	下顎角幅	88
69	ｵﾄｶﾞｲ高	26
69(1)	下顎体高 (左)	25
69(1)	下顎体高 (右)	23
69(3)	下顎体厚 (左)	10
69(3)	下顎体厚 (右)	9
70a	下顎頭高 (右)	45
70	下顎枝高 (右)	49
71	下顎枝幅 (右)	32
71a	最小下顎枝幅 (右)	31
68	下顎 (体) 長	65
79	下顎枝角 (右)	109
71/70	下顎枝示数 (右)	65.3
顔面平坦度	前頭骨弦	90.1
	前頭骨垂線	15.2
	前頭骨平坦示数	16.9

第Ⅷ章　基礎資料

第１節　概要

遺構内から出土した遺物の内，土器・石器・貝類について一覧を例示する（第75表～81表）。遺物名の横にある数字（変成岩のみコロンの後）は個数である。動物骨・魚骨・鉄製品についてはそれぞれの章を参照いただきたい。

合わせて，遺構の配置状況を例示する。本章の遺構配置図は平成24Ⅳ層・平成25年Ⅵ層（いずれも白砂層）での検出状況図を示している（第174図～178図）。上層での検出状況はそれぞれの章内に掲載しているので参照いただきたい（第Ⅳ章第10・23・33・74図，第Ⅴ章第79・85・125図）。

遺構配置図内で平成25年の調査で検出したピットについては埋土の違いにより色分けをしている。埋土N：赤色（Hue10YR8/1灰白色砂層），埋土O：青色（Hue10YR６/2灰黄褐色砂層），埋土P：茶色（にぶい黄褐色砂混じり土），埋土R：緑色（Hue10YR6/3にぶい黄橙砂混じり土層）である。

埋土N・OはⅤ層の埋土に類似していることや陶磁器類が出土せず，土器は兼久式土器のみであることからⅣ・Ⅴ層の形成時のピット（９～10世紀頃）と想定している。埋土Rからは15～16世紀頃の遺物が出土している。

一部掘建柱建物跡と推定される部分についてラインを入れている（J-96区，Q･R-99･100区にそれぞれ１棟ずつ）。ただし，全体を通してピットの並びがランダムであり，たまたまそう見えているだけの可能性もあるため，本章で例示するに留めている。

第75表　遺構内出土遺物一覧（１）

遺構名	埋土	内容
17T	-	変成岩 1:1
P	-	キクメイシ属 1, ミドリイシ属 1, 軽石 2, 石灰岩 2, 粗粒砂岩 15
P0002	-	軽石 2, 兼久式土器 1, 土器 6
P0003	-	土器 6
P0004	-	古銭 1, 土器 1
P0011	-	マガキガイ 1, リュウキュウウミニナ 1
P0014	-	ヤコウガイ 1, リュウキュウマスオ 1
P0017	-	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, 兼久式土器 6
P0018	-	オオシラナミ 1, 石灰岩 1
P0019	-	ハナビラダカラ 2, 兼久式土器 32
P0037	-	ヤコウガイ 2
P0038	-	オオシラナミ 1, ヤコウガイ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1
P0043	-	黒色泥質片岩 1
P0044	-	イボシマイモ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, 軽石 1, 粗粒砂岩 1, 頁岩 1
P0045	-	サヤガタイモ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ハナビラダカラ 1, ミドリアオリ 1, ヤクシマダカラ 1, リュウキュウマスオ 1, 軽石 2
P0046	-	アマオブネ 1, シラクモガイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1
P0050	-	ホシキヌタ 1
P0058	-	兼久式土器 2, 細粒砂岩 1, 土器 37
P0070	-	エガイ 1
P0072	-	アラヌノメ 1, オオシラナミ 2, キヌカツギイモ 1, コマダライモ 1, サヤガタイモ 1, シラクモガイ 1, タルダカラ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 3, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ハイイロミナシ 1, ハナビラダカラ 2, ハナマルユキ 2, ハマサンゴ属 3, ホソスジイナミ 1, マガキガイ 1, マダライモ 1, ムカシタモト 1, ムラサキウズ 2, ヤクシマダカラ 3, ヤコウガイ 6, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 4, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウマスオ 3, 軽石 10, 細粒砂岩 1
P0079	-	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ヤコウガイ 1
P0080	N	コイボテツレイシ 1, ミドリアオリ 1, リュウキュウマスオ 1, 兼久式土器 1
P0092	-	ホソスジイナミ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウマスオ 1, 石灰岩 3
P0094	-	イモガイ科 1, ハナマルユキ 1, ホソスジイナミ 3, リュウキュウマスオ 1, 軽石 3, 石灰岩 2
P0106	-	オオシラナミ 1, シロレイシダマシ 1, ニシキウズ 1, ホソスジイナミ 1, マガキガイ 1, 細粒砂岩 1
P0107	-	コオニコブシ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, 兼久式土器 1
P0110	-	骨製品 1
P0111	N	ツキガイ 1, リュウキュウウミニナ 2, 軽石 3
P0119	N	軽石 15
P0123	N	ウラキツキガイ 2, オキナワウスカワマイマイ 1, キカイヤマタニシ 1, ホソスジイナミ 2
P0137	-	オオシラナミ 1
P0140	N	ウラキツキガイ 1, キイロダカラ 1, ハナビラダカラ 1, ヤコウガイ 1, リュウキュウウミニナ 4, リュウキュウマスオ 2, 軽石 3
P0142	N	軽石 1
P0143	N	カイシアオリ類 1, ツタノハ 1, ニシキアマオブネ 1, ハナマルユキ 1, リュウキュウウミニナ 8, リュウキュウマスオ 1
P0144	-	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, リュウキュウシラトリ 1
P0145	N	アマオブネ 1, ウラキツキガイ 1, リュウキュウシラトリ 1
P0146	-	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ハナマルユキ 1, リュウキュウウミニナ 1
P0147	-	ツキガイ 1
P0151	N	オオシラナミ 1, カメノコキクメイシ属 1, シラクモガイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 3, ナガイトマキボラ 1, ハナビラダカラ 1, ホソスジイナミ 3, ホラガイ 1, ヤクシマダカラ 2, ヤコウガイ 3, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 4
P0152	-	ハナマルユキ 1, ヤコウガイ 1, 兼久式土器 1
P0153	-	ミドリアオリ 1
P0154	N	アラレイモ 1, マダライモ 1
P0156	-	リュウキュウシラトリ 2
P0158	-	コウイカ 1
P0169	N	オオシラナミ 1, カイシアオリ類 1, ホソスジイナミ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1
P0171	N	粗粒砂岩 1
P0179	-	エガイ 2, ヒメジャコ 1, ベニエガイ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 4, リュウキュウヒバリ 1
P0181	N	カイシアオリ類 1, ニシキアマオブネ 1, 兼久式土器 1
P0182	-	ウラキツキガイ 1, ムラサキウズ 1, リュウキュウウミニナ 1, 兼久式土器 1
P0184	N	ホソスジイナミ 2, リュウキュウマスオ 2, 軽石 1, 炭化物 1
P0189	O	ウラキツキガイ 1
P0196	-	ヤコウガイ 1
P0199	N	泥岩 1
P0200	N	細粒砂岩 1
P0202	-	ホソスジイナミ 1
P0203	O	イシダタミアマオブネ 2, シオボラ 1, ホソスジイナミ 1, マダライモ 1, リュウキュウウミニナ 1, 軽石 1
P0207	-	イボアナゴ 1
P0210	O	アマオブネ 1
P0211	O	ミドリイシ属 1
P0216	O	アカイガレイシ 2, アマオブネ 1, イモガイ科 1, オオシラナミ 2, オキニシ 1, カメノコキクメイシ属 1, キイロダカラ 1, キバアマガイ 1, クモガイ 1, コイボテツレイシ 1, コウダカカラマツ 1, コオニコブシ 2, サメザラ 1, サヤガタイモ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 5, ツタノハ 1, ニシキアマオブネ 1, ノウサンゴ属 1, ハナガタサンゴ属 1, ハナビラダカラ 6, ハナマルユキ 24, ハマサンゴ属 3, ヒメホシダカラ 2, ホシダカラ 1, マダライモ 1, ミドリイシ属 4, ムカシタモト 1, ムラサキイガレイシ 1, ムラサキウズ 1, ヤクシマダカラ 2, ヤコウガイ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 5, ヤナギシボリイモ 4, リュウキュウウミニナ 3, リュウキュウマスオ 2, 軽石 2, 細粒砂岩 2, 石灰岩 7, 不明サンゴ 1
P0217	O	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ハナマルユキ 1, ヤコウガイ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, 兼久式土器 2
P0219	P	アカイガレイシ 1, ホソスジイナミ 1, マガキガイ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, 骨製品 1, 頁岩 1
P0220	O	イボシマイモ 1, カワラガイ 1, スリバチサンゴ属 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 2, ニシキアマオブネ 1, ハナマルユキ 1, ハマサンゴ属 4, ベニエガイ 1, ホシキヌタ 1, ミドリアオリ 1, ミドリイシ属 2, ヤコウガイ 1, リュウキュウウミニナ 2, 軽石 1, 石灰岩 2
P0222	O	ハナビラダカラ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウウミニナ 8
P0223	R	アマオブネ 1, イボアナゴ 2, イボシマイモ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ハナマルユキ 1, ベニエガイ 1, ムラサキウズ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, 兼久式土器 4, 土師器 1, 粘土塊 1
P0231	-	ホソヤクシマダカラ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1
P0243	O	ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, 軽石 2
P0248	R	ハナガタサンゴ属 1, ハマサンゴ属 1, リュウキュウヒバリ 1
P0250	O	ハマサンゴ属 1, マダライモ 1, ミドリイシ属 1
P0256	N	ホソスジイナミ 2
P0259	O	アザミサンゴ属 1, オキニシ 1, ヤナギシボリイモ 1
P0263	O	リュウキュウマスオ 1
P0264	O	フトヘナタリ 1, ホソスジイナミ 1, ヤコウガイ 1
P0266	O	アカイガレイシ 1, アマオブネ 1, イシダタミアマオブネ 4, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ツタノハ 2, ハナガタサンゴ属？ 1, ハナビラダカラ 1, ハナマルユキ 2, ハマサンゴ属 1, フトヘナタリ 1, ホソスジイナミ 1, ミドリアオリ 1, ミドリイシ属 4, ヤナギシボリイモ 1, リュウキュウウミニナ 9
P0267	O	ウラキツキガイ 1, シマベッコウバイ 1, ハナビラダカラ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウヒバリ 1, 軽石 1
P0269	R	軽石 1
P0279	O	オオシラナミ 1, ホソスジイナミ 1
P0286	P	軽石 1
P0288	O	ホソスジイナミ 1
P0289	P	ウラキツキガイ 1, コマダライモ 1, ホシダカラ 1, ホソスジイナミ 2, リュウキュウシラトリ 1, 軽石 1
P0290	R	アカイガレイシ 1, アマオブネ 1, エガイ 1, オキニシ 2, コオニコブシ 1, サメザラ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 3, ハナビラダカラ 13, フトヘナタリ 1, ホソスジイナミ 1, マガキガイ 1, ヤクシマダカラ 3, ヤコウガイ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 3, リュウキュウヒバリ 2
P0291	O	ハナマルユキ 2, ミドリアオリ 1, ミドリイシ属 1, リュウキュウウミニナ 2, リュウキュウヒバリ 2, 軽石 1, 石灰岩 1

第76表　遺構内出土遺物一覧（2）

遺構名	埋土	内容
P0292	O	イボシマイモ 1, オオシラナミ 1, ミドリアオリ 1, ヤコウガイ 1, 兼久式土器 1
P0296	-	アマオブネ 1, ウラキツキガイ 2
P0297	O	アマオブネ 1
P0303	N	ウラキツキガイ 4
P0304	N	ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1
P0307	N	ヒメツキガイ 1
P0308	N	軽石 1
P0312	N	軽石 5
P0313	N	キクメイシ属 1
P0314	O	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ハイイロミナシ 1, ホシダカラ 1
P0316	O	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1
P0317	N	イシダタミアマオブネ 1, ハナビラダカラ 1, ハナマルユキ 1, ホソスジイナミ 1, リュウキュウミニナ 1, リュウキュウマスオ 2
P0320	N	ツタノハ 1
P0324	O	イシダタミアマオブネ 45, キイロダカラ 1, コマダライモ 1, ハナビラダカラ 1, ハナマルユキ 1, ホソスジイナミ 1, リュウキュウウミニナ 6
P0335	O	ホソスジイナミ 2
P0337	-	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 4
P0340	O	ホソスジイナミ 1
P0364	O	ウラキツキガイ 1, エガイ 1, オキニシ 1, コオニコブシ 1, ハナマルユキ 1, ハマサンゴ属 2, ホソスジイナミ 1, ヤクシマダカラ 1, ヤコウガイ 1, ヤセイモ 1
P0366	P	リュウキュウマスオ 1, 石灰岩 3
P0369	-	褐釉陶器 1
P0373	N	サラサバテイ 2, シオボラ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ホソスジイナミ 3, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 3, 粗粒砂岩 2
P0374	P	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ハマサンゴ属 1, 不明石灰藻 1, 頁岩 1
P0375	R	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1
P0380	-	近世施釉陶器 1, 兼久式土器 2
P0384	-	イシダタミアマオブネ 1, ヤコウガイ蓋 1
P0385	N	イシダタミアマオブネ 38, キイロダカラ 2, コオニコブシ 1, サヤガタイモ 2, ハナマルユキ 4, フトヘナタリ 21, ムラサキイガレイシ 1, リュウキュウウミニナ 18
P0387	R	カイシアオリ類 1, シロレイシダマシ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ニシキアマオブネ 1, ハナマルユキ 1, ハマサンゴ属 1, ヤコウガイ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, 兼久式土器 2
P0389	N	ニシキアマオブネ 1, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウマスオ 1
P0390	O	リュウキュウウミニナ 1, 軽石 1
P0391	O	イシダタミアマオブネ 17, オキナワウスカワマイマイ 11, ハナマルユキ 1, ホソスジイナミ 1, リュウキュウウミニナ 13, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウマスオ 1, 軽石 1, 炭化物 1
P0394	-	チョウセンサザエ 1, ヤコウガイ蓋 1
P0396	O	イソハマグリ 1, キバアマガイ 1, ホソスジイナミ 2
P0397	N	サラサバテイ 1, 軽石 2, 細粒砂岩 1
P0402	O	リュウキュウシラトリ 1, 石灰岩 1
P0403	O	軽石 1, 兼久式土器 2
P0405	O	エガイ 1, サメザラ 1, ハナビラダカラ 1, ミドリアオリ 2, リュウキュウヒバリ 1
P0407	O	ニシキアマオブネ 1, ホソスジイナミ 1, リュウキュウマスオ 1
P0409	O	キヌカツギイモ 1, ホソスジイナミ 1
P0410	O	オニノツノガイ 1
P0422	N	ホソスジイナミ 1
P0435	N	ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, ヤコウガイ蓋 1
P0442	R	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 3, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ナガイトマキボラ 1, ホソスジイナミ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウヒバリ 1, リュウキュウマスオ 2, 兼久式土器 1
P0443	R	アラレイモ 1, エガイ 1, オオシラナミ 1, サラサバテイ 1, ハナガタサンゴ属 1, ホソスジイナミ 1, ヤコウガイ 1, 軽石 2, 石灰岩 1, 粗粒砂岩 1
P0452	R	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ハナマルユキ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 3, 兼久式土器 2
P0453	R	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ハナマルユキ 1, マガキガイ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, 軽石 1, 兼久式土器 3, 染付 1, 粗粒砂岩 1, 陶器 1, 龍泉窯系青磁 2
P0454	R	イボアナゴ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ハナマルユキ 4, ホソスジイナミ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, リュウキュウツノマタ 1, リュウキュウマスオ 1, 兼久式土器 5, 粘土塊 2
P0461	-	チョウセンサザエ 1
P0467	O	ホソスジイナミ 2, リュウキュウシラトリ 1
P0469	-	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, チョウセンサザエ 1, ホソスジイナミ 2, リュウキュウシラトリ 1
P0471	-	リュウキュウマスオ 2
P0486	O	ヤナギシボリイモ 1
P0489	O	ホソスジイナミ 1, リュウキュウシラトリ 1
P0493	-	イソハマグリ 1, マダライモ 2
P0494	-	リュウテン 1
P0501	O	アマオブネ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ハナマルユキ 1, マガキガイ 1, リュウキュウマスオ 1, 兼久式土器 3
P0505	N	コオニコブシ 1, ホソスジイナミ 1, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウマスオ 1, 軽石 6, 石灰岩 1
P0507	-	軽石 10
P0508	O	ホソスジイナミ 1
P0509	O	エガイ 2, ホソスジイナミ 2, 兼久式土器 1, 粗粒砂岩 1
P0510	-	イソハマグリ 1, オキニシ 1, リュウキュウシラトリ 1
P0511	R	ミドリイシ属 1
P0512	N	オニノツノガイ 2, ホソスジイナミ 2, リュウキュウマスオ 2
P0513	R	ウラキツキガイ 3, シオボラ 1, ホソスジイナミ 3, リュウキュウシラトリ 1
P0514	R	ハナビラダカラ 1, ホソスジイナミ 1, ヤコウガイ 1, リュウキュウシラトリ 1
P0516	N	カイシアオリ類 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, ヤコウガイ蓋 1, リュウキュウヒバリ 2
P0517	N	サラサバテイ 1, サラサバテイ 1, ベニエガイ 2, ホソスジイナミ 2, ヤコウガイ 1, ヤコウガイ蓋 1, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウマスオ 1, 軽石 1
P0518	R	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ホソスジイナミ 1
P0519	N	オオシラナミ 2, ホソスジイナミ 4
P0522	R	ウラキツキガイ 2, ホソスジイナミ 1, ムカシタモト 1, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウマスオ 1

遺構名	埋土	内容
P0523	N	ウラキツキガイ 2, ハナビラダカラ 2, ホソスジイナミ 4
P0524	O	オニノツノガイ 1
P0526	N	ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 2, 頁岩 1
P0527	N	ホソスジイナミ 4, リュウキュウシラトリ 2, 細粒砂岩 1
P0528	O	ムラサキイガレイシ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, 炭化物 1
P0530	R	オニノツノガイ 2, ヒメホシダカラ 1, ホシキヌタ 1, ホソスジイナミ 1, ヤコウガイ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, リュウキュウマスオ 3, 軽石 1
P0532	O	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ホソスジイナミ 1, ヤコウガイ 1, 粗粒砂岩 1, 頁岩 1
P0533	-	サメザラ 1, 兼久式土器 1
P0538	O	コオニコブシ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ハナビラダカラ 2, マガキガイ（幼）1, ヤコウガイ 1
P0544	R	コイボテツレイシ 1
P0546	R	粗粒砂岩 1
P0550	O	オオシラナミ 1, ホソスジイナミ 1, リュウキュウシラトリ 1, 軽石 1
P0555	N	イシダタミアマオブネ 6, エガイ 2, オキニシ 2, キカイヤマタニシ 1, コオニコブシ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, チョウセンサザエ 1, ツキガイ 1, ハナビラダカラ 3, ハナマルユキ 3, リュウキュウヒバリ 2
P0556	O	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, リュウキュウウミニナ 1, リュウキュウマスオ 1
P0561	O	エガイ 1, オオガンゼキ 1, カイシアオリ類 2, サラサバテイ 1, ムラサキウズ 1, リュウキュウウミニナ 1, 軽石 1, 兼久式土器 2
P0566	N	ハナマルユキ 1, ホソスジイナミ 2, ホソヤクシマダカラ 1, ムラサキウズ 2, リュウキュウウミニナ 1, リュウキュウマスオ 2
P0567	O	アラレイモ 1, サヤガタイモ 1, ハナマルユキ 2, ホソスジイナミ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, 粗粒砂岩 1
P0572	N	ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, ヤコウガイ蓋 1
P0573	R	イシダタミアマオブネ 28, イボシマイモ 1, イボタマキビ 3, イモガイ科 1, カイシアオリ類 1, キヌカツギイモ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ツタノハ 1, ハナビラダカラ 8, ハナマルユキ 16, ヒザラガイ 2, ヒメホシダカラ 1, フトヘナタリ 1, マダライモ 5, ムラサキウズ 1, ヤコウガイ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, リュウキュウウミニナ 53, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウツノマタ 1, リュウキュウマスオ 1, 軽石 1, 兼久式土器 2
P0576	R	アラレイモ 1, マガキガイ 1
P0577	O	アラヌノメ 1, オキナワウスカワマイマイ 1
P0579	N	リュウキュウマスオ 1
P0584	O	コオニコブシ 1, ハナマルユキ 1, ホソスジイナミ 1, 軽石 1, 兼久式土器 1
P0585	O	イシダタミアマオブネ 1, ニシキアマオブネ 1, ニシキウズ 1, ハナマルユキ 1, マダライモ 1, ムラサキウズ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウシラトリ 1, 細粒砂岩 1
P0589	O	イボアナゴ 1, オキナワウスカワマイマイ 1, カイシアオリ類 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, フトヘナタリ 1, リュウキュウウミニナ 2, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 1, 軽石 1, 兼久式土器 2
P0590	O	コオニコブシ 1, ハナマルユキ 2, ヤコウガイ 1, リュウキュウマスオ 1, 兼久式土器 1
P0591	R	ヤコウガイ 1
P0592	O	ヤコウガイ 1
P0596	O	イシダタミアマオブネ 1, サメザラ 1, ベニエガイ 1, リュウキュウシラトリ 1
P0597	O	ホソスジイナミ 1
P0598	N	ウラキツキガイ 1, ギンタカハマ 1, ニシキウズ 1, ハナマルユキ 1, ホソスジイナミ 2, ヤクシマダカラ 1, ヤコウガイ 1, 軽石 1
P0599	N	粗粒砂岩 1
P0602	-	ヤクシマダカラ 1, リュウキュウシラトリ 1
P0605	-	兼久式土器 4
P0612	N	オオシラナミ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2
P0616	-	チョウセンサザエ 2
P0617	N	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ヤナギシボリダカラ 1, 兼久式土器 4
P0632	O	アカイガレイシ 1, ホシダカラ 1, ホソスジイナミ 1, ヤクシマダカラ 1
P0633	O	ハマサンゴ属 1, ヤコウガイ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1
P0637	P	オオシラナミ 1
P0638	P	オオシラナミ 3, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 6, ヒメホシダカラ 1, ホソスジイナミ 2, ヤコウガイ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウマスオ 1, 粗粒砂岩 1
P0639	R	ウズラガイ 1
P0642	O	サメザラ 1, ホソスジイナミ 1, ミドリアオリ 1, ミドリイシ属 2, 軽石 1
P0647	R	ハナビラダカラ 1
P0648	R	ハマサンゴ属 1, 軽石 1
P0651	R	キヌカツギイモ 1
P0654	R	サメザラ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 4, ニシキアマオブネ 2, ホシダカラ 1, ホソスジイナミ 3, ヤコウガイ 1, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 3, 軽石 1, 兼久式土器 3
P0659	R	ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1
P0671	O	ホソスジイナミ 2
P0672	O	イシダタミアマオブネ 1, ウラキツキガイ 1, ガンゼキボラ 1, サメザラ 1, ハナビラダカラ 1, ホソスジイナミ 2, リュウキュウウミニナ 2, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウマスオ 1
P0673	R	サラサバテイ 1, マガキガイ 1
P0674	O	リュウキュウマスオ 1
P0677	O	アマオブネ 1, イシダタミアマオブネ 1, イソハマグリ 1, ホソスジイナミ 2, ヤコウガイ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウウミニナ 3, リュウキュウシラトリ 3
P0678	O	ニシキアマオブネ 1, ホソスジイナミ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, 軽石 1
P0679	O	アマオブネ 1, ホソスジイナミ 1, リュウキュウマスオ 1
P0683	-	ナガイトマキボラ 1
P0684	-	リュウキュウシラトリ 1
P0685	O	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1
P0687	O	アマオブネ 1, ムラサキイガレイシ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウシラトリ 1
P0691	R	アマオブネ 1, ウラキツキガイ 2, オオシラナミ 1, サラサバテイ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ヒメホシダカラ 1, ホソスジイナミ 5, ヤコウガイ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 1, 軽石 3, 細粒砂岩 1
P0692	O	アラヌノメ 1, オオシラナミ 1, キイロダカラ 1, ホソスジイナミ 1, ミドリイシ属 1, ムラサキウズ 1, 軽石 1, 石灰岩 1, 緑色岩 1
P0694	N	ヤコウガイ 1

第77表　遺構内出土遺物一覧（3）

遺構名	埋土	内容
P0697	N	イシダタミアマオブネ 2, リュウキュウシラトリ 1
P0698	O	アマオブネ 1, サメザラ 1, リュウキュウシラトリ 1
P0699	-	ホソスジイナミ 2, ムラサキウズ 1, リュウキュウマスオ 1
P0701	-	ヤコウガイ 1
P0703	O	アマオブネ 2, サメザラ 1, サラサバテイ 1, ホソスジイナミ 2, リュウキュウマスオ 3, 軽石 2
P0704	O	サラサバテイ 1, リュウキュウシラトリ 1
P0705	O	アマオブネ 1, シマベッコウバイ 1, リュウキュウシラトリ 1, 軽石 1
P0706	N	アカイガレイシ 1, イシダタミアマオブネ 1, ニシキアマオブネ 1, フトヘナタリ 1
P0710	N	ホソスジイナミ 1, リュウキュウマスオ 1
P0712	N	エガイ 2, オニノツノガイ 2, ヤコウガイ 2, リュウキュウシラトリ 4
P0713	-	ヤコウガイ蓋 2, リュウキュウマスオ 1
P0725	N	イソハマグリ 1, ニシキアマオブネ 1, リュウキュウシラトリ 2
P0726	N	ニシキアマオブネ 1, ミナミクロフジツボ 1, ムラサキウズ 2
P0729	O	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ヤコウガイ 2, リュウキュウマスオ 1, 軽石 1, 石灰岩 1
P0730	O	イソハマグリ 1, サヤガタイモ 1, ツタノハ 1, ハナマルユキ 1, ベニエガイ 1, ホソスジイナミ 1
P0732	N	ホソスジイナミ 2
P0733	N	リュウキュウマスオ 1
P0734	N	アマオブネ 1, ウラキツキガイ 1, ホソスジイナミ 2
P0735	N	ホソスジイナミ 1
P0736	N	コイボテツレイシ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, ヤコウガイ蓋 1
P0741	O	ハナマルユキ 1, ホソヤクシマダカラ 1, ヤナギシボリイモ 1, リュウキュウウミニナ 2, 軽石 1, 石灰岩 1
P0743	O	カイシアオリ類 1, ホソスジイナミ 1, リュウキュウシラトリ 1, 石灰岩 2
P0744	N	リュウキュウシラトリ 2, 頁岩 1
P0745	N	軽石 2
P0747	N	アマオブネ 4, フトヘナタリ 1, リュウキュウウミニナ 1, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 2
P0748	N	ツキガイ 1, リュウキュウマスオ 1, 粗粒砂岩 1
P0751	-	リュウキュウマスオ 1
P0754	N	アマオブネ 1, オオウラウズ 1, サメザラ 1, ホソスジイナミ 1, リュウキュウヒバリ 1, リュウキュウマスオ 1, 軽石 1
P0755	N	ホラガイ 1
P0756	R	コイボテツレイシ 1, ホソスジイナミ 2, リュウキュウマスオ 2, 細粒砂岩 1
P0757	N	コイボテツレイシ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ホソスジイナミ 1, ヤコウガイ 1, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウマスオ 2
P0761	N	カワラガイ 2
P0762	N	エガイ 1, リュウキュウマスオ 1
P0763	N	軽石 2
P0767	O	ヤコウガイ 1, リュウキュウシラトリ 1
P0769	O	リュウキュウマスオ 1
P0771	O	マイマイ 1
P0774	O	カワラガイ 1, リュウキュウマスオ 4
P0776	N	ツキガイ 1, マガキガイ（幼）1, 軽石 3
P0778	N	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ホソスジイナミ 2, ヤコウガイ 1
P0781	N	アマオブネ 2, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 2
P0782	O	ホソスジイナミ 1
P0788	O	軽石 1
P0791	N	リュウキュウシラトリ 6
P0799	N	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, リュウキュウシラトリ 2, 泥岩 2
P0800	-	兼久式土器 2
P0803	O	ホソスジイナミ 1, 粗粒砂岩 1, 泥岩 1
P0804	N	アマオブネ 1
P0806	O	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ニシキウズ 1, ホソスジイナミ 1
P0809	-	兼久式土器 1
P0810	O	ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2
P0811	N	イシダタミアマオブネ 2, イソハマグリ 2, ウラキツキガイ 5, シマベッコウバイ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ツキガイ 1, ホソスジイナミ 4, リュウキュウシラトリ 2
P0814	N	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 3, ホソスジイナミ 6, ヤコウガイ 1
P0815	N	ウラキツキガイ 2, オオシラナミ 2, ツキガイ 1, ツキヒガイ 1, ホソスジイナミ 6, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 2
P0816	O	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, マダライモ 2, リュウキュウシラトリ 2, 軽石 1, 兼久式土器 1, 石灰岩 1
P0817	O	ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, リュウキュウシラトリ 2
P0818	N	軽石 3, 土師器 1
P0820	-	軽石 1
P0821	-	兼久式土器 1
P0822	N	ホソスジイナミ 2, ヤクシマダカラ 2
P0823	R	オオシラナミ 1, クモガイ 1, コオニコブシ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ムラサキウズ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, 軽石 1, 兼久式土器 1
P0826	O	ツキガイ 1
P0827	O	ウラキツキガイ 1
P0829	N	アカイガレイシ 2, リュウキュウシラトリ 2
P0830	O	アマオブネ 2, オキナワウスカワマイマイ 10, ハナビラダカラ 2, ホソスジイナミ 4, ヤクシマダカラ 2
P0831	N	アマオブネ 2, イボタマキビ 1, フトヘナタリ 1, ホソスジイナミ 4, リュウキュウシラトリ 4
P0833	N	イシダタミアマオブネ 4, イボタマキビ 1, ウラキツキガイ 1, オキナワウスカワマイマイ 1, ツキガイ 1, ハナビラダカラ 2, ヒメホシダカラ 2, ホソスジイナミ 2, リュウキュウウミニナ 3, 兼久式土器 3
P0836	N	ホソスジイナミ 4, リュウキュウマスオ 2
P0839	N	軽石 6
P0840	N	リュウキュウマスオ 4
P0841	O	イシダタミアマオブネ 2, イボタマキビ 1, オキナワウスカワマイマイ 2, カイシアオリ類 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, フトヘナタリ 2, ホソスジイナミ 4, マイマイ 2, リュウキュウウミニナ 1, リュウキュウマスオ 5, 軽石 2, 細粒砂岩 1, 石灰岩 1

遺構名	埋土	内容
P0842	N	オキニシ 2, サメザラ 2, リュウキュウシラトリ 4, リュウキュウマスオ 4
P0843	O	リュウキュウシラトリ 4
P0845	N	アマオブネ 1, イシダタミアマオブネ 4, イボタマキビ 2, ウラキツキガイ 2, ハナマルユキ 2, マイマイ 4, リュウキュウウミニナ 1, 軽石 4
P0846	O	ホソスジイナミ 2, 兼久式土器 1
P0848	O	アマオブネ 2, イシダタミアマオブネ 14, イボタマキビ 4, エガイ 2, オキニシ 2, タイワンクロフジツボ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 2, ハナビラダカラ 2, ヤコウガイ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウウミニナ 4, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 2, 兼久式土器 1
P0849	R	軽石 2, 兼久式土器 13
P0850	O	ホソスジイナミ 1, ヤコウガイ 2, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 1, 兼久式土器 1
P0851	N	アマオブネ 2, ギンタカハマ 2, サラサバテイ 2
P0853	N	イボタマキビ 2, ホソスジイナミ 2, マイマイ 2, リュウキュウウミニナ 2, リュウキュウシラトリ 4
P0855	O	ホソスジイナミ 2, リュウキュウシラトリ 4, リュウキュウマスオ 2, 軽石 1, 兼久式土器 1, 粗粒砂岩 1
P0862	N	粗粒砂岩 1
P0864	O	ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2
P0867	N	ツタノハ 2, ハナマルユキ 2, 兼久式土器 1
P0868	O	カイシアオリ類 2, ホソスジイナミ 4, 軽石 1, 兼久式土器 2, 細粒砂岩 1, 石灰岩 3
P0869	N	アマオブネ 2, リュウキュウシラトリ 2
P0870	N	オオベッコウガサ 2, ヤコウガイ 2
P0876	N	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, リュウキュウシラトリ 2
P0878	O	アカイガレイシ 1, シラクモガイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 2, ホシキヌタ 1, ホソスジイナミ 6, ヤクシマダカラ 1
P0879	O	リュウキュウシラトリ 2, 兼久式土器 1
P0880	N	イシダタミアマオブネ 3, イボタマキビ 8, ウラキツキガイ 4, オキナワウスカワマイマイ 6, キバアマガイ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ニシキアマオブネ 2, マイマイ 1, リュウキュウウミニナ 4
P0885	O	アマオブネ 2, オオシラナミ 2, リュウキュウシラトリ 2, 軽石 1
P0886	N	キイロダカラ 2, ハナマルユキ 2, ホソスジイナミ 2, 兼久式土器 2
P0888	O	ツキガイ 2
P0891	N	軽石 3, 兼久式土器 1
P0893	O	コオニコブシ 2, ホソスジイナミ 2, リュウキュウシラトリ 4, リュウキュウマスオ 2, 軽石 1, 兼久式土器 2
P0894	N	ウラキツキガイ 2, 兼久式土器 1
P0895	N	ホソスジイナミ 2
P0898	N	イボタマキビ 1, ウラキツキガイ 2, オニコブシ 2, マイマイ 1, リュウキュウウミニナ 1, 軽石 1
P0899	N	イシダタミアマオブネ 2, イボタマキビ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, リュウキュウウミニナ 1
P0901	N	ヤコウガイ 2
P0902	O	ヤコウガイ 2
P0903	N	エガイ 2
P0904	N	フトヘナタリ 1, ヤコウガイ 2, リュウキュウウミニナ 1
P0905	O	イシダタミアマオブネ 2, イソハマグリ 2, イボタマキビ 2, ハナマルユキ 2, ホソスジイナミ 4, マイマイ 1, リュウキュウウミニナ 1, リュウキュウシラトリ 2, 軽石 1, 兼久式土器 2
P0908	N	ウラキツキガイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ホソスジイナミ 2, ヤコウガイ 2, リュウキュウシラトリ 2, 兼久式土器 4
P0914	N	ホソスジイナミ 2
P0915	N	ツタノハ 2, ハナビラダカラ 2, ホソスジイナミ 2, ムカシタモト 2, ヤクシマダカラ 4, リュウキュウマスオ 2, 石灰岩 1
P0916	O	エガイ 2, オオシラナミ 2, トドロキガイ 1, ハナマルユキ 2, ホソスジイナミ 2, ヤクシマダカラ 2, リュウキュウマスオ 2, 兼久式土器 3, 石灰岩 1
P0918	N	ウラキツキガイ 4, 兼久式土器 1
P0920	O	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ホシダカラ 1, 兼久式土器 2
P0921	O	キイロダカラ 2, ホソスジイナミ 2, リュウキュウマスオ 2, 兼久式土器 3, 炭化物 1
P0922	-	石灰岩 5
P0924	N	ヤコウガイ 10
P0925	N	細粒砂岩 1
P0927	O	ヤコウガイ 2
P0929	O	イシダタミアマオブネ 1, ウラキツキガイ 2, ホソスジイナミ 2, リュウキュウヒバリ 2, リュウキュウマスオ 2, 兼久式土器 4, 石灰岩 2
P0940	N	ヤコウガイ 4
P0943	O	ホソスジイナミ 2, 軽石 1, 兼久式土器 1, 石灰岩 1
P0945	O	リュウキュウシラトリ 2, 兼久式土器 1, 石灰岩 1
P0946	O	リュウキュウマスオ 4
P0949	O	イシダタミアマオブネ 2, イソハマグリ 2, オオシラナミ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ニシキアマオブネ 2, ホソスジイナミ 4, マダライモ 1, ヤコウガイ 2, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 4
P0952	O	カイシアオリ類 2, リュウキュウシラトリ 2
P0953	O	ホソスジイナミ 2, ヤクシマダカラ 2, 兼久式土器 1
P0954	N	ハマサンゴ属 1
P1000	-	兼久式土器 1
P1001	-	兼久式土器 1
P1002	O	イシダタミアマオブネ 2, ウラキツキガイ 2, シマベッコウバイ 1, ハナマルユキ 2, ホソスジイナミ 2, リュウキュウウミニナ 1, 軽石 3
P1003	O	ホソスジイナミ 4, ムラサキウズ 2, ヤクシマダカラ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, リュウキュウシラトリ 6
P1007	N	シマベッコウバイ 1, ヘビガイ 2, ホソスジイナミ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, リュウキュウシラトリ 2
P1009	N	ウラキツキガイ 2, サメザラ 2, ホソスジイナミ 2, リュウキュウシラトリ 2, 兼久式土器 3
P1010	O	イシダタミアマオブネ 1, ホソスジイナミ 2, リュウキュウウミニナ 2, 兼久式土器 4
P1012	N	イシダタミアマオブネ 1
P1014	N	細粒砂岩 1, 石灰岩 2
P1016	N	サラサバテイ 1, ホソスジイナミ 2, リュウキュウマスオ 2, 兼久式土器 1
P1025	R	オオシラナミ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ヤコウガイ 1, リュウキュウマスオ 1
P1026	O	リュウキュウマスオ 2
P1029	N	ケイトウガイ 2, 兼久式土器 1

第78表　遺構内出土遺物一覧（4）

遺構名	埋土	内容
P1031	O	オニノツノガイ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2
P1032	O	ホソスジイナミ 2, リュウキュウツノマタ 1, 兼久式土器 3
P1036	N	サラサバテイ 1
P1038	O	ホソスジイナミ 2, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 2, 兼久式土器 1
P1041	N	ホソスジイナミ 2, リュウキュウシラトリ 2
P1044	O	イソハマグリ 2, エガイ 6, サメザラ 1, サラサバテイ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ツタノハ 6, ハナビラダカラ 2, ハナマルユキ 12, ヤナギシボリイモ 2, リュウキュウウミニナ 1, リュウキュウシラトリ 1, 軽石 3, 兼久式土器 8
P1046	N	ウラキツキガイ 2, ナツメガイ 2, ホソスジイナミ 2, ヤコウガイ 2, 軽石 1
P1047	O	アカイガレイシ 1, アマオブネ 2, オニノツノガイ 1, ハナビラダカラ 4, ムラサキイガレイシ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, リュウキュウマスオ 2, 軽石 1
P1049	O	ウラキツキガイ 2, ホソスジイナミ 2, 兼久式土器 2, 石灰岩 1
P1050	O	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 4, ツタノハ 2, ハナビラダカラ 2, ハナマルユキ 13, ベニエガイ 4, マガキガイ（幼）2, ムラサキウズ 2, ヤクシマダカラ 1, ヤコウガイ 6, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, ヤナギシボリイモ 2, リュウキュウシラトリ 4, 軽石 2, 兼久式土器 14
P1053	O	ハナマルユキ 6, リュウキュウヒバリ 2
P1054	O	ホソスジイナミ 2, 粗粒砂岩 1
P1055	O	アマオブネ 1, ニシキアマオブネ 1, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウヒバリ 2, 粗粒砂岩 1
P1056	N	イワガキ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, リュウキュウウミニナ 4, リュウキュウシラトリ 4
P1061	O	軽石 1, 兼久式土器 1
P1063	N	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2
P1067	-	兼久式土器 1
P1069	N	ハマサンゴ属 1
P1070	N	オキニシ 2, ヤコウガイ 2, 兼久式土器 1
P1074	O	リュウキュウシラトリ 2
P1075	-	兼久式土器 2
P1083	N	石灰岩 1
P1084	N	アマオブネ 1, ニシキアマオブネ 1
P1086	N	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, リュウキュウマスオ 2
P1087	N	ホソスジイナミ 2
P1090	O	オキニシ 2, 兼久式土器 2
P1091	N	リュウキュウシラトリ 2
P1092	O	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ナガイトマキボラ 1, ニシキウズ 1, ホソスジイナミ 2, ホラガイ 1, ムラサキウズ 1
P1093	N	ホソスジイナミ 6, リュウキュウシラトリ 2
P1102	N	ウラキツキガイ 2, ホソスジイナミ 2
P1106	O	ハナマルユキ 2, ホソスジイナミ 6, リュウキュウマスオ 4
P1113	O	アカイガレイシ 2, アマオブネ 6, イシダタミアマオブネ 1, イボシマイモ 2, オオシラナミ 2, カイシアオリ類 2, キクメイシ属 1, キヌカツギイモ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 2, ニシキウズ 2, ハナビラダカラ 4, ハナマルユキ 23, ハナワイモ 1, ハマサンゴ属 1, ホソスジイナミ 2, マダライモ 2, ムラサキウズ 2, ヤクシマダカラ 1, ヤコウガイ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 6, リュウキュウヒバリ 2, リュウキュウマスオ 6, 軽石 6, 兼久式土器 8
P1116	O	ハナマルユキ 2
P1123	O	イソハマグリ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, リュウキュウシラトリ 2, 兼久式土器 2
P1124	O	アマオブネ 2, ツキガイ 2, ムラサキウズ 2, リュウキュウマスオ 1
P1126	N	ホソスジイナミ 2, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 2
P1127	N	エガイ 2, オオシラナミ 2
P1131	O	ウラキツキガイ 1, ホソスジイナミ 8, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 2, 兼久式土器 3
P1135	N	変成岩 5:1
P1166	N	ホソスジイナミ 4
P1167	O	ホソスジイナミ 2
P1170	O	ウラキツキガイ 2, サラサバテイ 2, ヤクシマダカラ 2, 兼久式土器 3
P1171	N	ウラキツキガイ 2, サメザラ 2, タカラガイ科 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ナガジャコ 2, ハナマルユキ 1, ホソスジイナミ 2, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウヒバリ 2
P1176	-	兼久式土器 1
P1179	N	ホシキヌタ 2
P1180	-	兼久式土器 1
P1189	O	石灰岩 1
P1195	R	軽石 1, 兼久式土器 6
P1215	O	ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2
P1217	O	ヤコウガイ 2, 兼久式土器 1
P1231	N	リュウキュウシラトリ 2
P1237	N	ホソスジイナミ 2, リュウキュウマスオ 2
P1242	O	ハナビラダカラ 2, ホソスジイナミ 2, リュウテン 2
P1246	-	兼久式土器 2
P1254	N	軽石 1, 兼久式土器 1
P1256	O	イシダタミアマオブネ 2, イボタマキビ 5, オキナワウスカワマイマイ 4, ニシキアマオブネ 2, ハナマルユキ 2, フトヘナタリ 1, リュウキュウウミニナ 6, 兼久式土器 1
P1260	O	ハナビラダカラ 2, ヤコウガイ 2, 兼久式土器 1
P1263	O	イソハマグリ 2, オキナワウスカワマイマイ 16, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ホソスジイナミ 4, リュウキュウシラトリ 2, 軽石 1, 兼久式土器 2
P1264	O	イシダタミアマオブネ 2, オキナワウスカワマイマイ 2, マガキガイ 2
P1265	-	兼久式土器 1
P1267	O	兼久式土器 1, 石灰岩 1
P1269	O	ホソスジイナミ 2, 兼久式土器 1
P1270	O	オキナワウスカワマイマイ 1, サメザラ 2, ハナビラダカラ 2, 軽石 1, 兼久式土器 1
P1271	O	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 4
P1272	-	兼久式土器 1
P1273	N	軽石 1
P1277	O	ウラキツキガイ 1, ツキガイ 1, ホソスジイナミ 2, リュウキュウマスオ 2, 兼久式土器 1
P1279	O	ヤコウガイ 2
P1281	O	オオシラナミ 4, ヤコウガイ 2, 兼久式土器 4

遺構名	埋土	内容
P1284	O	ウラキツキガイ 2, カイシアオリ類 1, ホソスジイナミ 8, ミドリアオリ 1, リュウキュウウミニナ 2, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 2, 軽石 1, 兼久式土器 2
P1285	O	オオシラナミ 2, カイシアオリ類 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 2, ハナビラダカラ 4, ハナマルユキ 4, ホソスジイナミ 2, ヤコウガイ 4, ヤナギシボリイモ 2, リュウキュウマスオ 2, 兼久式土器 1
P1287	O	ハナビラダカラ 2, ハナマルユキ 2, マダライモ 2, ヤコウガイ 2
P1288	-	兼久式土器 2
P1291	O	粗粒砂岩 1
P1295	O	イボシマイモ 2, オオシラナミ 2, キバアマガイ 2, ハナマルユキ 4, リュウキュウマスオ 4, 兼久式土器 1
P1297	O	ハナマルユキ 2, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 2, 軽石 1, 兼久式土器 2
P1299	O	粗粒砂岩 1
P1307	-	兼久式土器 3
P1308	N	オオシラナミ 8, リュウキュウマスオ 2
P1312	N	ヤコウガイ 4, リュウキュウヒバリ 2
P1313	O	ホソスジイナミ 2
P1315	O	リュウキュウシラトリ 4
P1319	N	オオシラナミ 2
P1330	N	コウダカカラマツ 1, ハナガタサンゴ属 1, ホソスジイナミ 2
P1331	O	キクザル 2, 兼久式土器 1
P1339	-	兼久式土器 2
P1343	-	兼久式土器 3
P1354	-	兼久式土器 2
P1355	O	ツタノハ 2, ミドリイシ属 1, リュウキュウヒバリ 2, 兼久式土器 1, 石灰岩 1
P1357	O	ウニの針 1, ハリセンボン 1, リュウキュウマスオ 2
P1361	N	オキナワウスカワマイマイ 1, マイマイ 1, 石灰岩 1
P1371	N	ホソスジイナミ 2
P1375	O	ギンタカハマ 1, サラサバテイ 1
P1378	N	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, 兼久式土器 1
P1381	N	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ホソスジイナミ 2, リュウキュウマスオ 2
P1383	O	ホソスジイナミ 2, ヤコウガイ 2, リュウキュウシラトリ 2
P1385	O	リュウキュウシラトリ 2
P1386	-	兼久式土器 1
P1390	O	軽石 1, 兼久式土器 2
P1392	O	ホソスジイナミ 2, ヤコウガイ 2, 火山岩系 1, 兼久式土器 1
P1395	N	中粒砂岩 (硬)1
P1402	O	軽石 1
P1404	O	カワラガイ 2
P1405	N	オキナワウスカワマイマイ 1, ハナマルユキ 2
P1406	O	ミドリイシ属 1, ヤクシマダカラ 2, ヤコウガイ 10, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, リュウキュウマスオ 2, 兼久式土器 1
P1410	O	キマダライガレイシ 1, ムラサキイガレイシ 1, 兼久式土器 2
P1416	N	リュウキュウウミニナ 2, リュウキュウシラトリ 2
P1418	N	アマオブネ 1, イソハマグリ 2, カワラガイ 2, キイロダカラ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ニシキアマオブネ 1, ホソスジイナミ 2, ミドリイシ属 1, ヤコウガイ 4, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, リュウキュウシラトリ 6
P1419	O	オオシラナミ 2, リュウキュウマスオ 2
P1422	O	ヤコウガイ 2
P1424	O	アカイガレイシ 2, キイロイガレイシ 1, キマダライガレイシ 1, コイボテツレイシ 2, サメザラ 2, ハナビラダカラ 4, ハナマルユキ 20, ハマサンゴ属 1, ホソスジイナミ 4, ヤクシマダカラ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 8, ヤナギシボリイモ 2, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウヒバリ 2, 兼久式土器 2
P1427	O	ウラキツキガイ 2, リュウキュウマスオ 2
P1434	O	リュウキュウツノマタ 2
P1448	-	兼久式土器 2
P1450	N	石灰岩 1
P1456	O	ベニエガイ 2, ムラサキウズ 2, リュウキュウシラトリ 2
P1460	O	ホシダカラ 2, ホソスジイナミ 6, ヤコウガイ 2
P1462	O	イシダタミアマオブネ 2, ウラキツキガイ 4, ホソスジイナミ 2, 石灰岩 1
P1463	O	アマオブネ 2
P1469	-	ホソスジイナミ 2, リュウキュウシラトリ 1
P1475	O	ホソスジイナミ 2
P1476	N	イシダタミアマオブネ 2, オオシラナミ 1, ホソスジイナミ 6, リュウキュウシラトリ 3
P1482	O	リュウキュウマスオ 2, 兼久式土器 1
P1485	-	兼久式土器 1
P1487	O	ウズラガイ 2, 兼久式土器 1
P1488	O	ホソスジイナミ 2
P1494	-	兼久式土器 1
P1495	-	兼久式土器 1
P1499	N	ホソスジイナミ 2
P1500	N	オオシラナミ 2
P1510	N	ヤコウガイ 2, 兼久式土器 1
P1523	O	リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 2, 兼久式土器 1
P1528	N	イボタマキビ 2, ニシキアマオブネ 2, ヘソアキトミガイ 2, ホソスジイナミ 4, リュウキュウウミニナ 2
P1531	O	イボタマキビ 1, シロレイシダマシ 1, ハナマルユキ 2, ムラサキウズ 1, 軽石 1
P1533	O	ウラキツキガイ 2, サヤガタイモ 2, ニシキアマオブネ 2, ハナマルユキ 2, ホソスジイナミ 2, ヤコウガイ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2
P1538	-	兼久式土器 1
P1543	-	龍泉窯系青磁 1
P1544	-	兼久式土器 2
P1547	R	ハマサンゴ属 1, ホソスジイナミ 6, 軽石 1, 頁岩 1
P1552	O	マイマイ 1, リュウキュウシラトリ 4
P1560	N	軽石 1, 兼久式土器 1
P1568	O	アマオブネ 2, オキナワウスカワマイマイ 4, シマベッコウバイ 1, フトヘナタリ 1, リュウキュウウミニナ 2, リュウキュウシラトリ 1, 石灰岩 1

第79表　遺構内出土遺物一覧（5）

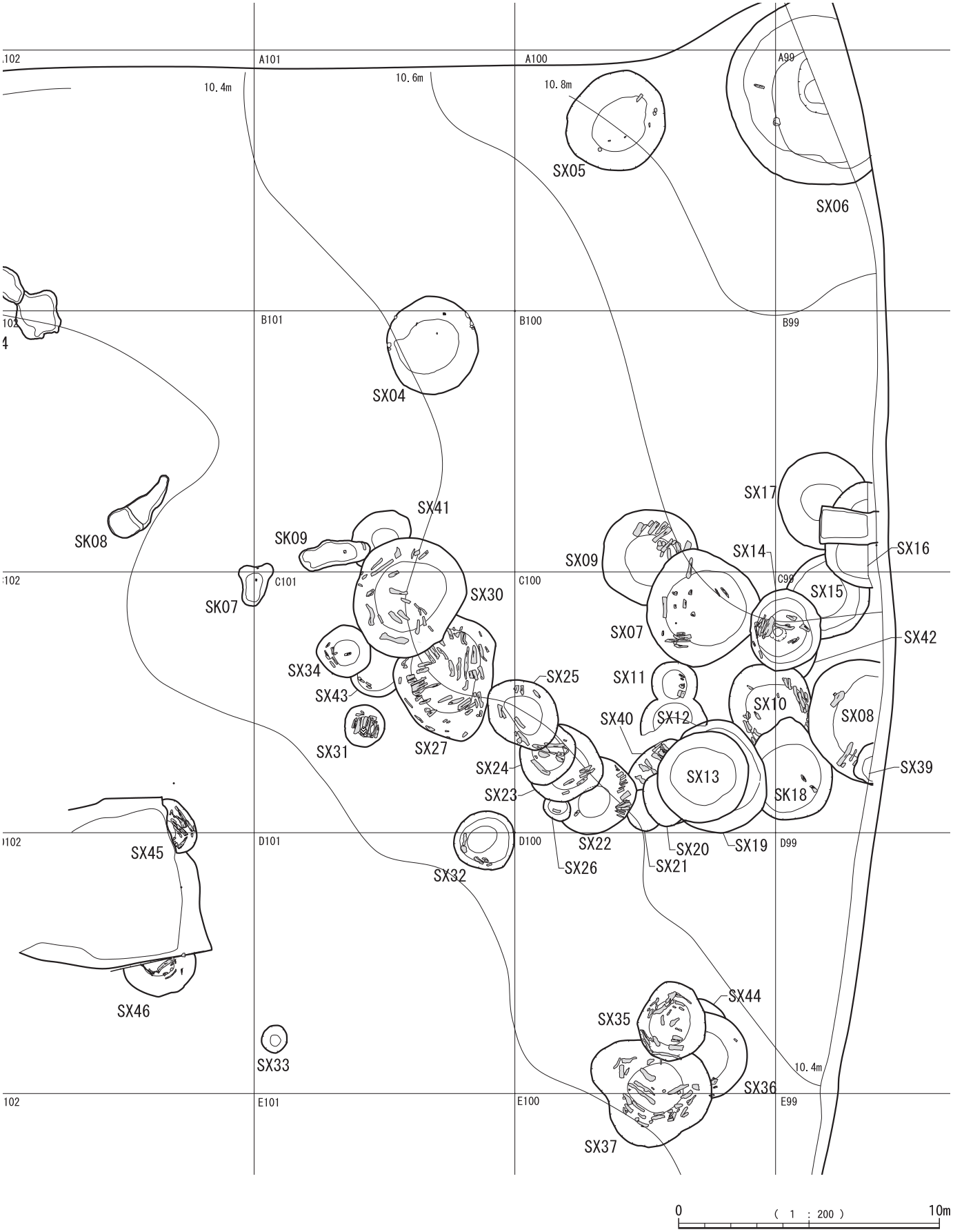
遺構名	埋土	内容
P1569	O	オオベッコウガサ 2, ホソスジイナミ 2, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 2, 兼久式土器 2
P1578	O	エガイ 1, ニシキアマオブネ 2, ホソスジイナミ 1, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウマスオ 1, 兼久式土器 2
P1584	O	ヤコウガイ 2, 兼久式土器 1
P1585	-	骨製品 1
P1595	N	オキナワウスカワマイマイ 1, ホソスジイナミ 2, マイマイ 4, リュウキュウシラトリ 4, リュウキュウマスオ 2, 軽石 3
P1602	-	兼久式土器 1
SD01	-	イソハマグリ 1, オオシラナミ 4, カワラガイ 13, クモガイ 1, サメザラ 3, シレナシジミ 1, ナガイトマキボラ 1, ハナガタサンゴ属 1, ベニエガイ 1, ホソスジイナミ 2, マガキガイ 1, ヤコウガイ 10, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 3, リュウキュウシラトリ 3, リュウキュウツノマタ 1, リュウキュウヒバリ 1, リュウキュウマスオ 9, 縄文土器 15, 頁岩 1
SD02	-	アマオブネ 1, アラヌノメ 1, イソハマグリ 4, イボシマイモ 1, イモガイ科 7, ウラキツキガイ 2, エガイ 1, オオシラナミ 4, オキニシ 4, カイシアオリ類 1, カムィヤキ 1, カワラガイ 2, クモガイ 3, コオニコブシ 5, サメザラ 5, サヤガタイモ 1, サラサバテイ 6, シラクモガイ 5, タカラガイ科 2, チャート 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 18, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 2, ナガイトマキボラ 1, ニシキウズ 1, ハナビラダカラ 2, ハナマルユキ 5, ハマサンゴ属 2, ヘビガイ 1, ホシダカラ 2, ホソスジイナミ 22, マガキガイ 9, マガキガイ（幼）1, マダライモ 2, ミドリイシ属 1, ヤクシマダカラ 2, ヤコウガイ 29, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 19, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウツノマタ 2, リュウキュウマスオ 2, 花崗岩 3, 近世施釉陶器 9, 近世無釉陶器 4, 軽石 4, 兼久式土器 1, 細粒砂岩 10, 粗粒砂岩 7, 中世陶器 2, 中粒砂岩 1, 泥岩 3, 土器 88, 島尻泥岩 1, 縄文土器 2, 粘土塊 3, 頁岩 3, 龍泉窯系青磁 2
SD03	-	イソハマグリ 1, オオシラナミ 1, カワラガイ 1, タカラガイ科 1, ホソスジイナミ 1, マガキガイ 4, ヤコウガイ 11, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウマスオ 1, 細粒砂岩 1, 粗粒砂岩 1, 土器 7, 縄文土器 1, 頁岩 1
SD06	-	カムィヤキ 2, チャート 6, ハマサンゴ属 2, 安山岩 1, 花崗岩 2, 滑石 1, 軽石 236, 兼久式土器 10, 玄武岩 5, 黒色泥質片岩 3, 黒曜石 1, 骨製品 1, 細粒砂岩 35, 石灰岩 5, 粗粒砂岩 29, 炭化物 1, 泥岩 11, 鉄滓 1, 土器 2, 島尻泥岩 2, 白磁 3, 頁岩 17, 変成岩？ 1, 変成岩 20:1, 変成岩 22:1, 変成岩 8:1, 龍泉窯系青磁 25, 緑色岩 5
SD06・10	-	軽石 49, 黒曜石 1, 細粒砂岩 5, 粗粒砂岩 2, 変成岩 1:1, 変成岩 11:1, 緑色岩 1
SD07	-	ハマサンゴ属 1, 軽石 1
SD08	-	銅製品 1
SD10	-	チャート 8, ハマサンゴ属 2, ホルンフェルス 1, 安山岩 1, 褐釉陶器 1, 軽石 425, 玄武岩 1, 黒色泥質片岩 1, 黒曜石 1, 細粒砂岩 48, 石灰岩 1, 粗粒砂岩 47, 泥岩 8, 白磁 3, 頁岩 25, 変成岩 1:1, 変成岩 10:1, 変成岩 13:1, 変成岩 3:1, 龍泉窯系青磁 33, 緑色岩 3
SD11	-	ハマサンゴ属 1, 軽石 2, 粗粒砂岩 1, 頁岩 3
SD27	-	チャート 1, 軽石 12, 細粒砂岩 4, 粗粒砂岩 1, 頁岩 2, 変成岩 3:2
SK	-	軽石 1
SK01	-	アラヌノメ 1, イソハマグリ 4, オオシラナミ 4, オキナワウスカワマイマイ 7, オニノツノガイ 2, カイシアオリ類 1, カワラガイ 14, クモガイ 5, コイボテツレイシ 1, コマダライモ 1, サメザラ 4, サヤガタイモ 2, スイジガイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 10, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 4, ツキガイ 1, ナガイトマキボラ 1, ナガジャコ 2, ニシキウズ 1, ハナマルユキ 1, ベニエガイ 6, ホソスジイナミ 7, マガキガイ 14, マガキガイ（幼）1, マダライモ 2, ヤクシマダカラ 4, ヤコウガイ 23, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 5, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウヒバリ 17, リュウキュウマスオ 15, 軽石 1, 細粒砂岩 5, 石灰岩 5, 土器 106, 不明 1
SK02	-	オオシラナミ 2, カワラガイ 4, クモガイ 1, サメザラ 5, サラサバテイ 1, シャコガイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ナガジャコ 1, ハナマルユキ 1, ヒレジャコ 1, ホソスジイナミ 2, ホソヤクシマダカラ 1, マガキガイ 2, ヤクシマダカラ 1, ヤコウガイ 7, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, 土器 8
SK03	-	カワラガイ 10, サメザラ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ベニエガイ 1, ホソスジイナミ 1, ヤコウガイ 1, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウマスオ 6, 土器 3
SK04	-	イソハマグリ 1, イボアナゴ 2, エガイ 1, カワラガイ 6, シオボラ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ハナビラダカラ 1, ホソスジイナミ 2, マガキガイ 4, マガキガイ（幼）1, ヤコウガイ 16, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 4, リュウキュウマスオ 1, 巻貝 1
SK05	-	アラヌノメ 2, イソハマグリ 1, イボアナゴ 8, オオシラナミ 3, カワラガイ 9, クモガイ 4, コイボテツレイシ 1, シレナシジミ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 4, ニシキウズ 1, ハナビラダカラ 2, ヒメジャコ 1, ホソスジイナミ 4, マガキガイ 10, マガキガイ（幼）3, ヤコウガイ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 3, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウマスオ 4, 土器 51
SK06	-	カワラガイ 14, ツキヒガイ 1, ホソスジイナミ 6, ヤコウガイ 11, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウヒバリ 2, リュウキュウマスオ 3, 細粒砂岩 1, 土器 15, 緑色岩 1
SK07	-	ナガジャコ 1, 骨製品 1
SK08	-	イソハマグリ 1, カイシアオリ類 1, カワラガイ 4, サヤガタイモ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ニシキアマオブネ 1, ハナビラダカラ 3, ベニエガイ 1, ホソスジイナミ 6, マガキガイ 6, マダライモ 1, ヤクシマダカラ 1, ヤコウガイ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウヒバリ 2, 細粒砂岩 2, 土器 55, 頁岩 1
SK09	-	カワラガイ 1, ベニエガイ 1, ヤコウガイ 4, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウマスオ 2
SK10	-	イソハマグリ 1, カワラガイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ベニエガイ 1, マガキガイ 1, ヤコウガイ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 7, リュウキュウマスオ 1, 石灰岩 2, 土器 3
SK11	-	イソハマグリ 1, ウラキツキガイ 2, カワラガイ 1, クモガイ 1, ホソスジイナミ 3, マガキガイ 1, ヤコウガイ 2, リュウキュウマスオ 1, 兼久式土器 1
SK12	-	オオシラナミ 2, クモガイ 1, サメザラ 1, サラサバテイ 1, シャコガイ 3, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 15, ニシキウズ 1, ヒメホシダカラ 1, メンガイ 1, ヤクシマダカラ 1, ヤコウガイ 21, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウヒバリ 1, 兼久式土器 4, 炭化物 2, 土器 10
SK13	-	ハナマルユキ 1, 土器 4
SK14	-	アマオブネ 2, アラヌノメ 2, アラレイモ 1, イシダタミアマオブネ 2, イソハマグリ 27, イボシマイモ 1, ウズラガイ 1, エガイ 1, カイシアオリ類 2, カワラガイ 518, キイロダカラ 1, キヌカツギイモ 1, サメザラ 1, サヤガタイモ 18, シレナシジミ 3, シロアンボイナ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 4, ニシキアマオブネ 1, ニシキウズ 1, ハナビラダカラ 32, ハナマルユキ 3, ベニエガイ 1, ホシダカラ 1, ホソスジイナミ 66, ホラガイ 1, マガキガイ 23, マガキガイ(幼) 3, マダライモ 2, マルスダレイ科 1, ヤコウガイ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, リュウキュウシラトリ 3, リュウキュウタケ 1, リュウキュウヒバリ 20, リュウキュウマスオ 11, 細粒砂岩 2, 室川下層 2, 土器 53
SK15	-	アマオブネ 4, イシダタミアマオブネ 15, イソハマグリ 30, イボシマイモ 3, イモガイ科 1, オオシマヤタテ 1, オオシラナミ 3, カワラガイ 19, キイロダカラ 1, キバアマガイ 1, コオニコブシ 1, コマダライモ 1, サメザラ 1, サヤガタイモ 15, ショウジョウラ 1, スイジガイ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 3, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 3, ツキガイ 2, ニシキアマオブネ 1, ハナビラダカラ 16, ハナマルユキ 4, フトヘナタリ 1, ホソスジイナミ 39, マガキガイ 15, マガキガイ（幼）1, マダライモ 1, メンガイ 1, ヤコウガイ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, ヤナギシボリイモ 2, リュウキュウウミニナ 1, リュウキュウシラトリ 8, リュウキュウツノマタ 2, リュウキュウヒバリ 16, リュウキュウマスオ 17, 室川下層 2, 土器 42
SK16	-	アマオブネ 4, イソハマグリ 2, イボタマキビ 1, エガイ 1, オオシラナミ 1, カイシアオリ類 2, カワラガイ 25, キイロダカラ 1, キバアマガイ 1, ギンタカハマ 2, サメザラ 3, サヤガタイモ 9, スイジガイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ニシキアマオブネ 1, ニシキウズ 1, ハナビラダカラ 33, ハナマルユキ 6, ヒメホシダカラ 1, ホソスジイナミ 59, ホソヤクシマダカラ 1, マガキガイ 17, マダライモ 2, ヤコウガイ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 3, リュウキュウウミニナ 1, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウヒバリ 31, リュウキュウマスオ 11, 細粒砂岩 1, 室川下層 2, 土器 51
SK18	-	アラヌノメ 2, イソハマグリ 1, エガイ 2, オオシラナミ 3, オキナワウスカワマイマイ 1, オニノツノガイ 2, カイシアオリ類 2, カワラガイ 11, ギンタカハマ 1, クモガイ 6, コオニコブシ 3, コシダカサザエ 1, サメザラ 4, サヤガタイモ 4, サラサバテイ 2, シオボラ 1, シレナシジミ 1, スイジガイ 1, チャート 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 3, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 3, ナガイトマキボラ 1, ナガジャコ 1, ニシキウズ 2, ハナビラダカラ 4, ハナマルユキ 1, バンザイラ 1, ホシダカラ 1, ホソスジイナミ 19, ホソヤクシマダカラ 1, ホラガイ 2, マガキガイ 42, マガキガイ（幼）2, マダライモ 2, ヤコウガイ 31, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 11, ヤナギシボリイモ 1, リュウキュウウミニナ 1, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウヒバリ 6, リュウキュウマスオ 13, 軽石 3, 細粒砂岩 11, 室川下層 1, 室川下層Ⅱ類 B1, 石灰岩 3, 粗粒砂岩 2, 泥岩 1, 土器 226, 頁岩 2, 緑色岩 1
SK18・SX13	-	カワラガイ 2, サラサバテイ 1, シレナシジミ 2, スイジガイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ホソスジイナミ 1, マガキガイ 8, メンガイ 1, ヤコウガイ 8, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, リュウキュウヒバリ 2, リュウキュウマスオ 2, 軽石 1, 細粒砂岩 4, 石灰岩 1, 土器 11
SK19	-	キイロダカラ 1, キヌカツギイモ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 2, ツタノハ 1, ハナマルユキ 1, ホソスジイナミ 2, ヤクシマダカラ 2, ヤコウガイ 2, ヤナギシボリイモ 1, 軽石 1
SK20	-	キヌカツギイモ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 2, ホソスジイナミ 1, マガキガイ 1, マダライモ 1, ムラサキウズ 1, ヤコウガイ 1, リュウキュウマスオ 1, 泥岩 1
SK22	-	アラヌノメ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ハナビラダカラ 1, ホソスジイナミ 1, マガキガイ 1
SK23	-	エガイ 1, オオシラナミ 3, サヤガタイモ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 3, ハナマルユキ 1, ヒザラガイ 1, ホソスジイナミ 4, マガキガイ 1, ヤクシマダカラ 2, ヤコウガイ 5, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 3, ヤナギシボリイモ 1, リュウテン 1, 土器 17, 龍泉窯系青磁 2
SK24	-	ウズラガイ 1, オキニシ 1, タカラガイ科 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ハナマルユキ 1
SK26	P	アラヌノメ 1, イモガイ科 1, ハナマルユキ 1
SK27	-	コイボテツレイシ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 4, ホラガイ 1, ヤコウガイ 1, リュウグウホタル 1, リュウテン 1
SK28	-	チャート 1, 粗粒砂岩 1, 頁岩 1
SK31	-	オオシラナミ 1, コイボテツレイシ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ヤコウガイ 1
SK33	-	イモガイ科 1
SK34	-	オオシラナミ 1, コオニコブシ 1, ヤクシマダカラ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウテン 1
SK36	-	オオシラナミ 1, オキナワウスカワマイマイ 1, キイロダカラ 1, コオニコブシ 1, ハナビラダカラ 1, ハナマルユキ 1, ホソスジイナミ 4, マガキガイ 1, ミドリアオリ 1, ミドリイシ属 1, ヤコウガイ 7, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 2, リュウテン 1, 土製品？ 1
SK40	R	ウラキツキガイ 1, サヤガタイモ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ヤコウガイ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, 細粒砂岩 3
SK41	R	アカイガレイシ 2, アマオブネ 5, アラヌノメ 1, イボシマイモ 2, イモガイ科 3, ウズラガイ 1, ウラキツキガイ 5, エガイ 6, オオシラナミ 9, オキニシ 3, オニコブシ 1, オニノツノガイ 1, カバミナシ 1, キヌカツギイモ 3, クロフモドキ 1, コイボテツレイシ 1, コオニコブシ 6, コマダライモ 1, サメザラ 1, サヤガタイモ 1, シラクモガイ 1, スイジガイ 3, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 30, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 23, ツキガイ 3, ナガイトマキボラ 2, ニシキアマオブネ 1, ニシキミナシ 1, ハイイロミナシ 1, ハナビラダカラ 1, ハナマルユキ 12, ハマサンゴ属 1, ベニエガイ 2, ホシキヌタ 1, ホソスジイナミ 22, マイマイ 1, マガキガイ 5, マダライモ 5, ミドリアオリ 1, ムラサキイガレイシ 1, ヤクシマダカラ 7, ヤコウガイ 20, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 16, ヤナギシボリイモ 2, リュウキュウサルボウ 1, リュウキュウシラトリ 6, リュウキュウツノマタ 1, リュウキュウマスオ 13, リュウテン 1, 軽石 84, 兼久式土器 213, 骨製品 1, 細粒砂岩 9, 粗粒砂岩 3, 泥岩 3, 縄文土器 1, 龍泉窯系青磁 4
SK42	-	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ホソスジイナミ 1, 白磁 1
SK43	-	アカイガレイシ 1, エガイ 1, オキニシ 1, キヌカツギイモ 1, コオニコブシ 1, コマダライモ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 3, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 2, ハナビラダカラ 1, ホシダカラ 1, ホソスジイナミ 2, マガキガイ 1, ヤクシマダカラ 1, ヤコウガイ 6, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, ヤナギシボリイモ 1, リュウキュウシラトリ 4, 軽石 4, 粗粒砂岩 1
SK45	-	アカイガレイシ 1, アマオブネ 6, アラヌノメ 3, イシダタミアマオブネ 1, イソハマグリ 4, イボシマイモ 2, ウラキツキガイ 10, オオシラナミ 3, オキナワウスカワマイマイ 1, オキニシ 9, オニノツノガイ 4, カイシアオリ類 4, キイロダカラ 4, キカイサルボウ 1, キヌカツギイモ 1, ギンタカハマ 2, コオニコブシ 1, コマダライモ 1, サメザラ 3, サヤガタイモ 2, シオボラ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 23, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 8, ツタノハ 10, ニシキアマオブネ 1, ニシキウズ 3, ハイイロミナシ 1, ハナマルユキ 6, ベニエガイ 1, ホソスジイナミ 26, ホラガイ 1, マガキガイ 5, マガキガイ（幼）1, マダライモ 4, ミドリアオリ 1, ムラサキイガレイシ 3, ムラサキウズ 1, ヤクシマダカラ 9, ヤコウガイ 31, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 22, リュウキュウシラトリ 13, リュウキュウマスオ 6, 軽石 28, 兼久式土器 101, 細粒砂岩 4, 粗粒砂岩 1, 頁岩 6, 龍泉窯系青磁 4

第80表　遺構内出土遺物一覧（6）

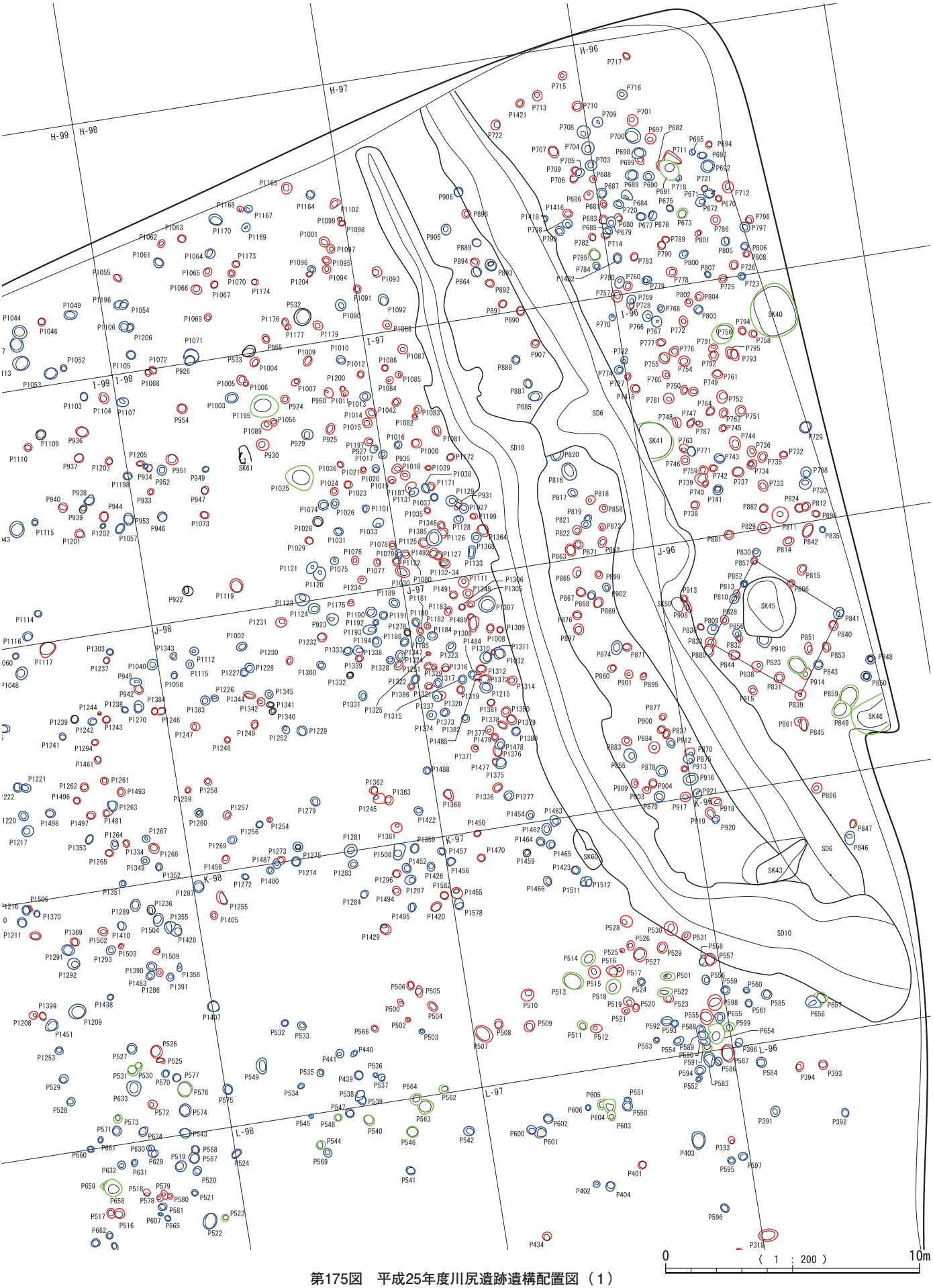
遺構名	埋土	内容
SK46	R	イシダタミアマオブネ 2, イボシマイモ 1, イモガイ科 1, ウラキツキガイ 1, エガイ 1, オオシラナミ 3, ギンタカハマ 1, コマダライモ 1, サメザラ 2, シラクモガイ 1, タガヤサンミナシ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 10, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ニシキアマオブネ 1, ハナビラダカラ 2, ハナマルユキ 2, ベニエガイ 1, ホソスジイナミ 3, マガキガイ（幼）1, ヤコウガイ 5, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 8, リュウキュウシラトリ 2, 軽石 13, 兼久式土器 58, 龍泉窯系青磁 2
SK51	-	ハナマルユキ 2, ホソスジイナミ 2, ヤコウガイ 1
SK60	-	リュウテン 2, 骨製品 2
SK99	-	軽石 5, 細粒砂岩 1
SK 一括	-	アラヌノメ 3, オキナワウスカワマイマイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, マイマイ 1, ヤコウガイ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, 龍泉窯系青磁 1
ST06	-	黒色泥質片岩 1, 炭化物 1
ST08	-	粗粒砂岩 1
SX01	-	土器 3
SX03	-	ウズラガイ 1, ホソスジイナミ 1, ヤコウガイ 1
SX04	-	アンボンクロザメ 1, イソハマグリ 4, イボアナゴ 7, イボシマイモ 1, ウラキツキガイ 1, オオシラナミ 6, オキナワウスカワマイマイ 2, オニノツノガイ 1, カイシアオリ類 2, カワラガイ 11, クモガイ 1, サメザラ 1, シラクモガイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 6, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ツキガイ 1, ニシキアマオブネ 1, ハナビラダカラ 1, ヒザラガイ 1, ヒレジャコ 1, ベニエガイ 3, ホシキヌタ 1, ホソスジイナミ 14, ホラガイ 2, マガキガイ 14, マガキガイ（幼）2, マダライモ 1, ミドリイシ属 1, ヤコウガイ 22, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 25, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウツノマタ 2, リュウキュウヒバリ 3, リュウキュウマスオ 6, 貝 1, 軽石 10, 細粒砂岩 8, 土器 48
SX05	-	カワラガイ 1, シレナシジミ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ナガイトマキボラ 1, ヒレジャコ 1, マガキガイ 3, マガキガイ（幼）1, ヤコウガイ 11, リュウキュウヒバリ 2, 細粒砂岩 3, 中粒砂岩 (硬)1, 土器 7
SX06	-	アマオブネ 4, イソハマグリ 4, イタボガキ科 1, エガイ 1, オオシラナミ 4, オニノツノガイ 2, カワラガイ 1, キヌカツギイモ 1, コオニコブシ 1, サラサバテイ 1, シラクモガイ 1, シレナシジミ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 4, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ニシキウズ 2, ハナガタサンゴ属 1, ハマサンゴ属 3, ベニエガイ 1, ホソスジイナミ 6, ホラガイ 3, マガキガイ 6, マガキガイ（幼）1, ヤコウガイ 23, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, リュウキュウツノマタ 1, リュウキュウヒバリ 5, 軽石 4, 骨製品 1, 細粒砂岩 3, 粗粒砂岩 3, 土器 47, 頁岩 3
SX07	-	オオシラナミ 4, カワラガイ 1, クモガイ 1, サラサバテイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 3, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ヒメホシダカラ 1, ベニエガイ 2, ホソスジイナミ 2, ヤコウガイ 58, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 4, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウマスオ 1, 土器 14, 頁岩 1
SX08	-	細粒砂岩 1, 粗粒砂岩 2, 中粒砂岩 1
SX09	-	オオシラナミ 7, カワラガイ 1, キバタケ 1, サラサバテイ 5, シレナシジミ 1, スイジガイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 7, ホラガイ 1, マガキガイ 1, メンガイ 2, ヤコウガイ 153, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 5, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 3, 細粒砂岩 5, 粗粒砂岩 3, 土器 1, 頁岩 2, 変成岩 3:1
SX10	-	ヤコウガイ 2, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, 細粒砂岩 1, 粗粒砂岩 1, 頁岩 4
SX13	-	スイジガイ 1, ヤコウガイ 3, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, リュウキュウマスオ 1, 土器 11
SX14	-	オオシラナミ 1, カワラガイ 1, チャート 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ベニエガイ 2, ホソスジイナミ 1, ヤコウガイ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, リュウキュウシラトリ 1, 土器 1, 頁岩 3
SX14・15・16	-	アラヌノメ 1, オオシラナミ 9, オキニシ 1, カワラガイ 4, クモガイ 2, コオニコブシ 1, サラサバテイ 10, シレナシジミ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 5, ヒメホシダカラ 1, ヒレジャコ 3, ベニエガイ 3, ホシキヌタ 1, ホシダカラ 1, ホソスジイナミ 1, ホソヤクシマダカラ 3, ホラガイ 1, マガキガイ 12, マガキガイ（幼）1, ムラサキウズ 1, ヤコウガイ 132, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 7, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウマスオ 4, 花崗岩 2, 兼久式土器 1, 細粒砂岩 1, 石灰岩 1, 石灰岩再凝固 2, 粗粒砂岩 1, 土器 23, 頁岩 3, 変成岩 23:1
SX16	-	土器 3
SX19	-	イソハマグリ 2, オオシラナミ 1, カワラガイ 5, シレナシジミ 1, スイジガイ 1, ハナマルユキ 1, ハマサンゴ属 1, ホソスジイナミ 2, マガキガイ 2, ﾔﾏﾝｶﾞｲ蓋 2, ヤナギシボリダカラ 1, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウヒバリ 1, リュウキュウマスオ 3, 細粒砂岩 1, 中粒砂岩 (硬)1, 土器 23
SX20	-	土器 1
SX25	-	マガキガイ 2, マガキガイ（幼）1, ヤコウガイ 8, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウマスオ 1, 土器 1
SX27	-	カワラガイ 1, ベニエガイ 1, ホソスジイナミ 2, ヤコウガイ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 3, 土器 1
SX30	-	イモガイ科 1, オオシラナミ 2, オオツタノハ 1, オキナワウスカワマイマイ 2, カワラガイ 15, クモガイ 1, シレナシジミ 6, スイジガイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 7, ハナマルユキ 1, ハマサンゴ属 1, ベニエガイ 1, ホソスジイナミ 7, マガキガイ 5, マガキガイ（幼）1, ムカシタモト 1, ヤコウガイ 31, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 7, ヤナギシボリイモ 1, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 16, 細粒砂岩 1, 粗粒砂岩 2, 中粒砂岩 (硬)1, 泥岩 1, 土器 107, 変成岩 2:1
SX31	-	アマオブネ 1, ヤコウガイ 1, リュウキュウマスオ 1, 土器 2
SX32	-	イシダタミアマオブネ 1, イソハマグリ 5, イボアナゴ 1, イボシマイモ 2, オキナワウスカワマイマイ 4, オニノツノガイ 1, カイシアオリ類 2, カワラガイ 4, サヤガタイモ 2, タマガイ科 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 4, ハイイロミナシ 1, ハナビラダカラ 2, ハナマルユキ 1, ホソスジイナミ 8, マガキガイ 5, マガキガイ(幼)1, ムラサキウズ 1, ヤコウガイ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 4, リュウキュウヒバリ 2, リュウキュウマスオ 3, 粗粒砂岩 1, 土器 44
SX33	-	細粒砂岩 2, 粗粒砂岩 3, 不明サンゴ 17, 緑色岩 1
SX34	-	オオシラナミ 1, カワラガイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 1, ニシキアマオブネ 1, 土器 1
SX35	-	マガキガイ 1, ヤコウガイ 1, 土器 3
SX36	-	カワラガイ 1, マガキガイ 1, ヤコウガイ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 3, 細粒砂岩 2, 土器 7
SX37	-	オオシラナミ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ハナガタサンゴ属 1, ベニエガイ 1, マガキガイ 1, ヤコウガイ 16, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウマスオ 3, 土器 14
SX40	-	土器 2
SX43	-	土器 1
SX44	-	オニノツノガイ 1, ヤコウガイ 1, 土器 7
SX45	-	ヤコウガイ 1
SX46	-	ベニエガイ 1, ホソスジイナミ 1, ヤコウガイ 1, リュウキュウマスオ 1, 土器 1
SX47	-	エガイ 1, コモンサンゴ属 1, ハマサンゴ属 32, ミドリイシ属 2, ヤナギシボリイモ 2, リュウキュウマスオ 1, 細粒砂岩 182, 石灰岩 1, 土器 1, 頁岩 1
ｻﾌﾞﾄﾚ	-	兼久式土器 1
ドット	-	ハマサンゴ属 13, ミドリイシ属 3, 安山岩 1, 花崗岩 1, 軽石 28, 玄武岩 1, 黒雲母花崗岩 1, 細粒砂岩 54, 深成岩 1, 石灰岩 4, 閃緑岩 1, 粗粒砂岩 52, 中粒砂岩 7, 泥岩 3, 頁岩 7, 変成岩 ? 1, 変成岩 1:1, 変成岩 17:1, 変成岩 3:4, 変成岩 7:1, 変成岩 8:2, 片状砂岩 1, 緑色岩 9
貝だまり 1	-	アマオブネ 2, イソハマグリ 1, イボシマイモ 1, エガイ 1, オオシラナミ 6, オキニシ 2, オニノツノガイ 1, カワラガイ 1, キマダライガレイシ 1, クモガイ 1, コオニコブシ 4, サヤガタイモ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 10, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 6, ツタノハ 2, ナガイトマキボラ 2, ハイイロミナシ 5, ハナマルユキ 3, ホソスジイナミ 6, ホラガイ 1, マイマイ 2, マダライモ 1, ムラサキイガレイシ 2, ムラサキウズ 3, ヤクシマダカラ 2, ヤコウガイ 8, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 12, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウマスオ 2, 軽石 1, 兼久式土器 28, 細粒砂岩 1
貝だまり 10	-	アカイガレイシ 2, アマオブネ 3, イボシマイモ 2, ウズイチモンジ 1, エガイ 2, オオシラナミ 4, オニノツノガイ 1, キヌカツギイモ 1, ギンタカハマ 1, コイボテツレイシ 1, コオニコブシ 5, サラサバテイ 1, シロマダライモ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 12, ツキガイ 1, ツタノハ 6, ニシキアマオブネ 4, ニシキウズ 5, ハナビラダカラ 4, ハナマルユキ 14, ヒメホシダカラ 1, ホシダカラ 1, ホソスジイナミ 8, ホラガイ 1, マガキガイ 2, マガキガイ(幼)1, マダライモ 1, ミドリアオリ 2, ムラサキウズ 7, ヤクシマダカラ 8, ヤコウガイ 9, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 11, ヤナギシボリイモ 1, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウツノマタ 1, リュウキュウマスオ 9, 軽石 1, 兼久式土器 19
貝だまり 11	-	アカイガレイシ 4, アマオブネ 17, アラヌノメ 2, イシダタミアマオブネ 18, イソハマグリ 1, イボシマイモ 6, イボソデ 1, イボタマキビ 1, ウズイチモンジ 1, ウズラガイ 6, ウチワガイ 1, ウラキツキガイ 10, エガイ 29, オオシラナミ 16, オキナワウスカワマイマイ 1, オキニシ 19, オニコブシ 1, オニノツノガイ 7, カイシアオリ類 6, カバミナシ 3, カワラガイ 1, キイロダカラ 3, キヌカツギイモ 4, キバアマガイ 1, ギンタカハマ 7, クモガイ 2, コイボテツレイシ 6, コオニコブシ 40, コマダライモ 4, サメザラ 8, サヤガタイモ 7, サラサバテイ 8, シオボラ 3, シラクモガイ 14, シロアンボイナ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 180, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 76, ツキガイ 1, ツタノハ 26, トドロキガイ 1, ナガイトマキボラ 2, ニシキアマオブネ 9, ニシキウズ 5, ハイイロミナシ 11, ハナイモ 2, ハナビラダカラ 27, ハナマルユキ 63, ヒメジャコ 2, ヒメホシダカラ 8, フトコロヤタテ 1, フトヘナタリ 9, ベニエガイ 6, ヘビガイ 2, ホシダカラ 9, ホソスジイナミ 89, ホラガイ 6, マイマイ 16, マガキガイ 15, マガキガイ（幼）6, マダライモ 8, ミドリアオリ 2, ムカシタモト 1, ムラサキイガレイシ 4, ムラサキウズ 12, メンガイ 4, ヤキイモ 2, ヤクシマダカラ 62, ヤコウガイ 179, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 107, ヤナギシボリイモ 8, リュウキュウシラトリ 65, リュウキュウツノマタ 9, リュウキュウヒバリ 4, リュウキュウマスオ 70, リュウテン 5, 安山岩 1, 軽石 232, 兼久式土器 175, 黒色泥質片岩 2, 骨製品 2, 細粒砂岩 26, 須恵器 1, 粗粒砂岩 26, 泥岩 2, 土師器 2, 土製品 1, 頁岩 5, 変成岩 3:2, 緑色岩 3
貝だまり 12	-	兼久式土器 3, 細粒砂岩 3, 粗粒砂岩 4
貝だまり 2	-	イボシマイモ 1, イモガイ科 1, オオシラナミ 2, キイロイガレイシ 1, コオニコブシ 4, サヤガタイモ 1, スイジガイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 5, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 1, ハナビラダカラ 2, マガキガイ 1, ヤクシマダカラ 2, ヤコウガイ 1, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 2, 軽石 1, 細粒砂岩 1, 頁岩 1
貝だまり 3	-	アカイガレイシ 1, アマオブネ 2, アラヌノメ 1, ウズラガイ 1, オオシラナミ 1, オキニシ 4, コオニコブシ 3, サヤガタイモ 1, シラクモガイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 2, ハナマルユキ 1, ハマサンゴ属 1, ホソスジイナミ 1, ヤコウガイ 3, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 3, リュウキュウツノマタ 1, リュウキュウマスオ 1, 軽石 2, 兼久式土器 3, 粗粒砂岩 1
貝だまり 4	-	アマオブネ 2, イボアナゴ 1, ウズラガイ 3, ウラキツキガイ 2, エガイ 2, オオウラウズ 1, オオシラナミ 3, オキニシ 1, オニノツノガイ 1, カワラガイ 1, クリイロフデ 2, コイボテツレイシ 1, コオニコブシ 3, サメザラ 1, サヤガタイモ 1, サラサバテイ 1, シラクモガイ 1, シレナシジミ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 18, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 10, ツキガイ 1, ツタノハ 2, ニシキアマオブネ 1, ニシキウズ 1, ハイイロミナシ 2, ハナビラダカラ 2, ハナマルユキ 14, ハマサンゴ属 1, ベニエガイ 2, ホシキヌタ 1, ホシダカラ 1, ホソスジイナミ 10, ホラガイ 1, マイノソデ 1, マガキガイ 3, マガキガイ（幼）1, マダライモ 1, ムラサキイガレイシ 2, ムラサキウズ 4, ヤクシマダカラ 7, ヤコウガイ 23, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 12, リュウキュウシラトリ 3, リュウキュウツノマタ 2, リュウキュウマスオ 12, 軽石 1, 軽石 26, 兼久式土器 1, 細粒砂岩 2, 石灰岩 1, 変成岩 7:1, 緑色岩 1
貝だまり 4 周辺	-	軽石 1
貝だまり 5	-	アカイガレイシ 5, アマオブネ 12, アラヌノメ 3, アラレイモ 4, イボアナゴ 3, イボカバイモ 2, イボシマイモ 13, イモフデ 1, ウズイチモンジ 2, ウズラガイ 2, ウラキツキガイ 1, エガイ 23, オオウラウズ 4, オオオビフデ 1, オオシラナミ 19, オキナワウスカワマイマイ 4, オキニシ 6, オニコブシ 4, オニノツノガイ 3, カイシアオリ類 9, カバミナシ 2, キイロダカラ 5, キクザル 1, キヌカツギイモ 9, キバアマガイ 1, ギンタカハマ 5, クモガイ 1, コイボテツレイシ 1, コウダカカラマツ 4, コオニコブシ 46, コマダライモ 1, サメザラ 5, サヤガタイモ 6, サラサバテイ 4, シマベッコウバイ 2, シラクモガイ 6, シロレイシダマシ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 58, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 52, ツキガイ 1, ツタノハ 46, ナガイトマキボラ 1, ニシキアマオブネ 7, ニシキウズ 4, ハナイモ 1, ハナビラダカラ 34, ハナマルユキ 79, ハナワレイシ 1, ハマサンゴ属 4, ヒメホシダカラ 10, ベニエガイ 4, ホシダカラ 4, ホソスジイナミ 36, ホソヤクシマダカラ 3, ホラガイ 7, マイマイ 12, マガキガイ 9, マダライモ 8, ミドリアオリ 6, ミドリイシ属 1, ムカシタモト 5, ムラサキイガレイシ 10, ムラサキウズ 52, メンガイ 1, ヤクシマダカラ 51, ヤコウガイ 89, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 56, ヤセイモ 2, ヤナギシボリイモ 8, リュウキュウウミニナ 9, リュウキュウシラトリ 5, リュウキュウツノマタ 4, リュウキュウヒバリ 1, リュウキュウマスオ 26, 安山岩 1, 軽石 62, 兼久式土器 40, 骨製品 3, 細粒砂岩 20, 粗粒砂岩 14, 炭化物 1, 中粒砂岩 (硬)3, 泥岩 1, 頁岩 3, 変成岩 14:1, 変成岩 3:3, 変成岩 9:1, 緑色岩 3

第81表　遺構内出土遺物一覧（7）

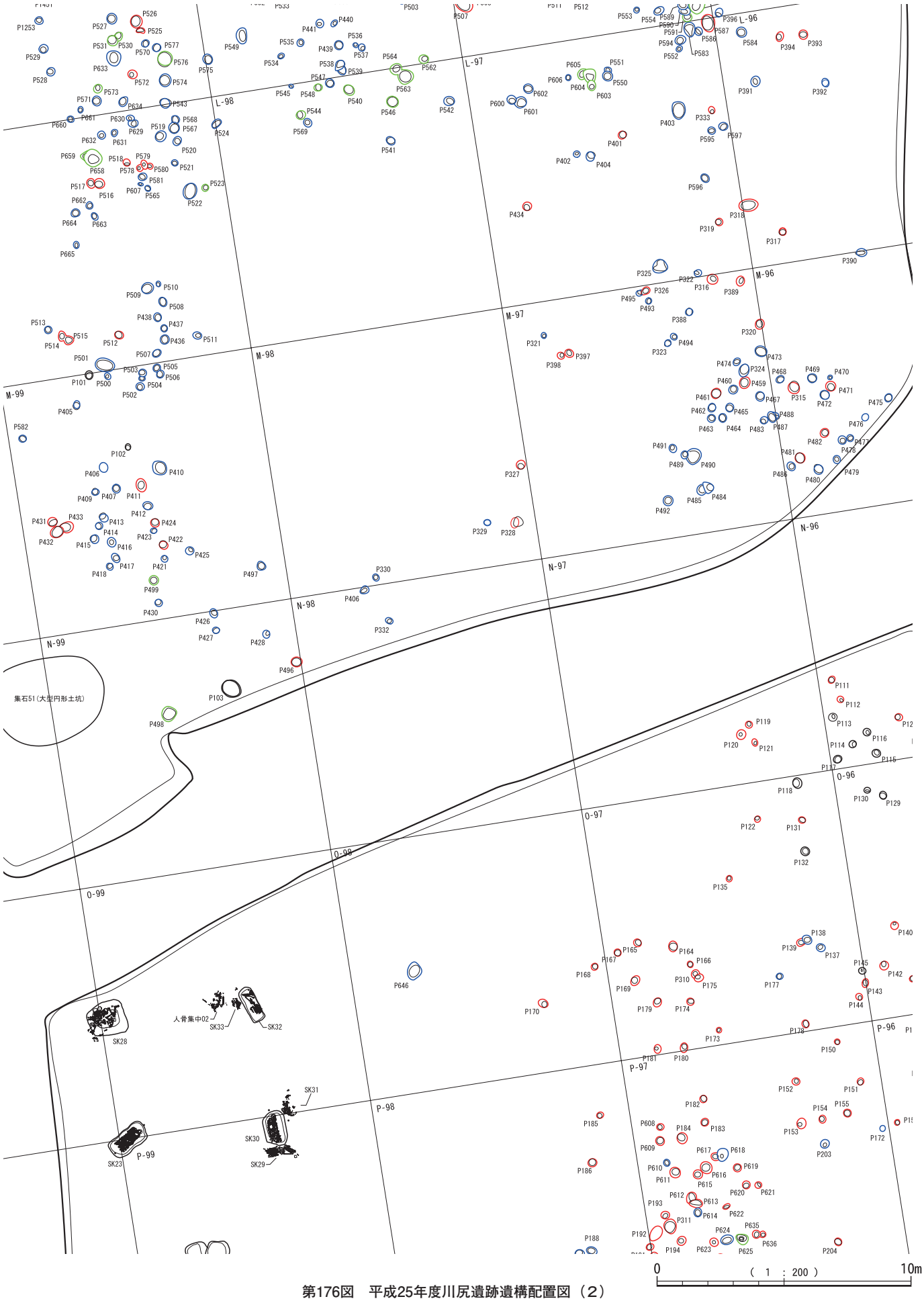
遺構名	埋土	内容
貝だまり6	-	アカイガレイシ 9, アマオブネ 21, アラヌノメ 6, アラレイモ 8, イシダタミアマオブネ 11, イソハマグリ 8, イボシマイモ 10, イボタマキビ 3, ウズイチモンジ 1, ウズラガイ 1, ウラキツキガイ 3, エガイ 12, オオウラウズ 2, オオシラナミ 27, オキナワウスカワマイマイ 21, オキニシ 12, オニノツノガイ 5, カイシアオリ類 3, カゴガイ 1, カワニナ 2, キイロダカラ 6, キクザル 1, キヌカツギイモ 10, キバタケ 1, キマダライガレイシ 4, ギンタカハマ 9, ケイトウガイ 1, コイボテツレイシ 3, コウダカカラマツ 3, コオニコブシ 10, コマダライモ 3, サメザラ 6, サヤガタイモ 9, サラサバテイ 5, シオボラ 2, シマベッコウバイ 5, シラクモガイ 8, スイジガイ 8, センジュモドキ 1, タルダカラ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 69, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 54, ツキガイ 2, ツタノハ 27, ニシキアマオブネ 12, ニシキウズ 8, ハイイロミナシ 1, ハナビラダカラ 47, ハナマルユキ 68, ハマサンゴ属 1, ヒメホシダカラ 2, ヒレジャコ 2, フトヘナタリ 2, ヘビガイ 1, ホシキヌタ 13, ホソスジイナミ 51, マイマイ 68, マガキガイ 15, マダライモ 7, ミドリアオリ 3, ミドリイシ属 1, ムカシタモト 7, ムラクモダカラ 1, ムラサキイガレイシ 2, ムラサキウズ 13, ヤクシマダカラ 29, ヤコウガイ 102, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 66, ヤセイモ 1, ヤナギシボリイモ 5, リュウキュウウミニナ 31, リュウキュウシラトリ 4, リュウキュウツノマタ 4, リュウキュウマスオ 46, リュウテン 2, 安山岩 1, 軽石 115, 兼久式土器 51, 細粒砂岩 27, 石灰岩 1, 粗粒砂岩 21, 泥岩 2, 頁岩 4, 変成岩 3:2, 緑色岩 2
貝だまり7	-	アマオブネ 2, アラヌノメ 1, イソハマグリ 2, イボアナゴ 1, ウラキツキガイ 1, オオシラナミ 13, オニコブシ 1, オニノツノガイ 1, カワラガイ 1, キヌカツギイモ 1, コオニコブシ 1, サツマビナ 1, サメザラ 2, サヤガタイモ 1, シラクモガイ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 8, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 6, ニシキウズ 1, ハイイロミナシ 1, ハナビラダカラ 4, ハマサンゴ属 2, ホシダカラ 1, ホソスジイナミ 5, ホラガイ 1, マイマイ 1, マガキガイ 1, ムラサキウズ 2, ヤクシマダカラ 6, ヤコウガイ 29, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 7, ヤナギシボリイモ 1, リュウキュウシラトリ 3, リュウキュウマスオ 4, 軽石 11, 兼久式土器 5, 細粒砂岩 2, 粗粒砂岩 3, 頁岩 1
貝だまり8	-	アカイガレイシ 2, アマオブネ 1, イソハマグリ 14, イボシマイモ 7, イモガイ科 2, ウラキツキガイ 1, エガイ 6, オオウラウズ 1, オオシラナミ 9, オオベッコウガサ 1, オキニシ 1, オニコブシ 2, カイシアオリ類 1, ギンタカハマ 2, コウダカカラマツ 1, コオニコブシ 22, サメザラ 1, サヤガタイモ 2, サラサバテイ 2, シオボラ 1, シラクモガイ 1, スイジガイ 1, チャート 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 23, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 21, ツタノハ 8, ナガイトマキボラ 1, ニシキアマオブネ 4, ハイイロミナシ 2, ハナビラダカラ 5, ハナマルユキ 5, ヒメジャコ 1, ヒメホシダカラ 2, ベニエガイ 2, ホシダカラ 1, ホソスジイナミ 31, マイマイ 1, マガキガイ 8, マガキガイ（幼）1, マダライモ 11, ミドリアオリ 1, ムカシタモト 2, ムラサキイガレイシ 1, ムラサキウズ 4, ヤクシマダカラ 5, ヤコウガイ 23, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 22, ヤナギシボリイモ 6, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウツノマタ 1, リュウキュウヒバリ 3, リュウキュウマスオ 10, 安山岩 1, 軽石 43, 兼久式土器 9, 細粒砂岩 3, 粗粒砂岩 1, 島尻泥岩 2, 頁岩 3
貝だまり8と9の間	-	軽石 11, 細粒砂岩 1
貝だまり9	-	アカイガレイシ 4, アマオブネ 2, アラヌノメ 2, イボシマイモ 4, ウズイチモンジ 2, ウラキツキガイ 4, エガイ 3, オオウラウズ 1, オオシラナミ 9, オキニシ 4, オニコブシ 1, カイシアオリ類 1, カゴガイ 1, キヌカツギイモ 1, キマダライガレイシ 1, ギンタカハマ 3, コイボテツレイシ 1, コウイカ 1, コオニコブシ 22, コマダライモ 1, コンペイトウガイ 1, サメザラ 5, サヤガタイモ 1, サラサバテイ 2, スイジガイ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 12, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 24, ツキガイ 1, ツタノハ 7, ニシキアマオブネ 1, ニシキウズ 6, ネジマガキ 1, ハナビラダカラ 8, ハナマルユキ 31, ヒメホシダカラ 2, ホシダカラ 2, ホソスジイナミ 38, ホラガイ 2, マイマイ 2, マガキガイ 8, マガキガイ（幼）2, マダライモ 3, ムラクモダカラ 1, ムラサキイガレイシ 3, ムラサキウズ 1, ヤクシマダカラ 6, ヤコウガイ 34, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 35, ヤナギシボリイモ 3, リュウキュウシラトリ 7, リュウキュウツノマタ 2, リュウキュウヒバリ 1, リュウキュウマスオ 11, 軽石 30, 細粒砂岩 1, 石灰岩 1, 粗粒砂岩 2, 頁岩 3
貝集中	-	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 105, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 49, ヤコウガイ 108, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 86
貝集中#1	-	アラヌノメ 4, イソハマグリ 1, イボアナゴ 1, イモガイ科 1, オオシラナミ 36, オキナワウスカワマイマイ 3, オキニシ 1, オニノツノガイ 7, カワラガイ 4, キイロダカラ 1, キクメイシ属 1, ギンタカハマ 1, クモガイ 8, コオニコブシ 2, サヤガタイモ 1, サラサバテイ 9, シラクモガイ 1, シレナシジミ 1, チャート 5, ツキガイ 2, ナガイトマキボラ 1, ナガレサンゴ属？ 1, ニシキウズ 1, ハイイロミナシ 2, ハナガタサンゴ属 1, ハナマルユキ 5, ハマサンゴ属 2, ヒレジャコ 1, ホシキヌタ 3, ホシダカラ 4, ホソスジイナミ 16, ホラガイ 17, マイマイ 1, マガキガイ 211, マガキガイ(幼)13, マダライモ 1, ミドリイシ属 6, ヤクシマダカラ 5, リュウキュウシラトリ 2, リュウキュウツノマタ 1, リュウキュウマスオ 7, 軽石 71, 細粒砂岩 76, 石灰岩 15, 粗粒砂岩 43, 中粒砂岩 (硬)3, 泥岩 3, 縄文土器 2, 不明サンゴ 1, 頁岩 29, 変成岩？ 1, 変成岩 24:1, 変成岩 3:1, 変成岩 6:1, 緑色岩 8
貝集中#2	-	アマオブネ 6, アラヌノメ 14, アラレイモ 2, アンボンクロザメ 6, イシダタミアマオブネ 5, イソハマグリ 66, イトカワトキワ 1, イボシマイモ 3, イボソデ 1, イボタマキビ 1, イモガイ科 3, ウズラガイ 2, エガイ 4, オオシラナミ 50, オオツタノハ 3, オオベッコウガサ 1, オキナワウスカワマイマイ 1, オキニシ 22, オニノツノガイ 19, カイシアオリ類 3, カバミナシ 1, カワラガイ 626, キイロダカラ 4, キヌカツギイモ 1, ギンタカハマ 10, クモガイ 26, コイボテツレイシ 3, コウダカカラマツ 1, コオニコブシ 7, サメザラ 31, サヤガタイモ 4, サラサバテイ 28, シオボラ 1, ショウジョウガイ 1, シラクモガイ 5, シレナシジミ 13, スイジガイ 15, スイショウガイ科 1, タカラガイ科 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 111, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 22, ツキガイ 2, ツノレイシ 1, ナガイトマキボラ 8, ナガジャコ 1, ニシキアマオブネ 3, ニシキウズ 14, ニセマガキ 1, ハイイロミナシ 1, ハナビラダカラ 9, ハナマルユキ 17, ハボウキガイ科 2, ベニエガイ 2, ホシキヌタ 1, ホシダカラ 20, ホソスジイナミ 207, ホソヤクシマダカラ 2, ホラガイ 21, マガキガイ 428, マガキガイ（幼）31, マスオガイ 2, マダライモ 3, ムカシタモト 2, ムラサキイガレイシ 1, ムラサキウズ 12, メンガイ類 3, ヤクシマダカラ 26, ヤコウガイ 205, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 117, ヤナギシボリイモ 2, ヤナギシボリダカラ 1, リュウキュウシラトリ 12, リュウキュウタケ 1, リュウキュウツノマタ 9, リュウキュウヒバリ 28, リュウキュウマスオ 77, 兼久式土器 748, 骨製品 4, 室川下層 2, 室川下層式系 1, 炭化物 3, 土製品 1, 縄文土器 1286
貝集中#3	-	アマオブネ 8, アラヌノメ 4, イボアナゴ 1, イボシマイモ 6, イモガイ科 4, ウズイチモンジ 1, ウズラガイ 2, エガイ 1, オオウラウズ 1, オオシラナミ 9, オオベッコウガサ 1, オキナワウスカワマイマイ 3, オニコブシ 1, オニノツノガイ 2, カイシアオリ類 1, キヌカツギイモ 5, ギンタカハマ 2, コイボテツレイシ 1, コオニコブシ 19, サメザラ 4, サラサバテイ 12, シオボラ 6, シロアンボイナ 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 25, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 9, ツタノハ 5, ツノレイシ 2, トドロキガイ 2, ナガイトマキボラ 2, ニシキアマオブネ 1, ニシキウズ 7, ハイイロミナシ 3, ハナビラダカラ 10, ハナマルユキ 26, ハマサンゴ属 2, ヒメホシダカラ 1, フジツボ 2, ベニエガイ 1, ホシキヌタ 2, ホシダカラ 3, ホソスジイナミ 5, ホソヤクシマダカラ 1, ホラガイ 5, マイマイ 2, マガキガイ 16, マガキガイ（幼）6, マダライモ 2, ムカシタモト 3, ムラサキイガレイシ 2, ムラサキウズ 5, メンガイ 1, メンガイ類 1, ヤクシマダカラ 38, ヤコウガイ 27, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 3, ヤセイモ 1, ヤナギシボリイモ 1, リュウキュウツノマタ 1, リュウキュウマスオ 25, 軽石 19, 兼久式土器 622, 兼久式土器？ 1, 古銭 1, 骨製品 1, 細粒砂岩 4, 粗粒砂岩 5, 炭化物 3, 鉄片 1, 縄文土器 15, 粘土盤 1, 頁岩 3, 弥生系土器 1
貝集中#4	-	アカイガレイシ 1, アマオブネ 8, イシダタミアマオブネ 4, イボシマイモ 8, イボソデ 1, イモガイ科 4, エガイ 4, オオウラウズ 1, オオシラナミ 17, オキナワウスカワマイマイ 11, オキニシ 6, オニノツノガイ 2, カイシアオリ類 1, キヌカツギイモ 2, キマダライガレイシ 1, ギンタカハマ 7, コイボテツレイシ 1, コウダカカラマツ 1, コオニコブシ 13, サメザラ 3, サヤガタイモ 1, サラサバテイ 6, シラクモガイ 5, タガヤサンミナシ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 141, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 25, ツタノハ 7, ナガイトマキボラ 1, ニシキアマオブネ 1, ニシキウズ 2, ハイイロミナシ 1, ハナビラダカラ 4, ハナマルユキ 22, ふいごの羽口 1, ベニエガイ 1, ホシキヌタ 2, ホシダカラ 4, ホラガイ 4, マイマイ 1, マガキガイ 19, マガキガイ（幼）9, マダライモ 3, ムカシタモト 1, ムラクモダカラ 1, ムラサキイガレイシ 1, ムラサキウズ 8, ヤクシマダカラ 45, ヤコウガイ 146, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 48, ヤナギシボリイモ 7, リュウキュウウミニナ 2, リュウキュウツノマタ 5, リュウキュウマスオ 7, リュウテン 1, 兼久式土器 186, 須恵器 1, 縄文土器 5
近世サタガマ	-	ハマサンゴ属 8, ミドリイシ属 4, 軽石 22, 石灰岩 5, 粗粒砂岩 1
集石	-	カワラガイ 1, ミドリイシ属 4, リュウキュウシラトリ 1, 細粒砂岩 4, 頁岩 3
集石51	-	花崗岩 1, 近世施釉陶器 1, 軽石 1, 兼久式土器 5, 粗粒砂岩 2, 頁岩 1, 龍泉窯系青磁 1
集石55	-	軽石 1, 中粒砂岩 (硬)1
獣骨集中箇所01	-	滑石 1
人骨集中箇所01	-	褐釉陶器 1, 近世施釉陶器 7, 兼久式土器 2, 黒釉陶器 1
人骨集中箇所02	-	土器 2, 粘土塊 1
川尻B	-	カムィヤキ 1, 兼久式土器 6
溝（小）	-	オオシラナミ 1, コイボテツレイシ 1, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 4, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ蓋 2, ホソスジイナミ 3, マガキガイ 4, ヤコウガイ 6, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 1, リュウキュウマスオ 1, 粗粒砂岩 1
溝（大）	-	イボシマイモ 1, ウラキツキガイ 2, オオシラナミ 7, オニムシロ 1, キカイサルボウ 1, サラサバテイ 2, タカラガイ科 2, ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ 14, ツタノハ 1, ハナビラダカラ 1, ベニエガイ 1, ホソスジイナミ 5, ホラガイ 4, マガキガイ 3, ムラクモダカラ 1, ムラサキウズ 1, ヤクシマダカラ 2, ヤコウガイ 18, ﾔｺｳｶﾞｲ蓋 11, リュウキュウシラトリ 1, リュウキュウマスオ 6, リュウテン 1, 軽石 59, 黒色泥質片岩 1, 細粒砂岩 6, 石灰岩 7, 粗粒砂岩 1, 頁岩 6, 緑色岩 1



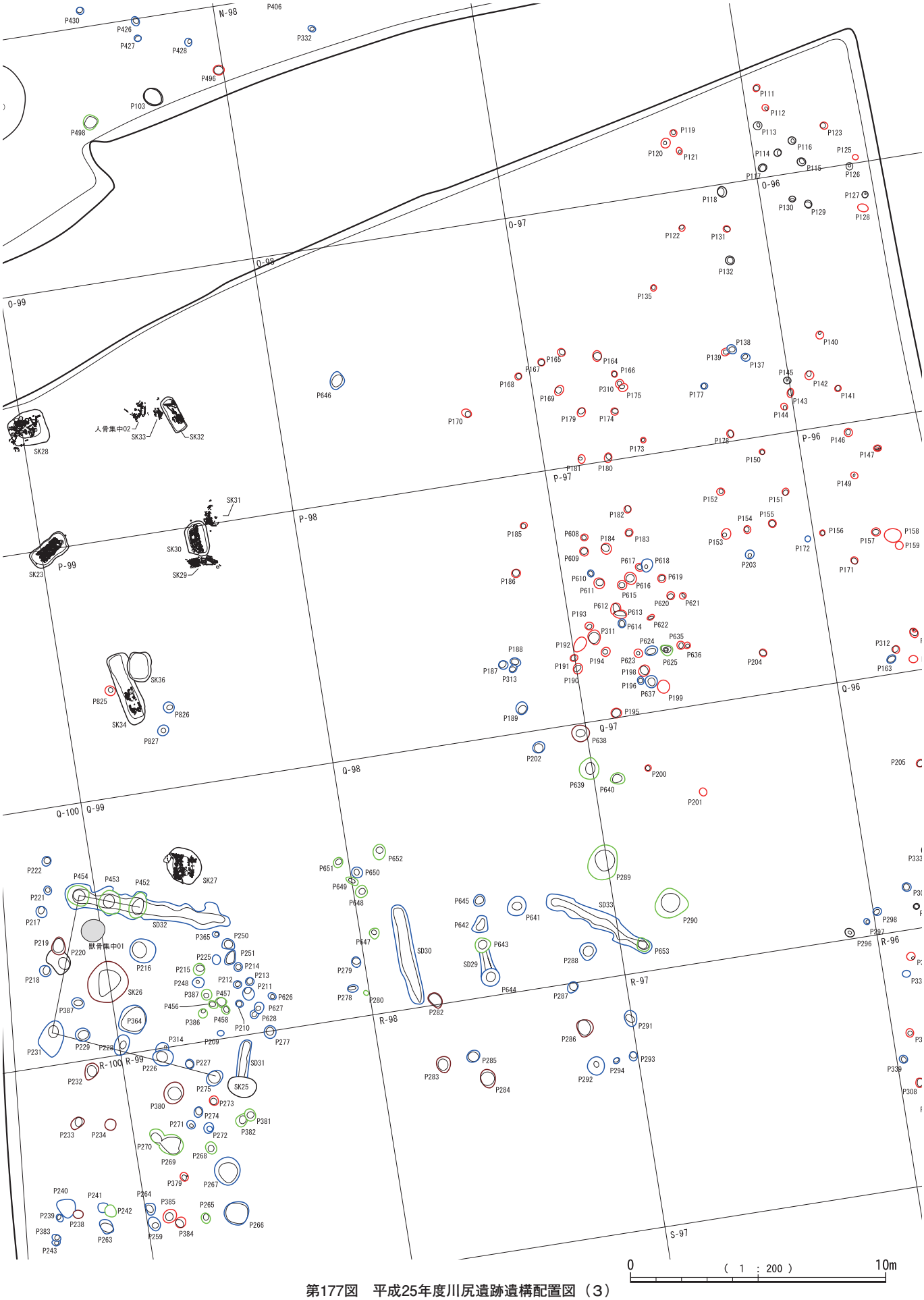
第174図　平成24年度川尻遺跡遺構配置図



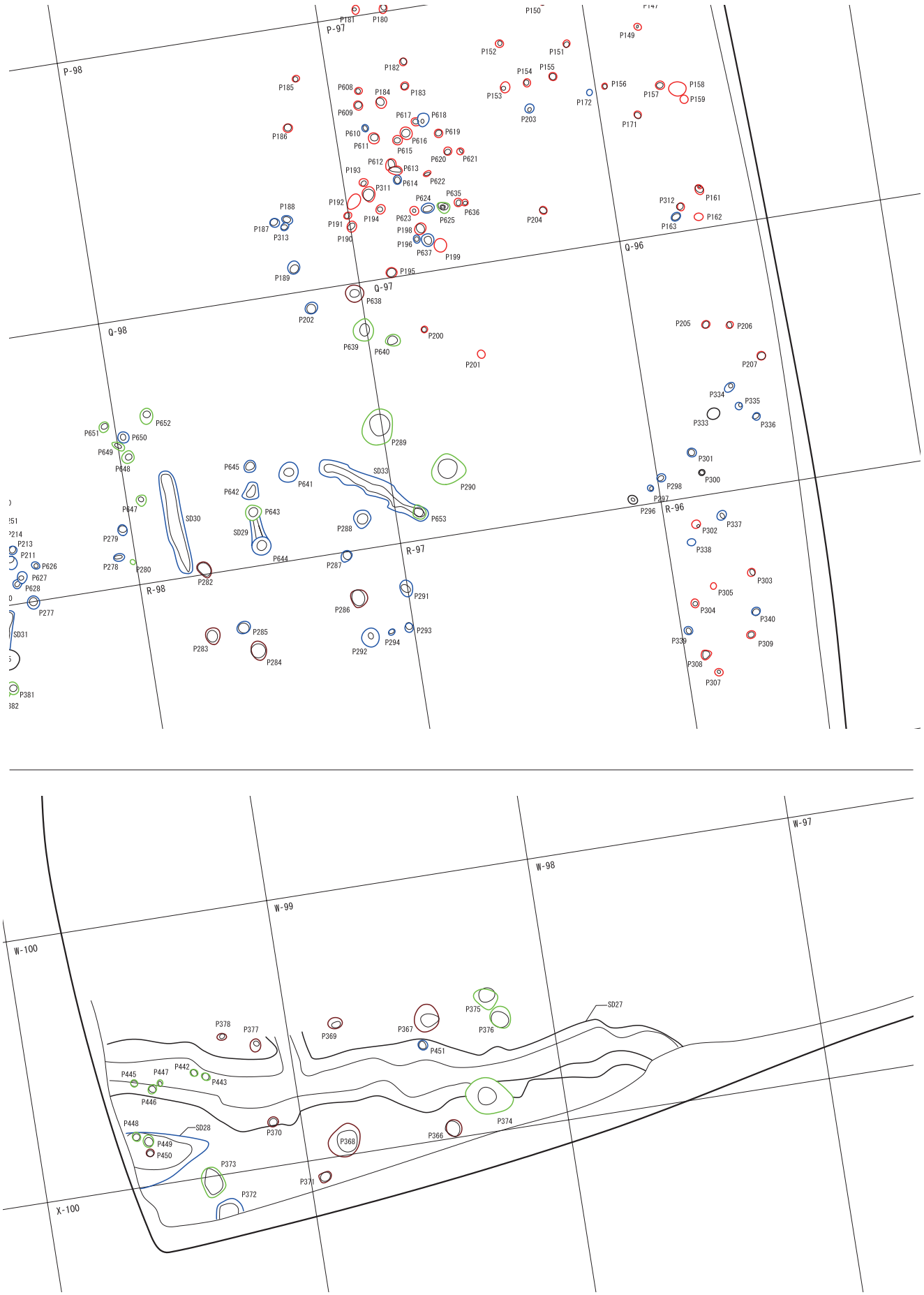
第175図　平成25年度川尻遺跡遺構配置図（1）



第176図　平成25年度川尻遺跡遺構配置図（2）



第177図　平成25年度川尻遺跡遺構配置図（3）



第178図　平成25年度川尻遺跡遺構配置図（4）

第Ⅸ章　総括

1　土層堆積状況

川尻遺跡では全体で約14,500㎡の本調査を行った。調査で確認した土層はそれぞれで付与しており，平成24年Ⅱ・Ⅲ層が平成25年Ⅳ・Ⅴ層に対応している。白砂層で検出した遺構は平成24年のⅣ(白砂)層からは縄文時代晩期の遺構，平成25･26年のⅥ(白砂)層からは古代末のピットや土坑墓などの遺構群を検出した。平成25･26年の調査エリアは砂丘列の後背湿地部分にあたることから，時代によって使われた場所が異なっていたと想定される。

2　平成24年度調査

本報告内では，遺構番号を調査時の番号をそのまま付与している。遺構の検討段階においていくつか変更した資料がある（第82表）。

第82表　変更した遺構番号

年度	変更前	資料の取り扱い
H24	SK11	Ⅲ層一括
	SK12	貝集中 #3
	SK14	貝集中 #2
	SK15	Ⅱｄ層一括
	SK16	Ⅱｅ層一括
	SK18	SX18 として扱う
	貝集中 #5	貝集中 #3

（1）遺物

層ごとの出土状況をまとめると以下のようになる。

Ⅱ層：兼久式土器・縄文土器（ﾛｰﾘﾝｸﾞを受けている資料が多い）・弥生系土器・貝・石器など。貝集中＃１～＃４を検出。

Ⅲ層：兼久式土器（少い）・縄文土器（ﾛｰﾘﾝｸﾞを受けている資料が多い。面縄西洞式が多い）・弥生系土器・石器など

Ⅱd･e層：縄文土器・貝・石器など

Ⅳ層：縄文土器・貝・石器など。SX検出面。

Ⅱ層は兼久式土器を主体とする時期の堆積であり，Ⅱd･e層以下は縄文時代の堆積層である。Ⅱ・Ⅲ層に縄文土器が混ざるのは周囲からの流れ込みや下層の掘り込みによるものと考えられる。

（2）Ⅱ層遺構・遺物

貝集中＃１～４

Ⅱ層中に堆積していた。掘り込み面は見られなかった。土器・貝がぎっちりと詰まって堆積していた。後述する平成25年のⅣ層出土貝だまり１～12と同様の堆積状況である。

兼久式土器や開元通寶・須恵器などが出土していることから，９-10世紀代の資料群と考えられる。

貝集中#1からは青銅製品が出土した。鋤先かと思われる。形態的には弥生時代並行期と想定されるが，鉛同位体分析の結果，日本産原料と推定された。日本産の青銅原料は飛鳥時代以降の資料にしか見出されていないとされているため，年代観に齟齬が生じている。

貝集中#3からは開元通寶が１枚，貝集中#4からは須恵器が出土している。

（3）Ⅲ層遺構・遺物

SK・SD・ピットなどが出土している。縄文土器が多く出土している。

SK01からは口縁部に突帯を貼り付け，斜沈線を施す土器(105･107)と口縁が方形状で器壁がやや厚く沈線文で構成される土器(108･109)が出土している。

P004からは皇宗通寶が出土している。Ⅲ層で11世紀代の遺物はこの１点のみであることから，上層での検出漏れの可能性がある。

（4）Ⅳ層遺構・遺物

SX(集石)

43基確認した。遺構の規格・重複関係は第83表のとおり

第83表　SX計測・重複関係

番号	区	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	検出高 (m)	重複関係（古＜新）
SX01	d107	310	288	71	10.3	SX02<SX01
SX02	d106	-	388	77	10.3	SX01<SX02
SX03	c106	200	192	50	10.3	-
SX04	AB101	374	346	109	10.6	-
SX05	A100	200	182	44	10.7	-
SX06	Aa99100	730	-	110	11	-
SX07	BC100	450	435	49	9.8	SX09<SX07<SX14
SX08	C99	472	-	78	10.3	SX39<SX08,SK18<SX08,SK10<SX08
SX09	BC100	366	358	82	9.7	SX09<SX07
SX10	C99100	352	313	90	9.9	SX10<SX14,SX10<SK18,SX42<SX10
SX11	C100	172	-	25	9.5	SX11･12<SX07
SX12	C100	253	-	18	9.5	SX11･12<SX07
SX13	C100	347	342	80	9.7	SX19<SX13,SX20<SX13,SX40<SX13
SX14	C99100	294	292	90	9.9	SX07<SX14,SX10<SX14,SX15<SX14
SX15	BC99	-	307	67	10.1	SX15<SX14,SX15<SX16
SX16	BC99	404	-	104	10.7	SX15<SX16,SX17<SX16
SX17	B99	360	-	64	10.3	SX17<SX16
SK18	C99100	346	302	64	9.9	SX10<SK18<SX08,SK18<SX19
SX19	C100	432	-	50	9.7	SX20<SX19,SK18<SX19
SX20	C100	208	-	36	8.9	SX20<SX20<SX19<SX13
SX21	C100	161	-	32	9.1	SX40<SX21,SX21<SX20,SX21<SX22
SX22	C100	304	-	52	9	SX21<SX20,SX21<SX22
SX23	C100	283	-	31	9	SX22<SX26<SX23<SX24
SX24	C100	212	-	53	9.1	SX23<SX24<SX25
SX25	C100101	300	248	70	9.1	SX24<SX25,SX27<SX25
SX26	C100	-	-	-	9	SX22<SX26<SX23
SX27	C101	452	384	48	9.1	SX43<SX27<SX30,SX27<SX25
SX28		-	-	-	-	欠番
SX29		-	-	-	-	欠番
SX30	BC101	457	432	76	9.7	SX43<SX34<SX30,SX41<SX30,SX27<SX30
SX31	C101	162	150	42	9.7	-
SX32	CD101	238	232	64	9.6	-
SX33	D101	106	97	20	9.5	-
SX34	C101	194	190	47	9.7	SX43<SX34<SX30
SX35	D100	304	260	66	9.4	SX44<SX36<SX37<SX35
SX36	DE100	306	-	82	9.2	
SX37	DE100	450	410	110	9.3	SX36<SX37<SX35
SX38		-	-	-	-	欠番
SX39	C99	160	-	54	9.5	SX39<SX08
SX40	C100	308	308	28	8.6	SX40<SX22,SX40<SX21<SX20<SX13
SX41	B101	256	-	72	9.5	SX41<SX30
SX42	C99	184	-	62	9.4	-
SX43	C101	200	-	55	9.1	SX43<SX34,SX43<SX27<SX30
SX44	D100	310	-	27	8.4	SX44<SX36<SX35
SX45	CD102	212	-	90	9.1	-
SX46	D102	278	-	134	9.7	-

である。

遺構内から出土した土器は面縄西洞式の範疇に含まれる土器群と見られる。また，炭素年代測定法によると約3,100～3,300yrBPの年代がえられ，おおむね縄文時代後期頃の遺構群と想定される。同時期の奄美群島では類似する遺構はこれまで確認されていない。

遺構群はⅣ（白砂）層をやや掘り下げたB･C-99～102区に集中していた。特徴は最下層に炭化材が残っていることである（SX27･SX44など）。短期間に連続して作成した遺構（SX25～SX22など）にも炭化材が残っていることから，炭化材を取得することが主目的ではなさそうである。ただし，小さな穴に短く揃え・並べられているもの（SX31）もあり，いくつかは木炭のストックとして採取していた可能性もある。

上層には灰・炭化物・被熱し細片化したサンゴ石灰岩が互層をなしていたことから，繰り返し使用されていたことが想定されるが，用途は判然としない。可能性としてはストーンボイリング的な用途や石灰づくり(江上1995)なども考慮に入れておきたい。

SX主要出土遺物（第179図）

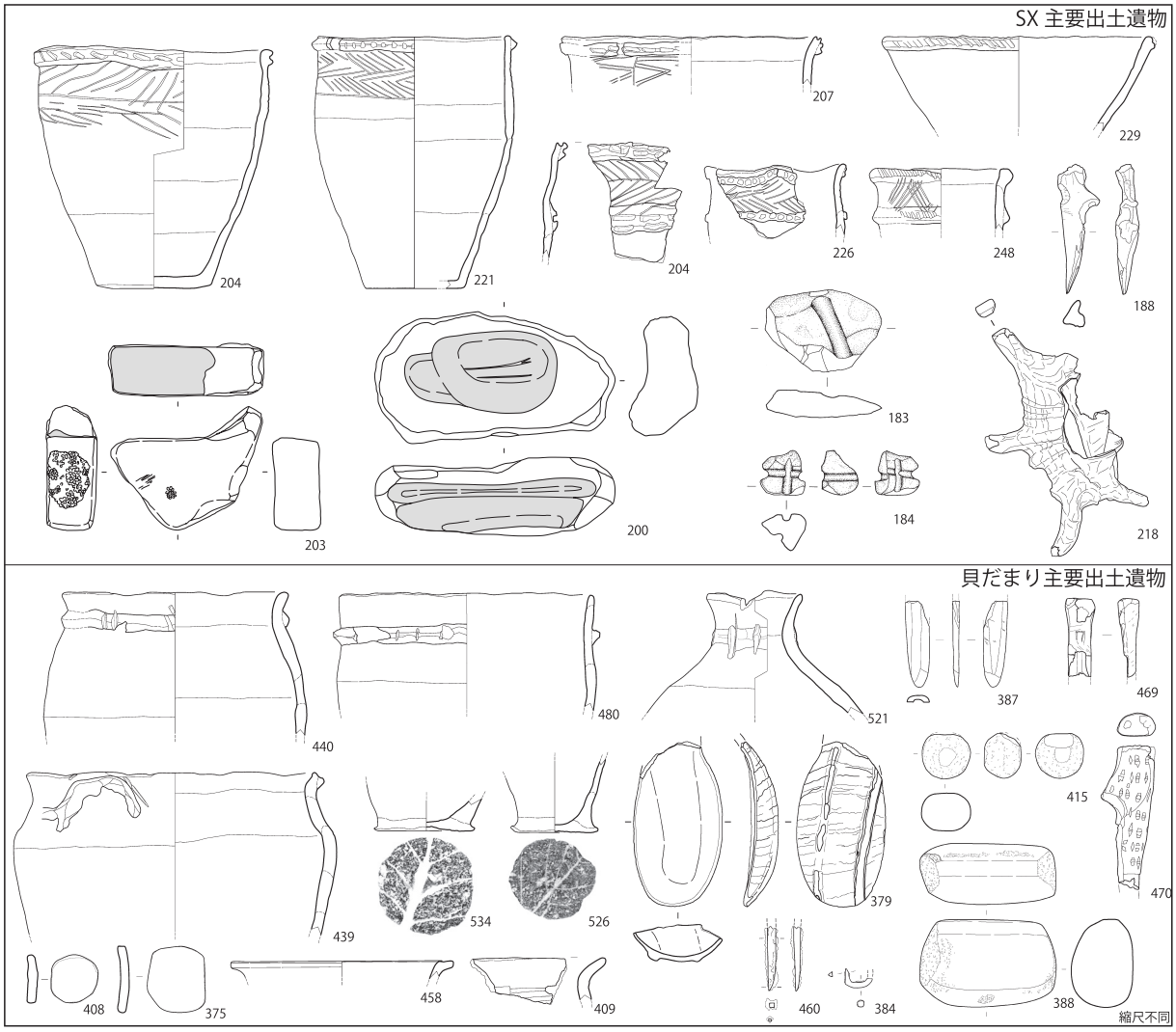
SX09からは石皿・台石・磨敲石などの石器の組み合わせがみられる。

SK18･SX13の境目付近からはほぼ完形に近い面縄西洞式土器が出土している。SK18からは深鉢が出土している。面縄西洞式や口縁形状が面縄西洞式と類似するが外面に幅広沈線文を施す土器が見られる。室川下層式も見られる。

SX30からは深鉢・小型深鉢・浅鉢の組み合わせが見られる。

（5）Ⅴ層

出土土器は面縄西洞式と搬入系土器であり，Ⅳ層出土資料とほぼ時期差はないように思われる。特徴的な遺物としてシャコガイ製品があげられる。握りやすく加工されており，先端が研磨されている。面縄西洞式と共伴している貝・骨製品は先端を尖らせているものばかりである。



第179図　川尻遺跡主要遺物

3　平成25・26年度調査

（1）Ⅱ・Ⅲ層

特徴的な遺構･遺物のみをピックアップした。

SD06･SD10からは龍泉窯系青磁椀・坏・盤，ビロースクタイプ白磁椀，ウシの骨などが出土している。龍泉窯系青磁は瀬戸Ⅳ～Ⅴ類段階に相当する資料(瀬戸2017)と見られ，14世紀～15世紀後半頃の年代観が想定されている。

SD07･08・11は近世の畑境に相当することから，近世段階に構築された可能性が高い。同様に仔馬が出土したSK21も出土物から近世の遺構と判断している。

Ⅲ層からは土師器甕・貝製品・石器をピックアップした。特にイモガイの殻頂を用いた円盤状貝製品は奄美群島では他に類例がない資料である。

（2）Ⅳ層

Ⅳ層を掘り下げていく途中で集石47～49，貝だまり１～12を検出した。いずれも掘り込み面を確認できなかったことから，廃棄によって塚状にまとまった部分と解釈している。

貝だまりからは兼久式土器･石器･貝製品･鉄製品･骨製品･土師器･須恵器･開元通寶などが出土した（第179図）。

兼久式土器を主体として土師器・須恵器などが出土する状況は奄美市笠利マツノト遺跡・万屋泉川遺跡などに見られ，近年の兼久式土器の年代観(鼎・與嶺2019)や土師器・須恵器の年代観[註1]より９～10世紀代の遺物群と想定している。ただし，貝だまりより出土した炭化物の放射性炭素年代測定結果とは合致しない部分もあり，今後検討が必要である。

本遺跡の特徴は貝製品・骨製品・鉄製品が出土したことである。特に骨製品についは緻密な加工をしており，非常に創作性の高い製品を作り出している。

貝製品では本町で初めてヤコウガイ製匙状製品が出土した。また，チョウセンサザエ製品やリュウキュウマスオガイ製品も確認している。貝製品については別稿にて論じたい。

トドロキガイ・ウチワガイなどに貫通穿孔を施しているものも多数みられた。喜界島周辺には生息していない貝であり，島外からの持ち込みであると考えられる。

鉄製品については第Ⅶ章第１節を参照いただきたい。

（3）Ⅴ・Ⅵ層

Ⅴ層はサンゴ石灰岩がまばらに散乱する状況を確認している。平成25年調査において今回報告した集石以外は自然に堆積したものと判断した。

Ⅵ（白砂）層からはピット・土坑墓が出土している。Ⅵ層は調査区西側（道路側）で浅く，東側に向かって深くなっていた。ピットは埋土N・Oが大半である（第175～178図）。２棟掘建柱建物跡に復元できる可能性がある。

土坑墓はⅣ･Ⅴ層が堆積していた下(調査区北側)から出土したSK50，SK60，SK61とⅡ層下のⅥ（調査区南側）から出土した人骨集中02，SK23，SK27～34がある。いずれも石灰岩を人骨の上部に被せるように配置したりする例が多い。調査区南側では特に胸元付近に置かれる事例が多い。

調査区北側では遺構が点在している。SK60からは副葬品を持つ人骨が出土した。

調査区南側ではO･P-99区付近に集中していた。木棺に複数体埋葬される資料(SK23)や頭蓋骨がない資料(SK27など)や白骨化した後に動かしたためか，人骨が解剖学的位置を保っていない人骨が見られる。

SK23・27･29・30は年代測定の結果，14-15世紀前半の結果が得られている。本町では城久遺跡群大ウフ遺跡で類似する時期の土坑墓が出土しているが，人骨を動かすような状況は確認されていないため，時間的な位置づけに関しては再度検討が必要である。（野﨑）

4　石器類

表土及Ⅰ層を除く包含層及び遺構からは，石器・剥片・礫が合わせて10,609点（654.0kg）が出土した（以下，石器，剥片，礫を合わせたものを「石器類」と呼称する）。その内訳は，石器675点（346.2kg），剥片1,576点（66.3kg），礫8,367点（241.5kg）である。石材については，砂岩や頁岩などの堆積岩，安山岩や花崗岩などの火成岩，緑色岩やホルンフェルスといった変成岩等，様々な石材の利用が見られる。変成岩については，目視では岩石名が判断できなかったものが一定数出土している。同定には詳細な分析が必要な為，本報告では「変成岩」とし，その特徴により変成岩１～25に分けて報告した（第84表）。遺構ごとの出土状況は，第85表にまとめ，器種ごとの石材利用状況については第86表・第87表にまとめている。

まず，本遺跡で見つかった石器類の石材についてであるが，第Ⅱ章でみるように喜界島は，島尻層（未凝固の砂層と泥岩の互層）の上に琉球石灰岩が覆っている島である。ゆえに，喜界島で見つかる石器類の石材は，サンゴや石灰岩，ビーチロックのみである。それ以外の石材はほぼすべて島外からの持ち込みであり，この点から，本報告書では未加工の礫であっても人の手によって島内に持ち込まれた「遺物」として集計した。

軽石を除いた石器類で一番多く見つかっている石材は，細粒砂岩2,216点（245.9kg），次いで粗粒砂岩876点（175.8kg），3番目に多いのが頁岩516点（30.1g）で堆積岩の利用が目立つ。ただし，花崗岩23点（8.1kg）や緑色岩162点（18.8kg）などの火成岩や変成岩の利用もある。また，器種によっては，例えば有溝砥石は細粒砂岩，円形状石器は緑色岩といった単一の石材を選んで使用している。
これらの石材は奄美群島内で採取できるものが多いが，黒曜石など奄美群島周辺では産出しない石材も含まれる（第Ⅵ章第７節）。特に変成岩については，高圧変成作用を受けたものも見られるなど，鹿児島から沖縄本島に続く地質では確認されていない岩石ばかりであることから，同定には細心の注意を払う必要があった[註2]。

石器の器種については，磨石や敲石，磨敲石などが多いが，本遺跡の特徴の一つとして有溝砥石やクガニイシが多く

出土していることがあげられる。また，先に述べた，石材が緑色岩にほぼ限定されている円形状石器，用途不明の球状石製品，分類ができなかった不明石製品などが一定量出土していることも特徴と言える。これらの特徴ある石器について簡単にまとめることとする。

有溝砥石

遺構と包含層出土のものを合わせて86点出土した。内訳は，縄文時代後晩期が15点，縄文後晩期～古代が19点，古代が43点，中世が4点，中～近世が1点，時期不明が5点で，そのうち32点を実測した。石材は，軽石製が1点，ビーチロック製が1点，頁岩製が1点，粗粒砂岩製が1点あるが，その他の77点は全て細粒砂岩を利用している。なお，ビーチロックと頁岩を用いた有溝砥石は，現在のところ本町では唯一のものである。

有溝砥石は，断面がU字型をした直線的な溝を1条から複数条持つ石器で，本遺跡では最大で17条の溝を持つものがみつかっている（320）。溝の数は平均すると3～4条で，幅は約0.5～0.6cm，深さ0.2cm前後のものが多いが，幅1.8cm前後の太い溝を持つものもある（281・667など）。溝は，直線一本のものや平行に走っているもの（63・164など），十字や斜めに交差するもの（67・668など），「キ」あるいは格子状のもの（64・65）等があるが，特定の組み合わせや時代による偏りは見られない。

第84表　変成岩早見表

変成岩	色調	鉱物											構造			その他			
		細粒				中	粗粒			雲母	抜落	不均等	片状	流状	多孔質	高圧	花崗岩質	石灰岩母岩	無鉱物
		白色針状	白色	透明	黒色	白色	白色	透明	黒色										
1	青灰	○																	
2	青灰	○												○		○			
3	緑灰	○		○	○														
4	緑灰	○		○	○								○						
5	緑灰	○		○			○		○				○						
6	緑灰	○					○			○									
7	暗青灰	○					○												
8	暗青灰	○					○						○						
9	暗青灰		○	○	○														
10	暗青灰		○	○	○					○									
11	暗青灰		○	○															
12	暗青灰		○	○			○		○										
13	暗緑		○	○								○							
14	灰		○		○										○				
15	暗青灰			○															
16	暗青灰			○			○		○	○									
17	灰白			○			○		○	○							○		
18	青灰				○		○												
19	緑灰				○			○											
20	暗青灰					○			○										
21	暗青灰						○												
22	暗青灰										○		○						
23	暗青灰																	○	
24	暗赤褐														○				○
25	赤褐																		○

※変成岩３：崩リ遺跡報告書では細粒閃緑岩で報告。
※変成岩８：崩リ遺跡報告書では斑状玄武岩で報告。

本町では，ハンタ遺跡の住居址内から面縄西洞式土器と共に出土しているほか，崩リ遺跡では竪穴状遺構から面縄東洞式や嘉徳ⅠA・Ⅱ式と共に出土している。また，奄美諸島周辺ではケジ遺跡や長浜金久第Ⅱ遺跡，宇宿貝塚，手広遺跡，住吉貝塚，西原海岸遺跡で数点出土しており，主に笠利半島の西海岸周辺の遺跡に多く出土する傾向がみられる。

その用途については，矢柄・玉類・骨角器・貝器等の研磨などの可能性がこれまで指摘されてきた（宮下1983，本橋1988，熊本大学文学部考古学研究室1986）。しかし，本遺跡では有溝砥石を使用して研いだ可能性のある遺物が出土していない。これについては，ハンタ遺跡（喜界町教育委員会1987）でも同様の報告がある。遺物として残らない植物性のものを研磨した可能性もあるが，例えば漁労具の重りなど，何かの目的で「この形を完成形」とする石製品の可能性も考慮する必要がある。

円形状石器

遺構と包含層から合計26点出土した。内訳は縄文時代後晩期が6点，縄文後晩期～古代が2点，古代が15点，古代～中世2点，近世が1点である。そのうちの10点を実測した。

円形状石器は，円形または円形に近い形を呈し，片面は磨面，裏面が敲打により完全に剥離している石器である。磨敲石の可能性もあるが，同じ形状が一定数出土している事や①石材がほぼ緑色岩に限られる②剥離面を意図的に作りあげているもの（45・288など）③剥離後に研磨した痕跡のあるもの（590）があることから，2018年度に刊行した崩リ遺跡報告書以降「円形状石器」として分類している。

出土報告は少ないが，崩リ遺跡の竪穴状遺構から嘉徳ⅠA式や嘉徳Ⅱ式に伴って出土しているほかは，嘉徳遺跡で局部磨製石斧と報告されているものが1点と未報告分1点がある（瀬戸内町教育委員会1973，喜界町教育委員会2018）。

クガニイシ

遺構と包含層から合計24点のクガニイシが出土した。その内訳は，縄文時代後晩期が1点，縄文後晩期～古代が3点，古代が17点，中世が2点，近世が1点である。そのうちの15点を実測した。石材としては粗粒砂岩が多く（8点），変成岩1が次に続く（4点）。その他の石材としては，変成岩3・8・10・15・17・18，硬砂岩，花崗岩，深成岩がある。

クガニイシ（黄金石）は徳之島の民俗事例をもとに白木原和美氏（1978）によって命名された石器で，独特の形状を有する石器であるが，「ミカンの房の形」と例えると想像がつきやすい。一方の側面が太く，対する側面を研磨や敲打によって細く整形して鈍い稜を持たせている。その太い側面や平面部中央に敲打による凹みを持つものもあり，一見するといわゆる「磨敲石」と同様の特徴を持つが，「一方側面を細く整形して鈍い稜を持たせる」点で区別をした。

本遺跡から出土したクガニイシは，側面を細く整形する手法が敲打によるもの（1）や研磨によるもの（266），また

その両方のもの（501）を確認している。また，稜部分についても同様の手法が見られる。凹みについては，平面片方のみ（103）や両面に凹みを持つもの（143），さらには太い側面に持つもの（638），あるいは凹みがまったくないもの（330）などがあり，にぶい稜を作る手法と組み合わせると11通りの組み合わせが確認できた。なお，組み合わせの偏向等は見られない。

クガニイシは縄文時代後期頃から使用が始まると想定されており（白木原1978），本遺跡では面縄西洞式を伴う縄文後晩期の包含層から1点見つかっている。ただし，本遺跡においては兼久式土器が伴う古代末（9～10世紀）が中心時期と考えられる。

現在のところ，この石器の分布は南西諸島に限られており，北限は屋久島で，南限は沖縄本島である（中摩1987）。本町では，ハンタ遺跡の住居祉から宇宿上層式や面縄西洞式に伴って出土しているほか，大ウフ・半田口遺跡（城久遺跡群）一括資料で未掲載のものもある。奄美群島の最近の出土事例としては，安良川遺跡や用見崎遺跡，マツノト遺跡，カメコ遺跡，塔原遺跡などで報告がある。

謎の多い石器であり，「擦る・敲く・潰す的な実用具」，あるいは徳之島の民俗事例のように「実用的意味を持たない石」とも考えられるが，想像の域を超えられない。少なくとも，縄文時代から現代まで3000年以上“使われている”石器と言え，時代によりその用途が移り変わる可能性も考えられる。

球状石製品

遺構と包含層から合計12点出土した。その内訳は，古代が11点，中世が1点，中世末が1点である。そのうちの8点を実測した。石材は，粗粒砂岩が多く利用され（7点），そのほか緑色岩（3点）や変成岩3（2点）がある。

名称の通り野球ボールのような球形をしている。ほぼ全面に軽い敲打の整形痕を持つものが多く，また一部に平坦面があるため“転がらない”。当初は「敲石」と分類していたが，同じ形状が一定数みられることから別分類とした。名称は，その形状からつけた仮のものである。

本遺跡では，出土が兼久式土器に伴う古代に集中していることから，その中心時期は古代と想定できる。

その用途については，貝の加工道具や「投げる為のもの」なども考えられるが，天秤の分銅的な重りの可能性も考えられる。出土したもので完形品と考えられるものが10点あり，それぞれの重さは，206ｇ・239ｇ・344ｇ・358ｇ・420ｇ・422ｇ・428ｇ・548ｇ・867ｇ・1048ｇである。これは，グラム単位の誤差はあるが，おおよそ35の倍数に当たる。本町では山田半田遺跡（城久遺跡群）で敲石と報告されている1点（340g）が同じ製品に該当するが，奄美群島内で報告されている事例はほぼ見当たらない。当然ながら，重さは「偶然の一致」の可能性もある為，今後，注意が必要な石製品である。（松原）

5　今後の課題

川尻遺跡は出土遺物から①縄文時代後期，②９～10世紀代の古代末，③14-15世紀代の年代が想定される。

①の時期の土坑（SX）などの構築目的は不明である。近年島内の別地区の調査でも類似する遺構を検出しているため，類例調査など検討を進めていきたい。

②の時期は供伴する土師器・須恵器から年代観を想定している。同時期の島内には城久遺跡群が営まれている（城久Ｉ期）ことから，本遺跡のように海岸付近の低段丘面には在地系土器である兼久式を主体とする人々が，台地の上には非在地系土器である土師器系土器を使用する城久遺跡群の集団が見られることとなる。これらの集団がどういった関りがあったのか，今後他地区の調査状況も踏まえながら検討を進めていきたい。

③の時期は近接する川寺・中増遺跡で大規模な遺構群を確認している。土坑墓や溝状遺構が多数見られ，段丘全体が一連の遺構群であると考えられる。どういった機能・性格などが考えられるのか，今後整理作業をとおして解明していきたい。（野﨑）

註１：中村和美氏のご教授による

註２：大木公彦氏，ハフィーズ・ウル・レーマン氏のご教授による

＜参考・引用文献＞

江上幹幸1995「ママ･ユリアナの石灰づくり」『季刊民俗学』73

鼎丈太郎･與嶺友紀也2019「兼久式土器の暫定編年」『中山清美と奄美学-中山清美氏追悼論集-』

白木原和美　1978 「クガニイシ」『法文論叢』41 熊本大学文学部

瀬戸哲也2014「室川式・室川上層式および関連土器群の再検討」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』

瀬戸哲也2017「沖縄出土貿易陶磁器の時期と様相」『第35回中世土器研究会　貿易陶磁器研究の現状と土器研究』日本中世土器研究会

中摩浩太郎　1987　「屋久島町横峰遺跡出土のクガニイシについて」『鹿大考古』6号　鹿児島大学法文学部考古学研究室

本橋恵美子1988　「八丈島倉和遺跡における条溝砥石について」『史学研究集録第13号』國學院大學日本史学専攻大学院会　p.31－58

宮下健司1983　「有溝砥石」『縄文文化の研究７　道具と技術』p.164-181

森田太樹2014「奄美諸島における前５期の土器について」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』

柳田康雄1980「青銅製鋤先」『鏡山猛先生古稀記念古文化論攷』鏡山猛先生古稀記念論文集刊行会

＊報告書については紙幅の都合上割愛した。

第85表　遺構別石器出土一覧

	ｹｶﾞﾆｲｼ	ｽｸﾚｲﾊﾟｰ	円形状石器	凹石	滑石製品	球状製品	金床石？	石灰藻	石核	石皿	石斧	石鏃	打製敲具	台石	砥石	不明製品	棒状製品	磨石	磨敲石	有溝砥石	敲石	剥片	礫	ｻﾝｺﾞ	総計
縄文後晩期	1		6							12	4			10		2		2	11	15	15	228	233	76	615
（H24）Ⅱ-d・e 層			2								1			1				1	1	6		21	92	9	133
（H24）Ⅳ層	1		1								2					1			2	2	1	1	51	4	66
（H24）Ⅴ層			2							3	1			1				1	4	2	6	11	14	3	48
SK08																				2			1		3
SK18										2													22		24
SK18・SX13										1										1	2		2		6
SX04										1										3		1	13	1	19
SX05														1								1	2		4
SX06										1				1							2	2	7	4	17
SX07																							1		1
SX08										1				1					1			1			4
SX09										2				1					3		1	1	3		11
SX10														1								1	4		6
SX14																						1	3		4
SX14 ～ 16										1				1		1					2	2	4		11
SX19																					1	1		1	3
SX30														1									5	1	7
SX32																						1			1
SX33			1																			2	3	17	23
SX36														1									1		2
SX37																							2	1	3
SX47																						181	3	35	219
縄文後晩期～古代	3		2								1				1	2			4	19	8	49	231	40	360
（H24）Ⅲ層	2		1								1				1	1			4	18	7	47	218	39	339
SD01																						1		1	2
SD03	1																					1	1		3
SK01																1				1	1		9		12
SK06			1																				1		2
SK10																							2		2
古代（9 ～ 10C）	17	3	15	1		10	1	5	2	35	34	1	1	52	11	21		13	84	43	108	1008	5234	183	6882
（H24）Ⅱ-b 層	1							1		1	2								4			40	174	9	232
（H25）Ⅳ層	8	1	9			6			2	17	23	1	1	35	6	15		11	50	7	68	523	3396	56	4235
（H25）Ⅳ・Ⅴ層	2			1		1		1		1	1			2		1			2		2	266	197	7	484
（H21）Ⅴ層	1																								1
（H25）Ⅴ層	1					2				2				4	2				4		4	6	194	7	226
（H25）Ⅵ層										1				1								3	15	7	27
ピット	2		1							1				4		1			7			3	192	46	257
集石 55																						2			2
貝だまり 01																							2		2
貝だまり 02																							3		3
貝だまり 03																			1				2	1	4
貝だまり 04																1			1			1	29	1	33
貝だまり 05	2						1			3	2			3					6	1	5	10	80	4	117
貝だまり 06			1			1				2				1	1						12	19	138	2	177
貝だまり 07																			1		2	2	13	1	19
貝だまり 08		1								1												4	48		54
貝だまり 09																			1			1	35		37
貝だまり 10																							1		1
貝だまり 11		1	1							4	2					1		1	2		7	27	253		299
貝だまり 12										1									1			3	2		7
貝集中区 #1								1		1										6	4	48	224	16	300
貝集中区 #2			3					2			4			1	2	2		1	2	29	3	50	209	24	332
貝集中区 #3														1					2		1		27	2	33
古代～中世			2							1	2				2	1			5		1	115	469	7	605
（H25）Ⅲ層			2							1	2				2	1			5		1	115	469	7	605
中世 (14 末～ 15C)	2				1	1			2	2	1			11		3	2	1	18	4	6	51	1034	5	1144
SD06					1				1		1			2					8	2		17	331	2	365
SD06・10										1				1		1						4	53		60
SD10	2								1	1				8		2	2	1	10	1	5	18	523	2	576
SK40																						3			3
SK41						1														1	1	6	90	1	100
SK45																						3	36		39
ST06																							1		1
中世末（15 末～ 16C）						1		1										1	1			5	26	8	43
ピット						1		1										1	1			5	26	8	43
中・近世					1					1	1				1	1			5	1	3	94	429	13	550
（H25）Ⅱ層										1	1				1	1			5	1	3	94	421	13	541
SK19																							1		1
SK20																							1		1
SK99																							6		6
獣骨集中 01					1																				1
近世	1		1												2							2	81	17	104
SD02															2								31	3	36
SD07																							1	1	2
SD11			1																				5	1	7
SK46																							13		13
ST08																							1		1
集石 51	1																					2	2		5
近世サタガマ																							28	12	40
時期不明										2				3		1		1	3	4		15	252	25	306
Ⅰ層																		1		2		7	97	17	124
（H24）Ⅰ・Ⅲ層										1						1				1		1	4	1	9
ピット										1									1				52	5	59
SD27														2								5	15		22
SK36																								1	1
SK43																				1			4		5
溝（小）																			1						1
溝（大）																			1			2	78		81
層不明														1									2	1	4
総計	24	3	26	1	2	12	1	6	4	53	43	1	1	76	17	31	2	18	131	86	141	1567	7989	374	10609

第86表　石材別の石器一覧(縄文時代～古代)

	軽石	火成岩	火山岩系	玄武岩	安山岩	閃緑岩	花崗岩	黒雲母花崗岩	黒曜石	深成岩	凝灰岩	粗粒砂岩	中粒砂岩	細粒砂岩	泥岩	泥岩（未凝固）	頁岩	硬砂岩	チャート	ビーチロック	ホルンフェルス	石灰岩	黒色泥質片岩	変成岩	変成岩？	片状砂岩	片状砂岩	緑色岩	緑色片岩	礫岩	サンゴ	石灰藻	不明	総計
縄文後晩期	62						3					41	5	310	3	1	52		5			29	2	10				14			78			615
クガニイシ																								1										1
円形状石器												1												1				4						6
石皿												1		11																				12
石斧																												4						4
台石												1	1	6			1							1										10
剥片												12	3	197			6		4					1				3			2			228
不明石製品														1										1										2
磨石												1		1																				2
磨敲石							1					8		1										1										11
有溝砥石												1		13			1																	15
敲石							2					7		4										1				1						15
礫	62											9	1	76	3	1	44		1			29	2	3				2			76			309
縄文後晩期～古代	109				1							37	1	110	1		26		1			14	1	2				11			45		1	360
クガニイシ												3																						3
円形状石器												1																1						2
石斧																												1						1
砥石														1																				1
剥片					1							11		16			11		1					1				5			3			49
不明石製品														1																	1			2
磨敲石												2		2																				4
有溝砥石														19																				19
敲石												1		3														3			1			8
礫	109											19	1	68	1		15					14	1	1				1			40		1	271
古代	3996	1	1	2	10	5	10	1	1	1	2	567	32	1345	73	3	279	1	43	2	6	109	12	59	3		2	112	1	1	194	5	1	6882
クガニイシ										1		5		1				1						9										17
スクレイパー												1		1			1																	3
円形状石器												6		1										1				7						15
凹石														1																				1
球状石製品												5												2				3						10
金床石？														1																				1
石核																			2															2
石皿												7		27										1										35
石斧					2							2	1		1		3						2	6				17						34
石鏃															1																			1
打製敲打具																	1																	1
台石												14	1	30						1				5				1						52
砥石												1		8	2																			11
剥片	59				3	4	2		1		1	222	15	501	8		83		32		2	2	5	19	3			46						1008
不明石製品	1											2		5	1		3						1	3				4			1			21
磨石												5		7													1							13
磨敲石			1		3							48	6	16										7			1	2						84
有溝砥石												1		41						1														43
敲石					1		1					35	1	49								1		3				7			10			108
礫	3936	1		2	1	1	7	1			1	213	8	656	60	3	188		9		4	106	4	3		2		25	1	1	183	5	1	5422
総計	4167	1	1	2	11	5	13	1	1	1	2	645	38	1765	77	4	357	1	49	2	6	152	15	71	3	2	2	137	1	1	317	5	2	7857

第87表　石材別の石器一覧(サンゴ・変成岩詳細)

	アザミサンゴ属	カメノコキクメイシ属	キクメイシ属	コモンサンゴ属	スリバチサンゴ属	タバネサンゴ属	ナガレサンゴ属？	ノウサンゴ属	ハナガササンゴ属	ハナガタサンゴ属	ハナガタサンゴ属？	ハナヤサイサンゴ属	ハマサンゴ属	ミドリイシ属	ミドリイシ属？	不明サンゴ	変成岩1	変成岩2	変成岩3	変成岩4	変成岩5	変成岩6	変成岩7	変成岩8	変成岩9	変成岩14	変成岩15	変成岩17	変成岩18	変成岩21	変成岩23	変成岩24	総計
縄文後晩期				1					2				47	10		18		1	6					1					1		1		88
クガニイシ																													1				1
円形状石器																			1														1
台石																			1														1
剥片													2						1														3
不明石製品																															1		1
磨敲石																			1														1
敲石																								1									1
礫				1					2				45	10		18		1	2														79
縄文後晩期～古代				1					4				29	9	2				1					1									47
剥片													3						1														4
不明石製品													1																				1
敲石													1																				1
礫				1					4				24	9	2									1									41
古代	1	2	3		1	1	1	1	8	1	1	1	115	51		7	3		42	1	1	1	2	3	1	1	1	1		1		1	253
クガニイシ																	3		2					2			1	1					9
円形状石器																							1										1
球状石製品																			2														2
石皿																										1							1
石斧																			4	1				1									6
台石																			5														5
剥片																			17			1										1	19
不明石製品														1					2				1										4
磨敲石																			6		1												7
敲石													10						3														13
礫	1	2	3		1	1	1	1	8	1	1	1	105	50		7			1						1					1			186
総計	1	2	3	2	1	1	1	1	14	1	1	1	191	70	2	25	3	1	49	1	1	1	2	5	1	1	1	1	1	1	1	1	388

写真図版

トレンチ出土遺物

貝集中層 #1・#2 出土遺物

図版 2

貝集中層 #3・#4 出土遺物

Ⅲ層遺溝内出土遺物

Ⅳ層遺構内出土遺物（1）

Ⅲ層遺構内出土遺物（2）

図版４

SX, Ⅳ層出土遺物

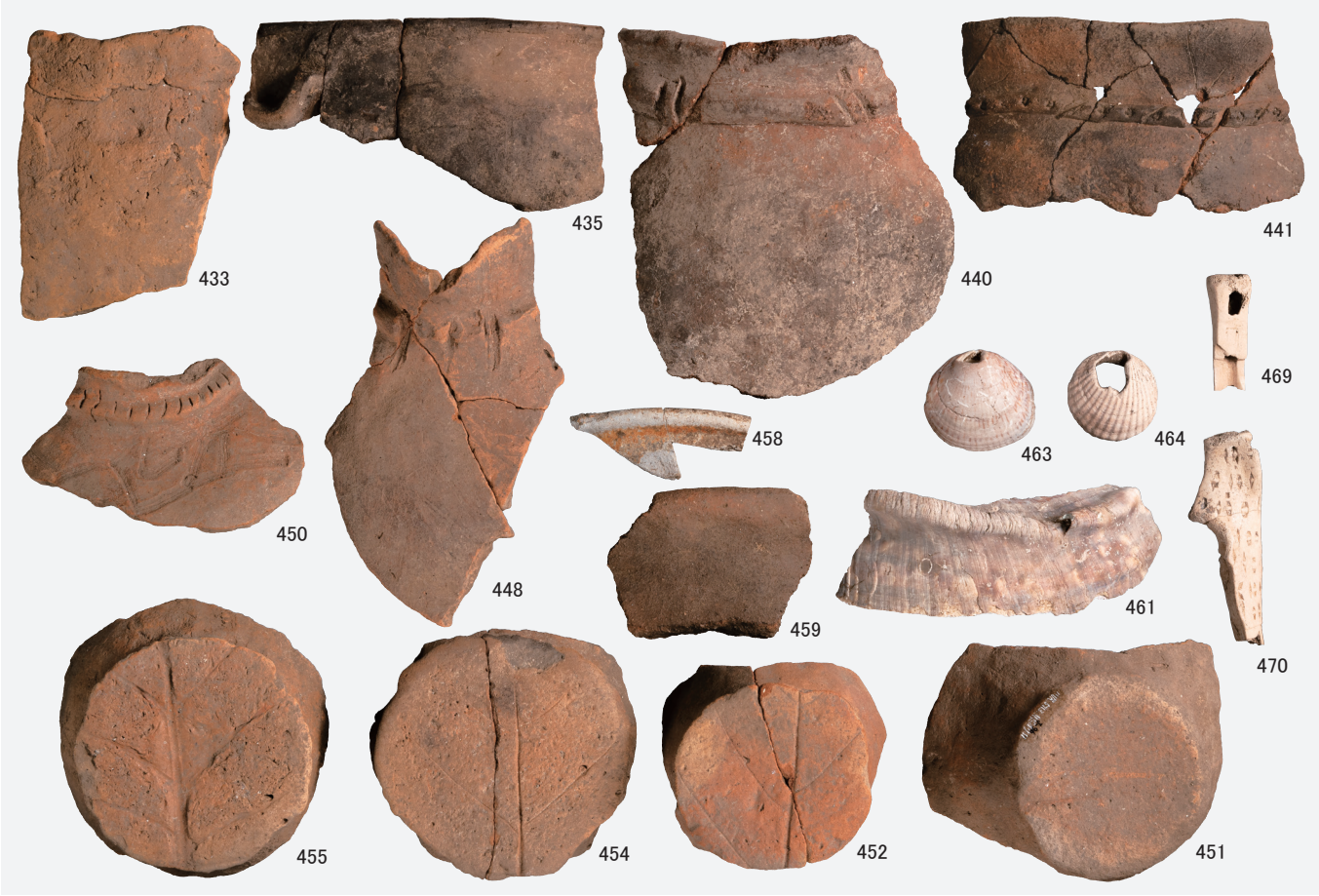
Ⅴ層出土遺物

SD06・SD10, Ⅲ層出土遺物

貝だまり１～５出土遺物

図版６

貝だまり６～10 出土遺物



貝だまり 11 ～ 12 出土遺物

H25Ⅳ層出土遺物（１）

H25Ⅳ層出土遺物（２）

H25 土坑・ピット出土遺物

H25 南側土坑墓・Ⅳ層・ピット出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	かわじりいせき
書　　名	川尻遺跡
副 書 名	畑地帯総合整備事業（担い手育成型）手久津久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査
シリーズ名	喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	17
編集者名	野﨑拓司（編）　松原信之　安武憲史
編集機関	喜界町教育委員会
所 在 地	〒891 － 6292　鹿児島県大島郡喜界町湾 1746
発行年月日	西暦 2021 年２月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
川尻遺跡（かわじりいせき）	鹿児島県大島郡（かごしまけんおおしまぐん） 喜界町大字手久津久（きかいちょうおおあざてくづく） 字川尻（あざかわじり）	465291	37-135	28° 29′ 14″	129° 93′ 54″	2009.6.10 ～ 2009.11.30	確認調査 251	畑地帯総合整備事業（担い手育成型）手久津久地区
						2013.4.3 ～ 2013.12.27	本調査 6,834	
						2014.4.2 ～ 2015.5.29	本調査 7,718	
						計 14,803		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
川尻遺跡		縄文時代後期	不明土坑43基	縄文土器，面縄西洞式土器，石器	縄文時代後期の不明土坑を検出。 兼久式土器期に骨・貝製品に多様な加工を施す資料が出土。
		古代末	土坑墓３基，ピット約1,000 基	兼久式土器，石器，貝製品，骨製品，鉄製品，土師器，須恵器，開元通寶	
		中世末	土坑墓８基，溝状遺構２条，ピット約80基	龍泉窯系青磁	

要　　約

川尻遺跡は，喜界島南西部に位置する標高約 10 ～ 12m の海岸段丘下面に所在する。試掘・確認調査で出土した兼久式土器や貝製品から，これまで不明瞭であった喜界島の古墳～古代にかけての良好な遺構群があると想定された。

平成 24 年から始まった本調査はうだるようなシマの真夏の暑さや，日光を反射して電子レンジのような状態になる白砂とのたたかいでもあった。

縄文時代の遺構は主に白砂層面で検出した。検出した土坑は直径３～４m 程あり，７m を超える大型の土坑も確認した。内部からは焼けた拳大のサンゴ礫・炭化物・灰が互層をなしており，床面からは炭化材を検出した。炭化材の一部は並べられているような状況で出土している。奄美群島内では同様の出土例がなく，構築目的も不明である。土坑内からは面縄西洞式土器や石皿・磨敲石などが出土しており，縄文時代後期の生活を考えるうえで注目される成果である。

古代の遺物は奄美群島の在地土器である兼久式土器が多く出土した。兼久式土器は何百年もほぼ形状が変わらないが，時間の経過とともに文様が簡素化することなどがこれまでの研究で分かってきている。本遺跡の土器に目を向けると突帯のみで文様はほぼないことが判明した。また，土師器・須恵器と供伴することから本遺跡の資料は兼久式土器の最終段階に近い９～ 10 世紀頃と想定している。同時期の島内には城久遺跡群が営まれている（城久Ⅰ期）ことが判明しており，本遺跡のように標高 10m 前後の低段丘面には在地系土器である兼久式を主体とする人々が，標高 100m の台地の上には非在地系土器である土師器系土器を使用する人々がいたことが想定される。

喜界島で兼久式土器と共に貝製品・骨製品・鉄製品が出土したことは，今後の兼久式土器期の研究に大きな影響を与える成果であるとともに，これまで行ってきた喜界島での調査状況を考えるうえでも重要な成果であるといえる。

喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（17）

－畑地帯総合整備事業（担い手育成型）手久津久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

川尻遺跡

発行日　2021年2月23日

編集・発行　喜界町教育委員会
〒891-6292　鹿児島県大島郡喜界町湾1746

印刷　有限会社 奄美共同印刷
〒894-0021　鹿児島県奄美市名瀬伊津部町21-14